

国立国語研究所学術情報リポジトリ

米国議会図書館蔵『源氏物語』翻字本文

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-03-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002610

米国議會図書館蔵『源氏物語』翻字本文

担当者一覧

〔巻名〕

匂宮
紅梅
竹河
橋姫
椎本
総角
早蕨
宿木
東屋
浮舟
蜻蛉
手習
夢浮橋

〔翻字担当者〕

浅川槿子
野口あゆみ
畠山大二郎 杉本裕子
楠木陽子 野崎花菜
楠木陽子 野崎花菜
阿部友敬 菅野早月 荻野仁賀
秋山あゆみ
阿部江美子 小川千寿香 大石裕子
千川彩佳 伊藤朋 山田友美
大石裕子 杉本裕子
畠山大二郎 小川千寿香
阿部友敬 大石裕子 菅野早月
浅川槿子

〔校正担当者〕

小木曾智信
阿部江美子
太田幸代 大石裕子 斎藤達哉
高田智和
畠山大二郎
大石裕子 斎藤達哉
斎藤達哉 豊島秀範
神田久義
阿部江美子
小川千寿香
太田幸代 大石裕子
杉本裕子
阿部江美子 伊藤鉄也

凡例

行移り・丁移り

- 1 本文の行移りは原本にしたがった。
- 2 丁移りは、その丁の表および裏の冒頭において丁数・表裏を四角囲みで示した。
- 3 半丁内の行番号をアラビア数字で示した。

文字

- 1 仮名は現行の平仮名を用いた。
- 2 漢字は現代通用の字体によることを原則とした。
- 3 語を漢字表記にする場合の漢字と、仮名表記にする場合の字母とが、一致するときには、漢字として扱った。(例) 見くるし、気しき
- 4 繰り返し符号は次のように統一した。
仮名一文字の繰り返し (例) こゝち
漢字一文字の繰り返し (例) 人々
複数文字の繰り返し (例) ひとく
- 5 判読できない文字は■で表した。

和歌

- 1 和歌は四字下げとした。
- 2 散らし書き風の和歌は、配置を再現することとはせず、末尾に#を付した。

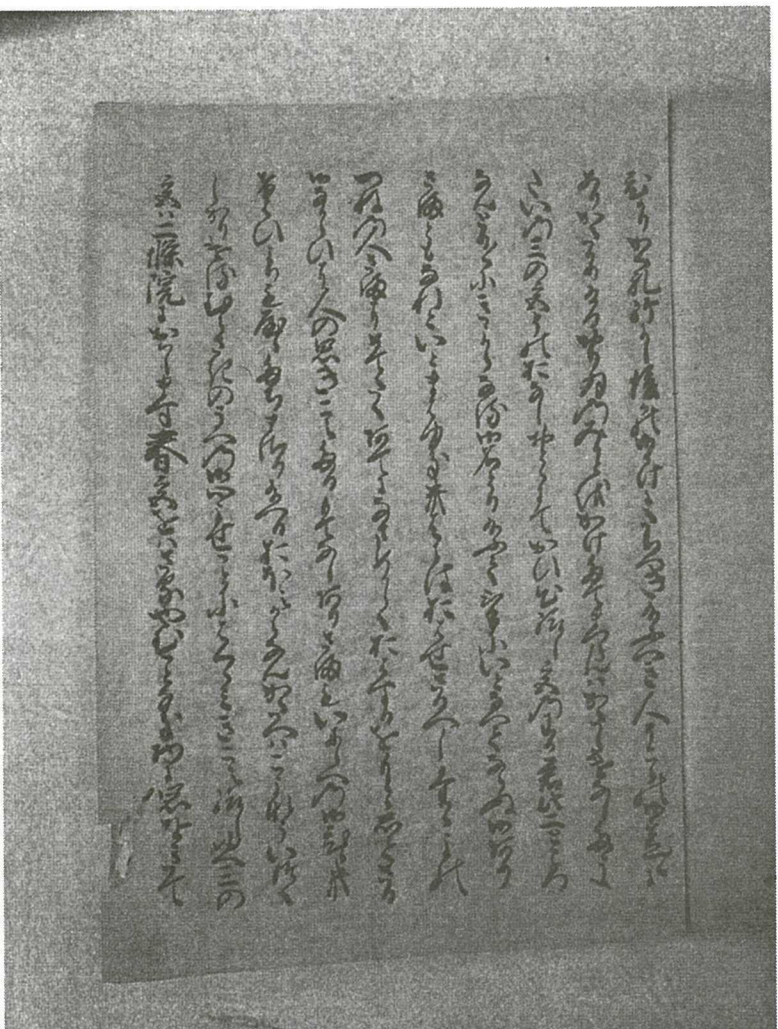
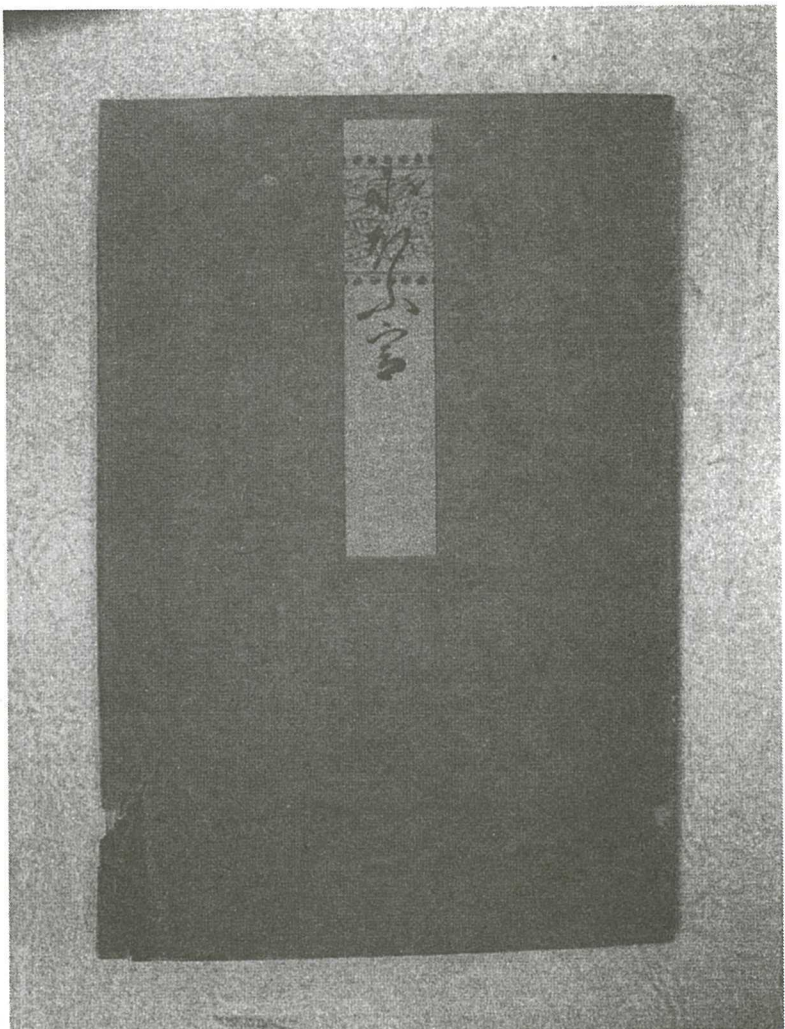
傍記等

- 1 傍記等の書込は、この翻字では省いた。
- 2 擦消箇所は、「米国議会図書館蔵『源氏物語』擦消一覧(匂宮く夢浮橋)」に掲載した。
- 3 書込箇所は、「米国議会図書館蔵『源氏物語』書込一覧」に掲載した。

図版

- 1 各巻の表紙および第一丁表の原本写真を掲載した。

勾宮



1才

1 ひかりかくれ給にし後かの御かけにたちつき給ふへき人そこらの御すゑくくに
 2 ありかたかりけるおりぬのみかをとかけたてまつらんはかたしけなしたう
 3 たいの三の宮そのおなしおとゝにておひ出給し宮のわか君此二ところ
 4 なんととりくきにきよなる御名とり給ふてけにいとなへてならぬ御あり
 5 さまともなれといとまはゆききはにはおはせさるへしたゝよの
 6 つねの人さまにめてたくあてになまめかしくおはするをもとゝしてさる
 7 御ならひに人の思きこえたるもてなしありさまもいにしへの御ひゝき
 8 けはひよりもやゝたちまさり給へるおほえからなにかたへはこよなういつく
 9 しかりけるむらさきのうへの御心よせことにはくゝみきこえ給しゆへ三の
 10 宮は二条院におはします春宮をはさるやむことなき物に思をきて

1ウ

1 たてまつりたまてみかときさきいみしうかなしうしたてまつりかしつき
 2 きこえさせ給宮なれば内すみをせきせたまつり給へとなを心やす
 3 きふる里にすみよくし給なりけり御けんふくし給ては兵部卿の宮と
 4 聞ゆ女一の宮は六条院みなみのまちのひんかしのたいをそのよの御
 5 しつらひあらためすおはしましてあさ夕に恋しのひきこえ給二の宮
 6 もおなしおとゝのしんでんを時々の御やすみところにし給て梅つほを
 7 御さうしに給て右のおほい殿のなかひめ君をえたてまつり給へりつきの
 8 はうかねにていとおほえことにをもくゝしう人からもすくよかになん物し給
 9 けるおほい殿の御むすめはいとあまた物し給大ひめ君は春宮にま
 10 いり給てまたきしろう人のなきさまにてさふらひ給そのつきくゝなを

2才

1 みなついでのまゝにこそはと世の人も思きこえきさいの宮ものた
 2 まはすれと此兵部卿の宮はさしもおほしたらす我御心よりおこら
 3 さらむ事はすましくもおほしぬへき御けしきなめりおとゝもなにかは
 4 やうの物とさのみうるはしういとしつめ給へとまたさる御けしき
 5 あらんをはもてはなれてもあるましようおもむけていといたうかしつき
 6 きこえ給六の君なんそのころのすこし我いと思のほり給へるみこ
 7 たちかんたちめの御心つくすくさはひに物し給けるさまくゝつとひ
 8 給へりし御かたくゝなくくゝつぬにおはすへきすみかともにみなをのく
 9 うつろひ給しに花ちる里と聞しにひんかしの院をそ御そうふん
 10 のところにてわたり給にける入道の宮は三条の宮におはしますいま

2ウ

1 きさきは内におみさふらひ給へは院の内さひしく人すくなになりに
 2 けるを右のおとゝ人のうへにていにしへのためしを見聞にもいける
 3 かきりの世に心をとゝめてつくりしめたる人の家ぬなこりなく打
 4 すてられて世のならひもつねなく見ゆるそいとあはれにはかなさしら
 5 るゝを我世にあらんかきりたに此院あらさすほとりのおほちなと人
 6 影かれはつましうおほしのたまはせてうしとらのまちにかの一条の
 7 宮をわたしたてまつり給てなん三条殿と夜ことに十五日つゝうるはしう
 8 かよひすみ給ける二条院にてつくりみかき六条院の春のおとゝとて世
 9 にのゝしり給ふて名もたゝひとりの御すゑのためなりけりと見えてあかしの

10 御かたはあまたの宮たちの御うしろをしつゝあつかひきこえ給へりおほい

3才

1 とのはいつかたの御事をむかしの御心をきてのまゝにあらためかはる事なくあま
2 ねきおや心につかうまつり給にもたいのうへのかやうにてとまり給へらましかは
3 いかばかり心をつくしてつかうまつり見えたてまつらましつゝぬにいさゝかも
4 とりわきて我心よせとえしり給ふへきふしもなくてすぎ給にし事をくち
5 おしうあかすかなしう思ひ出きこえ給あめのしたの入院を恋きこえぬ
6 なくとにかくにつけても世はたゝ火をけちたるやうに何事もはやなけ
7 きせぬおりなかりけりまして殿の内の人々御かたゝ宮たちなどはさらにも
8 きこえすかきりなる御事をはさる物にてかのむらさきの御ありさまを心に
9 しめつゝよろつの事つけて思ひ出きこえたまはぬ時のまなし春の桜の
10 さかりはけになかゝらぬしもおほえまさる物になん二品の宮のわか君は院のき

3ウ

1 こえつけ給へりしまゝに冷泉院のみかとりわきておほしかしつききさ
2 いの宮もみこたちなどおはせす心ほそうおほさるゝまゝにうれしき御うし
3 るみにまめやかにたのみきこえ給へり御けんふくなども院にてせさせ
4 給十四にて二月に侍従になり給秋うこんの中將になりて御たうはりの
5 かゝゐなどをさへいつこの心もとなきにかいそきくはへておとなひさせ給おは
6 しますおとゝちかきたいをさうしにしつらひなとみつから御らんしいれてわかき
7 人もわらはしもつかへまですくれたるをえりとゝのへ女の御きしきよりもまは
8 ゆくとゝのへさせ給へりうへにも宮にもさふらふ女房の中にもかたちより
9 あてやかにめやすきはみなうつしわたさせ給つゝ院の内を心につけてすみよく
10 ありよくおもふへくとのみわさとかましき御あつかひけにおほされ給へりこ

4才

1 ちしのおほい殿の女御ときこえし御はらに女御たゝ一とおほしけるをなんかきり
2 なくかしつき給御ありさまにをとらすきさきの宮の御おほえの年月にまさり給
3 けはひにこそはなとかさしもと見るまてなんはゝ宮はいまはたゝ御をこなひを
4 しつかにし給て月ことの御ねんふつ年に二たひのみ八かうおりゝのたうとき
5 御いとなみはかりをし給てつれゝにおはしませは此君の出入給をかへりておや
6 のやうにたのもしきかけにおほしたれはいとあはれにて院にも内にもめし
7 まとはし春宮もつきゝの宮たちもなつかしき御あそひかたきにてともなひ
8 給へはいとまなくくるしくいかて身をわけてしかなとおほえ給けるをさなこ
9 こちにほのきゝ給しことのおりゝいふかしうおほつかなふ思わたれとどふへき人
10 もなし宮にはことけしきにてもしりけりとおほされむかたはらいたきすちな

4ウ

1 れは夜ととも的心にかけていかなりける事とかはなにの契りにてかうやすから
2 ぬ思そひたる身にしもなり出けんせんくいいたしの我身にとひけむ
3 さとりをもえてしかなとそひとりこたれ給ける
4 おほつかなたれにとはましいかにしてはしめもはても
5 しらぬ我身そいらふへき人もなしことになれて我身につゝかあるこゝち
6 するもたゝならす物なけかしくのみ思めくらしつゝ宮もかくさかりの御かたちを
7 やつし給てなにはかりの御道心にてかにはかにおもむき給けんかくおもはす
8 なりける事のみたれにかならずうしとおほしなるふしありけん人もまさに

9 もりいてしらしやはなをつゝむへき事のきこえにより我にはけしきを
10 しらする人のなきなめりと思ふ明暮つとめ給やうなめれとはかもなくおほ

5才

1 とき給へる女の御さとの程にはちすの露もあきらかに玉とみかきた
2 まはん事もかたしいつしのなにかしもなをうしろめたきをわれ此御こゝちを
3 おなしうは後の世をたにと思かのすき給にけんやすからぬ思ひに
4 むすほゝれてやなとをしはかるに世をかへてもたいめんせまほしき心
5 つきてけんふくは物うかり給けれとすまひはてすをのつから世中にもて
6 なされてまはゆきまで花やかなる御身のかさりも心につかすのみ思ひ
7 しつまり給へり内にもはゝ宮の御かたさまの御心よせふかくていとあは
8 れなる物におほされきさいの宮はたもとよりひとつおとゝにて宮
9 たちもろともにおひ出あそび給し御もてなしおさゝあらためたまはす
10 すゑにむまれ給て心くるしうおとなしうもえ見をかめ事と院の

5ウ

1 おほしのたまひしを思ひ出きこえ給つゝをろかならず思きこえ給へり
2 右のおとゝも我御子ともの君たちよりも此君をはこまやかにやむことなく
3 もてなしかしつきたてまつり給むかしひかる君ときこえしはさるまた
4 なき御おほえなからそねみ給人打そひはゝかたの御うしろみなくなどあり
5 しに御心さまも物ふかく世中をおほしなためし程にならひなき
6 御ひかりをまはゆからすもてしつめたまひつゐにさるいみじき世のみたれも
7 出きぬへかりし事をもことなくすくし給て後の世の御つとめもをくらかしたま
8 はすよろつさりけなくてひさしくのとけき御心をきてにこそありしかこの
9 君はまたしきに世のおほえいとすきて思あかりたる事こよなくなどそ
10 物し給けにさるへくていと此世の人とはつくり出さりけるかりにやと

6才

1 れるかとも見ゆる事そひ給へりかほかたちもそこはかといつこなんすくれたる
2 あなきよらとみゆるところもなきかたゝいとなまめかしうはつかしけに心のおく
3 おほかりけなるけはひの人にぬなりけりかのかうはしさそ此世の
4 にほひならすあやしきまで打ふるまひ給へるあたりとをくへたゝる
5 をひ風まことに百ふのほかもかほりぬへきこゝちしけり誰もさはかり
6 になりぬる御ありさまのいとやつれはみたゝありなるやはあるへき
7 さまゝにわれ人にまさらんとつくるひようぬすへかめるをかたはなる
8 まて打しのひ立よらむ物のくまもしるきほのめきのかくれあるまし
9 きにうるさかりておさゝとりもつけたまはねとあまたの御からひつ
10 にうつもれたるかうともゝ此君のはいふよしもなきにほひをくはへ

6ウ

1 おまへの花の木もはかなく袖かけ給梅の香は春さめのしづくにも
2 ぬれ身にしむる人おほく秋の野にぬしなきふちはかまもとのか
3 ほりはかくれてなつかしきをひ風ことにおりなしからなんまさりけるかく
4 あやしきまで人のとかむる香にしみ給へるを兵部卿の宮なんこと
5 ことよりもいとましくおほしてそれはわさどよろつのすくれたる
6 うつしをしめたまひあさ夕のことわざにあはせいとなみおまへのせんさい
7 にも春は梅の花そのをなかめ給秋はよの人のめつるをみなへしさほ

8 しかの妻にすめる萩の露にもおさく御心うつしたまはす老をわす
 9 るゝ菊におとろへゆくふちはかま物けなきわれもかうなどはいとすき
 10 ましき霜かれのころをひまておほしすてすなとわさとめきて香に

7才

1 めつる思をなんたてゝこのましようおはしけるかゝる程にすこしなよひやはら
 2 きてすいたるかたにひかれ給へりと世の人は思きこえたりむかしの源氏は
 3 すへてたてゝその事とやうかはりしみ給へるかたそなかりしかし源中将
 4 此宮にはつねにまいりつゝ御あそひなにもましろふ物のねを吹たてけに
 5 いとましくもわかきとち思かはし給つへき人さまになんれいの
 6 世の人はにほふ兵部卿かほる中将と聞にくゝいひつゝけてそのころ
 7 よきむすめおはするやむことなきところゝは心ときめきにき
 8 こえこちなとし給もあれは宮はさまゝにおかしうもありぬへき
 9 わたりをはのたまひよりて人の御けはひありさまをもけし
 10 きとり給わさと御心につけておほすかたはことになかりけり

7ウ

1 れせい院の一の宮をそさやうにても見たてまつらはやかひありなんかし
 2 とおほしけるははゝ女御もいとをもく心にゝ物し給あたりにてひめ宮
 3 の御けはひけにとありかたくすくれてよそのきこえもおはしますに
 4 ましてすこしちかくもさふらひなれたる女房などのくはしき御ありさま
 5 のことにふれてきこえつたふるなどもあるにいとゝしのひかたくおほすへ
 6 かめり中将は世中をふかくあちきなき物に思すましたる心なれば中々
 7 心とゝめてゆきはなれかたき思や残らんなどおもふにわつらはしき思あらん
 8 あたりにかゝつらはんはつゝましくなと思すて給さしあたりて心にしむへき
 9 事のなき程さかしたつにやありけん人のゆるしなからん事などはまして思よる
 10 へくもあらず十九になり給年三位の宰相にてなを中将もはなれす

8才

1 みかときさきの御もてなしにたゝ人にてははゝかりなきめてたき人
 2 のおほえにて物し給へと心のうちには身を思しるかたありて物あは
 3 れになどもありければ心にまかせてはやりかなるすきことおさくゝ
 4 このますよろつの事もてしつめつゝをのつからおよすけたる心さまを
 5 人にもしられ給へり三の宮の年にそへて心をくたき給める院の
 6 ひめ宮を見るにもひとつ院の内に明暮立なれ給へはことにふれても
 7 人のありさまを聞見たてまつるにけにいとなへてならす心にゝゆへゝ
 8 しき御もてなしかきりなきをおなしくはけにかうやうなる人を見んにこそ
 9 いけるかきりの心ゆくへき妻なれと思ながら大かたこそへたつる事なく
 10 おほしたれひめ宮の御かたさまのへたてはこよなくけとをくならはせ

8ウ

1 給もことほりにわつらはしければあなかちにもましらひよらすもし
 2 心よりほかのこゝろもつかは我も人もいとあしかるへきと思しりて
 3 物なれよることもなかりけりわかかく人にめてられむとなり給へるあり
 4 さまなれははかなくなけのこと葉をちらし給あたりもこよなくもて
 5 はなるゝ心なくなひきやすなる程にをのつからなをさりのかよひ
 6 ところもあまたになるを人のためにことゝしくなともてなさす

7 いとよくまきはしそこはかとなくなさけなからぬ程の中々心やま
 8 しきを思よれる人はいさなはれつゝ三条の宮にまいりあつまるは
 9 あまたありつれなきを見るもくるしけなるわさなめれとたえなん
 10 よりはと心ほそきに思ひてさもあるましききはの人々の

9才

1 はかなき契りにたのみをかけたるおほかりさすかにいとなつかしう
 2 見ところある人の御ありさまなれは見る人みな心にはゝかりしやうにて
 3 みすくさる宮のおはしまさん世のかきりはあさ夕に御めかれす御らむ
 4 せられ見えたてまつらんをたにと思のたまへは右のおとゝもあまた物し給
 5 御むすめたちをひとりゝいと心さし給なからえことに出たまはすさす
 6 かにゆかしけなきなからひなるをとは思なせと此君たちをきてほかに
 7 なすらひなるへき人をもとめ出へき世かいとおほしわつらふやむことなき
 8 よりも内侍のすけはらの六の君とかいとすくれておかしけに心はへなとも
 9 たらひておひ出給をよそのおほえのおとしめさまなるへきしもかくあた
 10 らしきを心くるしうおほして一条の宮のさるあつかひ草も給へらてさうゝ

9ウ

1 しきにむかへとりたてまつり給へりわざとはなくて此人々に見せそめてはかならず
 2 心とゝめ給ふてん人のありさまをも見る人はことにこそあるへけれなどおほして
 3 いといつくしくはもてなしたまはすいまめかしくおかしきやうに物このみせさせて人
 4 の心つけんたよりおほくつくりなし給のりゆみのかへりあるしのまうけ六条院にて
 5 いと心ことにし給てみこをもおはしません心つかひし給へりその日みこたち
 6 おとなにおはするはみなさふらひ給きさいはらのはいつれともなくけたかくきよ
 7 けにおはします中にも此兵部卿の宮はけにいとすくれてこよなう見え給四の
 8 みこひたちの宮と聞ゆるかういはらは思なしにやけはひこよなうをとり給へり
 9 れいの左あなちにかちぬれいよりはとく事はてゝ大將まかて給兵部卿の宮ひた
 10 ちの宮きさきはらの五の宮とひとつくるまにまねきのせたてまつりてまかて

10才

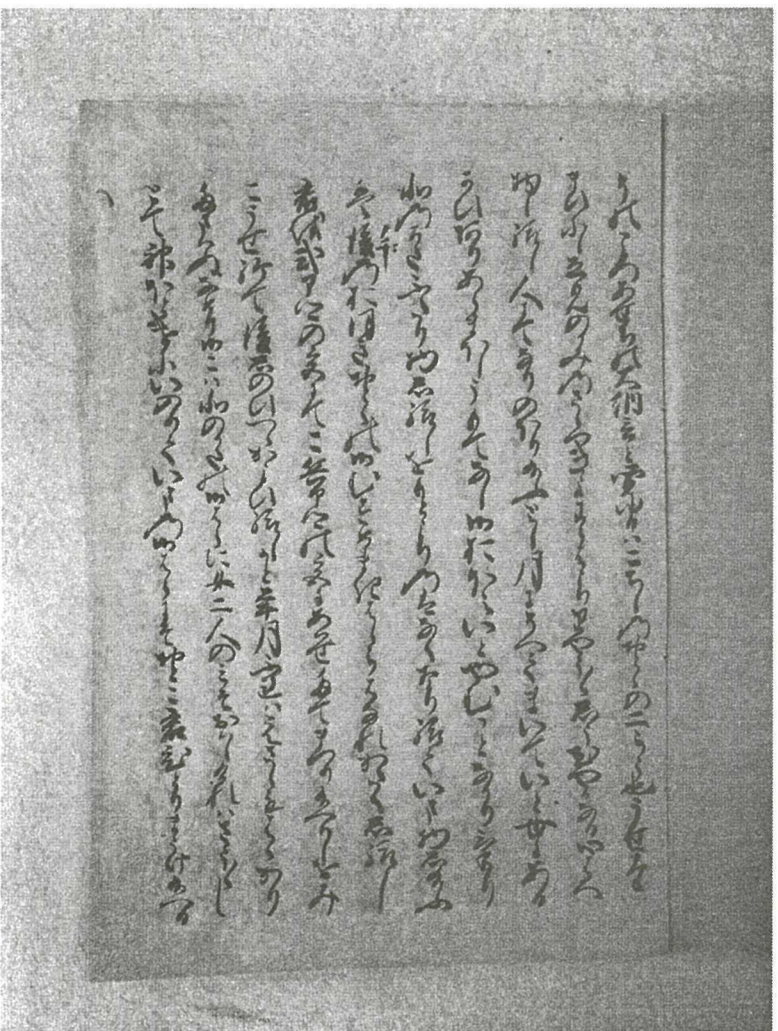
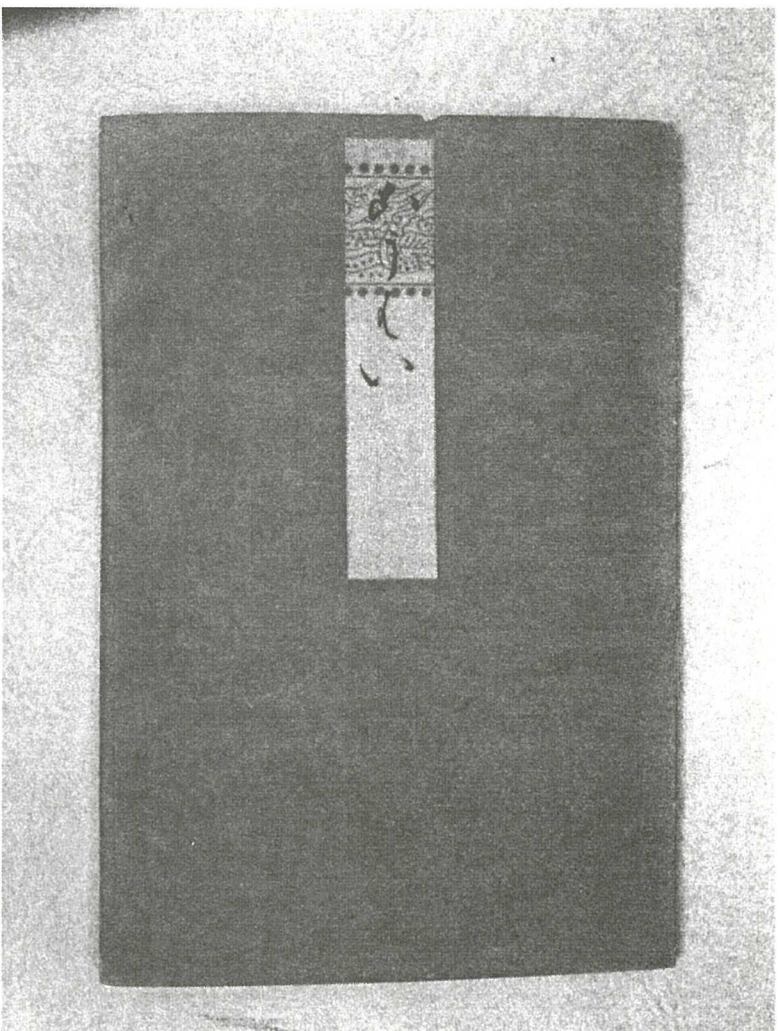
1 給宰相の中將はまけかたにてをとなくまかて給にけるをみこたちおはします御をく
 2 りにはまいり給ましやとをしとめさせて御このゑもんのかみ権大納言右大弁
 3 などさらぬかんだちめあまたこれかれにのりましりいさなひたてゝ六条院へ
 4 おはすみちのやゝ程ふるに雪いさゝかちりてえんなるたそかれ時也物のねおか
 5 しき程に吹たてあそひて入給をけにこゝををきていかならんほとけの
 6 国にかはかやうのおりふしの心やりところをもとむと見えたりしんでんのみ
 7 なみのひさしにつねのことみなみむきに中少將のつきわたり北むきにむ
 8 かへてゑかのみこたちかんだちめの御さあり御かはらけなどはしまりて物おも
 9 しろくなりゆくにもとめこまひかはる袖ともの打かへす羽風におまへちかき
 10 梅のいといたうほころひこほれたるにほひのさと打ちりわたれるに

10ウ

1 れいの中將の御かほりのいとゝしくもてはやされていひしらすなまめかし
 2 はつかにのそく女房などもやみはあやなく心もとなき程なれと香に
 3 こそけににたる物なかりけれとめてあへりおとゝもいとめてたしと見
 4 給かたちようぬもつねよりまさりてみたれぬさまにおさめたるを
 5 見てみきのすけもすゑくはへ給へやいたうまらうとたゝしや

6 とのたまへはにくからぬほとに神のますなと

紅梅



1オ

1 そのころあせちの大納言と聞ゆるはこちしのおとゝの二らう也うせた
 2 まひにしゑもんのかみのさしつきよわらはよりりやうくしう花やかなる心はへ
 3 物し給し人にてなりのほり給ふとし月にそへてまいていと世にある
 4 かひありあらまほしうもてなし御おほえいとやむことなかりけり
 5 北のかたふたり物し給しをもとよりのはなくなり給ていま物し給ふ
 6 は後のおほきおとゝの御むすめまきはしらはなれかたくし給し
 7 君を式部卿の宮にてこ兵部卿の宮にあはせてまつり給へりしをみ
 8 こうせ給て後のひつゝかよひ給しかと年月ふれはえさしもはゝかり
 9 たまはぬなめり御こは北のかたの御はらに女二人のみそおはしければさうくし
 10 とて神ほとけにいのりていまの御はらにそおとこ君ひとりまうけ給へる

1ウ

1 こ宮の御かたに女君一ところおはすへたてわかすいづれをもおなしことゝ
 2 思きこえ給へるををのく御かたの人なとはうるはしうもあらぬ心はへうち
 3 ましりなまくなゝしき事も出くる時々あれと北のかたいとはれく
 4 しくいまめきたる人にてつみなくとりなしわか御かたさまにくるしかるへき
 5 事をもなたらかに聞なし思なをし給へは聞にくからてめやすかりけり君
 6 たちおなし程にすきくおとなひたまひぬれは御もなときせたてまつり給
 7 七けんのしんでんひろくおほぎにつくりてみなみおもてに大納言殿
 8 おほい君西に中君ひんかしに宮の御かたすさせたまつり給へり大かた
 9 に打おもふ程はちゝ宮のおはせぬ心くるしきやうなれはこなたかなたの御
 10 たから物おほくなどとして内々のきしきありさまなど心にくゝ氣たかくなと

2オ

1 もてなしてけはひあらまほしくおはすれいのかくかしつき給ふきこえありて
 2 つきくにしたかひつゝきこえ給人おほくうち春宮より御けしきあれと内には
 3 中宮おはしますいかばかりの人かはかの御けはひにならひきこえんさりとて
 4 思をとりひけせむもかひなかるへし春宮には右の大殿の女御ならふ
 5 人なけにてさふらひ給ふはきしろひにくけれとさのみいひてやは人に
 6 まさらんと思ふ女子を宮つかへに思たえてはなにのほいかはあらんとおほし
 7 たちてまいらせたまつり給十七八の程にていとうつくしうにほひおほ
 8 かるかたちし給へり中の君も打すかひてあてになまめかしうすみたる
 9 さまはまさりておかしうおはすめれはたゝ人にてはあたらしく見せまうき
 10 御さまを兵部卿の宮のさもおほしよらはなとおほしたる此わか君を内

2ウ

1 にてなと見つけ給時はめしまとはしたはふれかたきにし給心はへ
 2 ありておくをしはかるゝまみひたひつき也せうとを見てのみは
 3 えやましと大納言に申せよなどのたまひかくるをさなるときこ
 4 ゆれは打ゑみていとかひありとおほしたり人にをとらむ宮つかへ
 5 よりは此宮にこそはよろしからむ女子は見せたてまつらまほしけれ
 6 心のゆくにまかせてかしつきて見たてまつらむにいのちのひぬへき
 7 宮の御さまなりとのたまひなからまつ春宮の御ことをいそぎ給ふて
 8 かすかの神の御ことよりも我世にやもし出きてこおとゝの院の女御
 9 の御ことをむねいたくおほしてやみにしなくさめのこともあらなと

10 心のうちにいのりてまいらせたまつり給ふついと時めき給ふ

3才

1 よし人に聞ゆかゝる御ましらひのなれたまはぬ程にはかゝしき御
 2 うしろ見なくてはいかゝとて北のかたそひてさふらひ給ふはまことに
 3 かきりもなく思かしつきうしろ見きこえ給殿はつれゝなるこゝ地し
 4 て西の御かたはひとつにならひ給ていとさうゝしくなめ給ひんかし
 5 のひめ君もうとゝしくかたみにもてなしたまはてよるゝは一ところに
 6 御とのこもりよろつの御事ならひはかなき御あそひわさをも師の
 7 さまに思きこえてそ誰もならひあそひ給ける物はちをよのつ
 8 ねならすし給ふてはゝ北のかたにさやかにはおさゝさしむかひた
 9 てまつりたまはすかたはなるまでもてなし給物から心はへけはひの
 10 むまれたるさまならすあひきやうつき給へる事はた人より

3ウ

1 すくれ給へりかく内まいりやなにやとわかたさまをのみおもひ
 2 いそくやうなるも心くるしなとおほしてさるへからむさまにおほし
 3 さためてのたまへはおなし事とこそはつかうまつらめとはゝ君にもきこ
 4 え給けれとさらにさやうのよつきたるさま思立へきにもあらぬけ
 5 しきなれは中々ならんことは心くるしかるへし御すくせにまかせて世に
 6 あらむかきりは見たてまつらん後そあはれにうしろめたけれと世をそ
 7 むくかたにてもをのつから人わらへにあはつけき事なくてすきましたまは
 8 なんなど打なきて御心はせの思ふやうなる事をそきこえ給いつれも
 9 わかすおやかかり給へと御かたちを見はやとゆかしうおほしてかくれ給ふ
 10 こそ心うけれと恨て人しれす見えたまひぬへしやとのそきありき

4才

1 給へとたへてかたそはをたにえ見たてまつりたまはすうへおはせぬほとは
 2 たちかはりてまいりくへきをうとゝしくおほしわくる御けしきなれは心うく
 3 こそなときこえてみすのまへにお給へは御いらへなどほのかにきこえ給御こ系
 4 気はひなとあてにおかしうさまかたち思やられてあはれにおほゆる人
 5 の御ありさま也わか御ひめ君たちを人にをとらしと思おこれと此君にえしも
 6 まさらすやあらんかゝれはこそ世中ひろき内はわつらはしけれたくひあらしと
 7 おもふにまさるかたをものつからありぬへかめりなといとゝいふかしう思きこ
 8 え給月ころなにとなく物さはかしく程にことのねをたにうけたまらて
 9 ひさしうなり侍にけり西のかたにはつる人はひわを心に入て侍るさもま
 10 ねひとりつへくやおほえ侍らんまかたほにしたるに聞にくき物のねから也

4ウ

1 おなしくは御心とゝめてをしへさせ給へおきなはとりたてゝならふ物侍ら
 2 さりしかとそのかみさかりなりし世にあそひ侍しちからにや聞しる
 3 はかりのわきまへは何事にもいとつきなうは侍らさりしを打とけて
 4 もあそはさねと時々うけたまはる御ひわのねなんむかしおほえ侍る
 5 こ六条院の御つたへにて右のおとゝなん此ころ世に残り給へる源中納言
 6 兵部卿の宮なに事にもむかしの人にをとるましういと契りことに物し給
 7 人にてあそひのかたはとりわきて心とゝめ給へるを手つかひすこしなよひたる
 8 はち音などなんおとゝにはをよひたまはすと思ふ給ふるを此御ひわのねこそ

9 いとよくいとおほえ給へれひわはをし手しつやかなるをよきにする物なるに
10 ちうさす程はち音さまかはりてなまめかしうきこえたるなん女の御こと

5才

1 にて中々おかしかりけるいてあそはさんや御ことまいれとのたまう女房などは
2 かくれたてまつるもおさくなしいとわかき上らうたつる見えたてまつらしと思ふは
3 しも心にまかせてゐたればさふらふ人さへかくもてなすかやすからぬとはらたち
4 給わか君内へまいらんととのぬすかたにてまいり給へるわざとうるはしき
5 みつらよりもいとおかしく見えていみしくうつくしとおほしたりれいけいてんに
6 御ことつけきこえ給ふゆつりきこえてこよひもえまいるましくなやましく
7 なときこえよとのたまひてふえすこしつかうまつれともすれは御まへの
8 御あそひにめし出らるゝかたはらいたしやまたいとわかき笛をと打ゑみ
9 てそうてうふかせ給いとおかしうふい給へはけしうはあらずなりゆくは此
10 わたりにてをのつから物にあはするけ也なをかきあはさせ給へとせめきこえ給へは

5ウ

1 くるしとおほしたるけしきならつまひきにいとよくあはせてたゝすこし
2 かきならい給ふかは笛ふつゝかになれたるこゑして此ひんかしのつまに軒ちかき
3 こうはいのいとおもしろくにほひたるを見給ておまへの花心はへありて
4 見ゆめり兵部卿の宮うちにおはす也一えたおりてまいれし人そしる
5 とてあはれひかる源氏といはゆる御さかりの大将などにおはせしころわくら
6 はにてかやうにてましらひなれきこえしこそ夜とともに恋しう侍れ此宮
7 たちをよ人もいとことに思きこえけに人にめてられむとなり給へる御あり
8 さまなれとはしかはしにやありけん大かたにて思ひ出たてまつるにむねあくよ
9 なくかなしきを氣ちかき人のをくれたてまつりていきめくらふはおほろけの
10 いのちなかさなりかしとこそおほえ侍れなときこえ出給て物あはれに

6才

1 すくおもひめくらししほれ給つてのしのひかたきにや花おらせて
2 いそきまいらせ給いかゝはせむむかしの恋しき御かた見には此宮はかり
3 こそは仏のかくれ給けん御名残にはあなんひかりはなちけんを二たひ出
4 給へるかとうたかうさかしきひしりのありけるをやみにまとふはる
5 けにとろにきこえをかさんかしとて

6 こゝろありて風のにははすそのゝ梅にまつうくひすの
7 とはすやあるへきとくれなゐのかみにわかやかにかきてこの君の
8 ふどころかみにとりませをしたゝみていたしたて給をおさなき心に
9 いとなれきこえまほしとおもへはいそきまいりたまひぬ中宮のうへの
10 御つほねより御とのみどころに出給程也殿上人あまた御をくりに

6ウ

1 まいる中に見つけ給て昨日はなといとくはまかて侍にしくやしき
2 にまた内におはしますと人の申つれはいそきまいりつるやと
3 おさなけなる物からなれ聞ゆうちならて心やすきところにも
4 時々はあそへかしわかき人とのそこはかとなくあつまるところそと
5 のたまふ此君めしはなちてかたらひ給へは人々はちかうもまい
6 らすまかてちりなとしてしめやかになりぬれは春宮にはいとま
7 すこしゆるされにためるないとしけうおもほしまとはすめり

8 しをときとられて人わろかめるとのたまへはまろはさせた
9 まひしこそくるしかりしか御まへにはしもときこえ出されは人
10 けなしとおもはれたるとなことはり也されとやすからすそふる

7才

1 めかしきおなしすちにひんかしと聞ゆなるはあひおもひ給てん
2 やとしのひてかたらひきこえよなどのたまうついてにこの花を
3 たてまつれと打ゑみて恨て後ならましかはとて打もをかす御
4 らんすえたのさま花ふさ色も香もよのつねならすそのににほ
5 へるくれなゐの色にとられて香なんしろき梅にはをとれるといふ
6 めるをいとかしこくとりならへてもさきけるかなとて御心とゝめ給
7 花なれはかひありもてはやし給こよひはとのゐなめりやかて
8 こなたにとめしこめつれば春宮にもえまいらす花もはつ
9 かしくおもひぬへくかうはしくて気ちかくふせ給へるをわかきこゝ地
10 にはたくひなくうれしくなつかしうおもひ聞ゆこの花のあるしは

7ウ

1 など春宮にはうつろひたまはさりししらす心しらむ人になと
2 こそ聞侍しかなとかたり聞ゆ大なこんの御心はへは我かたさまにおもふへ
3 かめれと聞あはせ給へとおもふ心はことにしみぬれは此返ことけさや
4 かにものたまひやらすつとめてこの君のまかへるになを
5 さりなるやうにて

6 花のかにさそはれぬへき身なりせは風のたよりを

7 すくさましやはさてなをいまはおきなともさるしらせさせて
8 しのひやかにと返々のたまひて此君もひんかしのをはやむこと
9 なくむつまじふおもひましたり中々ことかたのひめ君は見え給など
10 してれいのはらからのさまなれとわらはこゝちにいとおもりに

8才

1 あらまほしうおはせる心はへをかひあるさまにて見たてま
2 つらはやと思ありくにその宮の御かたのいと花やかにもてなし
3 給につけておなし事とは思なからいとあかすくちおしければこの
4 宮をたに気ちかくて見たてまつらはやとおもひありくにうれ
5 しき花のついて也これはきのふの御かへりなれは見せたてまつる
6 ねたけにものたまへるかなあまりすぎたるかたにすゝみ給へるを
7 ゆるしきこえすと聞給て右のおとゝわれらか見たてまつるには
8 いと物まめやかに御心おさめ給こそおかしけれあた人とせんにたらい
9 給へる御さまをしめてまめたちたまはんも見どころすくなくや
10 ならましなとしりううちてけふもまいらせ給ふにまた

8ウ

1 もとつ香のにほへる君か袖ふれは花もえならぬ

2 なをやちらさむとすきくしやあなかしことまめやかにきこえ給へり
3 まことにいひなさんとおもふところあるにやとさすかに御こゝろ
4 とぎめきし給て

5 花のかをにほはす宿にとめゆけは色につめとや

6 人のとかめむとなを心とけすいらへ給へるを心やましと思ぬ給へり

7 北のかたまかて給てうちわたりの事のたまうついてにわか君の
 8 一夜とのゐしてまかり出たりしにほひのいとおかしかりしを
 9 人はなをと思しを宮のいとおもほしよりて兵部卿の宮にちかつ
 10 ききこえにけりむへ我をはすさめたりとけしきとりえんし

9才

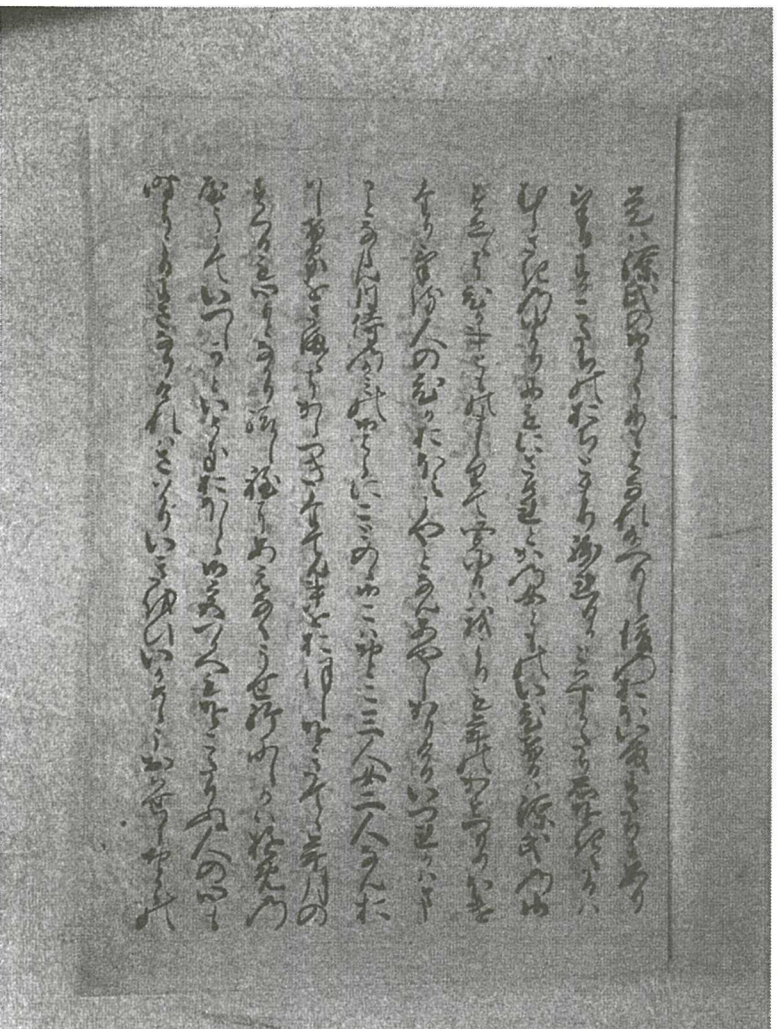
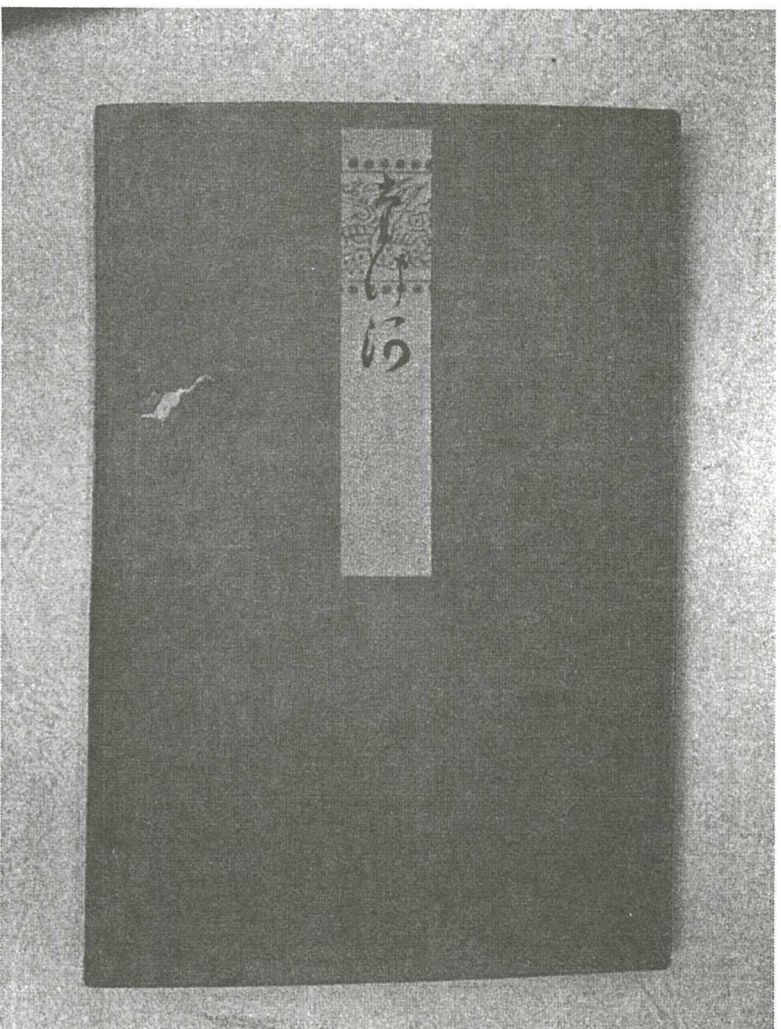
1 給へりし梅のはなめてたまう君なればあなたのつまの
 2 こうはひいとさかりに見えしをたゝならておりてたてまつれ
 3 たりし也うつりかはけにこそ心ことなれわれましらひし給ふらん
 4 女などはさはえしめぬかな源中納言はかうさまにこのましうは
 5 たきにほさて人からこそ世になけれあやしうさきの世の
 6 契りいかなりけるむくひにかとゆかしきことにこそあれおな
 7 し花の名なれと梅はおひ出けんねこそあはれなれこの宮
 8 などのめて給ふさる事そかしなと花によそへてもまつかけきこえ
 9 給ふ宮の御かたは物おほししる程にねひまさり給へればなに事も
 10 見しり聞とゝめたまはぬにはあらねと人に見えよつきたらむ

9ウ

1 ありさまはさらにとおほしはなれたり世の人も時による心ありてにや
 2 さしむかひたる御かたくには心をつくしきこえわひいまめかしき
 3 ことおほかれとこなたはよるつにつけ物しめやかにひきいり給へるを
 4 宮はさふらひのかたに聞つたへ給てふかういかてとおもほしよせ給
 5 つゝしのひやかに御文あれと大納言の君ふかく心かけきこえ給て
 6 さもおもひたちてのたまう事あらはとけしきとり心まうけたまふを
 7 見るにいとおしうひきたかへてかうおもひよるへうもあらぬ
 8 かたにしもなけのこの葉をつくしたまふかひなけなる事
 9 ときたのかたもおほしのたまふはかなき御返などもなけ
 10 れはまけしの御こゝろそひておもほしやむへくもあらず

10才

1 なにかは人の御ありさまなとかはさても見たてまつらま
 2 ほしうおひさきとをくなどとは見えさせたまうをなと
 3 きたのかたおもほしよるときゝあれといいたう色めき
 4 たまふてかよひたまうしのひところおほく八の宮の
 5 ひめきみにも御こゝろさしのあさからていとしけうて
 6 ありきたまうたのもしけなき御こゝろのあたゝしき
 7 などともいとゝつゝましければまめやかにはおもほし
 8 たえたるをかたしけなきはかりにしのひてはゝ
 9 きみそたまさかさかしらかりきこえたまふ



1才

1 是は源氏の御そうにもはなれ給へりし後のおほい殿わたりにあり
 2 けるわるこたちのおちとまり残れるかとはすかたりしをきたるは
 3 むらさきのゆかりにもにさめれとかの女どものいひけるは源氏の御
 4 すゑくゝにひか事ともまじりて聞ゆるは我よりも年のかすつもりほけ
 5 たりける人のひかおほえにやとなんあやしかりけるいつれかはま
 6 ことならん内侍のかみの御はらにことのゝ御こはおとこ三人女二人なんお
 7 はしけるをさまくゝにかしつきたてん事をおほしをきてゝ年月の
 8 すぐるも心もとなかり給し程にあえなくうせ給にしかはゆめの
 9 やうにていつしかといそきおほしゝ御宮つかへもをこたりぬ人の心も
 10 時によのわさなりければさはかりいきをひいかめしうおはせしおとゝの

1ウ

1 御なこり内々の御たから物らうし給ところゝなどそのかたのおとろへは
 2 なけれと大かたのありさまひきかへたるやうに殿のうちもしめやかに
 3 なりゆくかむの君の御ちかきゆかりそこらこそは世にみちひろこ
 4 り給へれと中々やむことなき御なからひのもとよりもしたしからさり
 5 しにこ殿のなさけすこしをくれむらゝしさすき給へりける御本上
 6 にて心をかれ給事もありけるゆかりにや誰にもえなつかしうきこえ
 7 かよひたまはす六条院にはすへてなをむかしにかはらすかすまへ
 8 きこえ給てうせ給なん後の事ともかきをき給へる御せうふんのふみ
 9 ともにも中宮のつきにくはへたてまつり給へれば右の大臣殿などは中々
 10 その心ありてさるへきおりゝは音つれきこえ給おとこきんたちも御けん

2才

1 ふくなどし給てをのゝおとなひし給にしかは殿おはせてのち心もと
 2 なくあはれなる事ともあれとをのつからなり出給ぬへかめりひめ君たちを
 3 いかにもてなしたてまつらんとおほしみたる内にもかならず御宮つかへ
 4 のほいふかきよしをおとゝのそうしをき給ければおとなひ給ぬらむ
 5 年月をおほしはからせ給ておほせことたまはすれと中宮のいよく
 6 ならひなくのみなりまさらせ給御氣はひにをされてみな人むとくに
 7 物し給めるすゑにまいりてはるかにめをそはめられたてまつらんもわつ
 8 らはしく又人にをとり数ならぬさまにて見むはた心つくしなるへきを
 9 おほしたゆたふに冷泉院より又いとねんころにおほしのたまはせて
 10 かの君のむかしの御ほいなくてすくし給しつらさをさへとりかへし

2ウ

1 恨きこえ給ていまはましてすさましうさたすきにたるありさまに
 2 思すて給ふともうしろやすきおやになすらへてゆつり給へなといとまめや
 3 かにきこえ給ければいかゝはあるへき事ならんみつからのいとくちおしきすく
 4 せにて思のほかに心つきなしとおほされにしかはつかしうかたしけなきを
 5 此世のすゑにてや御らんしなをされましなとさためかね給かたちいよく
 6 おはするきこえたかうありて心かけ申給人おほかり右のおほい殿のくら
 7 人の少将とかいひしは三条殿の御はらにてあに君たちよりもひきこして
 8 いみしうかしつき給人からもいとおかしかりし君いとねんころに申
 9 給いつかたにつけてももてはなれぬ御なからひなれば此君たちのむつひ

10 まいり給なとするはけとをくもてなしたまはす女房にもけちかく

3才

1 なれよりつゝ思事をかたらふにもたよりありてよるひるあたりさらぬ
 2 みゝかしかましさをうるさき物の心くるしきにかんの君もおほしたり
 3 はゝ北のかたの御ふみもしはゝたてまつり給ていとかるひたる程に
 4 侍めれとおほしゆるすかたもやとなんおとゝもきこえ給けるひめ君
 5 をはさらにたゝのさまにもおほしをきてたまはす中の君をなん
 6 いますこし世のきゝみゝかるゝしからぬ程になすらひ給なはさもやと
 7 おほしけるゆるしたまはすはぬすみもとり給つへくむくつけき
 8 まておもへりこよなき事とはおほさねと女かたの心ゆるしたまはぬ
 9 ことのまきれあるはをときゝもあはつけきわさなれはきこえつく人
 10 をもあなかしこあやまちひきいつなどのたまふにくたされてなんわつら

3ウ

1 はしかりけるに六条院の御すゑに朱雀院の三の宮の御はらにむまれ
 2 給へりし君冷泉院に御このやうにおほしかしつゝ四位の侍従そのころ十
 3 四五の程にていときひはにおさなかるへき程よりは心をきておとなくゝしう
 4 めやすく人にはまさりたるおいさきしるくもてなし給をかんの君はむこに
 5 て見まほしくおほしたり此殿はかの三条の宮にいとちかき程なれはさるへき
 6 おりゝのあそひところには君たちにひかれて見え給おりゝあり心にくき程
 7 の女のおはするところなれはわかきおとこの心つかひせぬなく見えしらかひ
 8 さまよふ中にかたちのよさは此たちさらぬくら人の少将なつかしく心はつかし
 9 けになまめいたるかたは此四位の侍従の御ありさまににたる人そなかり
 10 ける六条院の御氣はひちかしと思なすか心ことなるにやあらん世中にをの

4才

1 つからもてかしつかれ給へる人也わかき人々心ことにめてあへるをかんの殿
 2 もけにこそめやすけれなどのたまひて気ちかうなつかしき程に物なとき
 3 こえ給六条院の御心はへを思ひ出きこえてはなくさむよなういみしう
 4 のみおほしたるをその御かたみにも誰をかは見たてまつらん右のおとゝはことゝ
 5 しき御程にてつゝてなき御たいめんもかたきをなどのたまひてはらからの
 6 つらに思きこえ給へれはかの君もさるへきところには思ひてまいり給よの
 7 つねのすきゝしさも見えすいといたうしまりたるをそこゝかしこのわか
 8 き人々はくちおしくさうゝしき物に思ひていひなやましけるむ月の
 9 ついたちころかんの君の御はらからの大納言たかさこうたひしよ藤中納言
 10 こおほい殿の太郎まきはしらの御ひとつはらなとまいり給へり右のおとゝ

4ウ

1 も御ことも六人なからひきつれておはしたり御かたちよりはしめてあかぬ事
 2 なく見ゆる人の御ありさまおほえ也君たちもさまゝいときよけにて年の
 3 程よりはつかさくらゐはすきつゝ何事をおもふらんと見えたるへし夜と
 4 とともに蔵人の君はかしつかれたるさまことなれと打しめりて思ふ事あり
 5 かほもおとゝはみきちやうへたてゝむかしにかはらす御物語きこえ給
 6 その事となくてしはゝもえうけたまはらす年の数そふまゝに
 7 内にまいるよりほかのありきなとうぬゝしうなりにて侍れはいにしへ
 8 の御物語もきこえまほしきおりゝおほくすくし侍をなんわかきをのこ

9 ともはさるへき事にはめしつかはせ給へかならずその心さし御らんせられ
10 よといましめ侍りなときこえ給いまはかく世にふる数にもあらぬ

5才

1 やうになりゆくありさまをおほしかすまうるになんすきにし御
2 こともいとゝわすれかたく思給へられけると申給けるついでにゐん
3 よりのたまはする事のめかしきこえ給はかくしううしろみなき
4 人のましらひは中々見るしきをとかたゝ思給へなんわつらふと申
5 給へは内におほせらるゝ事あるやうにうけたまはりしをいつかたにおも
6 ほしきたむへきことになんかの院はけに御くらゐをさらせ給へるに
7 こそさかりすきたるこゝちすれと世にありかたき御ありさまはふり
8 かたくのみおはしますめるをよろしうおい出る女子侍らましかはと
9 思給へよりなからはつかしけなる御中にましらふへき物の侍らてなん
10 くちおしう思給へらるゝそもゝ女一の宮の女御はゆるしきこえ給ふや

5ウ

1 さきくの人さやうのはゝかりによりとゝこほる事も侍りしと申給へは女御
2 なんつれゝにのとかになりたるありさまもおなし心にうしろ見てなく
3 さめまほしきをなとかのすゝめ給につけていかゝなとたに思給へよるに
4 なんとときこえ給これかれこゝにあつまり給て三条の宮にまいり給朱
5 雀院のふるき心物し給人々六条院のかたさまのもかたゝにつけて
6 なをかの入道の宮をはえよきすまいり給なめり此殿のさこんの中將
7 右中弁侍従の君などもやかておとゝの御ともに出たまひぬ
8 ひきつれ給へるいきをひことなりゆふつけて四位の侍従まいり給へり
9 そこらおとなしきもわかきんたちもあまたさまゝにいつれかはわる
10 ひたりつるみなめやすかりつる中にたちをくれて此君のたち出

6才

1 給へるいとこよなくめとまるこゝ地してれいの物めてするわか人
2 たちはなをことなりけりなといふ此殿のひめ君の御かたはらには是
3 をこそさしならへて見めと聞にくゝいふけにいとわかうなまめか
4 しきさまして打ふるまひ給へるにほひかなとよのつねならすひめ君
5 と聞ゆれと心おはせむ人はけに人よりはまさるなめりと見しり
6 給ふらんかしとそおほゆるかんの殿御ねんすたうにおはしてこなた
7 にとのたまへれはひんかしのはしよりのほりてとくちのみすのまへに
8 ゐ給へりおまへちかきわか木の梅心もとなくつほみてうくひすのはつ
9 こゑもいとおほとかなるにいとすかせたてまつらまほしきさまのし
10 給へれは人々はかなき事をいふにことすくなに心にくき程なるをねた

6ウ

1 かりて宰相の君と聞ゆる上らうのよみかけたまふ
2 おりて見はいとゝにほひもまさるやとすこし色めけ
3 梅のはつ花くちはやしときゝて
4 よそにてはもき木なりとやさたむらんしたににほへる
5 梅のはつ花さらは袖ふれて見給へといひすさふるにまことは色より
6 もとくちゝひきもうこかしつへくさまよふかんの君おくのかたより
7 いさり出給てうたてのこたちやはつかしけなるまめ人をさへよくこそ

8 おもなけれとしのひてのたまふ也まめ人こそつけれたりけれいと
 9 くつしたる名かなと思ひ給へりあるしの侍従殿上などもまたせねは
 10 ところくもありかておはしあひたりせんかうのおしき二つはかりしてく

7才

1 た物さかつきはかりさし出給へりおとゝはねひまさり給まゝにこ院にいと
 2 ようこそおほえたてまつり給へれ此君は似給へるところも見えたま
 3 はぬをけはひのいとしめやかになまめいたるもてなしそかの御わか
 4 さかり思やらるゝかうさまにそおはしけんかしなと思ひ出きこえ
 5 給て打しほたれ給なこりさへとまりたるかうはしさを人々はめて
 6 くつかへる侍従の君まめ人の名をうれたしと思ければ廿日あまり
 7 よひのころ梅の花さかりなるにほひすくなけにとりなされし
 8 すき物ならはむかしとおほして藤侍従の御もとにおはしたる中門
 9 入給ほとにおなしなをしすかたなる人たてりけるかくれなんとおもひ
 10 けるをひきとゝめければこのつねに立わつらふ少将なりけんしんでんの

7ウ

1 西おもてにひわさうのこのこゑするに心をまとはしてたてなるなめり
 2 くるしけや人のゆるさぬ事思はしめんはつみふかゝるへきわさかなと
 3 おもふことのこゑもやみぬれはいさるへし給へまろはいとたとくしとて
 4 ひきつれて西のわた殿のまへなるこうはいの木のもとに梅かゝを
 5 うそふきて立よる氣はひ花よりもしるくさと打にほへれはつま戸
 6 をしあけて人々あつまをいとよくかきあはせたり女のことにてりつの
 7 うたはかうしもあはせぬをいたしと思ひていま一かへりおりかへしうたふを
 8 ひわもになくいまめかしゆへありてもてない給へるあたりそかしと心とまり
 9 ぬれはこよひはすこし打とけてはかなし事なともいふうちよりわこん
 10 さし出たりかたみにゆつりててふれぬに侍従の君してかんの殿ちし

8才

1 のおとゝの御つまをとになんかよひ給へりと聞わたるをまめやかに
 2 ゆかしくなんこよひはなをうくひすにもさそはれ給へとのたまひ
 3 いたしたれはあまえてつめくふへき事にもあらぬをと思ひてはおさく
 4 心にもいらすかきわたし給へるけしきいとひゝきをもく聞ゆつねに
 5 見たてまつりむつひさりしおやなれと世におはせすなりにきと思ふに
 6 いと心ほそきにはかなき事についてにもおもひはててまつるにいとなん
 7 あはれなる大かた此君はあやしうこ大納言のみありさまにいとようお
 8 ほえことのねなどたゝそれとこそおほえつれとてなき給もふるめい
 9 給しるしの涙もろさにや少将もこゑいとおもしろうてさき草
 10 うたふさかしう心つきて打すくしたる人もましらねはをのつからかたみに

8ウ

1 もよほされてあそひ給あるしのししうはこおとゝに似たてまつり給へるにや
 2 かやうのかたはをくれてさかつきをのみすゝむれはことふきをたにせんやと
 3 はつかしめられて竹川をおなしこゑにいたしてまたわかかれとおかしう
 4 うたふすのうちよりかはらせしいつゑいのすゝまてはしのふることもつゝま
 5 れすひかことするわさこそ聞侍れいかにもてない給そとどみに
 6 うけひかすこうちきかさなりたるほそなかの人香なつかしうしみたるを

7 とりあへたるまゝにかつけ給なにもそそなとさうときてしうはあるしの
 8 君に打かつていぬひきとゝめてかつくれと水むまやにて夜ふけに
 9 けりとてにけにけり少將はこの源侍従の君のかうほのめきよるめれば
 10 みる人これにこそ心よせ給ふらめ我身はいとゝくつしいたく思よりはりて

9オ

1 あちきなうそうらむる
 2 人はみな花にこゝろをうつすらむひとりそまとふ
 3 春の夜のやみ打なきてたてはうちの人のかへし
 4 おりからやはあはれもしらん梅の花たゝかはかりに
 5 うつりしもせしあしたに四位の侍従のもとよりあるしのしうのもとに
 6 よへはいとみたりかはしかりしを人々いかに見給けんと思給へとおほしうかな
 7 かにかきてはしに

8 たけ川のはし打出し一ふしにふかきこゝろのそこはしりきや#

9 とかきたりしんでんにもてまいりてこれかれ見給手なともいとおか
 10 しうもあるかないかなる人いまよりかくとゝのひたらむおさなくて

9ウ

1 院にもをくれたてまつりはゝ宮のしとけなふおをしたて給へれと
 2 なを人にはまさるへきにこそはあめれとてかんの君は此君たちの
 3 てなどあしき事をはつかしめ給返ことけにいとわかくよへは水
 4 むまやをふかさしといそきしもきこゆめりし

5 竹かはに夜をふかさしといそきしもいかなるふしを

6 思をかましけに此ふしをはしめにて此君の御さうしにおはしてけしき
 7 はみよる少將のをしはかりしもしるくみな人心よせたり侍従の
 8 君もわかきこゝ地にちかきゆかりにて明暮むつひまほしう思ひけり
 9 やよひになりてさく桜あれはちりかひくもり大かたのさかりなる
 10 ころのとやかにおはするところはまぎるゝことなくはしちかなる

10オ

1 つみもあるましかめりそのころ十八九の程にやおはしけん御かたち
 2 も心はへもとりゝにそおかしきひめ君はいとあさやかに氣たかうい
 3 まめかしきさましてけにたゝ人に見たてまつらんはにけなう
 4 そ見え給桜のほそなか山ふきなどのおりにあひたる色あひの
 5 なつかしき程にかさなりたるすそまであいきやうのこほれおち
 6 たるやうに見ゆる御もてなしなともらうゝしく心はつかしきけさへ
 7 そひ給へりいま一ところはうすこはいに桜色にて柳のいとのやうに
 8 たをゝと見ゆいとそひやかなまめかしうすみたるさましてをもち
 9 かに心ふかきけはひまさり給へれとにほひやかなるけはひはこよなし
 10 とそ人おもへるこうち給とてさしむかひ給へるかんさし御くしのかゝり

10ウ

1 たるさまともいと見ところあり侍従の君けんそし給とてち
 2 かうさふらひ給にあに君たちさしのそき給て侍従のお
 3 ほえこよなくなりけり御このけんそゆるされにけるとておと
 4 なおとなしきさましてついお給へはおまへなる人々とかうぬなをる
 5 中将宮つかへのいそかしうなり侍程に人にをとりたるはいとほいなき

- 6 わさかなとうれへ給へは弁官はまいてわたくしの宮つかへをこたりぬ
- 7 へきさまにさのみやおほしすてんなど申給こうちさしてはち
- 8 らひておはさうするいとおかしけ也内わたりなとまかりありきて
- 9 もことのおはしたてまつり給廿七八の程に物し給へはいとよくと、
- 10 のひて此御ありさまともをいかていにしへおほしをきて

11才

- 1 しにたかへすもかなと思ひ給へりおまへの花の木ともの中にも
- 2 にほひまさりておかしき桜をおらせてほかのにもにす
- 3 こそなともてあそひ給をおさなくおはしまさうし時この花は
- 4 わかそくとあらそひ給しをそことのはひめ君の御花そとさため
- 5 給うへはわか君の御木にさため給しをいとさはなきの、しらねと
- 6 やすからす思給へられしはや此桜の老木になりにけるに
- 7 つけてもすきにけるよはひを思給へいづれはあまたの人に
- 8 をくれ侍にける身のうれへもとめかたうこそなとなきみわらひ
- 9 みきこえ給てれいよりはのとやかにおはす人のむこになりて
- 10 心しつかにもいまは見えたまはぬを心とめて物し給かんのきみ

11ウ

- 1 かくおとなしき人のおやになり給御年の程おもひよるはいとわかう
- 2 きよけになをさかりの御かたちと見え給へり冷泉院のみかと
- 3 はおほくは此御ありさまのなをゆかしうむかし恋しうおほし出られ
- 4 ければなににつけてかいとおほしくらしてひめ君の御ことをあな
- 5 かちにきこえ給にそありける院へまいりたまはん事は此君たち
- 6 そなを物しはへなきこ、ちこそすへけれよろつのこと時につけたるを
- 7 こそ世人もゆるすめれけにいと見たてまつらまほしき御ありさまはこの
- 8 世にたくひなくおはしますめれとさかりならぬこ、ちそするやこと
- 9 ふえのしらへ花鳥の色をもねをも時にしたかひてこそ人のみ、も
- 10 とまる物なれ春宮はいか、など申給へはいさやはしめよりやむこと

12才

- 1 なき人のかたはらもなきやうにてのみ物し給めれはこそ中々にて
- 2 ましらはんはむねいたく人わらへなる事もやあらんとつ、ましければ
- 3 殿おはせましかはゆくすゑの御すくせくはしらすた、いまはかひあるさまに
- 4 もてなし給てましをなどのたまひ出てみな物あはれ也中将なとたち給て
- 5 のち君たちはうちさし給へるこうち給むかしよりあらそひ給桜をかけ物
- 6 にて三はんに数一かちたまはんかたにはなをよせてんとたはふれかはしきこ
- 7 え給くらうなれははしちかうてうちはて給みすまきあけて人々みな
- 8 いとみねんし聞ゆおりしもの少将侍従の君の御さうしに來たりけるを
- 9 打つて出給にければ大かた人すくななるにらうの戸のあきたるにやを
- 10 らよりてのそきけりかううれしきおりを見つけたるは仏などのあらはれ

12ウ

- 1 給へらむにあひたらんこ、ちするもはかなき心になん夕暮の霞の
- 2 まきればさやかならねとつくくと見ればさくら色のあやめもそれと
- 3 みわきつけにちりなん後のかた見にも見まほしくにほひおほく見え
- 4 給をいと、ことさまになり給なん事にわひしく思まさらるわかき人々の

5 打とけたるすかたとも夕はへおかしう見ゆ右かたせたまひぬこまの
6 らさうをそしやなどはやりかにいふもあり右に心よせたてまつりて
7 西のおまへによりて侍る木を左になして年ころの御あらそひのかゝれは
8 ありつるそかしと右かたはこゝちよけにはけまし聞ゆ何事としらねとおか
9 しと聞てさしいらへもせまほしけれと打とけ給へるおりこゝちなく
10 やはとおもひて出ていぬ又かゝるまきれもやとかけにそひてそうかゝひ

13才

1 ありきける君たちは花のあらそひをしつゝあかしくらし給に風あららか
2 に吹たる夕つかたみたれおつるかいとくちおしうあたらしければまけかたのひめきみ
3 さくらゆへ風にこゝろのさはくかなおもひくまなき
4 花と見るく御かたの宰相

5 さくと見てかつはちりぬる花なれはまくるをふかき
6 うらみともせずときこえたすくれは右のひめきみ

7 風にちることはよのつねえたなからうつろふはなを

8 たゝにしも見しこの御かたの大輔のきみ

9 こゝろありて池のみきはにおつる花あわとなりても

10 わかゝたによれかちかたのわらはへおりて花のしたにありきてちりたるを

13ウ

1 いとおほくひろひてもてまいれり

2 大そらの風にちれともさくら花をのかものこそ

3 かきつめて見る左のなれき

4 桜はなにほひあまたにちらさしとおほふはかりの

5 袖はありやは心をはけにこそ見ゆめれなといひおとすかくいふに月日はか

6 なくすくすもゆくすゑのうしろめたきをかん殿はよろつにおほす

7 院よりは御せうそこ日々にあり女御うとくしうおほしへたつるにやうへは

8 こゝにきこえうとむるなめりといとにくけにおほしのたまへはたはふれ

9 にもくるしうなんおなくは此ころの程におほしたちねなといと

10 まめやかにきこえ給さるへきにこそはおはすらめいとかうあやにくに

14才

1 のたまうもかたしけなしなとおほしたる御てうとなとはそこらしをかせ

2 給へれは人々のさうそくなにくれのはかなきことをそいそき給是を聞

3 に蔵人の少将はしめはかりおもひては北のかたをせめたてまつれは

4 聞わつらひ給ていとかたはらいたきことにつけてほめかし聞ゆるも世に

5 かたくなしきやみのまよひになんおほししかたもあらはをしはかりて

6 なをなくさめさせ給へ人なといとおしけにきこえ給をくるしうもあるかな

7 と打なけき給ていかなる事と思給へさたむへきやうもなきを院より

8 わたりなくのたまはするに思ふ給へみたれてなんまめやかなる御心ならば此程

9 をおほししつめてなくさめきこえんさまをも見給てなん世のきこえも

10 なたらかならんなと申給も此御まいりすくして中の君をとおほすなるへし

14ウ

1 さしあはせてはうたてしたりかほならんまたくらゐなどもあさへたる程

2 をなとおほすにおとこはさらにしか思うつるへくもあらずほのかに見たて

3 まつりて後はおもかけに恋しういかならんおりにとのみおほゆるにかうたのみ

4 かゝらすなりぬるを思なけき給事かきりなしかひなきこともいはんとて
 5 れいのしうのさうしにきたれは源侍従の文をぞ見ぬ給へりけるひき
 6 かくすをさなめりとみてうはひとりつことありかほにやと思ひてい
 7 こうもかくさすそこはかとなくてたゝ世をうらめしけにかすめたり

8 つれなくてすぐる月日をかそへつゝものうらめしきくれのはるかな#

9 人はかうこそのとやかにさまよくねたけめれわかいと人わらはれる
 10 心いられをかたへはめなれてあなつりそめられにたるとおもふもむねいた

15才

1 ければことに物もいはれていかたらふ中将のおもとのさうしのかた
 2 にゆくもれいのかひあらしかとしとなけきかち也ししうの君は此返事せん
 3 とてうへにまいり給を見るにいとほらたゝしうやすからすわかきこゝ
 4 地にはひとへに物そおほえけるあさましきまで恨なけゝはこのまへ
 5 申もあまりたはふれにくゝいとおしと思ていらへもおさゝせすかの御こ
 6 のけんそせし夕暮のこともいひ出てさはかりの夢をたに又見てし
 7 かなとあはれなにをたのみにていきたらむかうきこゆる事も残りすく
 8 なうおほゆれはつらきもあはれといふ事こそまことなりけれといとまめ
 9 たちていふあはれといひやるへきかたなき事也かのなくさめたまはん
 10 御さま露はかりうれしと思ふへきけしきもこそなければけにかのゆふ

15ウ

1 暮のこのけんそうなりけんにいとかうあやにくなる心はそひたるならんと
 2 ことはりに思ひてきこしめさせたらはいとゝいかにけしからぬ御心なりけり
 3 うとみきこえたまはんくるしと思きこえつる心もうせぬいとうしろ
 4 めたき御心なりけりとむかひ火をつくれはいてやさはれやいまはかきり
 5 の身なれば物おそろしくもあらずなりにたりさもまけ給しこそいとゝ
 6 おしかりしかおいらかにめしいれてやはめくはせたてまつらましかはこよな
 7 からまし物をなといひて

8 いてやなそ数ならぬ身になはぬは人にまけしの

9 心なりけり中将うちわらひて

10 わりなしやつよきによらはかちまけをこゝろひとつに

16才

1 いかゝまかするといひけるさへそつらかりける

2 あはれとててをゆるせかしいきしにを君にまかする

3 我身とならはなきみわらひみかたらひあかす又の日は卯月に

4 なりにければはらからの君たちのうちにまいりさふらふにいたう

5 くつしいりてなかも給へればはゝ北のかたは涙くみておはすおとゝも

6 院のきこしめすところもあるへしなにゝかはおほなく聞かれんと

7 思てくやしいたいめんのついでにも打出きこえずなりにしみつからあな

8 かに申さましかはさりともしえたかへたまはさましなどのたまふまでれいの

9 花をみて春はくらしつけふよりやしけきなきのしたにまとはん#

10 ときこえ給へりおまへにてこれかれ上らうたつ人ゝこの御けそう

16ウ

1 人のさまゝにいとおしけなるをきこえしらする中に中将のおもと

2 いきしにをといひしさまのことにのみはあらず心くるしけなりし

3 　なと聞ゆれはかんの君もいとおしと聞給おと、北のかたのおほす
 4 　ところによりせて人の御恨ふかくはとりかへありておほすこの
 5 　御まいりをさまたけむやうにおほすらんはしもめさましき事かきり
 6 　なきにてもたゝ人にはあるましき物にこ殿のおほしをきてたりし
 7 　物を院にまいりたまはんにゆくすゑのはへくしからぬをおほしたる
 8 　おりしもこの御ふみとりいれてあはれかる御返事

9 　けふそしる空をなかむるけしきにてはなにこゝろをうつしけりとも#
 10 　あないとおしたはふれにのみもとりなすかなといへとうるさかりて

17才

1 　かきかへす九日にそまいり給右のおほい殿御くるま御せんの人々あまた
 2 　たてまつり給へり北のかたもうらめしと思きこえ給へれとどころさも
 3 　あらさりに此御くるまゆへしけうきこえかよひ給へるを又かきたえんも
 4 　うたてあはれはかつけ物ともよき女のさうそくともあまたたてまつれ給へり
 5 　あやしううつし心もなきやうなる人のありさまを見給へあつかふ程にうけた
 6 　まはりとゝむる事もなかりけるをおとろかさせたまはぬもうとくしうなんとそ
 7 　ありけるおいらかなるやうにてほめかし給へるをいとおしと見給おとゝも御
 8 　文ありみつからもまいるへきに思給へつるにつゝしむ事の侍てなんのことも
 9 　さうやくにとてまいらすうとからすめしつかはせ給へとて源少将兵衛の
 10 　すけなとたてまつれ給へりなさはおはすかしとよろこひきこえ給大納言殿

17ウ

1 　よりも人々御くるまたてまつれ給北のかたはこおとゝの御むすめまき
 2 　はしらのひめ君なれはいつかたにつけてもむつまじうきこえかよひ給へ
 3 　けれとさしもあらず藤中納言はしもみつからおはして中将弁の
 4 　君たちもろともにことをこなひ給殿のおはせましかはとよろつにつけ
 5 　てあはれ也蔵人の君れいの人にいみじきこと葉をつくしていまは
 6 　かきりと思侍るいのちのさすかにかなしきをあはれと思ふとはかりたに
 7 　ひとことのたまはせはそれにかけとゝめられてしはしもなからへやせん
 8 　などあるをもてまいりてみればひめ君二ところ打かたらひていとい
 9 　たうくつし給へりよるひろもろともにならひ給て中の戸はかりへた
 10 　てたる西ひんかしをたにいといふせき物にし給てかたみにわたり

18才

1 　かよひおはするをよそくにならんことをおほすなりけり心ことにしたて
 2 　ひきつくるひたてまつり給へる御さまいとおかし殿のおほしのたまひしさま
 3 　などをおほし出て物あはれなるおりからにやとりて見給おとゝ北のかたの
 4 　さはかりたちならひてたのもしけなる御中になとかうすゝる事を思
 5 　いふらむとあやしきにもかきりとあるをまことにやとおほしてやかてこの御
 6 　ふみのはしに

7 　あはれてふつねならぬ世の一こともいかなる人にかへる物そは#
 8 　ゆゝしきかたにてなんほのかに思しりたるそかき給てかういひ

9 　やれかしとのたまうをやかてたてまつれたるをかきりなうめつら
 10 　しきにもおりをおほしとむるさへいとゝ涙もとまらす立かへりたか名

18ウ

1 　はたゝしなとかことかましくて

2 いける世のしにはこゝろにまかせねはきかてややまんきみか一こと#
 3 つかのうへにもかけ給ふへき御心の程と思給へましかはひたみちにも
 4 いそかれ侍らましをなとあるにうたてもいらへをしてけるかなかき
 5 かへてやりつらんかとくるしけにおほして物ものたまはすなりぬおとな
 6 わらはめやすきかきりとゝのへられたり大かたのきしきなどは内に
 7 まいりたまはましにかはる事なしまつ女御の御かたにわたり給てかんの
 8 君は御物語なときこえ給夜ふけてなんうへにまうのほり給けるきさ
 9 き女御などみな年ころへてねひ給へるにいつくしけにてさかりに見とこ
 10 ろあるさまを見たてまつり給へはなとてかをろかならん花やかに時めき給

19才

1 たゝ人たちて心やすくもてなし給へるさましもそけにあらまほしう
 2 めてたかりけるかんの君をしはしとふらひ給なんと心とめておほしけるに
 3 いととくやをら出給にければくちおしう心うしとおほしたり源侍従の
 4 君をは明暮おまへにめしまつはしつゝけにたゝむかしのひかる源氏の
 5 おひ出給しにをとらぬ人の御おほえ也院の内にはいつれの御かたにも
 6 うとからすなれましらひありき給此御かたにも心よせありかほに
 7 もてなしてしたにはいかに見給ふらんの心さへそひ給へり夕暮のしめ
 8 やかなるに藤侍従とつれてありくにかの御かたの御まへちかく見やら
 9 るゝ五葉に藤のいとおもしろくさきかゝりたるを水のほとりの石に
 10 苔をむしろにてなかめぬ給へりまほにはあらねと世の中うらめしけに

19ウ

1 かすめつゝかたらふ
 2 手にかくる物にしあらは藤の花まつよりまさる
 3 色を見ましやとて花を見あげたるけしきなとあやしくあはれ
 4 に心くるしくおほゆれは我心にあらぬ世のありさまにほのめかす
 5 むらさきの色はかよへと藤の花こゝろにえこそ

6 かゝらさりけれまめなる君にていとおしとおもへりいと心まとふはかりは
 7 思いられさりしかとくちおしうはおほえけりかの少将の君はしもまめやか
 8 にいかにせましとあやまちもしつゝへくしつめかたくなおほえけるきこ
 9 え給し人々中の君とうつろふもあり少将の君をはゝ北のかたの御恨に
 10 よりさもやとおもほしてほのめかしきこえ給しをたえて音つれすなりに

20才

1 たり院にはかの君たちもしたしくもとよりさふらひ給へるとこの
 2 まいり給て後おさゝまいらすまれゝ殿上のかたにさしのそき
 3 てもあしきなうにけてなんまかり出る内にはこおとゝの心さし
 4 をきて給へるさまなりしをかくひきたかへたる御宮つかへをいかなる
 5 にかとおほして中将をめしてなんのたまはせける御けしきよろしからず
 6 されはこそ世人の心のうちもかたふきぬへき事なりとかねて申し
 7 ことをもおほしとるかたありてかうおほし立にしかはともかくもきこえ
 8 かたくて侍にかゝるおほせ事の侍れはなにかしらか身のためもあち
 9 きなくなん侍といと物し思ひてかんの君を申給いさやたゝいま
 10 かうにはかにしも思たゝさりしをあなかちにいとおしうのたまはせしかは

20ウ

1 うしろみなきましらのうちわたりははしたなけなめるをいまは
 2 心やすき御ありさまなめるにまかせきこえてと思よりし也誰もく
 3 ひなからんことはありのまゝにもいさめたまはていまひきかへし
 4 右のおとゝもひかくしきやうにおもむけてのたまうなれはくるしう
 5 なん是もさるへきにこそはとなたらかにのたまひて心もさはかいたま
 6 はすそのむかしの御すくせはめに見えぬ物なれはかうおほしのたまは
 7 するを是契りことなるともいかゝはそうしなをすへき事ならん中宮を
 8 はゝかりきこえ給とて院の女御をはいかゝしたてまつりたまはんとする
 9 うしろみやなにやとかねておほしかはすともさしもえ侍らしよし見
 10 聞侍らんようおもへは内は中宮おはしますとてこと人はましらひたまはずや

21才

1 君につかうまつる事はそれか心やすきこそむかしよりけうある事にはし
 2 けれ女御はいさゝかなる事のたかひめありてよろしからす思きこえたま
 3 はんにひかみたるやうになん世のきゝみゝも侍らんなと二ところして
 4 申給へはかんの君いとくるしとおほしてさるはかきりなき御思のみ
 5 月日にそへてまさる七月よりははらみ給にけり打なやみ給へる
 6 さまけに人のさまゝにきこえわつらはすもことほりそかしいかてかはかゝ
 7 らむ人をなのめに見聞すくしてはやまむとそおほゆる明暮御あそひを
 8 せさせ給へし侍従もけちかうめしいるれは御ことのねなどは聞給かの梅
 9 かえにあはせたりし中将のおもとのわこんもつねにめし出てひかせ給へは聞
 10 あはするにもたゝにはおほえさりけりその年かへりておとこたうかせられ

21ウ

1 けり殿上のわか人ともの中に物の上手おほかるころをひ也その中にもすく
 2 れたるをえらせ給て此四位の侍従右のかとう也かの蔵人の少将かくにん
 3 の数のうちにありけり十四日の月の花やかにくもりなきにおまへより出て冷
 4 泉院にまいる女御も此みやすんところもうへに御つほねして見給かんたちめ
 5 みこたちひきつれてまいり給右のおほい殿ちしのおとゝの御そうをはなれ
 6 てきらくしうきよけなる人はなきよなりと見ゆ内のおまへよりも此院をは
 7 いとはつかしうことに思きこえてみな人ようぬをくはふる中にもくら人の
 8 少将は見給ふらんかしと思やりてしつ心なしにほひもなく見くるしきわたはな
 9 もかさす人からに見わかれてさまもこゑもいとおかしくそありける竹川うたひて
 10 みはしのもとにふみよる程すきにし世のはかなかりしあそひも思ひ出られけれ

22才

1 はひかこともしつへく涙くみけりきさいの宮の御かたにまいれはうへもそな
 2 たにわたらせ給て御らんす月は夜ふかうなるまゝにひるよりもはし
 3 たなうすみのほりていかに見給ふらんとのおまほゆれはふむ空もなう
 4 たゝよひありきてさかつきにもさしてひとりとかめらるゝはめいほく
 5 なくなん夜一夜とこゝろゝかきありきていとなやましうくるしくて
 6 ふしたるに源侍従を院よりめしたれはあなくなるししはしやすむへき
 7 にとむつかりなからまいり給へり御まへの事ともなとはせ給かたうは打す
 8 くしたる人のさきゝするわさをえらはれたる程心にくかりけりとてうつ
 9 くしとおほしためり万春樂を御くちすさひにし給つゝみやすところ
 10 の御かたにわたらせ給へは御ともにまいり給物見にまいりたる里人おほくて

22ウ

1 れいよりは花やかに気はひいまめかしわた殿の戸くちにしはしぬてこゑき、
 2 しりたる人に物などのたまふ一夜の月の影ははしたなかりしわさかな
 3 蔵人の少将の月のひかりにかゝやきたりし氣しきもかつらの影に侍には
 4 あらずやありけん雲のうへちかくてはさしも見えさりきなとかたり給へは人々
 5 あはれときくもありやみはあやなきを月はいますこし心ことなりとさため
 6 きこえしなとすかしてうちより

7 竹川のそのよのことはおもひ出やしのふはかりの

8 ふしはなけれとはかなき事なれと涙くまるゝもけにいとあさくは

9 おほえぬことなりけりとみつからおもひしらる

10 なかれてのたのめむなしき竹川に世はうき物と

23オ

1 思しりにき物あはれる氣しきを人々おかしかるさるはおりたちて人のやう
 2 にもわひたまはさりしかと人さまのさすかにくるしう見ゆる也打出すくす事
 3 もこそ侍れあなかしことてたつ程にこなたにとめし出れははしたなきこゝ地
 4 すれとまいり給て六条院のたうかのあしたに女かたにてあそひせられ
 5 けるいとおもしろかりきと右のおとゝのかたられし何事もかのわたりのさしつき
 6 なるへき人かたくなりける世なりやいと物の上手なる女さへおほくあつまりて
 7 いかにはかなき事もおかしかりけむなとおほしやりて御ことゝもしらへさせ給て
 8 さうはみやすところひわは侍従に給わこんをひかせ給て此殿などあそひ給
 9 みやすところの御ことのねまたかたなりなるところありしをいとうををしへ
 10 ないたてまつり給てけりいまめかしうつまをとよくてうたこの物など上手に

23ウ

1 いとよくひき給なに事も心もとなくをくれたる事は物したまはぬ人なめりかたち
 2 はたいとおかしかるへしとなを心とまるかやうなるおりおほかれとをのつから氣
 3 とをからすみたれ給かたなくなれゝしうなどは恨かけねとおりにつけて思ふ
 4 心のたかへるなけかしさをかすむるもいかゝおほしけんしらすかしう月に女宮む
 5 まれたまひぬことにけさやかなる物し人もなきやうなれと院の御けしきに
 6 したかひて右のおほい殿よりはしめて御うふやしなひし給ところゝおほかり
 7 かの君つといたきもちてうつくしみ給にとうまいり給ふへきよしのみ
 8 あれはいかの程にまいりたまひぬ女宮一ところおはしますにいとめつらしう
 9 うつくしくておはすれはいといみしうおほしたりいとゝたゝこなたにのみ
 10 おはします女御かたの人々いとかゝらてありぬへき世かなとなゝならす

24オ

1 いひおもへりさうしみの御心ともはことにかろゝしくそむき給にはあらねとさふ
 2 らふ人々の中くせゝしき事も出きなとしつゝかの中將の君のさいへと人の
 3 このかみにてのたまひし事かなひてかんの君もむけにかくいひゝてはていか
 4 ならん人わらへにはしたなうもやもてなされむうへの御心はへはあさからねと
 5 年へてさふらひ給御かたゝよろしからす思はなちたまはゝくるしくもある
 6 へきかなとおもほすに内にはまことに物しとおほしつゝたひゝ御けしきありと
 7 人の聞ゆれはわつらはしくておほやけさまにてましらはせたまつらん事を
 8 おほして内侍のかみをゆつりきこえ給おほやけいとかたうし給事なり
 9 ければ年ころかうおほしをきてしかとえしたまはさりしをこおとゝの御心を

10 おほしてひさしうなりにけるむかしのれいなとひき出てその事かなひたまひぬ

24ウ

1 この君の御すくせにて年ころ申給しはかたきなりけりと見えたるかくて
2 心やすくて内すみもし給へかしとおほすにもいとおしう少將の事をはゝ北
3 のかたのわさとのたまひし物をたのめきこえしやうにほのめかしきこえしも
4 いかに思給ふらんとおほしあつかう弁の君して心うつくしきやうにおとゝに
5 きこえ給内よりかゝるおほせことのあれはさまゝにあなかななるましらひの
6 此身と世のきゝみゝもいかゝと思給へてなんわつらひぬるときこえ給へは内の
7 御けしきはおほしとかむるもことはりになんうけたまはるおほやけ事につけ
8 ても宮つかへしたまはぬはさるましきわさになんはやおほしたつへきに
9 なんと申給へり又このたひ中宮の御けしきとりてそまいり給おとゝ
10 おはせましかはをしけちたまはさらましなどあはれなる事ともをなん

25オ

1 あに君はかたちなと名たかうおかしけなりときこしめしをきたるを
2 ひきかへ給へるをなま心ゆかぬやうなれと是もいとらうゝしく心にくゝもて
3 なしてさふらひ給さきのかんの君かたちをかへてんとおほしたつをかたゝくに
4 あつかひきこえ給程にをこなひも心あはたゝしうこそおほされめいます
5 こしいつかたも心のとかに見たてまつりなし給てもとかしきところなくひた
6 みちにつとめ給へと君たちの申給へはおほしとゝこほりて内には時々しのひ
7 てまいり給おりもありけり院にはわつらはしき御心はへのなをたえねは
8 さるへきおりもさらにまいりたまはすいにしへを思ひ出てさすかにかたしけ
9 なうおほえしかしこまりに人のみなゆるさぬ事におもへりしをしらすかほに
10 思ひてまいらせたてまつりてみつからさへたはふれにてもわかゝしき事の

25ウ

1 世にきこえたらんこそいとまはゆく見くるしかるへけれとおほせとさる
2 いみによりとはたみやすところにもあかしきこえたまはねは我をむかし
3 よりこおとゝはとりわきておほしかしつきかんの君はわか君を桜のあらそひ
4 はかなきおりにも心よせ給しなこりにおほしおとしけるよとらめしう
5 思きこえ給へり院のうへはたましていみしうつらしとおほしのたまは
6 せけるふるめかしきあたりにさしはなちて思おとさるゝもことはりなりと
7 打かたらひ給てあはれにのみおほしまさる年ころありて又おとこみこ
8 うみ給つそこらさふらひ給御かたゝにかゝる事なくて年ころになりに
9 けるををろかならさる御すくせなと世人おとろくみかとましてかきり
10 なうめつらしと此いま宮をは思きこえ給へりおりめたまはぬ世なら

26オ

1 ましかはいかにかひあらましいまはなに事もはへなき世をいとくち
2 おしとなんおほしける女一の宮をかきりなき物に思きこえ給しをかく
3 さまゝにうつくしくて数そひ給へれはめつらかなるかたにていとことに
4 おほいたるをなん女御もあまりかうまては物しからんと御心うこき
5 けることにふれてやすからすくねゝしき事出きなとしてをのつから
6 御中もへたゝるへかめり世のこともして数ならぬ人のなからひにも
7 もとよりことはりえたるかたにこそあひなきおほよその人も心をよする
8 わさなめれは院の内のかみしもの人々とやむことなくてひさしく

9 なり給へる御かたにのみことはりてはかない事にも此御かたさまをよからす
10 とりなしなとするを御せうとの君たちもされはよあしうやはきこえ

26ウ

1 をきけるといと、申給心やすからすきくくるしきまゝにかゝらてのとやか
2 にめやすくて世をすくす人もおほかめりかしかりなきさいはひ
3 なくて宮つかへのすちは思よるましきわさなりけりとおほうへはなけ
4 き給きこえし人々のめやすくなりのほりつゝさてもおはせましに
5 かたはならぬそあまたあるやその中に源侍従とていとわかう
6 ひはつなりと見しは宰相の中將にてにほふやかほるやときにくゝ
7 めてさはかるなるけにいと人からをもちに心にくきをやむことなきみこ
8 たち大臣の御むすめを心さしありてのたまふなるなども聞かれすなど
9 あるにつけてそのかみはわかう心もとなきやうなりしかとめやすくねひ
10 まさりぬへかめりなといひおはさうす少將なりしも三位の中將とかいひ

27オ

1 ておほえあり身のさえもあらまほしかりきやなとなま心わるきつかう
2 まつり人は打しのひつゝうるさけなる御ありさまよりはなといふもありて
3 いとおしこそ見えし此中將はなを思そめし心たえすうくもつらくも思
4 つゝ左大臣の御むすめをえたれとおさく心もとめすみちのはてなる
5 ひたちおひのとてならひにもこと草にもするはいかにおもふやうのあるにか
6 ありけんみやすところやすけなき世のむつかしさに里かちになり給に
7 けりかんの君思ひしやうにはあらぬ御ありさまをくちおしとおほすうち
8 君は中々いまめかしう心やすけにもてなし世にもゆへあり心にくきおほえ
9 にてさふらひ給左大臣うせたまひて右は左に藤大納言左大將かけ
10 給へる右大臣になり給つきくの人々なりあかりて此かほる中將は中納言に

27ウ

1 三位の君は宰相になりてよろこひし給へる人々この御そうよりほかに
2 人なきころをひになんありける中納言の御よろこひにさきの内侍のかんの
3 君にまいり給へり御まへの庭にてはいしたてまつりかんの君たいめんし給て
4 かくいと草ふかくなりゆくむくらの門をよきたまはぬ御心はへもまつむかし
5 の御こと思ひ出られてなんときこえ給御こゑあてにあひきやうつききかま
6 ほしういまめきたりふりかたくもおはするかなかゝれは院のうへは恨給御心たえぬ
7 そかしいまつゐにことひき出給てんと思よろこふなどは心にはいとしも
8 思給へねともまつ御らんせられにこそまいり侍れよきぬなどのたまはする
9 はをろかなるつみに打かへさせ給ふにやと申給けふはさたすきたる身の
10 うれへなと聞ゆへきついてにもあらずとつゝみ侍れとわさと立よりたまはん

28オ

1 事はかたきをたいめんなくてはたさすかにくたゝしき事になん院にさふら
2 たるゝかいといたう世中を思みたれ中空なるやうにたゝよふを女御をた
3 のみきこえ又きさひの宮の御かたにもさりともおほしゆるされなんと思給へ
4 すくすにいつかたにもなめけにゆかぬ物におほされたなれはいとかたはら
5 いたくて宮たちはさてさふらひ給此いとましらひにくけなるみつからはかくて
6 心やすくたになかめすくい給へとてまかてさせたるをそれにつけても聞
7 にくゝなんうへにもよろしからすおほしのたまはすなるついであらはほの

8 めかしそうし給へとさまかうさまにたのもしく思給へていたしたて侍し
 9 程はいつかたをも心やすく打とけたのみきこえしかといまはかゝる事あや
 10 まりにおさなうおほけなかりけるみつからの心をもとかしくなんと打なけい給

28ウ

1 氣しきなりさらにかうまておほすましきことに
 2 なんかゝる御ましらひのやすからぬことはむかしより
 3 さる事となり侍にけるをくらぬをさりてしつかに
 4 おはしましなにもけさやかならぬ御ありさまと
 5 なりにたるにたれもうちとけたまへるやうな
 6 れとをのくうちくにはいかゝいとましくもおほす
 7 こともなからむ人はなにのとかと見ぬことも
 8 わか御身にとりてはうらめしくなんあひなきことに
 9 こゝろうこかいたまふこと女御きさきつねの御くせ

29オ

1 なるへしさはかりのまきれもあらしものとてやは
 2 おほしたちけむたゝなたらかにもてなして御らん
 3 しすくすへきことにはへるなりをのこのかたに
 4 てそうすへきことにも侍らぬことになむと
 5 いとすゝしう申たまへはたいめんのついでに
 6 うれへきこえむとまちつけたてまつりたる
 7 かひなくあわの御ことはりやとうちわらひてお
 8 はする人のおやにてはかくしかりたまへる
 9 ほとよりはいとわかやかにおほといたるこゝちす

29ウ

1 みやすむところもやうにそおはすへかめるうちの
 2 ひめ君のこゝろとまりておほゆるもかうさま
 3 なる氣はひのおかしきそかしとおもひぬたまへり
 4 内侍のかみもこのころまかてたまへりこなた
 5 かなたすみたまへる氣はひおかしうおほかた
 6 のとやかにまきるゝことなき御ありさまとものすの
 7 うちこゝろはつかしうおほゆればこゝろつかひせられ
 8 ていとゝもてしつめやすきをおほうへはちかう
 9 も見ましかはどうちおほしけり大臣殿は

30オ

1 たゝこのとのゝひんかしなりけりたいきやう
 2 のゑかのきんたちなどあまたつとひたまふ
 3 兵部卿の宮左のおほいとゝのりゆみのかへり
 4 たちすまぬのあるしなとおほしましゝを
 5 おもひてけふのひとりとさうしたてまつり
 6 たまひけれとおはしまさすこゝろにくゝ
 7 もてかしつきたまうひめ君をさるはこゝろ
 8 さしことにいかてとおもひきこえたまへ
 9 かめれと宮そいかなるにかあらん御こゝろ

30ウ

- 1 もとめたまはさりける源中納言のい
- 2 とゝあらまほしうねひとゝのひなに
- 3 こともをくれたるかたなくものし
- 4 たまうをおとゝきたのかたもめとゝ
- 5 めたまひけりとなりのかくのゝしりて
- 6 ゆきちかうくるまのをとさきをふこゑ
- 7 こゑもむかしのこともひいてられて
- 8 こののにはものあはれになかめ
- 9 たまうこみやうせたまひてほとも

31オ

- 1 なくこのおとゝのかよひたまひし事
- 2 をいとあはつけいやうに世人はもとく
- 3 なりしかとおもひもきこえずかくて
- 4 ものしたまふもさすかにさるかたに
- 5 めやすかりけりさためなきの世や
- 6 いづれにかよるへきなどのたまうみき
- 7 のおほいとゝさいしやうのちうしやうた
- 8 いきやうの又の曰ゆふつけてゝゝに
- 9 まいりたまへりみやすところ里に

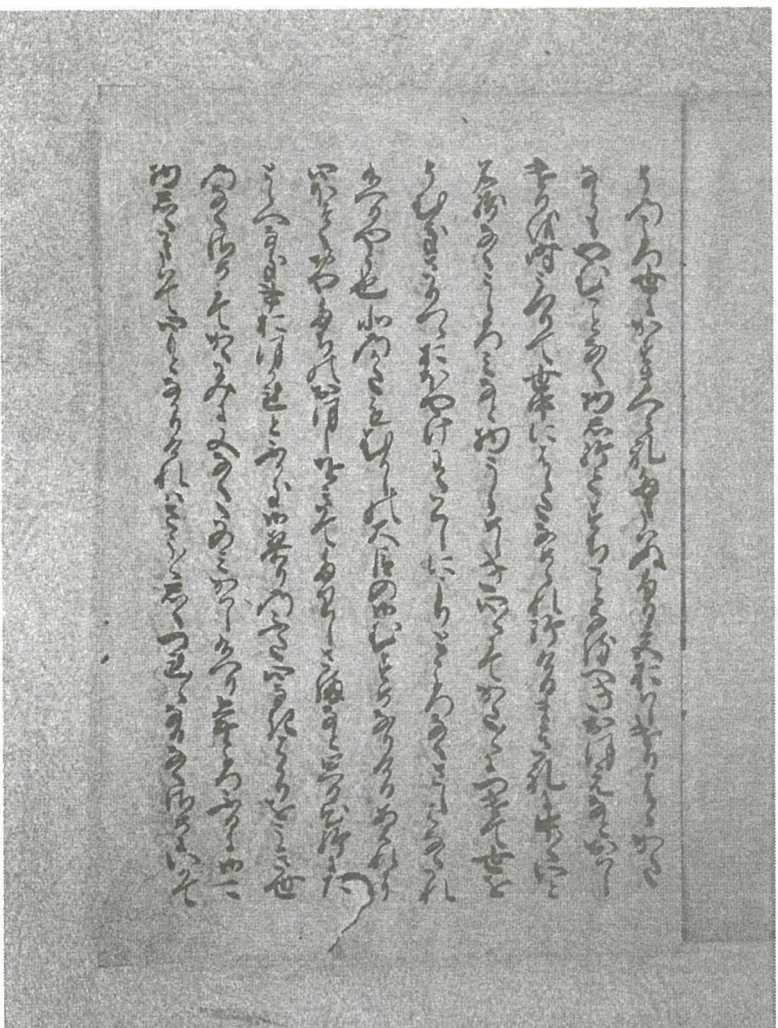
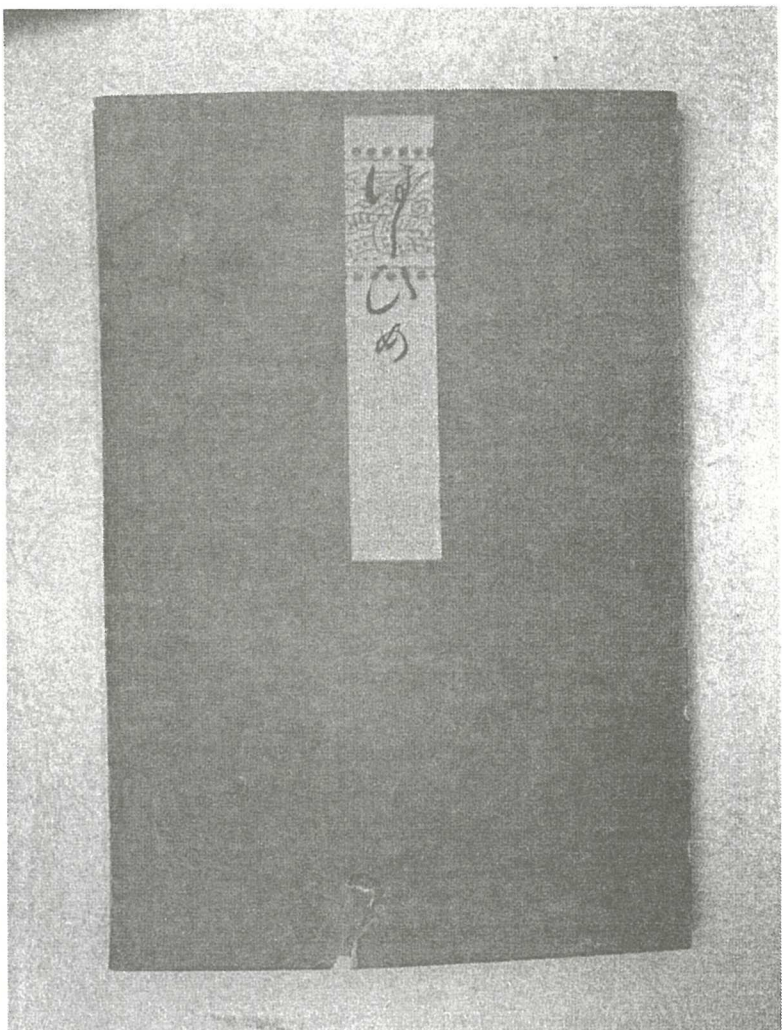
31ウ

- 1 おはすとおもふにいとゝこゝろけさう
- 2 そひておほやけのかすまへたまう
- 3 よろこひなどはなにともおほえはへらす
- 4 わたくしのおもふ事かなはぬなけきのみ
- 5 とし月にそへておもひたまへは
- 6 かけんかたなき事となみたをしのこふも
- 7 ことさめいたり二十七八のほとどのいとさかり
- 8 にほひはなやかなるかたちしたまへり
- 9 見くるしの君たちの世の中をこゝろの

32オ

- 1 まゝにおこりてつかさくらゐをはなにとも
- 2 おもはすすくしいますからうやことのゝお
- 3 はせましかはこゝなるひとゝもかゝるすさひ
- 4 ことにそこゝろはみたらましとうちなきた
- 5 まう右兵衛のかみ右大弁にてみな非参
- 6 議なるをうれはしとおもへりしうときこ
- 7 ゆめりしそここのころとうのちうしやうとき
- 8 こゆめるよはひのほとはかたはならねと
- 9 人にをくるとなけき給へり宰相はとかくつきくしく

橋姫



1才

1 そのころ世にかすまへられたまはぬふる宮おはしけりは、かた
 2 なともやむことなく物し給てすちことなるへきおほえなどおはし
 3 けるを時うつりて世中にはしたなめられ給けるまきれに中々いと
 4 名残なくうしろみなど物うらめしき心々にてかた／＼につけて世を
 5 そむきさりつゝおほやけわたくしによりところなくさしはなたれ
 6 給へるやう也北のかたもむかしの大臣の御むすめなりけるあはれに
 7 心ほそくおやたちのおほしをきてたりしさまなと思ひ出給にた
 8 としへなき事おほかれとふかき御契りのふた心なきはかりをうき世
 9 のなくさめにてかたみに又なくたのみかはし給へり年ころふるに御こ
 10 物したまはて心もとなかりければさう／＼しくつれ／＼なるなくさめにいかて

1ウ

1 おかしからんちこもかなと宮そ時めきおほしのたひけるにめつらしく
 2 女君のいとうつくしけなるむまれ給へり是をかきりなくあはれと
 3 思かしつききこえ給に又さしつゝきけしきはみ給て此たひは
 4 おとこにてもなとおほしたるにおなしさまにてたひらかにし給ながら
 5 いといたくわつらひてうせたまひぬ宮あさまじうおほしまとふ
 6 ありふるにつけてもいとはしたなくたへかたき事おほかる世なれと見
 7 すてかたくあはれなる人の御ありさま心さまにかけとゝめらるゝほたし
 8 にてこそすくしきつれひとりとりとまりていとゝすさましくもあるへきかな
 9 いはけなき人々をもひとりはくゝみたてん程かきりあるみちにてほいも
 10 とけまほしう思給けれと見ゆつる人なくて残しとゝめむをいみしくおほし

2才

1 たゆたひつゝ年月もふれはをの／＼およすけまさり給うさまかたちの
 2 うつくしうあらまほしきを明暮の御なくさめにてをのつからそすくし給
 3 のちにむれ給し君をはさふらふ人々もいてやおりふし心うくなど打
 4 つふやきて心にいれてもあつかひきこえさりけれとかきりのさまにて何
 5 事もおほしわかさりし程なから是をいと心くるしと思ひてたゝ此君をは
 6 かたみに見給てあはれとおほせとはかりたゝ一ことなん宮にきこえをき給
 7 ければさきの世の契りもつらきおりふしなれとさるへきにこそはありけめと
 8 いまはと見えしまていとあはれと思ひてうしろめたけにのたまひしをと
 9 おほし出つゝ此君をしもいとかなしうしたてまつり給かたちなんまことに
 10 いとうつくしうゆゝしきまで物し給けるひめ君は心はせしつかによし

2ウ

1 あるかたにて見るめもてなしも氣たかく心にきさまそした
 2 たまへるいたはしくやむことなきすちはまさりていつれをも
 3 さま／＼に思かしつききこえ給へとかなはぬ事もおほく年月に
 4 そへて宮の内物さひしくのみなりまさりさふらひし人もたつ
 5 きなきこゝちするにえしのひあへすつき／＼したかひてまかりちり
 6 つゝわか君の御めのともさるさはきにはか／＼しき人をしもえり
 7 あへたまはさりければ程につけたる心あさゝにておさなき程を見
 8 すてたてまつりにければたゝ宮そはくゝみ給さすかにひろくおも
 9 しろき宮の池山などのけしきはかりむかしにかはらていといたうあ

10 れまさるをつれ／＼となかめ給けいしなともむね／＼しき人もなかりければ

3才

1 とりつくるふ人もなきままに草あをやかにしけり軒のしのふところ
 2 えかほにあをみわたれるおり／＼につけたる花紅葉の色をも香をも
 3 おなし心に見はやし給しにこそなくさむ事もおほかりけいと／＼しくさひ
 4 しくよりつかんかたなきさまに持仏の御かさはかりをわさとせさせ給て
 5 明暮をこなひ給かゝるほたしともにかゝつらふたに思のほかにくちおしう
 6 我心なからもかなはさりける契りとおほゆるをまいてなにゝか世の人めいてい
 7 まさらにとのみ年月にそへて世中をおほしはなれつゝ心はかりをひしりに
 8 なりはて給て此君のうせ給にしこなたはれいの人のさまなる心はへなどたは
 9 ふれにてもおほし出たまはさりけりなとかさしもわかるゝ程のかな
 10 しひは又世にたくひなきやうにのみこそはおほゆへかめれとありふれば

3ウ

1 さのみやはなを世人になすらふ御心つかひをし給ていとかく見つる
 2 しくたつきなき宮の内もをのつからもてなさるゝにさもやと人は
 3 もとききこえてなにくれとつき／＼しくきこえたつこともるひにふれて
 4 おほかれときこしめし入さりけり御ねんすのひま／＼には此きみたちを
 5 もてあそひやう／＼およすけ給へはことならはしこうちへんつきなと
 6 はかなき御あそひわさにつけても心はへともを見たてまつり給に
 7 ひめ君はらう／＼しくふかくをもちかに見え給わか君はおほとかに
 8 らうたけなるさまして物つゝみしたるけはひにいつくしうさま／＼
 9 におはす春のうらゝかなる日影に池の水鳥とものはねうち
 10 かはしつゝをのかしゝさえつるこゑなとをつねははかなき事と見

4才

1 給しかともつかひはなれぬをうらやましくなかめ給てきみたちに
 2 御ことどもをしへきこえ給いとおかしけにちいさき御程にとり／＼かき
 3 ならし給物のねともあはれにおかしく聞ゆれば涙をうけたまひて
 4 うちすてゝつかはさりにし水とりのかりのこの世に
 5 たちをくれけむ心つくしなりやとめをしのかひ給かたちいときよけにおはし
 6 ます宮也年ころの御をこなひにやせほそり給にたれとさてしもあてに
 7 なまめきて君たちをかしつき給御心はへになをしなへはめるをき給てし
 8 とけなき御さまいとはつかしけ也ひめ君御すゝりをやらひきよせて手な
 9 らひのやうにかきませ給を是にかき給へすゝりにはかきつけさなるとて
 10 かみたてまつり給へははちらひてかきたまふ

4ウ

1 いかてかくすたちけるそとおもふにもうき水鳥の
 2 契りをそしるよからねとそのおりはいとあはれなりけりてはおひ
 3 さき見えてまたよくもつゝけたまはぬ程也わか君とくかき給へと
 4 あれはいますこしおさなけにひさしくかきいて給へり
 5 なく／＼もはねうちきする君なくは我そすもりに
 6 なるへかりける御そともなどなへはみておまへに又人もなくいとさ
 7 ひしくつれ／＼けなるにさま／＼いとらうたけにて物し給をあは
 8 れに心くるしういかゝおほさゝらむ経をかた手にもたまひてかつ

9 よみつゝさうかもし給ひめ君にひわわか君にさうの御ことを
10 またおさなけれとつねにあはせつゝならひ給へは聞にくゝも

5才

1 あらていとおかしく聞ゆちゝみかとも女御にもとくをくれきこえ
2 給てはかゝしき御うしろみのとりたてたるおはせさりければさえ
3 なとふかくもえならひたまはすまいて世中にすみつく御心をきて
4 はいかてかはしりたまはんふかき人と聞ゆる中にもあさましうあて
5 におほとかなる女のやうにおはすればふるぎ世の御たから物おほちお
6 とゝの御そうふんなにやかやとつきすましかりけれとゆくゑもなく
7 はかなくうせはてゝ御てうとなとはかりなんわさとうるはしくてお
8 ほかりけるまいりとふらひきこえ心よせたてまつる人もなしつれ
9 つれなるまゝにうたつかさの物の師ともなとやうのすたれたるをめし
10 よせつゝはかなきあそひに心を入れておい出給へればそのかたはいとおかしく

5ウ

1 すくれ給へり源氏のおとゝの御おとうと八の宮とそきこえしを冷泉
2 院の春宮におはしましゝ時朱雀院のおほきさきのよこさまに
3 おほしかまへて此宮を世中にたちつき給ふへくわか御時もてかしつき
4 たてまつり給けるさはきにあひなくあなたさまの御なからひにはさはなれ
5 給にければいよくかの御つきゝになりはてめる世にてえましらひたまはす
6 又此年ころはかゝるひしりになりはてゝいまはかきりとよろづをおほし
7 すてたりかゝる程にすみ給宮やけにけりいとゝしき世にあさましう
8 あへなくてうつろひすみ給ふへきところのよろしきもなかりければ宇治と
9 いふところによしある山里もたまへりけるにわたり給ふ思すて給へる世なれ
10 ともいまはとすみはなれなんをあはれとおほさるあしろのけはひちかく

6才

1 みゝかしましき川のわたりにてしつかなる思にかなはぬかたもあれと
2 いかゝはせん花もみち水のなかれにも心やるたよりによせていとゝしくなめ
3 給よりほかのことなしかくたへこもりぬる野山のすゑにもむかしの
4 人物したまはましかいと思きこえたまはぬおりなかりけり
5 見し人も宿もけふりになりにしをなにとて我身
6 きえ残りけむいけるかひなくそおほしこからるゝや山かきなれる
7 御すみかにたつねまいる人なしあやしきけすなどお中ひたる山かつ
8 とものみまれになれまいりつかうまつるみねのあさ霧はるゝおり
9 なくてあかしくらし給に此宇治山にひしりたちたる阿闍梨すみ
10 けりさえいとかしこくて世のおほえもかるからねとおさゝおほやけ事にも

6ウ

1 出つかへすこもりぬたるに此宮のかくちかき程にすみ給てさひしき御さま
2 たうときわさをせさせ給つゝ法文をよみならひ給へはたうとかり
3 きこえてつねにまいる年ころまなひしり給へる事ともふかき心を
4 とききかてまつりいよく此世のかりそめにあちきなき身を申しら
5 すれば心はかりはちすのうへに思のほりにこりなき池にもすみぬへきを
6 いかくおさなき人々を見すてんうしろめたさはかりになんえひたみちに
7 かたちをもかへぬなとへたてなく物語し給此あさは冷泉院にもした

8 しくさふらひて御経などをしへ聞ゆる人なりけり京に出たるついでにまいりて
9 れいのさるへき文など御らんしてとはせ給事ともあるついでに八の宮のいとかし
10 こくないけうの御さえさとりふかく物し給けるかなさるへきにてむまれ

7才

1 給へる人にや物し給ふらん心ふかく思すまし給へる程まことのひしり
2 のをきてになん見え給と聞ゆいまたかたちはかへたまはずや俗ひしり
3 とか此わかき人々のつけたなるあはれなる事也などのたまはず宰相の
4 中将も御まへにさふらひ給て我こそ世中をはいとすさましく思しりながら
5 をこなひなと人にめとゝめらるもはかりはつとめすくちおしくてすくしく
6 れと人しれす思つゝ俗なからひしりになり給心のをきてやいかにと
7 みゝとゝめて聞給出家の心さしはもとより物し給へるをはかなき事に
8 思とゝこほりいまとなりては心くるしき女子どもの御うへをえおもひ
9 すてぬとんなげきうれへ給とそうすさすかに物のねめつるあさり
10 にてけにはた此ひめ君たちのことひきあはせてあそひ給へる

7ウ

1 川浪にきほひてきこえ侍れはいとおもしろくこくらく
2 おもひやられ侍やとこたひにめつれはみかどほゝゑみ給てさる
3 ひしりのあたりにおひ出て此世のかたさまはたとくしからんとをし
4 はからるゝをおかしのことやうしろめたく思すてかたくもてわつらひ
5 給ふらんをもししはしもをくれん程はゆつりやはしたまはぬなどその
6 たまはする此院のみかとは十のみにそおはしましける朱雀院の
7 こ六条院にあつけきこえし入道の宮の御ためしをおもほし出てかの
8 君たちもかなつれゝなるあそひかたきになとうちおほしけり中将の君
9 中々みこの思すまし給へらむ御心はへをたいめんして見たてまつらはやと
10 思ふ心そふくなりぬるさてあさりのかへりいるにもかならずまいりて物なら

8才

1 い聞ゆへくまつ内々にもけしきたまはり給へなとかたらひ給みかとは御こと
2 つてにてあはれなる御すさひを人つてにきく事なときこえ給とて

3 世をいとふこゝろは山にかよへともやへたつ雲を

4 君やへたつるあさり此御つかひをさきにたてゝかの宮にまいりぬなめ
5 なるきはのさるへき人のつかひたにまれ山かけにいとめつらしく待よろこ
6 ひ給てところにつけたるさかななとしてさるかたにもてはやし給御返

7 後たえてこゝろすむとはなけれども世を宇治山に

8 宿をこそかれひしりのかたをはひけしてきこえなし給へれとなを

9 世に恨のこりけるといとおしく御らんすあさり中将の君の道心ふかけに
10 物し給なとかたりきこえて法文などの心えまほしき心さしなんいはけ

8ウ

1 なかりしよはひよりふかく思なからえさらず世にありふる程おほやけ
2 わたくしにいとまなくあけくらしわざとちこもりてならひよみ大
3 かたはかくしくもあらぬ身にしも世中をそむきかはならんもはゝかるへき
4 身にあらねとをのつから打たゆみまきはしくてなんすくしくるを
5 いとありかたき御ありさまをうけたまはりつたへしよりふかく心
6 にかけてなんだのみきこえさするなとねんころに申給しなとかたり

7 聞ゆ宮世中をかりそめの事と思よりいとはしき心のつきそむる事も
 8 我身にうれへある時なへての世をうらめしう思しるはしめありて
 9 なん道心もおこるわさなめるを年わかく世中おもふにかなひなに
 10 こともあかぬ事はあらしとおほゆる身の程にさはた後の世をさへた

9才

1 とりしり給ふらんかありかたきこゝにさるへきにやたゝいとひはなれ
 2 よとことさらに仏などのすゝめおもむけ給やうなるありさまにて
 3 をのつからこそしつかなる思かなひゆけと残りすくなきこゝ地するに
 4 はかくしくもあらてすきぬへかめるをきしかたゆくすゑさらにえたと
 5 るところなく思しらるゝをかへりては心はつかしけなるのりとともにこそ
 6 え物し給なれなどのたまひてかたみに御せうそこかよひ身つからも
 7 まうて給けに聞しよりもあはれにすまひ給へるさまよりはしめて
 8 いとかりなる草のいほりに思なしことそきたりおなしき山さにと
 9 いへとさるかたにて心とまりぬへくのとやかなるもあるをいとあらま
 10 しき水の音なみのひゝきに物わすれ打しよるなど心とけて夢

9ウ

1 をたに見るへき程もなけにすこく吹はらひたりひしりたちたる
 2 御ためにはかゝるしもこそ心とまらぬもよほしならめ女君たちなにこゝ
 3 地してすくし給ふらんよのつねの女しくなよひたるかたはとをく
 4 やとをしはからるゝ御ありさま也仏のへたてにさうしはかりをへ
 5 たてゝそおはすへかめるすき心あらん人はけしきはみよりて
 6 人の御心はへをも見まほしうさすかにいかゝとゆかしうもある御け
 7 はひ也されとさるかたを思はなるゝねかひに山ふかくたつねきこ
 8 えたるほいなくすぎゝしきなをさり事を打いてあされはまむ
 9 もことにたかひてやなと思かへして宮の御ありさまのいとあは
 10 れなるをねんころにとふらひきこえたまひたひゝまいり給つゝ

10才

1 思しやうにうはそくなからをこなう山のふかき心法文など
 2 わさとさかしけにはあらていとよくのたまひしらすひしり
 3 たつ人さえある法師などは世におほかれとあまりこはゝしく
 4 けとをけなるしうとくの僧都僧正のきはは世にいとまなく
 5 きすくにて物々の心をとひあらはさむもことゝしくおほえ給又
 6 その人ならぬ仏の御てしのいむ事をたもつはかりのたうとさは
 7 あれとけはひいやくこと葉たみてこちなきに物なれたる
 8 いと物しくてひるはおほやけにいとまなくなとしつゝしめやかなる
 9 よぬの程ちかき御枕かみなどにめしいれかたらひ給にもいとさすかに
 10 物むつかしうなどのみあるをいとあてに心くるしきさましてのたまひ

10ウ

1 出ることの葉もおなし仏の御をしへをもみゝちかきたとひにひきませ
 2 いとこよなくふかき御さとりにはあらねとよきは物の心をえ給かたの
 3 いとことに物し給ければやうゝ見なれたてまつり給たひことにつねに
 4 見たてまつらまほしうていとまなくなとして程ふる時は恋しうおほえ給
 5 此君のかくたうとかりきこえ給へはれせい院よりもつねに御せう

6 そこなとありて年ころをとにもおさくきこえたまはすいみしく
 7 さひしけなりし御すみかにやうくひとめ見る時しありおりふしに
 8 とふらひきこえ給事いかめしう此君もまつさるへき事につけつゝおか
 9 しきやうにもまめやかなるさまにも心よせつかうまつり給事みとせ
 10 はかりになりぬ秋のすゑつかた四季にあてし給御ねんふつを此川

11才

1 つらはあしろの浪も此ころはいとみましましくしつかならぬをとて
 2 かのあさりのすむ寺のたうにうつろひ給て七日の程をこなひ給
 3 ひめ君たちはいと心ほそくつれくまさりてなかめ給けるころ中將の
 4 君ひさしくまいらぬかなと思ひ出きこえ給けるまにあり明の月
 5 のまた夜ふかくさし出る程に出たちていとしのひて御ともに人など
 6 もなくやつれておはしけり川のこなたなれは舟などもわつらはて
 7 御馬にてなりけりいりもてゆくまに霧ふたかりてみちも見えぬ
 8 しけ木の中をわけ給にいとあらましき風のきほひにほろくとおち
 9 みたるゝ木葉の露のちりかゝるもいとひやゝかに人やりならず
 10 いたくぬれたまひぬかゝるありきなともおさくならひたまはぬこ地に

11ウ

1 心ほそくおかしくおほされけり

2 山おろしにたへぬ木葉の露よりもあやなくもろき

3 我涙かな山かつのおとろくもうるさしとてすいしんの音もせさせ
 4 たまはす柴のまかきをわけつゝそこはかとなき水のなかれとも
 5 をふみしたく駒のあしをとみなをしのひてとようぬし給へるにかく
 6 れなき御にほひそ風にたかひてぬししらぬ香とおとろくねさめの
 7 家々ありけるちかくなる程にその事とも聞わかれぬ物のねともいとすこ
 8 けに聞ゆつねにかくあそひ給と聞をついてなくてみこの御きんのね
 9 の名たかきもえきかぬそかしよきおりなるへしと思つゝいり給へはひわの
 10 こゑのひきなりけりわうしきてうにしらへてよのつねのかきあはせ

12才

1 なれとところからにやみゝなれぬこちしてかきかへすはちのをと物きよ
 2 けにおもしろしさうのことあはれになめゝいたるこゑしてたえくきこゆ
 3 しはし聞まほしきにしのひ給へと御けはひしるく聞つけてとのぬ人めくをのこ
 4 なまかたくなしき出きたりしかくなんこもりおはします御せうそこをこそ
 5 きこえさせめと申なにかしかきりある御をこなひの程をまきはしき
 6 こえさせんにあひなしかくぬれくまいりていたつらにかへんうれへをひめ君の
 7 御かたにきこえてあはれとのたまはせはなんなくさむへきとのたまへはみにく
 8 きかほ打ゑみて申させ侍らんとてたつをしはしやとめしよせて年ころ
 9 人つてにのみ聞てゆかしく思御ことのねともをうれしきおりかなしはしすこし
 10 立かくれて聞へき物のくまありやつきなくさしすきてまいりよらむ

12ウ

1 程みなことやめ給てはいとほいなからんとのたまう御けはひかほかたちのさる
 2 なほくしきこゝちにもいとめてたくかたしなくおほゆれは人きかぬ時は明暮
 3 かくなんあそはせとしも人にても都のかたよりまいりたちまする人侍る
 4 時は音もせさせたまはす大かたかくて女君たちおはしますことをは

5 かくさせ給なへての人にしらせたてまつらしとおほしのたまはするなりと申
 6 せは打わらひてあちきなき御物かくしなりしかしのひ給なれとみな人
 7 ありかたき世のためしに聞いてつへかめるをとのたまひてなをしるへせよ我は
 8 すきくしき心となき人そかくておはしますらん御ありさまのあやしき
 9 けになへてにおほえたまはぬなりとこまやかにのたまへはあなかしこ心なき
 10 やうに後のきこえや侍らんとてあなたのおまへは竹のすいかひしこめてみな

13才

1 へたてことなるををしよせたてまつり御とも人は西のひさしによひすへてこの
 2 とのゐ人あひしらふあなたにかよふへかめるすいかひの戸をすこしをしあけて見た
 3 まへは月おかしき程に霧わたれるをなかくてすたれをみしかくまきあけて人々
 4 おたりすのこにいとさむけに身ほそくなへはめるわらはひとりおなしさまなる
 5 おとななどゐたり内なる人ひとりにはしらにすこしゐかくれてひわをまへに
 6 をきてはちをてまさくりにしつゝゐたるに雲かくれたりつる月をにはかにいと
 7 あかくさし出たれは扇ならて是しても月はまねきつへかりけりとてさし
 8 のそきたるかほいみしくらうたけにほひやかなるへしそひふしたる人は
 9 ことのうへにかたふきかゝりてゐる日をかへすはちこそありけれさまことにも思ひ
 10 をよひ給御心かなとて打わらひたるけはひいますすこしをもりかによしつきたり

13ウ

1 をよはすとも是も月にはなるゝ物かはなどはかなき事を打とけのたまひかはし
 2 たるけはひともしらによそに思やりしにはにすいとあはれになつかしうおかしむかし
 3 物語などにかたりつたへてわかき女房などのよむをも聞にかならずかやうのことを
 4 いひたるさしもあらざりけんといくゝをしはからるゝをけにあはれる物のくまあり
 5 ぬへき世なりけりと心うつりぬへし霧のふかけれはさやかに見ゆへくもあらす又
 6 月さし出なんとおほす程におくのかたより人おはすつけ聞ゆる人やあらん
 7 すたれおろしみないりぬおとろきかほにはあらすなやかにもてなしてやをら
 8 かくれぬるけはひともしきぬの音もせずとなよらかに心くるしうていみしう
 9 あてにみやひかなるをあはれと思ひ給やをら立出て京に御くるまゐて
 10 まいるへく人はしらせつありけるさふらひにおりあしくまいり侍にけれと

14才

1 中々うれしくおもふ事すこしなくさめてなんかくさふらふよしきこえよ
 2 いたうぬれにたるかこともきこえさせむとのたまへはまいりて聞ゆ
 3 かく見えやしぬらんとはおほしもよらて打とけたりつる事ともを
 4 きゝやしぬらむといひみしくはつかしあやしうかうはしくはしくにほふ
 5 風の吹つるを思かけぬ程なれはおとろかさりける心をそさよと心
 6 もまとひてはちおはさうす御せうそなとつたふる人もいと
 7 うぬくしき人なめるをおりからにこそよろつの事とおほいてまた
 8 霧なれはありつるみすのまへにあゆみ出てつゐ給山里ひたる
 9 わか人ともはさしいらへんことの葉もおほえて御しとねさし出る
 10 さまもたとくしけ也此みすのまへにははしたなく侍けりうち

14ウ

1 つけにあさき心はかりにてはかくもたつねまいるましき山のかけちに
 2 おもふ給ふるをさまことにてこそかく露けきたひをかさねてはざり
 3 とも御らんししるらんとしたのもしう侍といとまめやかにのたまう

4 わかき人々のなたらかに物聞ゆへきもなくきえかへりかゝやかしけ
 5 なるもかたはらいなければをんなはらのおくふかきをおこし出るほと
 6 ひさしくなりてわざとめいたるもくるしうて何事も思しらぬありさま
 7 にてしりかほにもいかゝは聞ゆへくといとよしありあてなるこゑして
 8 ひきいりなからほのかにのたまふかつしりなからうきをしらすかほなる
 9 も世のさかとおもふ給へしるを一ところしもあまりおほめかせ給ふらんこそ
 10 うちおしかるへけれありかたうよろづを思すましたる御すまぬなどに

15才

1 たくひきこえさせ給御心のうちはなに事もすゝしくをしはかられ侍れ
 2 はなをかくしのひあまり侍ふかさあさゝの程もわかせたまはんこそは
 3 侍らめよのつねのすきくしきすちにはおほしめしはなつへくやさやう
 4 のかたはわざとすゝむる人侍りともなひくへうもあらぬ心つよさに
 5 なんをのつからきこしめしあはするやうも侍なんつれくとのみすくし
 6 侍世の物語もきこえさせとこにたのみきこえさせ又世はな
 7 れてななめさせ給ふらん御心のまきはしにもおとろかさせ給はかりき
 8 こえなれ侍れはいかに思ふさまに侍らんなどおほくのたまへは
 9 つゝましくいらへにくゝておこしつる老人の出くるにそゆつり給たとし
 10 へなくさしすくしてあなかたしけなやかたはらいたきおましのさま

15ウ

1 にも侍かなみすのうちにこそわかき人々は物の程しらぬやうに
 2 侍こそなとしたゝかにいふこゑのさたすきたるもかたはらいたく
 3 君たちはおほすいともあやしく世中にすまぬ給人の数にもあらぬ
 4 御ありさまにてさもありぬへき人々たにとふらひかすまへきこえ給も
 5 見えきこえすのみなりまさり侍めるにありかたき御心さしの
 6 程は数にも侍らぬ心にもあさましきまで思給へきこえ
 7 させ侍をわかき御こゝ地にもおほししりなからきこえさせ
 8 給にくきにや侍らんといとつゝみなく物なれたるもなま
 9 にくき物からけはひいたう人めきてよしあるこゑなれはいとた
 10 つきもしらぬこゝちしつるにうれしき御けはひにこそ何事も

16才

1 けに思しり給けるたのみこよなかりけりとてよりぬ給へる
 2 をきちやうのそはよりみれは明ほののやうく物の色わかるゝ
 3 にけにやつし給へると見ゆるかりきぬすかたのいとぬれしめり
 4 たる程うたて此世のほかのにほひにやとあやしきまでかほりみち
 5 たり此老人は打なきぬさしすきたるつみもやと思ふ給へしのれと
 6 あはれなるむかしの御物語のいかならんついでに打出きこえさせかたはし
 7 をもほのめかししろしめさせむと年ころねんすのついでにも打ませ
 8 思給へわたるしにやうれしきおりに侍をまたきにおほゝれはへる
 9 涙に暮てえこそきこえさせ侍けれと打わななくけしき
 10 まことにいみしく物かなしとおもへり大かたさたすきたる人は涙

16ウ

1 もろなる物とは見聞給へといとかうしもおもへるもあやしうなり
 2 給てこゝにかくまいる事はたひかさなりぬるをかくあはれしり

3 給へる人もなくてこそ露けきみちの程にひとりのみそほちつ
 4 れうれしきついでなめるをことなのこい給そかしとのたまへは
 5 かゝるついてしも侍らしかし又侍りとも夜のまの程しらぬいのち
 6 をたのむへきにも侍らぬをさらはたゝかゝるふる物世に侍
 7 けりとはかりしろしめされ侍らなん三条の宮に侍し小侍従ははかな
 8 くなり侍にけるとほの聞侍しそのかみむつまじうおもふ給へしおなし
 9 程の人おほくうせ給にける世のすゑにはるかなるせかいよりつたはり
 10 まうてきて此五とせ六とせの程なん是にかくさふらひ侍しろし

17才

1 めさしかし此ころ藤大納言と申なる御このかみの右衛門のかみにて
 2 かくれ給にしは物のついてなとにやかの御うへとてきこしめしつたはる
 3 事も侍らんすき給ていくはくもへたゝらぬこゝ地のみし侍そのおり
 4 のかなしさも袖のかはくおり侍らすおもふ給へらるゝをてをおりてかそへ
 5 侍れはかくおとなしくならせ給にける御よはひの程も夢のやうになんか
 6 のこ権大納言の御めのとに侍しは弁かはゝになん侍し朝夕につかうまつり
 7 なれ侍しに人数にも侍らぬ身なれと人にしらせす御心よりはたあまり
 8 ける事をおりゝ打かすめのたまひしをいまはかきりになり給にし御やま
 9 ひのすゑつかたにめしよせていさゝかのたまひをく事なん侍しをきこし
 10 めすへきゆへなん一こと侍れとかはかりきこえ出侍に残りをとおほしめす

17ウ

1 御心侍らはのとかになんきこしめしはて侍へきわかき人々もかたはら
 2 いたくさしすきたりとつきしろひ侍めるもことほりになんとてさすかに
 3 打出すなりぬあやしく夢かたりかんなきやうの物のとはすかたりすらん
 4 やうにめつらかにおほさるれとあはれにおほつかなくおほしわたる事
 5 のすちを聞ゆれはいとおくゆかしけれとけに人めもしけしきしくみに
 6 ふる物語にかゝつらひて夜をあかしはてんもこちゝしかるへけれとそこ
 7 はかと思わく事はなき物からいにしへの事と聞侍も物あはれに
 8 なんさらはかならず此残りきかせ給へ霧はれゆかははしたなかる
 9 へきやつれをおもなく御らんしとかめられぬへきさまなれはおもふ
 10 給ふる心の程よりはくちおしうなんとて立給ふにかのおはします寺

18才

1 の鐘のこゑかすかにきこえて霧いとふかく立わたり峰のやへ雲
 2 おもひやるへたておほくあはれなるになを此ひめ君たちの御心のうち
 3 とも心くるしう何事をおほし残すらんかくいとおくまり給へるもことはり
 4 そかしとおほゆ

5 朝ほらけ家路も見えずたつねこしまきのを山は

6 霧こめてけり心ほそくも侍かなと立かへりやすらひ給へるさまを都
 7 人のめなれたるたになをいことに思きこえたるをまいていかゝは
 8 めつらしう見さらむ御返きこえつたへにてけに思たれはれいの
 9 いとつゝましけにて

10 雲のある峰のかけちを秋きりのいとゝへたつる

18ウ

1 ころにもあるかなすこし打ない給へるけしきあさからすあはれ也

2 なにはかりおかしきふしはえぬあたりなれとけに心くるしき事おほかる
 3 にもあかうなりゆけはさすかにひたおもてなるこゝ地して中々なる程に
 4 うけたまはりさしつる事おほかる残りはいますこしおもなれてこそは
 5 恨きこえさすへかめれさるはかく世の人めひてもてなし給へりてはおもはすに
 6 物おほしわかさりけりとうらめしうなんとてとのぬ人かしつらひたる西おもて
 7 におはしてななめ給あしろは人さはかしけ也されとひをもよらぬにやあ
 8 らむすさましけなるけしきなりと御ともの人々はしりていふあやしき
 9 舟ともに柴かりつみをのくゝなにとなき世のいとなみともにゆきかふさま
 10 とものはかなき水のうへにうかひたる誰もおもへはおなし事なるよのつねわ

19才

1 さ也我はうかはす玉のうてなにしつけき身と思ふへき世かはと思つゝけらる
 2 すゝりめしてあなたにきこえたまう
 3 はしひめのこゝろをくみてたかせさすさほのしづくに
 4 袖ぞぬれぬるななめ給ふらんかしとてとのぬ人にもたせ給へりさむけに
 5 いさゝきたるかほしてもてまいる御返かみのかなとおほるならんははつ
 6 かしけなるをときをこそはかゝるおりはとて

さしかへる宇治の川をさあさゆふのしつくや袖を

8 くだしはつらん身さへうきてといとおかしけにかき給へりまほにめやすく
 9 物し給けりと心とまりぬれと御くるまゐてまいりぬと人々さはかし
 10 聞ゆれはとのぬ人ばかりをめしよせてかへりわたらせたまはんほとに

19ウ

1 かならずまいるへしなどのたまふぬれたる御そともはみな此人にぬき
 2 かけ給てとりにつかはしつる御なをしにたてまつりかへつ老人の物語心に
 3 かゝりておほし出らる思しよりはこよなくまさりておほとかにおかしかり
 4 つる御けはひともおもかけにそひてなを思はなれかたき世なりけりと
 5 心よはく思しらる御文たてまつり給けさうたちでもあらすしろき
 6 色紙のあつこえたるに筆はひきつくるひえりてすみつき見
 7 ところありてかき給打つけなるさまにやとあひなくとゝめ侍て残り
 8 おほかるもくるしきわさになんかたはしきこえをきつるやうにいま
 9 よりはみすのまへも心やすくおほしゆるすへくなん御山こもりはて
 10 侍らん日かすもうけたまはりをきていふせかりし霧のまよひも

20才

1 はるけ侍らんとそいとすくよにかき給へるうこんのそうなる
 2 人御つかひにてかの老人たつねて文もとらせよとのたまうとのぬ人か
 3 さむけにてさまよひしなどあはれにおほしやりておほきなるひわ
 4 りこやうの物あまたせさせ給又の曰かの御寺にもたてまつり給
 5 山こもりのそうとも此ころの嵐にはいと心ほそくるしからんをさて
 6 おはします程のふせ給ふへからんとおほしやりてきぬわたなどおほかり
 7 けり御をこなひはてゝ出給あしたなりければをこなひ人ともにわた
 8 きぬけさころもなとすへて一くたりの程つゝあるかきり大とこたち
 9 に給とのぬ人かのぬきすてのえんにいみしきかりの御そともえ
 10 ならぬしろきあやの御そのなよくゝといひしらすにほへるをうつしきて

20ウ

1 身をはたえかへぬ物なればつかはしからぬ袖の香を人ことにとかめ
 2 られめてらるゝなん中々ところせかりける心にまかせて身をやすくも
 3 ふるまはれすいとむくつけきまで人のおとろくにほひをうしなひて
 4 はやとおもへところせき人の御うつり香にてえもすゝきはてぬそあ
 5 まりなるや君はひめ君の御返ことをいとめやすくこめかしきをおかしく見給
 6 宮にもかく御せうそこありなと人々きこえさせ御らんせさすれはなにかは
 7 けさうたちでもてないたまはんも中々うたてあらんれいのわかき人に
 8 にぬ心はへなめるをならん後もなとこと打ほのめかしてしかはさやうにて心そと
 9 めたらんなどのたまひけり御みつからもさまゝの御とふらひの山の岩屋にある
 10 まりし事などのたまへるにまうてんとおほして三の宮のかやうにおくまり

21才

1 たらんあたりの見まさりせんこそおかしかるへけれとあらましことにたにの
 2 たまふ物をきこえはけまして御心さはかしたてまつらんとおほして
 3 のとやかなる夕暮にまいり給へりれいのさまゝなる御物語きこえかはし
 4 給ついてにうちの宮の事かたり出て見し暁のありさまなとくはしくき
 5 こえ給に宮いとせちにおかしとおほいたりされはよと御けしきを見て
 6 いとゝ御心うききぬへくいひつゝけ給さてそのありけむ返ことはなとか見
 7 せたまはさりしまるならましかはと恨給さかしいとさまゝ御らんすへかめる
 8 はしをたにみせたまはぬかのわたりはかくいともむもれたる身にひきこめて
 9 やむへきけはひにも侍らねはかならず御らんせさせはやと思給へれと
 10 いかてかたつねよらせ給ふへきかやすき程こそすかまほしくはいとよくすき

21ウ

1 ぬへき世に侍けれ打かくるへつゝおほかめるかなさるかたに見ところありぬ
 2 へき女の物おもはしき打しのひたるすみかも山里めひたるくまなとにをの
 3 つから侍かめり此きこえさするわたりはいとよつかぬひしりさまにてちちゝしう
 4 そあらんと年ころ思あなつり侍てみゝをたにこそとゝめ侍らざりけれほのか
 5 なりし月影のみをとりせすはまほならんはやけはひありさまはたさはかり
 6 ならんをそあらまほしき程とおほえ侍へきなときこえ給はてゝはまめたちて
 7 いとねたくおほろけの人のかくふかくおもへるををろかならしとゆかしうおほす事
 8 かきりなくなりたまひぬなを又々よくけしき見給へと人をすゝめ給てかきりある
 9 御身の程のよたけさをいとほしきまで心もとなしとおほしたれはおかしくていてや
 10 よしなくそ侍しはし世中に心とゝめしとおもふ給ふるやうある身にてなをざり

22才

1 こともつゝまじう侍を心なからかなはぬ心つきそめなはおほきに思ふにたかふ
 2 へき事になん侍へきときこえ給へはいてあなことゝしきひしりとは見はて
 3 てしかなとてわらひ給心のうちにはかのふる人のほのめかしゝすち
 4 などのいとゝ打おとろかされて物あはれなるにおかしとみる
 5 こともめやすしときくあたりもなにはかり心にもとまらざり
 6 けり十月になりて五六日の程に宇治へまうて給あしるをこそ
 7 此ころは御らんせめと聞ゆる人々あれとなにかはそのひをむしに
 8 心にてあしるにもよらむとそきすて給てかろらかにあしる
 9 くるまにかとりのなをしさしぬきぬはせてことさらひき
 10 給へり宮まちよろこひ給てところにつけたる御あるしなと

22ウ

- 1 おかしうしなし給暮ぬれはおほとなふりちかくてさきく見
- 2 さし給へる文どものふかきなどあさりもさうしおろして
- 3 義なといはせ給打もまどろます河風のいとあらましきに木葉の
- 4 ちりかふをと水のひききなどあはれもすきて物おそろしく心ほそぎ
- 5 ところのさま也明かたちかくなりぬらむと思ふ程にありししのめ思ひ
- 6 出られてことのねのあはれなる事のついてつくり出てさきのたひ
- 7 霧にまとはされ侍し明ほのいとめつらしき物のね一こゑうけ
- 8 たまはりし残りなん中々にいといふかしうあかす思給へらるゝ
- 9 なときこえ給色をも香をも思つてゝし後むかし聞し事も
- 10 みなわすれてなどのたまへと人めしてことゝりよせていときなく

23オ

- 1 なりにたりやしるへする物のねにつけてなん思ひ出らるへかりける
- 2 とてひわめしてまらうとにそゝのかし給とりてしらへ給さら
- 3 ほのかに聞侍しおなし物とも思ふ給へられさりける御ことのひき
- 4 からにやとこそ思給へしかとて心とけてもかきたてたまはす
- 5 いてあなさかなやしか御みゝとまるはかりのてなどはいつくよりか
- 6 こゝまではつたはりこんあるましき御事也とてきんかきならし給へる
- 7 いとあはれに心すこしかたへは峰の松風もてはやすなるへしいと
- 8 たとくしけにおほめき給て心はへあるて一はかりにてやめ給つこの
- 9 わたりにおほえなくておりくほのめくさうのこのねこそ心えたる
- 10 にやときくおり侍れと心とめてなともあらてひさしうなりにけりや

23ウ

- 1 心にまかせてほのくかきならすへかめるは川浪よりや打
- 2 あはすらむるなう物のようにすはかりのはうしなともとまらしと
- 3 なんおほえ侍るとてかきならし給へとあなたにきこえ給へと
- 4 思よらさりしひとりことを聞給けむたにある物をいとかたはならんと
- 5 ひきいりつゝみな聞たまはすたひくそゝのかしきこえ給へととかくき
- 6 こえすさひてやみたまひぬめれはいとくちおしうおほゆそのついて
- 7 にもかくあやしうよかぬ思やりにてすくすありさまとの思のほかなる
- 8 ことなどはつかしうおほいたり人にたにいかてしらせしとはくゝみすくせ
- 9 とけふあすともしらぬ身の残りすくなさにさすかにゆくすゑとをき
- 10 人はおちあふれてさすらへんことは是に世をはなれんきはの

24オ

- 1 ほたしなりけれと打かたらひ給へは心くるしう見たてまつり
- 2 給わさとの御うしろ見たちはかくしきすちに侍らすとも
- 3 うとくしからすおほしめさむとなん思給ふるしはしもなか
- 4 らへ侍らんのちの程はひとこともかく打出きこえさせ
- 5 てんさまをたかへ侍るましくななんと申給へはいとうれ
- 6 しき事とおほしのたまふさて暁かたに宮の御をこ
- 7 なひしたまふほとにかの老人めし出てあひ給へりひめ君
- 8 の御うしろ見にてさふらはせ給弁の君とそいひける
- 9 としは六十にすこしたらぬ程なれとみやひかにゆへ

10 あるけはひして物なときこゆこ大納言の君のよとともに

24ウ

1 物をおもひつゝやまひつきはなくなり給にしありさまを
 2 きこえ出てなくことかきりなしけによその人のうへ
 3 ときかむたにあはれなるへきふる事ともをまして
 4 年ころおほつかなくゆかしういかなりけんことのはしめにかと
 5 ほとけにもこのことをさたかにしらせ給へとねんしつる
 6 するしにやかくゆめのやうにあはれなるむかしかりを
 7 おほえぬついでにきゝつけたらむとおほすになみたとゝめ
 8 かたかりけりさてもかくその世のこゝろしりたる人も残り
 9 給へりけるをめつらかにもはつかしうもおほゆることの
 10 すちになんなをかくいひつたふるたくひや又もあらんとし

25才

1 ころかけてもきゝをよはさりけるとのたまへはこししうと
 2 弁とはなちて又しる人侍らし一ことにても又こと人にうち
 3 まねひ侍らすかく物はかなくかすならぬ身の程に侍れと
 4 よるひるかのみかけにつきたてまつりて侍しかはをのつから
 5 物のけしきをも見たてまつりそめしに御こゝろよりあま
 6 りておほしけるとときくたゝふたりの中になんたまさかの
 7 御せうそのかよひも侍しかたはらいたければくはしくき
 8 こえさせすいまはのとちめになり給ていさゝかのたまひ
 9 をく事の侍しをかゝる身にはをきところなくいふせくおもひ給へ
 10 わたりつゝいかにしてかはきこしめしつたふへきとはかくしからぬ

25ウ

1 ねんすのついでにも思給へつるを仏はおはしましけりとなん思ひ
 2 給へしりぬる御らんせさすへき物も侍りいまはなにかはやきも
 3 すて侍なんかくあさゆふのきえをしらぬ身のうちすて侍
 4 なはおちゝるやもこそといとうしろめたく思給ふれと此宮
 5 わたりにもときくほのめかせ給をまち出たてまつりてしかは
 6 すこしたのもしくかゝるおりもやとねんし侍るちからいて
 7 まうてきてなんさらにこれはこのよのことにも侍らしと
 8 なくくこまかにむまれ給けるほどの事もよくおほえつゝ
 9 きこゆむなしうなり給しさはきにはゝに侍し人はやかて
 10 やまひつきてほともへすかくれ侍にしかはいとゝ思給へ

26才

1 しつみ藤ころもたちかさねかなしきことを思給し程にとし
 2 ころよからぬ人の心をつけたりけるか人をたばかりこちて西の
 3 海のはてまでとりもてまかりにしかは京のことをさへ跡たえて
 4 その人もかしこにてうせ侍にし後とゝせあまりにてなんあらぬ
 5 世のこゝ地してまかりのほりたりしを此宮はちゝかたにつけて
 6 わらはよりまいりかよふゆへ侍しかはいまはかう世にましらふへき
 7 さまにも侍らぬをれせい院の女御とのゝ御かたなどこそはむか
 8 し聞なれたてまつりしわたりにてまいりよるへく侍しかとはし

9 たなくおほえ侍てえさし出侍らてみ山かくれのくち木に
10 なりにて侍也こしうはいつかうせ侍にけんそのかみのわかさかり

26ウ

1 と見侍し人は数すくなくなり侍にけるすゑの世におほくの人に
2 をくるゝいのちをかなしく思給へてこそさすかにめくらひ侍れなど
3 聞ゆる程にれいの明はてぬよしさらは此むかし物かたりはつきす
4 へうなんあらぬ又人きかぬ心やすくところにてきこえむ侍従と
5 いひし人はほのかにおほゆるは五むつばかりなりし程にやにはかに
6 むねをやみてうせにきとなんきくかゝるたいめんなくはつみをもき
7 身にてすぎぬへかりける事などのたまふさゝやかにをしまき
8 あはせたるほくとものかひくさをふくろにぬひれたるとり
9 出てたてまつるおまへにてうしなはせ給へ我なをいくへくもあらずなり
10 にたりとのたまはせてこの御文をとりあつめてたまはせたりし

27才

1 かはこ侍従に又あひ見侍らんついでにさたかにつたへまいらせむと思
2 給へしをやかてわかれ侍にしもわたくしことにはあらずかなしうなん
3 おもふ給ふ侍と聞ゆつれなくて是はかくい給つ又思みたれ給御かゆ
4 こはいぬなどまいり給きのふはいとま曰なりしをけふは内の御
5 物いみもあきぬらん院の女一の宮なやみ給御とふらひにかならず
6 まいるへければかたゝいとまなく侍を又このころすくして山の紅葉
7 見ぬさきにまいるよきこえ給かくしはゝたちよらせ給ふ
8 ひかりに山のかけもすこし物あきらむるこゝちしてなん
9 なとよろこひきこえ給かへり給てまつ此ふくろを見給へは
10 からのふせんれうをぬひてうへといふ文字をうへにかきたり

27ウ

1 ほそきくみしてくちのかたをゆひたるにかの御名のふう
2 つきたりあくるもおそろしうおほえ給色々のかみにて
3 たまさかにかよひける御文の返こと五むつそあるさてはかの
4 御手にてやまひはおもくかきりになりたるに又ほのかにも
5 きこえん事かたくなりぬるをゆかしうおもふ事はそひにたる
6 御かたちもかはりておはしますらんかさまゝかなしき事をみち
7 のくにかみ五六まひにつふゝとあやしき鳥のあとのやう
8 にかきて

9 めのまへにこの世をそむききみよりもよそにわかるゝ
10 たまそかなしき又はしにめつらしくきゝ侍二葉のほとも

28才

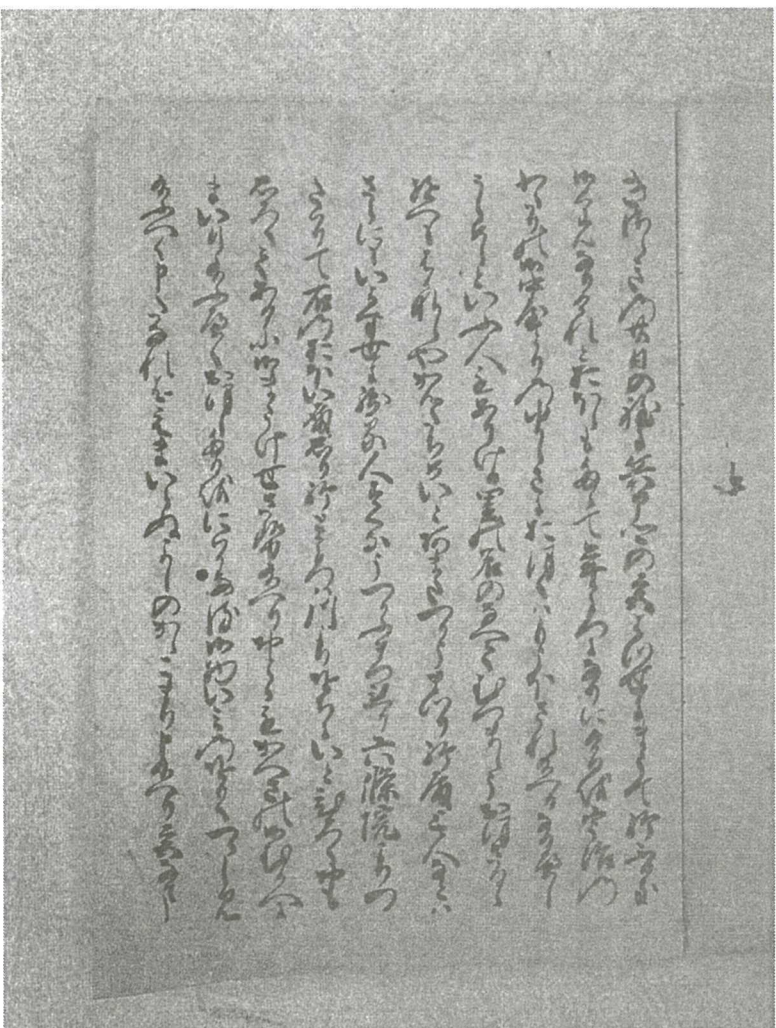
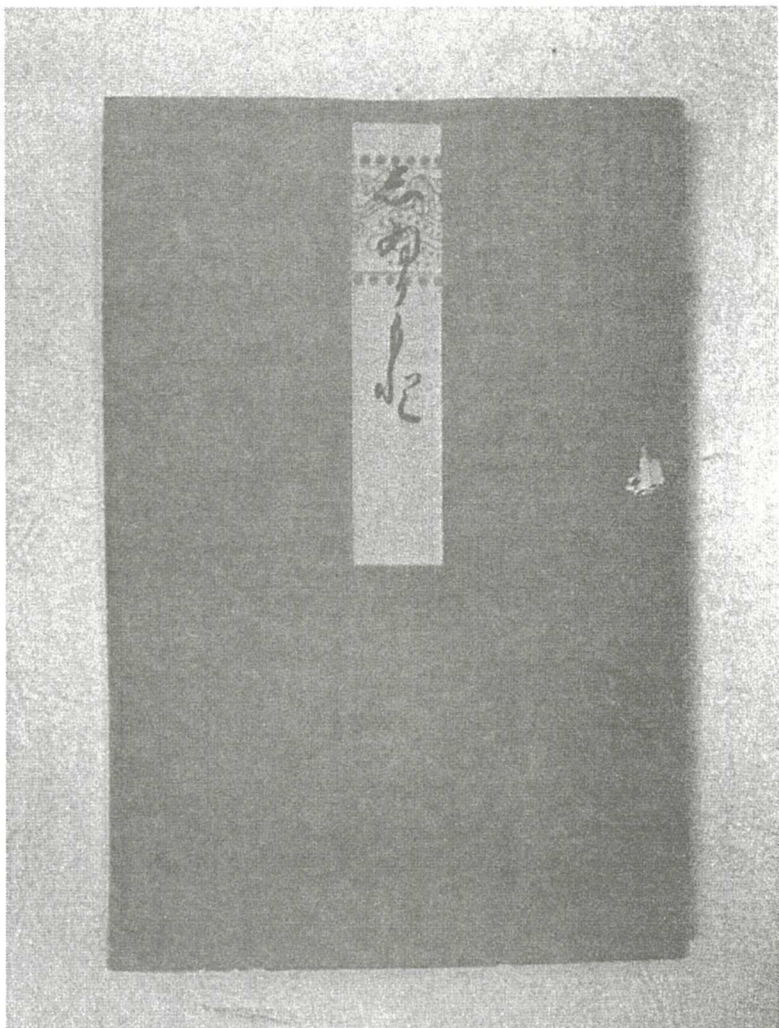
1 うしろめたうおもふ給ふるかたはなけれと
2 いのちあらはそれとも見まし人しれぬ岩ねにとめし
3 松のゆくすゑかきさしたるやうにいとみたりかはしくてしうの
4 君にとうへにはかきつけたりしみといふむしのすみかになりて
5 ふるめきたるかひくさなから跡はきえすたゝいまかき
6 たらむにもたかはぬことの葉とものこまゝとさたか
7 なるを見給にけにおちゝりたらましよとうしろ

- 8 めたういとおしき事ともなりかゝる事世に又あらむ
- 9 やとこゝろひとつにいとゝ物おもはしさそひてうちへ
- 10 まいらんとおほしつるもいてたゝれす宮のおまへに

287

- 1 まいりたまへれはいとなにこゝろもなくわかやか
- 2 なるさましたまひて経よみたまふをはちらひて
- 3 もてかくしたまへりなにかはしりにけりとも
- 4 しられたてまつらむなとこゝろにこめてよろ
- 5 つにおもひゐたまへり

椎本



1才

1 きさらきの廿日の程に兵部卿の宮はつせにまうて給ふるき
 2 御くわんなりけれとおほしもたゝて年ころになりけるを宇治の
 3 わたりの御中やとりのゆかしさにおほくはもよほされ給へるなるへし
 4 うらめしといふ人もありける里の名のなへてむつまじうおほさるゝ
 5 ゆへもはかなしやかんたちめいとあまたつかうまつり給殿上人などは
 6 さらにいはず世に残る人すくなうつかふまつれり六条院よりつ
 7 たはりて右のおほい殿しり給ところは川よりをちにいとひろくおも
 8 しろくてあるに御まうけさせ給へりおとゝもかへさの御むかへに
 9 まいり給ふへくおほしたるをにはかなる御物いみのをもくつゝしみ
 10 給ふへく申たなれはえまいらぬよしのかしこまりし給へり宮なま

1ウ

1 すさましとおほしたるに宰相の中将けふの御むかへにまいりあひ
 2 給へるに中々心やすくてかのわたりのけしきもつたへよらむと御心
 3 ゆきぬおとゝをは打とけて見えにくゝことゝしき物に思きこえ給へり
 4 みこの君たち右大弁侍従の宰相権中将頭の少将くら人の
 5 兵衛のすけなとみなさふらひ給みかときさきも心に思きこえ
 6 給へる宮なれは太かたの御おほえもいとかりなくまいて六条院の御
 7 かたさまはつきゝの人もみなわたくしの君に心よせつかうまつり給ところ
 8 につけて御しつらひなとおかしうしなしてこすくろくたきのはんともなど
 9 とり出て心々にすさひくらし給つゝ宮はならひたまはぬ御ありきになや
 10 ましくおほされてこゝにやすらはんの御心もふかければ打やすみ給て

2才

1 夕つかたに御ことなとめしてあそひ給れいのかう世はなれたるところは
 2 水の音ももてはやして物のねすみまさるゝ地してかのひしりの宮に
 3 もたゝさしわたる程なれはをひ風に吹くるひゝきを聞給にむかしの
 4 ことおほし出られてふえをいとおかしくも吹とをしたるかなたれならん
 5 むかしの六条院の御笛のねきゝしはいとおかしけにあひきやうつきたる
 6 ねにこそ吹給しか是はすみのほりてことゝしき氣のそひたるはちしの
 7 おとゝの御そうのふえのねにこそにたるなれなとひとりこちおはす
 8 あはれにひさしくなりけりやかやうのあそひなどもせてあるにも
 9 あらてすくしきにける年月のさすかにおほくかそへらるゝこそかひ
 10 なけれなどのたまうついてにもひめ君たちの御ありさまあたらしく

2ウ

1 かゝる山ふところにひきこめてはやますもかなとおほしつゝけらるは
 2 宰相の君のおなしうはちかきゆかりにて見まほしけなるをさしも
 3 思ゆるましかめりまいていまやうの心あさからん人をはいかてかお
 4 ほしみたれつれゝとなかめ給ところは春の夜もいとあかしかたきを心
 5 やり給へる旅ねのやとりはゑいのまきれにいととう明ぬるゝ地して
 6 あかすかへらんことを宮はおほすはるゝと霞わたれは空にちる桜
 7 あれはいまひらけそむるなと色々見わたさるゝに川そひの柳の
 8 おきふしなひく水かけなとをろかならすおかしきを見ならひたま
 9 はぬ人はいとめつらしく見すてかたしとおほさる宰相はかゝるたよ

10 りをすくさすかの宮にまうてはやとおほせとあまたの人め

3才

1 をよきてひとりこき出たまはんふたわたりの程もかろらかに

2 やと思やすらひ給程にかれより御ふみあり

3 山かせにかすみふきとくこ氣はあれとへたてゝ見ゆる

4 をちのしら浪さうにいとおかしうかき給へり宮おほすあたりと

5 見給へはいとおかしくおほいて此御返は我せむとて

6 をちこちのみきは浪はへたつともなを吹かよへ

7 宇治の川風中将はまうて給あそひに心いれたるきんたちさそ

8 ひてさしやり給程かんすいらくあそひて水にのそきたるらうに

9 つくりおろしたるはしの心はへなとさるかたにいとおかしうゆへある宮

10 なれは人々心して舟よりおり給こゝは又さまことに山里ひたるあしろ

3ウ

1 屏風などのことさらにこそきて見ところある御しつらひをさる心して

2 かきはらひいといたうしなし給へりいにしへなとになきひき物

3 とををわさとまうけたるやうにはあらてつきくひき出給て一こつてう

4 の心に桜人あそひ給あるしの宮の御きんをかゝるついでにと人々思給へ

5 れとさうのことをそ心にもいれすおりくかきあはせ給みゝなれぬけにやあ

6 らむいと物ふかくおもしろしとわかき人々思しみたりところにつけたるあるし

7 いとおかしうし給へりよそに思やりし程よりはなまそんわうめくいやし

8 からぬ人あまたおほきみ四位のふるめきたるなとかくひとめ見るへきおりと

9 かねていとおかしかりきこえけるにやさるへきかきりまいりあひてへ

10 いしとる人もきたなけならすさるかたにふるめきてよししくしう

4才

1 もてなし給へりまらうとたちは御むすめたちのすまぬ給ふらん

2 御ありさまおもひやりつゝ心つく人もあるへしかの宮はまいてかや

3 すき程ならぬ御身をさへところせくおほさるゝをかゝるおりにたにと

4 しのひかね給ておもしろき花のえたをおらせ給て御ともにさふらふ

5 うへわらはのおかしきしてたてまつり給

6 山さくらにほふあたりになつねきておなしかさしをおりてけるかな＃

7 野をむつましみとやありけん御返はいかてかはなときこえにくうおほし

8 わつらふかゝるおりのことわざとかましくもてなし程のふるも中々にくきことに

9 なんし侍しなとふる人とも聞ゆれば中の君にかゝせたてまつり給ふ

10 かさしおる花のたよりに山かつのかきねをすきぬはるのたひ人＃

4ウ

1 野をわきてしもいとおかしけにらうくしくかき給へりけに川かせも心わかぬさま

2 に吹かよふも物のねとおもしろくあそひ給御むかへに藤大納言おほせことにて

3 まいり給へり人々あまたまいりつとひ物さはかしくてきほひ給へり給わかき人々は

4 あかすかへり見のみなんせられける宮は又さるへきついでしてとおほす花さ

5 かりにてよもの霞もなかめやる程の見ところあるにからのもやまとの

6 もきかぬ物さはかしく思ふまゝにもえいひよらすなりにしをあかす宮はお

7 ほしてしるへなくても御文はつねにありけり宮もなをきこえ給へわさとけさう

8 たちでもてなし中々心ときめきにもなりぬへいとしき給へるみこ

9 なれはかゝる人なんと聞給かなをもあらぬさひなめりとそゝのかし給時々
10 中の君そきこえ給ひめ君はかうやうのことたはふれにももてはなれ

5才

1 給へる御心ふかさ也いつとなく心ほそき御ありさまに春のつれくはいとくくら
2 しかたくなかめ給ねひまさり給御さまかたちともいよくあらまほしくおかしきも
3 中々心くるしうかたほにもおはせましかはあたらしくおしきかたの思はうす
4 くやあらましなと明暮おほしみたるあね君二十五中の君廿三にそなり給ける
5 宮はをもくつゝしみ給ふへき年なりけり物心ほそくおほして御をこなひつね
6 よりもたゆみなくし給世に心とゝめたまはねは出たちいそきをのみおほすは
7 すゝしきみちにもおもむき給ぬへきをたゝ此御事ともいとおしくかきり
8 なき御心つよさなれとかならずいまはと見すてたまはん御心はみたれなんと
9 見たてまつる人もをしはかり聞ゆるをおほすさまにはあらすともなめのめに
10 さても人きゝくちおしかるまじう見ゆるされぬへききは人のま心に

5ウ

1 うしろ見きこえんなど思より聞ゆるあらはしらすかほにてゆるしてん
2 一ところ世にすみつき給よすかあらはそれを見ゆつるかたになく
3 さめをくへきをさまでふかき心にたつね聞ゆる人もなしまれくは
4 はかなきたよりにすきこときこえなとする人はまたわかしくしき人の
5 心のすさみに物まうての中やとりゆきゝの程のなをさりことにけし
6 きはみかけてさすかにかくななめ給ありさまなとをしはかりあなつら
7 はしけにもてなすはめさまじうてなけのいらへをたにせさせたまはず
8 三の宮そなを見てはやましとおほす御心ふかりけるさるへきにや
9 おはしけん宰相の中将その秋中納言になりたまひぬいとゝにほひ
10 まさり給世のいとなみにそへてもおほす事おほかりいかなる事といふ

6才

1 せく思わたりし年ころよりも心くるしうてすき給にけんいにしへさま
2 のおもひやらるゝにつみかろくなり給はかりをこなひもせまほしくなんかの
3 老人をはあはれなる物に思をきていちしるきさまならすとかくまきはし
4 つゝ心よせとふらひ給うちにまうてゝひさしうなりにけるを思ひ出てまいり
5 給へり七月はかりになりにけり都にはまた入たゝぬ秋のけしきををとほの
6 山ちかく風の音もいとひやゝかにまきの山辺もわつかに色づきてなをた
7 つねきたるおかしうめつらしうおほゆるを宮はまいてれいよりも待よろこひ
8 きこえ給て此たひは心ほそけなる物語いとおほく申給なからむ後此君
9 たちをさるへき物のたよりにもとふらひ思すてぬ物にかすまへ給へなと
10 おもむけつゝきこえ給へは一ことにてもうけたまはりをきてしかはさ

6ウ

1 らに思給へをこたるましくなん世中に心をとゝめしとはふ
2 き侍身にてなに事もたのもしけなきおひさきのすくなさに
3 なんはへれとさるかたにてもめくらい侍らんかきりはかはらぬこゝ
4 ろさしを御らんししらせむとなん思給ふるなどきこえ給へはうれ
5 しとおほいたり夜ふかき月のあきらかにさし出て山の端
6 ちかきこゝ地するにねんすいとあはれにし給てむかし物語し給
7 此ころの世はいかゝなりにたらむくちうなにてかやうなる秋の月に

8 御まへの御あそひのおりにさふらひあひたるなかに物の上手とおほしき
9 かきりとく／＼に打あはせたるひやうしなとことく／＼しきよりもよしありと
10 おほえある女御更衣のみつほね／＼のをのかし／＼はいとましく思ふ

7才

1 うはへのなさけをかはすへかめるに夜ふかき程の人のけしめりぬるに
2 心やましくかいしらへほのかにほころひ出たる物のねなとき／＼ところ
3 あるかおほかりしかな何事にも女はもてあそひのつまにしつへく物はか
4 なき物から人の心をうごかすくさはひになんあるへきされはつみのふかき
5 にやあらん此みちのやみをおもひやるにもをのこはいとしもおやの心
6 をみたさすやあらん女はかきりありていふかひなきかたに思すつへき
7 にもなをいと心くるしかるへきなと大かたのことにつけてのたまへるいか／＼さ
8 おほさ／＼らむと心くるしく思やらるゝ御心のうち也すへてみつからのこと
9 にてはいかにもく／＼ふかう思るかたの侍らぬをけにはかなき事なれとこゑに
10 めつる心こそそむきかたきことに侍れさかしうひしりたつかせそもされ

7ウ

1 はやたちてまひ侍けんなときこえてあかす一こゑき／＼し御ことのねを
2 せちにゆかしかり給へはうとく／＼しからぬはしめにもとやおほすらむ御みつから
3 あなたにわたり給てせちにそゝのかしきこえ給さうのことをそいと
4 ほのかにかきならしてやみ給ぬるいとゝ人のけはひもたえてあはれ
5 なる空のけしきところのさまにわざとなき御あそひの心にいりておかしう
6 おほゆれと打とけてもいかてかはひきあはせたまはんをのつからかはかりなら
7 しそめつる残りはよこもなるとちにゆつりきこえてんとて宮は仏の御
8 まへにいらたまひぬ

我なくて草のいほりはあれぬともこのひとことは

10 かれしと思ふかゝるたいめんも此たひやかきりならむと物心ほそきに

8才

1 しのひかねてかたくなしきひか事おほくもなりにけるかなとて打なき給まらうと
2 いかならむ世にかかれせんなきよのちきりむすへる
3 草のいほりはすまゐなとおほやけ事ともまきれ侍ころすきて候はんなど
4 きこえ給こなたにてかのはすかたりのふる人めし出て残りおほかる物語なとせ
5 させ給人かたの月はくまなくさしいりてすきかけなまめかしきに君たちもおく
6 まりておほすよのつねのけさうひてはあらす心ふかう物語のとやかにきこえ
7 つゝ物し給へはさるへき御いらへなときこえ給三の宮いとゆかしうおほいたる物をと
8 心のうちには思ひ出つゝ我心ながらなを人にはことなりかしさはかり御心もてゆるい給ことの
9 さしもいそかれぬよもてはなれてはたあるましき事とはさすかにおほえすかやう
10 にて物をもきこえかはしおりふしの花紅葉につけてあはれをもなさけをもかはすに

8ウ

1 にくからす物し給あたりなれはすくせことにてほかさまにもなりたまはんはさすか
2 にくちおしかるへうおほしたるこゝちしけりまた夜ふかき程にかへりたまひぬ心ほ
3 そく残りなけにおほいたりし御けしきを思ひ出きこえ給つゝさはかしき程すくし
4 てまうてんとおほす兵部卿の宮もこの秋の程に紅葉見におはしまさんとさる
5 へきついてをおほしめくらす御文はたえすたてまつり給女はまめやかにおほすらん
6 とも思たまはねはわつらはしくもあらてはかなきさまにもてなしつゝおり／＼にきこ

7 え給秋ふくなりゆくまゝに宮はいみしう物心ほそくおほえ給ければいいのしつか
8 なるところにてねんふつをもまきれなうせむとおほしてつゐにわかれをのかれぬ
9 わさなめれと思なくさむかたありてこそかなしさをもさます物なめれ又見ゆつる
10 人もなく心ほそけなる御ありさまとを打すてゝむかいみしき事されとも

9才

1 さばかりのことにさまたけられてなき世のやみにさへまとはんかやくなさ
2 をかつ見たてまつる程たに思つる世をさりなんうしろのことしるへき事
3 にはあらねと我身一にあらす過給にし御おもてふせにかろくしき心とも
4 つかひ給なおほろけのよすかならて人のことも打なひき此山さとをあく
5 かれ給なたゝかう人にたかひたる契りことなる身とおほしなしてこゝに
6 世をつくしてんと思とり給へひたふるに思ひしなせはことにもあらすすき
7 ぬる年月なりけりまして女はさるかたにたへこもりていちしるくいとおい
8 けなるよそのもときおはさらむなんよかるへきなどのたまうともかくとも
9 身のならんやうまではおほしもなかせれたゝいかにしてかをくれたてま
10 つりては世にかた時もなからふへきとおほすにかく心ほそきさまの御あら

9ウ

1 まし事にいふかたなき御心まとひとになん心のうちにこそ思すて給へらめ
2 と明暮御かたはらにならはい給てにはかにわかれたまはんはつらき御
3 心ならねとけにうらめしかるへき御ありさまになんありけるあすいりた
4 まはんとての日はいいならすこなたかなたゝすみありき給て
5 見給いと物はなくなりかきそめのやとりにてすくい給けるすまゐのあり
6 さまをなからん後いかにしてかはわかき人のたへこもりてはすくいたまはん
7 と涙くみつゝねんすし給さまいときよけ也おとなひたる人々めし出てうし
8 ろやすくつかうまつれ何事ももとよりかやすく世にきこえあるましき
9 きはの人はすゑのおとろへもつねの事にてまきれぬへかめりかゝるきはに
10 なりぬれば人はなにとおもはさらめとくちおうてさすらへん契り

10才

1 かたしけなくいとおしき事なんおほかるへき物さひしく心ほそき世をふるは
2 れいの事也むまれたる家の程をきてのまゝにもてなしたらんきゝ
3 みゝにも我こゝ地にもあやまちなくおほゆへきにきはゝしく
4 人数めかんとおもふともその心にもかなふましきよとならはゆめく
5 かるくしくよからぬかたにもてなしきこゆななどのたまふまた曉に
6 出給とてもこなたにわたり給てなからむ程心ほそくなおほしわひそ
7 心ばかりはやりてあそひなとはし給へ何ことも思ふにもかなふましき
8 世をなほほしいれそなどかへり見かちにで出たまひぬ二ところいとゝ
9 心ほそく物おもひつゝけられておきふし打かたらひつゝひとりく
10 なからましかはいかてあかしくらさましいまゆくすゑもさためなき

10ウ

1 世にてもしわかるゝやうもあらはなとなくさみわらひみたはふれこと
2 もまめこともおなし心になくさめかはらてすくし給かのをこなひ給
3 三昧けふはてぬらんといつしかと待きこえ給夕暮に人まいりて
4 けさよりなやましようてなんえまいらぬかせかととかくつくろふと
5 物する程になんさるはいいよりもたいめん心もとなきをときこえ給へり

6 むねつふれていかなるにかとおほしなけき御そともわたあつくていそき。
 7 せさせ給てたてまつれなとし給二三日はおもたまはすいかにく人と人
 8 たてまつり給へとことにおとろくしくはあらずそこはかとなくくるしく
 9 なんすこしもよろしくならはいまねんしてなどこと葉にてきこえ
 10 給あさりつとさふらひてつかうまつりけめはかなき御なやみとみゆれと

11才

1 かきりのたひにもおはしますらん君たちの御事なにかおほしなけくへき
 2 人はみな御すくせといふ物ことくなれは御心にもかゝるへきにもおほし
 3 まさすといよくおほしはなるへき事をきこえしらせつゝいまさらにな
 4 出給そといさめ申なりけり八月廿日の程なりけり大かたの空のけ
 5 しきもいとゝしきころ君たちはあさゆふ霧のはるゝまもなくおほし
 6 なけきつゝなかも給あり明の月のいと花やかにさし出て水のおもてもさやか
 7 にすみたるをそなたのしとみあけさせて見いたし給へるにかねの
 8 こゑかすかにひゝきてあけぬなりと聞ゆる程に人々きてこの
 9 夜なかばかりになんうせ給ぬるとなくく申すと心にかけていかにとは
 10 たえずおもひきこえ給へれと打きゝ給にはあさましく物おほえぬ

11ウ

1 こゝちしていとゝかゝる事には涙もいつちかいにけんたゝうつふしく
 2 給へりいみしき事もみるめのまへにておほつかならぬこそつねの
 3 ことなれおほつかなさそひておほしなけく事ことはり也しはしにても
 4 をくれたてまつりて世にあるへき物とおほしならはぬ御こゝちとも
 5 にていかてかはをくれしとなきしつみ給へとかきりあるみち
 6 なりければなにのかひなしあさり年ころ契りをき給けるまゝに
 7 後の御事もよろつにつかうまつるなき人になり給へらむ御さま
 8 かたちをたにいま一たび見たてまつらんとおほしのたまとへと
 9 いまさらになてうさることか侍へき日ころも又あひ見給まし
 10 きことをきこえしらせつればいまはましてかたみに御心とゝめ

12才

1 給ましき御心つかひをならひ給ふへきなりとのみ聞ゆおはしましける
 2 御ありさまを聞給にもあさりのあまりさかしきひしり心をにくゝ
 3 つらしとなんおほしける入道の御ほいはむかしよりふかくおはせし
 4 かとかう見ゆつる人なき御事ともの見すてかたきをいけるかきり
 5 はあけくれえさらず見たてまつるをよに心ほそきよのなくさめ
 6 にもおほしはなれかたくてすくい給へるをかきりあるみちには
 7 さきたち給もしたひ給御心もかなはぬわさなり中納言殿には
 8 きゝ給ていとあへなくくちおしくいま一たび心のとかにてきこゆ
 9 へかりける事おほう残りたるこゝちして大かたの世のありさま
 10 思ひつゝけられていみしうない給又あひ見る事かたくやなどのた

12ウ

1 まいしをなをつねの御心にもあさゆふのへたてしらぬ世のはか
 2 なさを人よりけにおもひ給へりしかはみゝなれてきのふけふと
 3 おもはさりけるを返々あかすかなしくおほさるあさりのもと
 4 にもきんたちの御とふらひもこまやかにきこえ給かゝる御とふらひ

5 など又をとつれ聞ゆる人たになき御ありさまなるは物おほえぬ
 6 御こゝちともに年ころの御心はへのあはれなめりしなとも思ひしり
 7 給よのつねの程のわかれたにさしあたりては又たくひなきやう
 8 にのみみな人の思まとふ物なめるをなくさむかたなけなる御身とも
 9 にていかやうなるこゝちともし給ふらんとおほしやりつゝのちの御わさ
 10 などあるへき事ともをしはかりてあさりにもとふらひ給こゝにも老人

13才

1 ともにことよせて御す経などのこともおもひやりきこえたま
 2 うあけぬ夜のこゝ地ながら九月にもなりぬ野山の氣しまし
 3 て袖の時雨をもよほしかちにともすれはあらそひおつる木の葉の
 4 をとも水のひゝきもなみたのたきもひとつ物のやうに
 5 くれまとひてかうてはいかてかかきりあらん御いのちもしはし
 6 めくらひたまはんとさふらふ人々は心ほそくいみしくなくさめきこえ
 7 つゝ思まとふこゝにもねんふつのそうさふらひておはしましゝかた
 8 は仏をかたみに見たてまつりつゝときゝまいりつかうまつりし
 9 人々の御いみにとまりたるかきりはあはれにをこなひてすす
 10 兵部卿の宮よりもたひゝとふらひきこえ給さやうの御かへり

13ウ

1 なときこえんこゝ地もしたまはすおほつかなければ中納言にはかうも
 2 あらさなるを我をはなを思はなち給へるなめりとうらめしくお
 3 ほす紅葉のさかりに文なとつくらせたまはんとて出たち
 4 給しをかく此わたりの御せうえうひなきころなれはおほ
 5 しとまりてくちおしくなん御いみもはてぬかきりあれば涙も
 6 ひまもやとおほしやりていとおほくかきつゝけ給へる時雨
 7 かちなるゆふつかた

8 をしかなく秋の山さといかならむこはきか露のかゝる夕暮#

9 たゝいまの空のけしきをおほししらぬかほならんもあまり心
 10 つきなくこそあるへけれかれゆく野へもわきてなめらるゝころに

14才

1 なんなどあるけにいとあまり思しらぬやうにてたひゝになり
 2 ぬるをなをきこえ給へなと中の君をもれいのそゝのかして
 3 かゝせたてまつり給けふまでなからへてすゝりなとちかくひき
 4 よせて見るへき物とやは思ひし心うくもすきにける日かすかな
 5 とおほすに又かきくもり物見えぬこゝちし給へはをしやりて
 6 なをえこそかき侍ましかれやうゝかうおきゐられなし侍る
 7 けにかきりありけるにこそとおほゆるもうとましう心うくてと
 8 らうたけなるさまになきしほれておはするもいと心くるし
 9 夕くれの程よりきける御つかひよぬすこしすきてそ来たる
 10 いかてかへりまいらんこよひは旅ねしてといはせ給へとたちかへり

14ウ

1 こそまいりなめといそけはいとおしうて我さかしう思しつめ給ふ
 2 にはあらねと見わつらひ給て
 3 なみたのみ霧ふたかれる山さとはまかきにしかそもろこゑになく#

4 くるきかみによるのすみつきもとくしければひきつくるう
 5 とくもなく筆にまかせてをしつゝみていたし給つ御つかひはこは
 6 たの山の程も雨もよにいとおそろしけなれとさやうの物おちす
 7 ましきをやえり出給けむむつかしけなるさゝのくまを駒ひきとゝむる
 8 程もなく打はやめてかた時にまいりつきぬ御まへにめしていたくぬれて
 9 まいりたれはろく給さきく御らんせしにはあらぬ手のいますこしおと
 10 なひまさりてよしつきたるかさまなをいつれかいけれならんと打も

15才

1 をかす御らんしつゝとみにもおほとこのこもらねはまつとておきおはしまし
 2 又御らんする程のひさしきはいかはかり御心にしむ事ならんと御まへなる人々
 3 さゝめききこえてにくみ聞ゆねふたければなめりまたあさきり
 4 ふかきあしたにいそきおきてたてまつり給

5 朝きりにともまとはせる鹿のねをおほかたにやは

6 あはれともきくもろこゑはをとるましようこそとあれとあまりなさけ
 7 たゝむもうるさし一ところの御影にかくろへたるをたのみところ
 8 にてこそ何事も心やすくてすくしつれ心よりほかになからへておもはず
 9 なる事のまぎれつゆにてもあらはうしろめたけにのみおほしをく
 10 めりしなき御ためにさへきすやつけたてまつらんなへていとつゝましよう

15ウ

1 おそろしうてきこえたまはす此宮などをはかるらかにをしなへて
 2 のさまにも思きこえたまはすなけのはしりかい給へる筆つかひ
 3 ことの葉もおかしきさまになまめき給へる御けはひをあまたは見
 4 しりたまはねと是こそはめてたきなめれと見給なからそのゆへく
 5 しくなさけあるかたにことをませきこえんもつきなき身のありさま
 6 なれはなにかたゝかゝる山ふしたちてすくしてんとおほす中納言
 7 殿の御返はかりはかれよりもまめやかなるさまにきこえ給へは是より
 8 もいとけうとけにはあらすきこえかよひ給御いみはてゝみつから
 9 まうて給へりひんかしのひさしのくたりたるかたにやつれておほ
 10 するにちかうたちより給てふる人めし出たりやみにまとひた

16才

1 まへる御あたりにいとまはゆくにはひみちていりおはしたれは
 2 かたはらいたうて御いらへなとをたにえしたまはねはかやうには
 3 もてないたまはてむかしの御心むけにしたかひきこえたまはん
 4 さまならんこそきこえうけたまはるかひあるへけれなよひ氣しき
 5 はみたるふるまひをならひ侍らねは人つてにきこえ侍らはことの
 6 葉もつゝき侍らすとあれはあさましういまゝてなからへはへるやう
 7 なれとおもひなくさむかたなきゆめにまとはれ侍てなん心より
 8 ほかに空のひかり見侍らむもつゝましようてはしちかうもえ
 9 みしろき侍らぬときこえ給ふへければことゝいへはかきりなき
 10 御こゝろのふかさになん月日の影は御心もてはれくしくもて

16ウ

1 出させたまはゝこそつみも侍らめゆくかたもなくいふせうおほ
 2 え侍り又おほさるはんはしくをもあきらめきこえまほしくなん

3 と申給へはけにこそいとたくひなけなめる御ありさまをなく
 4 さめきこえ給御心はへのあさからぬ程など人々きこえしら
 5 す御こゝちにもさこそいへやうく心しつまりてよろづ思しられ
 6 給へはむかしさまにてもかうまてはるけき野辺をわけ入給へる心
 7 さしなとも思しり給へしすこしあさりより給へりおほすらむ
 8 さまたのたまふ契りし事なといとこまやかになつかしういひて
 9 うたてをおしき気はひなとは見えたまはぬ人なれば氣うとく
 10 すゝろはしくなとはあらねとしらぬ人にかくこゑきかせたてまつり

17才

1 すゝろにたのみかほなることなともありける日ころを思つゝくるも
 2 さすかにくるしうてつゝましかれとほのかに一ことなといらへきこえ給
 3 さまのけによろづ思ほれ給へるけはひなれはいとあはれと聞たてま
 4 つり給くろききちやうのすきかけのいと心くるしけなるにまして
 5 おはすらんさまほの見し明暮などもおもひいてられて
 6 色かはるあさちを見てすみそめにやつるゝそてを
 7 おもひこそやれとひとりことのやうにのたまへは
 8 色かはる袖をは露のやとりにて我身そさらに
 9 をきところなきはつるゝいととはとすゑはいひちていといみしくしの
 10 ひかたきけはひにていりたまひぬなりひきとゝめなとすへき程にも

17ウ

1 あらねはあかすあはれにおほゆ老人そこよなき御かはりに出きてむか
 2 しいまをかきあつめかなしき御物語とも聞ゆるありかたくあさましき
 3 事ともをも見たる人なりければかうあやしくおとろへたる人
 4 ともおほしすてられすいとなつかしうかたらひ給いはけなかりし
 5 程にこ院にをくれたてまつりていみしうかなしき物は世なりけりと
 6 思しりにしかは人となりゆくよはひにそへてつかさくらぬ世中の
 7 にほひもなにもおほえすなんだゝかうしつやかなる御すまひなどの
 8 心にかなひ給へりしをかくはかなく見なしたてまつりなしつるにいよく
 9 いみしくかりそめの世の思しらるゝ心ももよほされにたれと心くる
 10 しうてとまり給へる御事とものほたしなときこえむはかけくしき

18才

1 やうなれとなからへてもかの御事あやまたすぎこえうけたまらはらま
 2 まほしさになんさるはおほえなき御ふる物語きゝしよりいとゝ世中に跡とめん
 3 ともおほえすなりにたりやと打なけきつゝのたまへは此人はましていみしく
 4 なきてえもきこえやらす御けはひなどのたゝそれかとおほえ給に年ころ
 5 打わすれたりつるいにしへの御事をさへとりかさねてきこえやらんかたも
 6 なくおほえれぬたり此人はかの大納言のめのとこにてちゝは此ひめ君たち
 7 のはゝ北のかたのをち左中弁にてうせにけるか子なりけり年ころとをき国
 8 にあくかれはゝ君もうせ給て後かの殿にはうとくなり此宮にはたつねとり
 9 てあらせ給なりけり人もいとやむことなからす宮つかへなれにたれとゝ地なか
 10 らぬ物に宮もおほしてひめ君たちの御うしろみたつ人になし給へる

18ウ

1 なりけりむかしの御事は年ころかくあさゆふに見たてまつりなれ心へたゝる

2 くまなく思きこゆる君たちにも一こと打出きこゆるついでなくしの
 3 かこめたりけれと中納言の君はふる人のとはすかたりみなれいのこと
 4 なれはをしなへてあはくしうなどはいひひろけすともいとはつかし
 5 けなめる御心ともに聞聞き給へらむかしとをしはからるゝかねたく
 6 もいとおしくもおほゆるにそ又もてはなれてはやましと思よらるゝ
 7 つまにもなりぬへきいまは旅ねもそゝろなるこゝちしてかへり給に
 8 もこれやかきりのなどのたまひしをなとかさしもやはと打たのみて
 9 又見たてまつらすなりにけん秋やはかはれるあまたの日かすもへた
 10 てぬ程におはしにけんかたもしらすあへなきわざなりやことにれいの

19才

1 人めいたる御しつらひなくいとこそき給めりしかといと物きよけに
 2 かきはらひあたりおかしくもてない給へりし御すまゐもたいとこたちいて
 3 いりこなたかなたひきへたてつゝ御ねんすのくともなとそかはらぬさま
 4 なれとほとけはみなかの寺にうつしたてまつりてんとすと聞ゆるを聞
 5 給にもかゝるさまの人かけなとさへたえはてん程とまりて思給ふらん御こゝ地
 6 ともをくみきこえ給もいとむねいたうおほしつゝけらるいたくくれ
 7 侍りぬと申せはなかめさしてたち給に雁なきてわたる

8 秋きりのはれぬ雲ゐにいとゝしくこの世をかりと

9 いひしらすらむ兵部卿の宮にたいめんし給時はまつ此君たちの御事
 10 をあつかひ草にし給いまはさりととも心やすきをとおほして宮はねむ

19ウ

1 ころにきこえ給けりはかなき御返もきこえにくゝつゝましきかたに
 2 女かたはおほいたりよにいたうすき給へる御名のひろこりてこのま
 3 しくえんにおほさるへかめるもかういとうつもれたるむくらのしたよりさし
 4 出たらむてつきもいかにうぬくしくふるめきたらむなと思くんし給へり
 5 さてもあさましようてあけくらさるは月日なりけりかくたのみかたかりけ
 6 る御世をきのふけふとはおもはてたゝ大かたさためなきはかなさはかりを
 7 明くれの事にきゝ見しかと我も人もをくれさきたつ程しもやはへんなど
 8 打おもひけるよきしかたを思つゝくるもなにのたのもしけなる世にもあら
 9 さりければたゝいつとなくのとかになかめすくし物おそろしくゝましき
 10 こともなくてへつる物を風の音もあらゝかにれい見ぬ人かけも打つれ

20才

1 こはつくれはまつむねつふれて物おそろしくわひしうおほゆる事
 2 さへそひにたるかいみしうたへかたき事と二ところ打かたらひつゝほすよな
 3 くてすくし給に年も暮にけり雪あられふりしくころはいつくもかく
 4 こそはある風の音なれといまはしめて思いらむ山すみのこゝ地し
 5 給をんなはらなどあはれとしはかはりなんとす心ほそくかなしきことをあら
 6 たまるへき春まち出てしかたと心をつたすいふもありかたき事かなと
 7 きゝ給むかひの山にも時々御ねんふつにこもり給しゆへこそ人も
 8 まいりかよひしかあさりもいかゝと大かたにまれにをとつれ聞ゆれといまは
 9 なにしにかはほのめきまいらんとゝ人めのたえはつるもさるへき事と思ひ
 10 なからかなしくなんなにとも見さりし山かつもおはしまさて後玉さかに

20ウ

1 さしのそきまいるはめつらしくおもほえ給此ころの事とてたきゝこのみ
 2 ひろひてまいる山人ともありあさりのむろより炭なとやう物たて
 3 まつるとて年ころにならひ侍にける宮つかへのいまはとてたえ侍らんか
 4 心ほそさになんときこえたりかならず冬こもる山かせふせきつ
 5 へきわたきぬなとつかはしゝをおほし出てやり給法師はらわらは
 6 へなとののほりゆくも見えみ見えすみいと雪ふかきをなくゝたち出て
 7 見をくり給御くしなとおろい給ふてけるさるかたにておはしまさまし
 8 かはかやうにかよひまいる人もをのつからしけからましかにあらはれに
 9 心ほそくともあひ見たてまつる事たえてやまましやはなとかたら
 10 ひたまう

21才

1 君なくて岩のかけみちたえしより松の雪をも
 2 なにとかは見る中の宮
 3 おく山の松葉につもる雪とたにきえにし人を
 4 おもはましかはうらやましくそ又もふりそふや中納言のきみ
 5 あたらしき年はふとしもえとふらひきこえさらんとおほして
 6 おはしたり雪もいととこそきよき人たに見えすなりに
 7 たるをなのめならぬけはひしてかららかに物し給へる心はへのあさふは
 8 あらす思しられ給へはれいよりは見いれておましなとひきつくろは
 9 せ給すみそめならぬ御ひをけものゝおくなるとり出てちりかき
 10 はらひなとするにつけても宮の待よろこひ給し御けしきなどを

21ウ

1 人々もきこえいつたいめし給事をはつゝましくのみおほいたれと
 2 思くまなきやうに人の思給へれはいかゝせんときこえ給うちとく
 3 とはなけれとさきゝよりはすこしことの葉つゝけて物などのたまへる
 4 さまいとめやすく心はつかしけ也かやうにてのみはえすくしはつましと
 5 おもひなり給もいと打つけなる心かななをうつりぬへき世なりけりと
 6 思ひぬたまへり宮のいとあやしくうらみ給ことの侍かなあはれなりし
 7 御一ことをうけたまはりをきしまなとことのついでにもやもらしき
 8 こえたりけんまたいとくまなき御心のさかにてをしはかり給にや侍らむ
 9 こゝになんともかくもきこえさせなすへきとたのむをつれなき御けしき
 10 なるはもてそこなひ聞ゆるそとたひゝえんし給へは心よりほかなる事と

22才

1 里のしるへいとこよなうもえあらかひきこえぬをなにかはいとさしも
 2 もてなしきこえ給ふらんすい給へるさまに人はきこえなすへかめれと心の
 3 そこあやしうふかうおはする宮也なをさり事などのたまふわたりの
 4 心かるうてなひきやすなるなとをめつらしからぬ物に思おとし
 5 給にやとなんきくことも侍るなに事にもあるにしたかひて心を
 6 たつるかたもなくおとけたる人こそたゝ世のもてなしにしたかひて
 7 とあるもかゝるもなのめに見なしすこしこゝろにたかふふしある
 8 にもいかゝはせむさるへきそなとも思なすへかめれは中々心ななき
 9 ためしになるやうもありくつれそめてはたつたの川のにこる名
 10 をもけかしいふかひなく名残なきやうなることなともみなうち

22ウ

1 ましるめれこゝろ物ふかくしみ給ふへかめる御こゝろさまにかなひ
 2 ことにそむく事おほくなど物したまはさらむをはさらにかろく
 3 しくはしめをはりたかうやうなる事など見せ給ふましきけし
 4 きになん人のみたてまつりしめぬことをいとう見きこえたるを
 5 もしにつかはしくさもやとおほしよらはそのもてなしなどはこゝろの
 6 かきりつくしてつかうまつりなんかし御なかみちの程みたりあしこそ
 7 いたからめとまめやかにていひつゝけ給へは我みつからの事とはおほしも
 8 かけす人のおやめきていらへんかしとおほしめくらし給へとなをいふ
 9 へきことの葉もなきこゝ地していかにとかはかけくしけにのたまひ
 10 つゝくるに中々きこえんこともおほえ侍らてと打わらひ給へるもお

23オ

1 いらかなる物から気はひおかしうきこゆかならず御みつからきこし
 2 めしおふへき事とおもふ給へすそれは雪をふみわけてまいり
 3 きたるこゝろさしはかりを御らんしわかん御このかみ心にてもすく
 4 させ給てよかしかの御こゝろよせは又ことにそ侍へかめるほのかに
 5 のたまふさまも侍めりしをいさやそれも人のわききこえかたき
 6 ことなり御返などはいつかたにかはきこえ給ふととひ申給にようそた
 7 はふれにもきこえさりけるなにとなけれとかうのたまふにもいかに
 8 はつかしうむねつふれましとおもふにえこたへやりたまはず
 9 雪ふかき山のかけはし君ならてまたふみかよふ
 10 跡を見ぬかなとかきてさし出給へれば御物あらかひこそ中々

23ウ

1 こゝろをかれはへりぬへけれとて
 2 つらゝとち駒ふみしたく山川をしるへしかてら
 3 まつやわたらむさらはしもかけさへ見ゆるしるしもあさふは侍らしと
 4 きこえ給へはおもはすものしうなりてことにいらへたまはず
 5 けさやかにいと物とをくすくみたるさまには見えたまはねとい
 6 まやうのわか人たちのやうにえんけにももてなさていとめや
 7 すくのとかかなる心はへならんとそをしはかられ給人の御気はひ
 8 なるかうこそあらまほしけれとおもふにたかはぬこゝちし給ふことに
 9 ふれて気しきはみよるもしらすかほなるさまにのみもてなし
 10 給へは心はつかしうてむかし物かたりなどをそ物まめやかにきこえ給ふ

24オ

1 暮はてなは雪いとゝ空もとちぬへう侍りと御ともの人々こは
 2 つくれはかへり給なんとて心くるしう見めくらさるゝ御すまゐの
 3 さまなりやたゝ山さとのやうにいとしかなるところの人も
 4 ゆきましらぬさま侍をさもおほしかけはいかにうれしくも侍らむ
 5 などのたまふもいとめてたかるへきことかなとかたみにきゝてうち
 6 糸む女房のあるを中の宮はいと見くるしういかにさやうには
 7 あるへきそと見きゝぬ給へり御くた物よしあるさまにてまいり
 8 御ともの人々にもさかななどめやすき程にてかはらけさし
 9 出させ給けりかの御うつりかもてさはかれしとのぬ人そ

10 かつらひけとかいふつらつき心つきなくてあるはかなの御たの

24ウ

1 もし人やと見給てめし出たりいかにそおはしまさてのち心
 2 ほそからんななととひ給打ひそみつゝ心よはけになく世中に
 3 たのむよるへも侍らぬ身にて一とこの御かけにかくれて三十
 4 よねんをすくし侍にければいまはまして野山にましり侍らん
 5 もいかなる木のもとをかたのむへく侍らむと申ていとゝ人
 6 わろけもおはしましゝかたあけさせ給へれはちりいたうつもりて
 7 仏のみそ花さかりおとろへすをこなひ給けりとみゆる御ゆかなと
 8 とりやりてかきはらひたりほいをもとけはと契りきこえしと思ひ出て
 9 立よらむかけとたのみししぬかもとむなしきとこと
 10 なりにける哉とてはしらによりぬ給へるをわかき人々はのそき

25オ

1 てめてたてまつる日暮ぬれはちかきところゝにみさうなとつかう
 2 まつる人々にみま草とりによりける君もしりたまはぬにぬ中ひたる
 3 人々おとろゝしくひきつれまいりたるをあやしうはしたなきわさ
 4 かなと御らんすれと老人にまきらはし給つ大かたかやうにつかうまつる
 5 へくおほせをきて出たまひぬ年かはりぬれは空のけしきうらゝ
 6 かなるみきはのこほりとけわたるをかうまでなからへけるもありかたく
 7 もとなかめ給ひしりのほうより雪きえにつみて侍なりとてさわの
 8 せりわらひなとたてまつりたりいもぬの御たいにまいれるところに
 9 つけてはかゝる草木のけしきにしたかひてゆきかふ月日のしるしも
 10 見ゆるこそおかしけれなと人々のいふをなにのおかしきならんときゝたまふ

25ウ

1 君かおるみねのわらひと見ましかはしられやせまし
 2 はるのしるしも
 3 雪ふかきみきはのこせりたかためにつみかはやさむ
 4 おやなしにしてなとはかなき事ともを打かたらひつゝあけくらし給中納言
 5 殿よりも宮よりもおりすくさすとふらひきこえ給うるさくなとなき
 6 ことおほかるやうなれはれいのかきもらしたるなめり花さかりのころ宮かさし
 7 をおほし出てそのおり見きゝ給し君たちなともいとゆへありしみこの御すまゐ
 8 を又も見すなりにし事など大かたのあはれをくちゝ聞ゆるにいとゆかしうおほ
 9 されけり
 10 つてに見しやとりの桜をこの春はかすみへたてす

26オ

1 おりてかさゝむと心をやりてのたまへりけりあるましき事かなと見給ながら
 2 いとつれゝなる程に見ところある御文のうはへはかりをもてけたしとて
 3 いつくとかたつねておらむすみそめに霞こめたる
 4 宿の桜をなをかくさはなちつれなき御氣しきのみ見ゆれはまことに
 5 心さしとおほしわたる御心にあまり給てはたゝ中納言をとさまかうさま
 6 にせめ恨きこえ給へはおかしと思なからいとうけはりたるうしろみかほに
 7 打いらへきこえてあためいたる御心さまを見あらはす時々はいかてかかゝらむ
 8 にはなと申給へは宮も心つかひし給へし心にかなふあたりをまた見つけぬ

9 程そやとのたまふおほい殿の六の君をおほしいれぬ事なまうらめしけに
10 おとゝもおほしたりけりされとゆかしけなきながらひなるうちにもおとゝの

26ウ

1 ことくしくわつらはしくてなに事のまきれをも見とかめられんかむつかしき
2 としたにはのたまひてすまぬ給その年三条の宮やけて入
3 道の宮も六条院にうつろひ給なにくれと物さはかしきにまき
4 れて宇治のわたりをひさしう音つれきこえたまはすまめやかなる
5 人の御心は又いことなりければいどのとかにをのか物とは打たのみながら女の
6 心ゆるいたまはさらんかきりはあされはみなさけなきさまに見えしと
7 思つゝむかしの御心わすれぬかたをふかく見しり給へとおほすその年つね
8 よりもあつさを人わふるに川つらすゝしからむはやと思ひ出てにはかに
9 まうて給へりあさすゝみの程に出給ければあやにくにさしくる日影もまは
10 ゆくて宮のおはせし西のひさしにとのぬ人めし出ておはすそなたのもや

27オ

1 の仏の御まへに君たち物し給けるをけちかからしとてわか御かたにわたり
2 給御けはひしのひたれとをのつから打みしろき給程ちかうきこえければなを
3 あらしにこなたにかよふさうしのはしのかたにかけかねしたるところにあなのす
4 こしあきたるを見をき給へりければとにたてたる屏風をひきやりて見給
5 こゝもとにきちやうをそへてたてたるあなくちおしと思ひてひきかへるおり
6 しも風のすたれをいたう吹あくへかめればあらはにもこそあれそのみき
7 ちやうをし出てこそといふ人あなりをこかましき物のうれしうて見給へは
8 たかきもみしかきもきちやうをふたまのすみにをしよせて此さうし
9 にむかひてあきたるさうしよりあなたにとをからんとなりけり
10 まつひとり立出てきちやうよりさしのそきて此御ともの人々のとかう

27ウ

1 ゆきちかひすゝみあへるを見給なりけりききにひ色のひとへにくわんさう
2 のはかまのものはやしたる中々さまかはりて花やかなりと見ゆるは
3 きなし給へる人からなめりおひはかなけにしながらすゝひきかくし
4 てもたまへりいとそひやかにやうたいおかしけなる人のかみうちきに
5 すこしたえぬ程ならむと見えてすゑまでちりのまよひなくつやぐ
6 とたちたううつくしけなりかたはらめなどあならうたけと見え
7 てにほひやかにやはらかにおほときたるけはひ女一の宮もかう
8 さまにそおもはすへきとほの見たてまつりしも思くらへられて
9 打なけかる又いさり出てかのさうしはあらはにもあれと見
10 をこそ給へるようぬ打とけたらぬさましてよしあらんとおほゆ

28オ

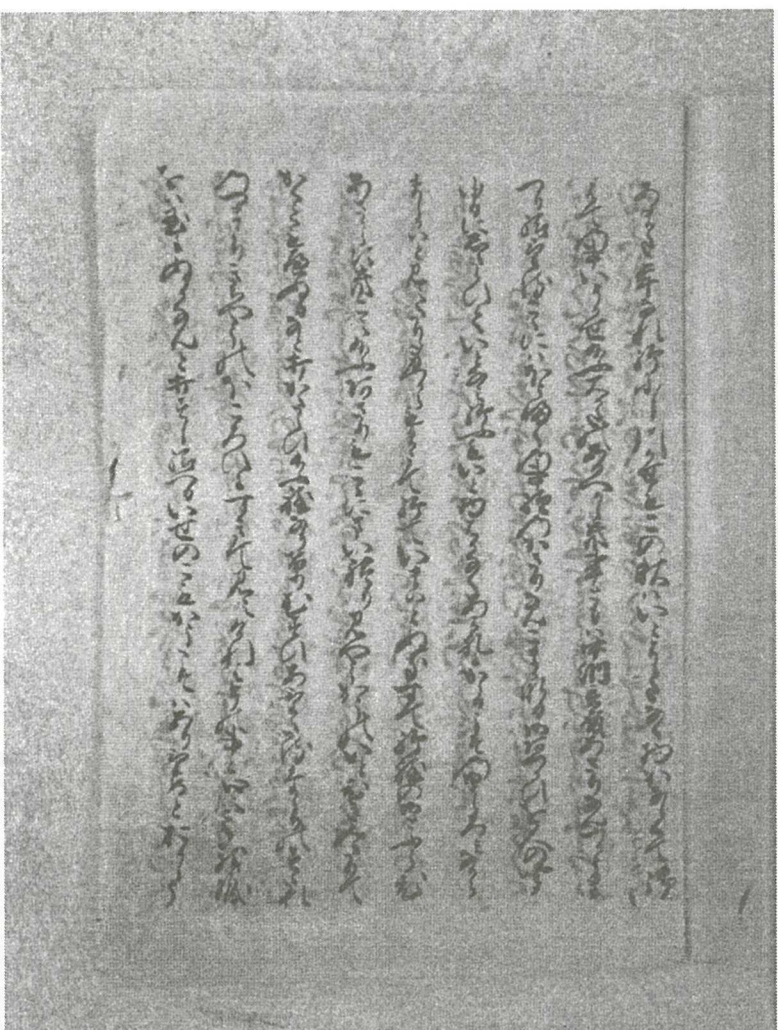
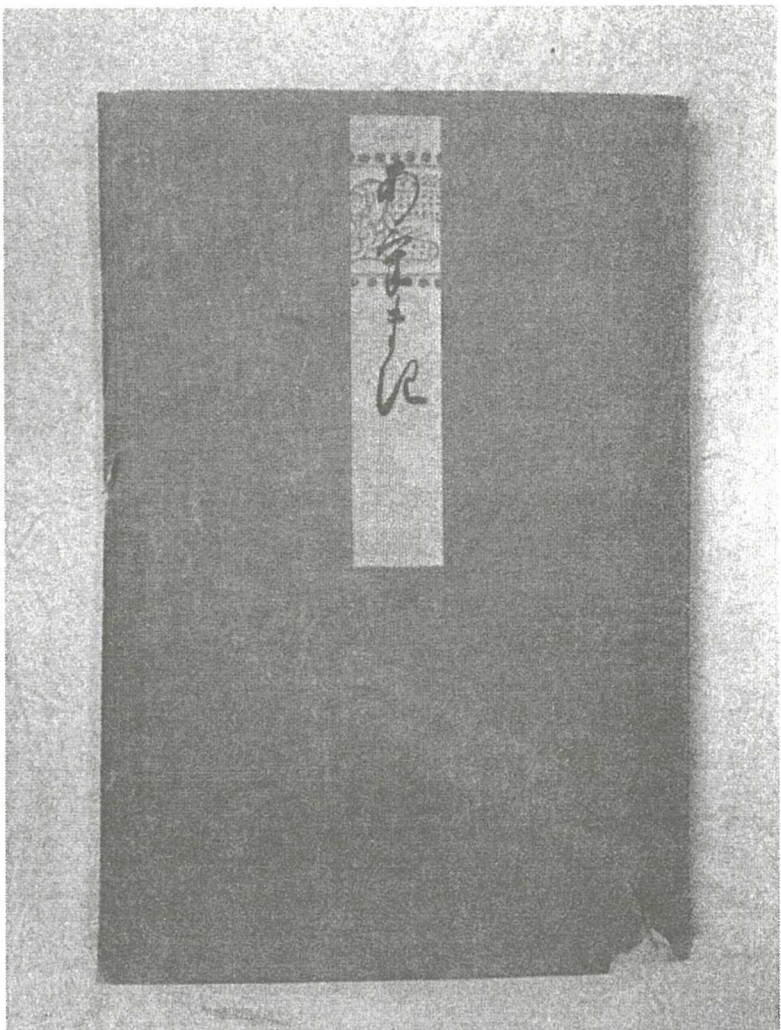
1 かしらつきかんさしの程いますこしあてになまめかしさまさり
2 たりあなたに屏風もそへてたて侍ついそきてしものそきた
3 まはしとわかき人々と心なくいふありいみしうもあるへきわざ
4 かなとてうしろめたけにいさりいり給程気たかう心にくきけは
5 いそひて見ゆくろきあはせ一かさねおなしやうなるいるあひを
6 き給へれとこれはなつかしうなまめきてあはれけにこゝろ
7 くるしうおほゆかみさはらかなるほどにおちたるなるへし

8 すゑすこしほそりていろなりとかいふめるひすいたちて
9 いとたかしけにいとをよりかけたるやうなりむらさきのかみ
10 にかきたる経をかたてにもち給へるてつきかれよりもほそ

287

1 さまさりてやせく／＼なるへしたちたりつる君もさうし
2 くちにゐてなに事にかあらむこなたを見をこせて
3 わらひたるいとあいきやうつきたり

総角



1才

- 1 あまた年なれ給にし川かせもこの秋はいとはしたなく物かなしくて御
- 2 はての事いそかせ給ふ大かたのあるへかしき事ともは中納言殿あさりなんつかうま
- 3 つり給けるこゝにはほうふくの事経のかさりなんこまかなる御あつかひを人の聞
- 4 ゆるにしたかひていとなみ給ふもいと物はかなくあはれにかゝるよその御うしろみながら
- 5 ましかはと見えたり身つからもまうて給ていまはとぬきすて給程の御とふらひ
- 6 あさからすきこえ給ふあさりもこゝにまいれりみやうかうのいとひきみたりて
- 7 かくてもへぬるなど打かたらひ給ふ程なりけりむすひあけたるたゝりのすたれ
- 8 のつまよりきちやうのほころひにすきて見えければその事と心えて我涙
- 9 をは玉にぬかなんと打すし給へるいせのこもかうこそはありけめとおかしう

1ウ

- 1 聞ゆるもうちの人はきゝしりかほにさしいらへたまはんもつゝましうて物とは
- 2 なしにとかつらゆきか此世なからのわかれをたに心ほそきすちにひきかけけんを
- 3 などけにふるこそ人の心をふるたよりなりけるを思ひ出給ふ御くわんもん
- 4 つくり経仏くやうせらるへき心はへなとかき出給へるすゝりのついでにまらうと
- 5 あけまきになかき契りをむすひこめおなしところに
- 6 よりもあへなとかきて見たてまつり給へはれいのとうるさければ
- 7 ぬきもあへすもろき涙のたまのをになかき契りを

2才

- 1 のたまひよらて宮の御事をそまめやかにきこえ給さしも御心に入ましき事を
- 2 かやうのかたにすこしすゝみ給へる御本上にてきこえそめ給けんまけし玉
- 3 しぬにやとさまかうさまにいとようなん御氣しきを見たてまつるまことに
- 4 うしろめたうはあるましけなるをなとかうあなちにしももてはなれ給ふらむ
- 5 世のありさまなどおほしにくましくは見たてまつらぬをうたてとをくしくのみにて
- 6 なさせ給へはかはかりうらなきたのみ聞ゆる心にたかひてうらめしくなんともかくもおほし
- 7 わくらんさまをさはやかにうけたまはりになかといとまめたちてきこえたまへは
- 8 たかへきこえしの心にてこそはかうまであやしき世のためしなるありさまにてへたて
- 9 なくもてなし侍れそれをおほしわかさるこそはあさい事もましりたるこゝちすれけに

2ウ

- 1 かゝるすまゐなとに心あらん人は思のこす事はあるましきを何事にもをくれそめ
- 2 にけるうちに此のたまうめるすちはいにしへもさらにかけてとあらはかくはなと行
- 3 すゑのあらまし事とりませてのたまひをく事もなかりしかはなをかゝるさまにて
- 4 よつきたるかたを思たゆへくおほしをきてけるとなん思あはせ侍れはとも
- 5 かうもきこえむかたなくてさるはすこし世こもりたる程にてふかき山かくれには
- 6 心くるしう見え給人の御うへをいとかく朽木にはなしはてすもかなと人しれす
- 7 あつかはしくおほえ侍れといかなるへき世にかあらんと打なけきて物おもひみたれ給
- 8 ける程のけはひいとあはれけ也けさやかにとおとなひてもいかてかはさかしかり
- 9 たまはんことはりにてれいのふる人めし出てそかたらひ給ふ年ころはたゝ後の

3才

- 1 世さまの心はへにてすゝみまいりそめしを物心ほそけにおほしなるめりし御すゑのころ
- 2 をひ此御事ともを心にまかせてもてなし聞ゆへくなんのたまひ契りてしをおほし

3 をきてたてまつり給し御ありさまともにはたかひて御心はへとものいと／＼あやにくに
 4 物つよけなるはいかにおほしをきつるかたの事なるにやとうたかはしき事さへそひてなん
 5 をのつから聞つたへ給やうもあらんいとあやしき本上にて世中に心をしむるかたな
 6 かりつるをさるへきにやかうまでもきこえなれにけんよ人もやう／＼いひなすやうあへ
 7 かめるにおなしうはむかしの御こともたかへきこえす我も人もよのつねに心とけてきこえ
 8 かよは／＼やと思よるはつきなかるへき事にてもさやうなるためしなくやはあるなどのたまひ
 9 つゝけて宮の御事をもかう聞ゆるにうしろめたうはあらしと打とけ給さまならぬは内々に

3ウ

1 さりともおもほしむけたる事のさまあらんなをいかに／＼と打なかめつゝのたまへはれいの
 2 わかひたる女房などはかゝる事はにくきさかしらもいひませて事よかりなとも
 3 すめるをいとさはあらす心のうちにはあらまほしかるへき御事ともとおもへともとより
 4 かく人にたかひ給へる御すくせともに侍れはにやいかにも／＼よのつねになにやかや
 5 など思より給へる御氣しきになん侍らぬかくてさふらふこれかれも年ころ
 6 たになにのたのもしけある木のもとのかくるへも侍らさりき身をすてかたく
 7 思ふかきりは程／＼につけてまかてちりむかしのふるきすちなる人もおほく見
 8 たてまつりすてたるあたりにましていまはししも立とまりかたけにわひ侍つゝ
 9 おはしましゝ世にこそかきりありてかたほならん御ありさまはいとおしくも

4才

1 などこたいなる御うるはしさもおほしもとゝこほりつれいまはかうまた
 2 たのみなき御身ともにていかにも／＼世になひき給へらんをあなかに
 3 そしりきこえむ人はかへりて物の心もしらすいふかひなき事にてこそは
 4 あらめいかなる人かいとかうて世をはすこしはて給ふへき松の葉をすきて
 5 つとむる山ふしたにいける身のすてかたさによりてこそ仏の御をしへをもみち／＼
 6 にわかれてをこなひなすなれなとやうのよからぬ事をきこえしらせわかき
 7 御心ともみたれ侍りぬへき事おほく侍るめれとたはむへくも物したまはす中
 8 の宮をなんいかて人目かしうもあつかひなしたてまつらんと思きこえ給へるめる
 9 かう山ふかうたつねきこえさせ給ふめる御心さしの年へて見たてまつりなれ

4ウ

1 給へるけはひもうとからす思きこえさせ給ふいまはとさまかうさまにこまかなる
 2 すちにきこえかよひ給ふめるにかの御かたをさやうにおもむけてきこえたまはしと
 3 なんおほすへかめる宮の御文など侍めるはさらにまめ／＼しき御事ならしと侍る
 4 めると聞ゆれあはれる御一ことを聞きたてまつりにしかは露のよにかゝつら
 5 はんかきりはきこえかよはんの心あれはいつかたも見えたてまつらんおなし事なるへき
 6 をさまてはたおほしよるなとうれしき事なれと心のひくかたなんかはかりと思すつる世に
 7 なをとまりぬへき物なりければあらためてさはえ思なすましくなんよのつねに
 8 なよひかなるすちにもあらすやたゝかやうに物へたてゝことのこいたるさまならす
 9 さしむかひてとにかくにさためなき世の物語をへたてなくきこえてつゝみ給ふ御心

5才

1 のくまのこらすもてなしたまはんむうれしかるへきはらかなとのさやうに
 2 むつましき程なるもなくていとさう／＼しくなん世中の思ふ事あはれにもおかしう
 3 もうれはしくも時につけたるありさまを心にこめてのみすへる身なればさすかにたつき
 4 なくおほゆるにうとかるましようたのみ聞ゆるきさいの宮はたなれ／＼しうさやう
 5 にそこはかとなき思のまゝなるく／＼しさをきこえふるへきにもあらす

6 三条の宮はおやとおもひ聞ゆへきにもあらぬ御わかしくしきなれとかきり
 7 あれはたやすくなれきこえさせすかしそのほかの女はすへていと
 8 うとくつゝましくおそろしくおほえて心からよるへなく心ほそき也なを
 9 さりのすさひまでもけさうたちたる事はいとまはゆくありつかす

5ウ

1 はしたなきこちくしさにてまいて心にしめたるかたの事は打出る事も
 2 かたくてうらめしうもいふせくも思きこゆるけしきをたに見えたてまつら
 3 んぬこそ我なからかきりなくかたくなしきわさなれ宮の御事をもさり
 4 ともしさまにはきこえしとまかてやは見たまはぬなといひぬ給へり老人はた
 5 かばかり心ほそきにあらまほしけなる御ありさまをいとせちにさもあらせたて
 6 まつらはやとおもへといつかたもはつかしけなる御ありさまともなれは思のまゝ
 7 にはえきこえすこよひはとまり給て物かたりなどのとやかにきこえ
 8 まほしうてやすらひくらし給つあさやかならす物うらみかちなる御けし
 9 きやうくわりなうなりゆくはわつらはしうて打とけてきこえたまはん

6オ

1 こともいよくくるしけれと大かたにてはありかたうあはれなる人の御心なれは
 2 こよなうももてなしかたうてたいめんし給ふ仏のおはするなかの戸をあけて
 3 みあかしの火けさやかにかけさせてすたれに屏風をそへてそおはする
 4 とにもおほとのおふらまいらすれとなやましうてむらゐなるをあらはになと
 5 いさめてかたはらふし給へり御くた物なとわざとなくしてまいらせ給へり
 6 御ともの人々にもゆへくしきさかななどとして出させ給へりうめいたるかたに
 7 あつまりて此御まへは人氣とをくもてなしてしめく物語きこえ給打とけ
 8 へうもあらぬ物からなつかしけにあひきやうつきて物のたまへるさまのなの
 9 めならす心に入て思入らるゝもはかなしかく程もなき物のへたてはかりを

6ウ

1 さはりところにておほつかなう思つゝすくす心をそさのあまりをこかま
 2 しうもあるかなと思つゝけらるれとつれなくて大かたの世中の事ともあはれにも
 3 おかしうもさまくきゝところおほくかたらひきこえ給ふうちには人々ちかうなど
 4 のたまひをきつれとさしももてはなれたまはさらんとおもふへかめれはいとしも
 5 まもりきこえすさししそきつゝみなよりふして仏の御ともし火もかゝくる人もなし
 6 物むつかしうてしのひて人めせとおとろかすこゝちのかきみたりなやましう侍を
 7 ためらひて暁かたにも又きこえむとて入給なんとする氣しき也山路わけ侍
 8 つる人はましていとくるしけれとかうきこえうけたまはるになくさめてこそはへれ
 9 打すてゝいらせ給なはいと心ほそからんとて屏風をやをらしあけて入たまひぬ

7オ

1 いとむくつけうてなからはかり入給へるにひきとゝめられていみしうねたう心うけ
 2 れはへたてなきとはかゝるをやいふらんめつらかなるわさかなとあはめ給へるさま
 3 のいよくおかしけれはへたてぬ心をさらにおほしわかぬはきこえしらせんとそかしめつら
 4 かなりともいかなるかたにおほしよるにかあらん仏の御まへにてちかこともたて侍らんうた
 5 てなをち給そ御心やふらしと思そめて侍れは人はかくしもをしはかり思ふましかれ
 6 と世にたかへるしれ物にてすくし侍るそやとて心にくき程なるほかけに御くしのこほ
 7 れかゝりたるをかきやりつゝ見給へは人のけはひおもふやうにかほりおかしけ也かう心
 8 ほそうあさましき御すみかにすいたらんさはりところあるましけなるをわれならて

9 たつねくる人もあらましかはさてややみなましいかにくちおしきわさなら

7ウ

1 ましときしかたの心のやすらひさへあやうくおほえ給へといふかひなくうしとおも
2 ひてなき給ふ御氣しきのいとおしければかくはあらてをのつから心ゆるひし給ふ
3 おりもありなんと思わたるわりなきやうなるも心くるしうてさまようこしらへ
4 きこえ給かゝる御心の程を思よらてあやしきまてきこえなれにたるをゆゝしき
5 袖の色など見あらはし給心あさゝにみつからのいふかひなさも思しらるゝにさまゝ
6 なくさむかたなくとうらみてなにもなくやつれ給へるすみそめのほかけいと
7 はしたなうわひしと思まといひ給へりいとかうしもおほさるゝやうこそははつ
8 かしきにきこえむかたなし袖の色をひきかけさせ給ふはしもことわり
9 なれと心御らんしなれぬる心さしのしるしにはさはかりのいみをくへくいまはし

8オ

1 めたる事めきてやはおほさるへき中々なる御わきまへ心になんとてかの物
2 のね聞し在明の月影よりはしめておりゝの思ふ心のしのひかたくなり行さまを
3 いとおほくきこえ給にはつかしうもありけるかなとうとましようかゝる心はへなか
4 らつれなくまめたち給けるかなときゝ給ふ事おほかり御かたはらなるみしかき
5 きちやうを仏の御かたにさしへたてゝかりそめにそひふし給へりみやうかうのいと
6 かうはしくにほひしきみのいと花やかにかはれるけはひも人よりはけに仏をも思ひ
7 きこえ給へる御心にてわつらはしうすみそめのいまさらにおりふし心いられけるさまに
8 あはゝしう思そめしにたかうへければかゝるいみながらん程に此御心にもさりとも
9 すこしたはみたまはんとせめてのとかに思なし給ふ秋の夜のけはひはかゝらぬ

8ウ

1 ところたにをのつからあはれおほかるをましてみねの嵐もまかきの虫も心ほそ
2 けにのみ聞わたるつねなき世の御物語に時々さしいらへ給へるさまいと見ところ
3 おほく目やすしいきたなかりつる人々はかうなりけりと氣しきとりてみないりぬ
4 宮のたまひしさまなどおほし出るにけになからへは心のほかにかくあるましき事も
5 見るへきわざにこそはと物のみかなしうて水の音になかれそふこゝちし給ふ
6 はかなく明かたになりにけり御ともの人々おきてこはつくり馬ともいはゆる音も
7 旅のやとりのありさまなど人のかたるおほしやられておかしうおほさるひかり見え
8 つるかたのさうしををし明給て空のあはれなるをもろともに見給ふ女もすこしいさり
9 出給へるに程もなき軒のちかさなれはしのふの露もやうゝひかり見えてゆく

9オ

1 かたみにいとえんなるさまかたちとをなにとはなくてたゝかやうに月をも花をも
2 おなし心にもてあそひはかなき世のありさまをもきこえあはせてなんすくさまほし
3 きといとなつかしきさましてかたらひきこえ給へはやうゝおそろしさもなくさみて
4 かういとはしたなからて物へたてゝなときこえはまことに心のへたてはさらにある
5 ましくなんといらへ給ふあかうなりゆきむら鳥の立さまよふ羽風ちかうきこゆ
6 夜ふかき朝の鐘のをとかすかにひゝくいまたにいと見くるしきをといてわりなう
7 はつかしけにおほしたりことありかほに朝露もえわけ侍るましまた人はいかゝをし
8 はかり聞ゆへきれいのやうになたらかにもてなさせてたゝよにたかひたる事にて
9 いまより後もたゝかやうにしなさせ給ふてよ世にうしろめたき心はあらしとおほせ

9ウ

1 かはかりあなかななる心の程もあはれとおほししらぬこそかひなけれ

2 とて出たまはんのけしきもなしあさまじうかたはならんとおほしていまより後は
 3 されはこそもてなしたまはんまゝにあらん今朝は又聞ゆるにしたかひ給へかしとて
 4 いとすへなしとおほしたればあなくなるしや暁の別はまたしらぬ事にてけにまとひ
 5 ぬへきをとなけきかち也庭鳥もいつかたにかあらんほのかに音なふに京思ひ出らる
 6 山さとのあはれしらるゝこゑゝにとりあつめたる

7 あさほらけかなをんな

8 鳥のねもきこえぬ山とおもひしを世のうき事は

9 たつねきにけりさうしくちまてをくりたてまつり給てよへ入にし戸くち

10才

1 より出てふし給へれとまどろまれす名こり恋しくていとかうおもはましかは月
 2 ころもいまゝて心のとかならましやなとかへらん事物うくおほえ給ふひめ君は
 3 人の思ふらむ事のつゝましきにとみにも打ふされたまはてたのもしき人なくて
 4 世をすすす身の心うきをある人ともゝよからぬ事なにやかやとつきゝにしたかひ
 5 つゝいひほめるに心よりほかの事ありぬへきよなんめりとおほしめくらすには此人
 6 の御けはひありさまのうとましくはあるましうこ宮もさやうなる心はへあらはどおり
 7 おりのたまひおほすめりしかとみつからはなをかくてすくてん我よりはさまかたち
 8 もさかりにあたらしけなる中の宮を人なみくゝに見なしたらんこそうれしからめ人のうへに
 9 なしては心のいたらむかきり思ひうしろみてんみつからのうへのもてなしはまたたれか

10ウ

1 見あつかはん此人の御さまのなめに打まきたる程ならはかく見なれぬる年ころ
 2 のしるしに打ゆるふ心もありぬへきをはつかしけに見えにくき氣しきも中々いみしう
 3 つゝましきに我世はかくてすくしはてんと思つゝけてねなきかちにあかし給へるに
 4 なこりいとなやましければ中の宮のふし給へるおくのかたにそひふし給ふれいならす
 5 人のさゝめきし氣しきもあやしと此宮はおほしつゝね給へるにかくておはしたれは
 6 うれしうて御そひきゝせたてまつり給にとこそせき御うつり香のまきるへうも
 7 あらすくゆりかほるこゝちすれはとのぬ人もてあつかひけん思あはせられてまこと
 8 なるへしといとおしうてねぬるやうにて物ものたまはすまらうとは弁の思ひ
 9 よひ出てこまかにかたらひをき御せうこそすくゝしうきこえをきて出

11才

1 たまひぬあけまきをたはふれにとりなしゝも心もてひろはかりの
 2 へたてにてもたいめんしつるとや此君もおほすらんといみしうはつかし
 3 ければこゝ地あしとてなやみくらし給ふつひとくゝ日はのこりなり侍りぬ
 4 はかくしうはかなき事をたに又つかうまつる人もなきにおりあしき御なやみ
 5 かなと聞ゆ中の宮くみなとしはて給てこゝろはなとえこそ思より侍ら
 6 ねとせめてきこえ給へはくらうなりぬるまきれにおき給てもろとも
 7 むすひなとし給ふ中納言殿より御文あれと今朝よりいとなやましうなん
 8 とて人つてにそきこえ給ふさも見るしうわかくしうおはすと人々つ
 9 ふやき聞ゆ御ふくなどはてゝぬきすて給へるにつけてもかたときも

11ウ

1 をくれたてまつらん物とおもはさりしをはかなくすきける月日の程を
 2 おほすにいみしう思のほかなる身のうさとなきしつみ給へる御さまともい
 3 と心くるしけ也月ころくろうならはし給へる御すかたうすにひにていと
 4 まめかしうてうつくしけなるにほひまさり給へる御くしなとすましつくる

5 はせて見たてまつり給によの物おもひわするゝこゝちしてめてたければ
 6 人しれす思ふさまにかよひて人に見えたまはんにさりとちかをとりにして
 7 はおもはすやあらんとたのもしうれしうていまは又見ゆつる人もなくて
 8 おや心にかしつきたてゝ見きこえ給ふかの人はつゝみきこえ給し藤
 9 衣もあらため給つらん長月もしつ心なくてまたおはしたりれいのやうに

12才

1 きこえむとまた御せうそこあるに心あやまりしてわつらはしうおほゆれは
 2 とかうきこえすさひてたいめんしたまはす思のほかに心うき御心かな人も
 3 いかにも思ふらんと御文にてきこえ給へりいまはとてぬきすて侍し程のこゝろ
 4 まどひに中々しつみ侍てなんえきこえぬとありうらみわひてれいの人
 5 めしてよろづにのたまう世にしらぬ心ほそさのなくさめに此君をのみたのみ
 6 きこえたる人々なれば思ひにかなひ給てよのつねのすみかにうつろひなど
 7 したまはんをいとめてたかるへき事にいひあはせてたはいれたてまつらんと
 8 みなかたらひあはせけりひめ君その氣しきをはふかう見しりたまはねと
 9 かうとりわきて人めかしなつけ給ふめるに打とけてうしろめたき心もやあらん

12ウ

1 むかし物かたりに心もてやはとある事もかゝる事もあめる打とくましき
 2 人の心にこそあめれと思より給てせめてうらみふかうは此君をしいてん
 3 をとりさまならんにてたにさても見そめてはあさはかにはもてなすましき
 4 心なめるをましてほのかにも見そめてはなくさみなんことに出てはいかてかは
 5 ふとさる事を待とる人のあらんほいになんあらぬとうけひく氣しきのなかん
 6 なるはかたへは人のおもはん事をあひなうあさきかたにやなとつゝみ給ならむと
 7 おほしかまふるを氣しきたにしらせたまはすはつみもやえむと身をつみ
 8 ていとおしければよろづに打かたらひてむかしの御おもむけも世中をかう
 9 心ほそうてすくしはつとも中々人わらへにかるゝしき心つかうるなどのた

13才

1 まひをきしをおはせし世の御ほたしにてをこなひの御心をみたりしつみたに
 2 いみしかりけんをいまはとてさばかりのたまひし一ことをたにたかへしと思侍
 3 れは心ほそくなどにもことにおもはぬを此人々のあやしう心こはき物にくむめる
 4 こそいとわりなけれけにさのみさやうの物とすくしたまはんもあけくるゝ
 5 月日にそへても御事をのみこそあたらしう心くるしうかなしき物に思きこ
 6 ゆるを君たによのつねにもてなし給てかゝる身のありさまもおもたゝしう
 7 なくさむはかり見たてまつりなさはやときこえ給へはいかにおほすにかと心
 8 うくて一ところをのみやはさて世にはて給へとはきこえ給けんはかゝしう
 9 もあらぬ身のうしろめたさは数そひたるやうにこそおほされためりしか

13ウ

1 心ほそき御なくさめにはかう朝夕に見たてまつるよりいかなるかたにかとなま
 2 うらめしく思給へればけにといとおしうてなをこれかれうたてひかゝしき物
 3 にいひおもへかめるにつけて思みたれ侍るそやといひさし給つくれゆくに
 4 まらうとはかへりたまはすひめ君いとむつかしとおほす弁まいりて御せう
 5 そこともきこえつたへてうらみ給もことはりなるよしをつふゝと聞ゆれば御いら
 6 へもしたまはす打なきていかにもてなすへき身にかは一ところおはせましかは
 7 ともかくもさるへき人にあつかはれたてまつりてすくせといふなるかたにつけて身

8 を心ともせぬ世なれはみなれいの事にてこそは人わらへなるとかをかくすなれ
9 あるかきりの人は年つもりさかしけにをかしゝは思つゝ心をやりてにつかはし

14才

1 けなる事をきこえしらすれとこはかくしき事かは人めかしからぬ
2 心ともにてたゝ一かたにいふにこそはと見給へはひきうこかしつばかりき
3 こえあへるもいと心うくとましくてとうせられたまはすおなし心に何事
4 もかたらひきこえ給ふ中の宮はかゝるすちにはいますこし心もえすおほとか
5 にてなにともきゝたまはねはあやしうもありける身かなとたゝおくさまに
6 むきておはすれいの宮の御そともたてまつりかへよなとそゝのかしきこえ
7 つゝみな心すへかめる氣しきをあさましくけになにのさはりところ
8 かはあらん程もなくてかゝる御すまぬのかひなき山なしの花のそかれん
9 かたなかりけるまらうとはかくけせうにこれかれにもくちいれせさす

14ウ

1 しのひやかにいつありけんことゝもなうもてなしてこそと思そめ給ける
2 事なれは御心ゆるしたまはすはいつもくかくてすすくさんとおほしのたまうを
3 此老人のをのかしゝかたらひてけせうにさゝめきなすなるへしさはいへと
4 ふかからぬけに老ひかめるにやいとおしくそ見ゆるひめ宮おほしわつらひて
5 弁かまいれるにのたまう年ころも人に似ぬ御心よせとのみのたまひわた
6 りしを聞えきいまとなりてはよろづにのこりなくたのみきこえて
7 あやしきまで打とけわたるを思しにたかふさまなる御心はへのましりて
8 こそわりなけれよに人めきてあらまほしき身ならはかゝるなにかはもてはな
9 れてもおもはましされとむかしより思はなれそめたる心にていとくるしきを

15才

1 此君のさかりすきたまはんもくちおしけにかゝるすまひもたゝこの御
2 ゆかりにところせうのみおほゆるをまことにむかしを思きこえ給ふ心さし
3 ならはおなし事に思なし給へかし身をわけたる心の中はみなゆつりて見た
4 てまつらんこゝちなんすへきなをかやうによろしけにきこえなされよとはちら
5 いたる物からあるへきさまをのたまひつゝくれはあはれと見たてまつるさのみこそは
6 さきくも御氣しきを見給ふれはいとよくきこえさすれとさはえ思あらたむ
7 ましき兵部卿の宮の御うらみふかさまさるへければまたそなたさまにいとよく
8 うしろ見きこえむとなんきこえ給ふそれも思ふやうなる御事とも也二ところ
9 なからおはしましてことさらにいみしき御心つくしてかしつきこえたまはんには

15ウ

1 しもかく世にありかたき御事ともさしつとひたまはさらましかしこけれとかくいと
2 たつきなける御ありさまを見たてまつるにいかになりはてさせたまはんと
3 うしろめたなうかなしくのみ見たてまつるを後の御心はしりかたけれとう
4 つくしうめてたき御すくせともにこそおはしましけれとなんかつく思聞ゆるこ
5 宮の御ゆいこんたかへしとおほしめすかたはことほりなれとそれはさるへき人の
6 おはせすしな程に似ぬ事やおはしまさんとおほしていましめきこえさせ給めりしに
7 こそ此殿のさやうなる心はへ物したまはましかは一ところをうしろやすく見をき
8 たてまつりていかにうれしからましとおりのたまはせし物を程々につけて思ふ
9 人にをくれ給ぬる人はたかきもくたれるも心のほかにあるましきさまにさすらふ

16才

1 たくひたにこそおほく侍めれそれみなれいの事なめれはもときいふ人も侍らす
 2 ましてかくはかりことさらにもつくり出まほしけなる人の御ありさまに心ざしふかうあり
 3 かたけにきこえ給ふをあなからちにもてはなれさせ給ておほしをきつるやうにをこ
 4 なひのほいをとけ給ともさりとて雲霞をやはなとすへて事おほく申つゝくれは
 5 いとゝにくゝ心つきなしとおほしてひれふし給へり中の宮もあひなういとおしき御けし
 6 きかなと見たてまつり給てもろともにれいのやうに御殿こもりぬうしろめたうい
 7 かにもてなさんとおほえ給へることさらめきてさしこもりかくろへ給ふへき物の
 8 くまたになき御すまぬなれはなよゝかにおかしき御そうへにひき寄せたてま
 9 つり給てまたけはひあつき程なれはすこしまろひのきてふし給へり弁は

16ウ

1 のたまひつるさまをまらうとに聞ゆいかなれはいとかくしも世を
 2 思はなれ給ふらんひしりたち給へりしあたりにてつねなき物に思しり
 3 給へるにやとおほすにいとゝ我心かよひておほゆれはさかしたちにくゝも
 4 おほえすさらは物こしなどにもいまはあるましき事におほしなるに
 5 こそはあなれこよひはかりおほとこのもるらんあたりにしのひてたはかれと
 6 のたまへは心して人とかくしつめなと心しれるとちは思かまふよぬすこし
 7 すくる程に風の音あらゝかに打ふくにはかなきさまなるしとみなとは
 8 ひしとくゝにまきるゝ音に人にしのひ給へるふるまひはへ聞つけたまはしと思て
 9 やをらみちひきいるおなしところにおほとこのもれるをうしろめたしと

17オ

1 おもへとみちの事なれはほかゝにもいかゝきこえむ御けはひをも
 2 たとくゝしからす見たてまつりしり給へらんと思けるに打もまろみたま
 3 はねはふと聞つけ給てやをらおき出たまひぬるになに心なくねいり
 4 給へるをいとくおしくいかにするわさそとむねつふれて思わたる心もわす
 5 れておとろかしてもろともにかくれなはやおもへともさもえたちかへら
 6 てわななくゝ見給へは火のほのかなるうちきすかたにていとなれかほに
 7 きちやうのかたひらをひきあけていりぬるをいみしういとおしく
 8 いかにおほえたまはんと思なからあやしきかへのつらに屏風をたてたる
 9 うしろのむつかしけなるにゐたまひぬあらまし事にてたにつらしと

17ウ

1 思給へるをまいていかにめつらかにおほしうとまむといと心くるしきにも
 2 はかくしきうしろ見なくておちとまる身とものかなしきを思つらね
 3 給ふにいまはとて山にのほり給し夕の御さまなとたゝいまのこゝちして
 4 いみしう恋しうかなしうおほえ給ふ中納言はひとりふし給へるを心しける
 5 にやとうれしうて心ときめきし給ふにやうゝあらさりけりと見るにおなし事
 6 なからいますこしうつくしうらうたけなる気しきはまさりてやとおほゆ
 7 あさましけにあきれまとひ給へるをけに心もしらざりけると見ゆれは
 8 いとくおしうもあり又をししかへしてかくれ給へらんつらさのまめやかに心うく
 9 ねたければ是をもよその物とはえ思はつましけれとなをほいのたかはん

18オ

1 うちおしうて打つけにあさかりけりとおおほえたてまつらし此一ふしは
 2 なをすくしてつゐにすくせのかれすはこなたさまにならんもなにかはこと人のやう
 3 にやはと思ふさましてれいのおかしうなつかしきさまにかたらひてあかし給つ

4 老人ともはしそしつと思て中の宮いつこにかおはしますらむあやしき
 5 わさかなとたとりあへりさりともあるやうあらんなどいふ大かたれいの見たて
 6 まつるにしはのふるこゝちしてめてたうあはれに見まほしき御かたちありさまを
 7 などていともてはなれてはきこえ給らんにか是はよの人のいふめるおそろしき
 8 神そつきたてまつりたらんとは打すきてあひきやうなけにいひなす女も
 9 あり又あなさかゝしなうの物かつかせたまはんたゝ人にとをくておい出させ給ふ

18ウ

1 めれはかゝる事にもつきゝしけにもてなしきこえ給ふ人もなくおはしますに
 2 はしたなくおほさるゝにこそいまをのつから見たてまつりなれ給なは思き
 3 こえ給てんなどかたらひてとく打とけて思ふやうにておはしまさなん
 4 といふゝね入ていひきなどかたはらいたくするもありあふ人からにも
 5 あらぬ秋の夜なれと程もなく明ぬるこゝちしていつれとわくへう
 6 もあらずなまめかしき御けはひを人やりならすあかぬこゝ地してあひお
 7 ほせよいと心うくつらき人の御さま見ならひ給ふなよなどのちせ
 8 を契りて出給ふ我なからあやしう夢のやうにおほゆれとなをつれ
 9 なき人の御けしきいま一たび見はてんの心に思のとめつゝれいの

19オ

1 出てふし給へり弁まいりていとあやしう中の宮はいづくにかおはしますらんと
 2 いふをはつかしう思かけぬ御こゝ地にいかなりけん事にかと思ふし給へりきのふ
 3 のたまひし事をおほし出てひめ宮をつらしと思きこえ給明にけるひかりに
 4 つきてそかへのなかのきりゝすはいらて給へるおほすらんことのいとゝおしければかた
 5 みに物もいはれたまはすゆかしけなう心うくもあるかないまより後も心ゆるひ
 6 すへうもあらぬ世にこそと思みたれ給へり弁はあなたにまいりてあさしかりける
 7 御心つよさを聞あらはしていとあまりふかく人にくなりける事といとおしう思ほれ
 8 みたりきしかたのつらさはなをのこりあるこゝ地してよろつに思なくさめつるをこよひ
 9 なんまことにはつかしう身もなけつへきこゝ地するすてかたくをとしをきたてまつり給へり

19ウ

1 けん心くるしさを思聞ゆるかたこそまたひたふるに身をもえ思すつましけれ
 2 かけゝしきすちはいつかたにも思きこえしうきもつらきもかたゝにわすられ給ふ
 3 ましくなん宮などのつかしけなくきこえ給めるをおなしくは心たかくと思ふかたそ
 4 ことに物し給ふらんと心えはてつれはいとことはりにはつかしうてまたまいりて人々に
 5 見えたてまつらむもねたくなよしかくをこかまはしき身のうへまた人にたにもら
 6 し給なとえんしをきてれいよりもいそぎ出たまひぬたか御ためもおしうと
 7 さゝめきあへりひめ宮もいかにしつる事そもしをろかなる心物したまはゝとむねつふれ
 8 て心くるしければすへて打あはぬ人々のさかしらにくしとおほすさまゝ思給ふに
 9 御ふみありれいよりもうれしとおほえ給ふもかつはあやし秋の気しきもしらす

20オ

1 かほにあをきえたのかたえいとこくもみちたるを
 2 おなしえをわきてそめける山ひめにいつれかふかき
 3 色どとはゝやさばかり恨つるけしきも事すくなにこそきてをしつゝみ給へる
 4 をそこはかとなくもてなしてやみなんとなめりと見給も心さはきてみなかし
 5 かましう御かへりといへはきこえ給へとゆつらんもうたておほえてさすかにおもひ
 6 みたれたまふ

7 山ひめのそむるこゝろはわかねともうつろふかたや

8 ふかきなるらんことなしひにかき給へるかおかしう見えければなをええん

9 しはつましうおほゆ身をわきてなどゆつり給ふけしきはたひく見えしかと

20ウ

1 うけひかぬにわひてかまへ給へるなめりそのかひなくかくつれなからむも

2 いとおしうなさけなき物に思をかれていよくはしめの思かなひかたくや

3 あらんとかくいひつたへなとすめるおひ人のおもはんとこもかるくしうとに

4 かくに心をそめけんたにくやしうかはかり世中を思すてんの心にみつからも

5 かなはさりけりと人わろく思しらるゝをましてをしなへたるすき物のまね

6 におなしあたり返々こきめくらんいと人わらへなるたなゝしを舟めきたるへし

7 など夜もすから思あかし給てまた在明の空もおかしき程に兵部卿宮の

8 御かたにまいり給ふ三条の宮やけにし後は六条院にそうつろひ給へれば

9 ちかうてつねにまいり給宮もおほすやうなるこゝちし給けりまきることなく

21オ

1 あらまほしき御すまぬに御まへの前裁ほかのには似すおなしき花のすかたも木

2 草のなひきさまもことに見なれてやり水にすめる月の影さへ糸にかきたる

3 やうなるに思つるもしるくおきおはしましけり風につきて吹くるにほひのいと

4 しるう打かほるにふとそれと打おとろかれて御なをしたてまつりみたれぬ

5 さまにひきつくろひて出給ふはしをのほりたまはすついぬ給へればなをうへ

6 になんものたまはてかうらんによりぬ給て世中の御物語きこえかはし給ふ

7 かのわたりの事をも物のついてにはおほし出てよろつに恨給ふもわりなしやみつ

8 からの心にたにかなひかたきと思ふさもおもはせなんと思ひなるやうのあれはれい

9 よりはまめやかにあるへきさまなど申給ふ明くれの程あやにくに霧わたりて空の

21ウ

1 気はひひやゝかなるに月は霧にへたてられて木のしたもこくらうなま

2 めきたり山里のあはれなるありさま思出給ふにや此ころの程にかならずを

3 くりかし給なとかたらひ給ふをなをわつらはしかれば

4 をみなへしさける大野をふせきつゝこゝろせはくや

5 しめをゆふらむとたはふれたまう

6 霧ふかきあしたのはらのをみなへしこゝろをよせて

7 見る人そみるなへてやはなとねたましきこゆればあなかしかましとはてくははら

8 たちたまひぬ年ころかくのたまへと人のありさまをうしろめたう思しにかたちなどもみ

9 おとし給ふましうをしはかるゝ心はせのちかをとりするやうもやなどそあやうく思わたりし

22オ

1 を何事もくちおしうは物し給ましかめりとおもへはかのいとおしううちくゝに思たはかり

2 給ふありさまもたかうやうならんもなさけなきやうなるをさりとてさはたえ

3 思あらたむましうおほゆればゆつりきこえていつかたの恨をもおはしなとしたに

4 思かまふる心をもしりたまはて心せはうとりなし給ふもおかしけれとれいのころらかなる

5 御心さまに物おもはせんこそ心くるしかるへけれなとおやかたになりてきこえ給よし

6 見給へかはかり心にとまる事なんまたなかりつるなといとまめやかにのたまはへはかの心

7 ともにはさもやと打なひきぬへき気しきは見えずなん侍るつかうまつりにくき宮

8 つかへもそ侍やとておはしますへきやうなとこまやかにきこえしらせ給ふ廿六日の

9 ひかんのはてにてよき日なりければ人しれす心つかひしていみしうしのひてゐて

22ウ

1 たてまつるきさひの宮なときこしめしいて、はかゝる御ありきいみしうせいし
 2 きこえ給へはいとわつらはしきをせちにおほしたる事なればさりけなうともてあつかふも
 3 わりなくなんふなわたりなともかりたまはずそのわたりいとちかきみさうの人の家
 4 にいとしのひて宮をはおろしたてまつり給ておはしぬ見とかめたてまつるへき人もな
 5 けれとどのぬ人はわつかに出てありくにも氣しきしらせしとなるへしれいの中納
 6 言殿おはしますとてけいめひしあへりきみたちなまわつらはしく聞給へとうつろふ
 7 かたことににははしをきてしかはとひめ宮おほす中の宮は思ふかたことなめりしかは
 8 さりともと思ながら心うかりし後はありしやうにあね宮をも思きこえたまはず
 9 心をかれて物し給ふなにかやと御せうそのみきこえかよひていかなるへき

23オ

1 事にかと人々も心くるしかる宮をは御馬にてくらきまきれにおはしませせて
 2 弁めし出てこゝもとにたゝ一こと葉きこえさすへき事なん侍をおほしはなつ
 3 さま見たてまつりてしにいとつかしけれとひたやこもりにてはえやむましきを
 4 いましはしふかしてをありしさまにはみちひき給てんやなどうらもなくかたらひ
 5 給へはいつかたにもおなし事にこそはと思てまいりぬさん聞ゆればされはよ思
 6 うつりにけりとうれしうて心おちめてかの入給ふへきみちにはあらぬひさしのさうし
 7 をいとよくさしたいめんし給へり一ときこえさすへきかまた人聞はかりのゝし
 8 らむはあやなきをいさゝかあけさせ給へといふせしときこえ給へといとよくき
 9 こえぬへしとてあけたまはすいまはとうつろひなをたゝならしとていふへきにや

23ウ

1 なにかはれいならぬたいめんにもあらず人にくゝいらへて夜もふかさしなと思て
 2 かはかりも出給へるにさうしのなかより御袖をとらへてひきよせていみしうらむれ
 3 はいとうたでもあるわさかななにゝ聞入つらんとくやしうむつまじけれとこし
 4 らへていたしてんとおほしてこと人と思わき給ましきさまにかすめつゝかたらひ
 5 給へる心はへなといとあはれなり宮はをしへきこえつるまゝにひとまの戸くちによりて
 6 扇をならし給へは弁まいりてみちひききこゆさきゝもなれにけるみちの
 7 しるへおかしとおほしつゝいり給ぬるをもひめ宮はしりたまはてこしらへいれてむとおほ
 8 したりおかしうもいとおしうもおほえて内々に心もしらさりける恨をかれんもつみさり
 9 とこなきこゝちすへければ宮のしたひ給へればえきこえいなひてこゝにおはし

24オ

1 つるをとませてこそまき給ぬれ此さかしたつめる人やかたらはれたてまつり
 2 ぬらん中空に人わらへにもなり侍りぬへきかなとのたまうにいますこし思
 3 よらぬ事のももあやに心つきなうなりてかうよろつにめつらかなりける御心のほどを
 4 しらていふかひなき心おさなさも見えたてまつりにけるをこたりにおほしあなつる
 5 にこそはといはんかたなく思給へりいまはいふかひなしことよりは返々きこえさせ
 6 てもあまりあらはつみもひねらせ給へやむことなきかたにおほしよりめるをすくせ
 7 なといふめる物さらに心にはなぬ物に侍めればかの御心さしはことに侍けるをいとおしう
 8 思みたれ給にかなはぬ身こそをきところなく心うく侍けれなをいかゝはせんにお
 9 ほしよはりねこのさうしのかためはかりいとつよきもまことに物きよくをしはかり

24ウ

1 聞ゆる人も侍らししるへといさなひ給へる人の御心にもまさにかうむねふたかりて
 2 あかすらんとはおほしなやとてさうしをもひきやふりつへき氣しきなれば

3 いはんかたなく心つきなけれとこしらへんと思しつめて此のたまうすくせといふらん
 4 かたはめにも見えぬ事にていかにもく思たとられすしらぬ涙のみ霧ふたかるこゝ地
 5 してなんこはいかにもてなし給ふと夢のやうにあさましきに後の世のためしにいひ
 6 出る人もあらはむかし物語などにとさらになをこめきてつくり出たる物のたとひ
 7 にこそはなりぬへかめれかうおほしかまふる心の程もいかなりけるとかはをしはかりた
 8 まはんなをいとかくおとろくしう心うくなとりあつめまとはし給そ心よりほかに
 9 なからへはすこし思のとまりてきこえむこゝ地もさらにかきくらすやうにて

25才

1 いとなやましきをこゝに打やすまんゆるし給へといみしうわひ給へはさすかに
 2 ことはりをいとようのたまふか心はつかしうたうたうおほえてあかき御心に
 3 したかふ事のたくひなければこそかうまでかたくなしうなり侍れいひしらす
 4 にくうとましき物におほしなすめればきこえむかたなしいとゝ世に跡
 5 とむへくなんおほえぬとてさらはへたてなからもきこえさせんひた
 6 ふるにな打すてさせ給そとてゆるしたてまつり給へればひ入てさすか
 7 に入もはてたまはぬをいとはれと思てかはかりの御けはひをなくさめにて
 8 あかし侍らんゆめくときこえて打もまともすいとゝしき水のをとに
 9 めもさめて夜はの嵐に山鳥のこゝちしてあかしかね給ふれいのあけ

25ウ

1 ゆくけはひに鐘のこゑなど聞ゆいきたなくて出給ふへき氣しきもなき
 2 よと心やましうこはつくり給もけにあやしきわさなり
 3 しるへせし我やかへりてまとふへきこゝろもしらぬ
 4 あけ闇のみちかゝるためし世にありけんやとのたまへは

5 かた／＼にくらすこゝろをおもひやれ人やりならぬ

6 みちにまとはゝとほのかにのたまうをいとあかぬこゝちすれはいかにこよ
 7 なうへたゝりて侍めれはいとわりなうこそなとよろつに恨つゝほのく
 8 と明行ほとによへのかたより出給ふ也いとやはらかにふるまひなし給へる
 9 にほひなとえんなる御心けさうにはいひしらすしめ給へりねひ人とも

26才

1 はいとあやししく心えかたく思まとはれけれとさりともしあしさまなる御心
 2 あらんやはとなくさめたりくらき程にといそきかへり給ふみちの程もかへる
 3 さはいとはるけうおほされて心やすくもえ行かよはさるらん事のかねて
 4 いとくるしきを夜をやへたてんと思なやみ給なめりまた人さはかしから
 5 め朝の程におはしつきぬらうに御くるまよせており給ふことやうなる
 6 女くるまのさましてかくろへ入給にみなわらひ給てをろかならぬ宮つかへの
 7 御心さしとなん思給ふると申給するへのをこかましさをいとねたうて
 8 うれへもきこえたまはす宮はいつかと御文たてまつり給山里には誰もく
 9 うつゝのこゝちもしたまはす思みたれ給へりさまくおほしかまへけるを色にも

26ウ

1 いたしたまはさりけるよとうとましようつらうあね宮をは思きこえ給てめ
 2 も見あはせたてまつりたまはすしらさりしさまをもさはくとはえあきらめたま
 3 はてことはりに心くるしう思きこえ給人々もいかに侍し事になと御氣しき
 4 見たてまつれとおほしほれたるやうにてたのもし人のおもはすれはあやしき
 5 わさかなと思あへり御文もひきときて見せたてまつり給へとさらにおきあ

6 かりたまはねはいとひさしうなりぬと御つかひわひけり

7 よのつねにおもひやすらむ露ふかきみちのさゝはら

8 わけて来つるもかきなれ給へるすみつきなどのことさらにえんなるも大かたに
9 つけて見給しはおかしうおほえしをうしろめたう物おもはしうてわれさかし人

27才

1 にてきこえんもいとつゝましければまめやかにあるへきやうをいみしうせめて
2 かゝせたてまつり給ふしをん色のほそなか一かさねにみへかさねのはかま
3 くして給御つかひくるしけに思たれはつゝませてともなりける人になんをくら
4 せ給ふことくしき御つかひにもあらすれいたてまつれ給ふうへわらは也ことさらに
5 人に氣しきもらさしとおほしければよへのさかしかりし老人のしわざ
6 なりけりと物しくなんきこしめしけるその夜もかのしるへさそひ給へとれせい
7 院にかならずさまえふへき事侍れはとてとまりたまはぬれいの事にふれて
8 すさましけに世をもてなすにくゝおほすいかゝはせんほいならさりし事とて
9 をろかにやはと思よりはり給て御しつらひなと打あはぬすみかのさまなれと

27ウ

1 さるかたにおかしうしなして待きこえけりはるかなる御中みちをいそ
2 きおはしましたりけるもうれしきわさなるそかつはあやしきさうしみ
3 は我にもあらぬさまにてつくるはれたてまつり給まゝにこき御その袖
4 のいたうぬるれはさかし人も打なき給つゝ世中にひさしくもおほえ
5 侍らねは明暮のなかめにもたゝ御事をのみなん心くるしう思聞ゆるに
6 此人々もよかるへきさまの事と聞にくきまていひしらすめれば年

7 へたる心ともにはさりと世のことよりはりをもしりたらんはかくしうもあらぬ心
8 一をたてゝかうてのみやは見たてまつらんと思なるやうもありしかとたゝ
9 いまかう思あへすはつかしき事ともにおもふへうはさらに思かけ侍らさりし

28才

1 にこれやけに人のいふめるのかれかたき御契りなりけんいとこそくるしけれ
2 すこしおほしなくさみなんにしらさりしさまをもきこえむにくしとなおほし
3 いらそつみもそへ給ふと御くしをなてつくるひつゝきこえ給へはいらへもしたま
4 はねとさすかにかうおほしのたまうかけにうしろめたうあしかれとおほし
5 をきてしを人わらへに見くるしき事そひて見あつかはれたてまつらんかいみし
6 さをよろつに思給へりさる心もとなくあきれ給へりしけはひたになへて
7 ならすおかしかりしをまいてすこしよのつねになよひ給へるはいよくこゝろ
8 さしもまさるにたはやすくかよひたまはさらん山みちのはるけさもむね
9 いたきまておほして心ふかけにかたらひたのめ給へとあはれともいかにとも思

28ウ

1 わきたまはすいひしらすかしつくものゝひめ君もすこしよのつねの人け
2 ちかうおやせうとなといひつゝ人のたゝすまゐをも見なれ給へるは物のはつかし
3 さもなのめにやあらん家にあかめ聞ゆる人こそなければかく山ふかき御あたり
4 なれはとをく物ふかくてならひ給へるこゝ地に思かけぬありさまのつゝましう
5 はつかしう何事もよの人に似すあやしうゐ中ひたらんかしとはかなき御いらへ
6 にてもいひはてんかたなくつゝみ給へりさるは此君しもそらうくしくかあるかた
7 のにほひはまさり給へる三日にあたる夜はもちぬなんまいると人々の聞ゆれば
8 ことさらにさるへきいはひの事にこそはとおほして御まへにてせさせ給ふもとく

9 しうかつはおとなになりてをきて給ふも人の見るらん事ははかられておもて打

29才

1 あかめておはするさまいとおかしけ也このかみ心にやのとかにけたかき物から人の
2 ためあはれになさけしうそおはしける中納言殿よりよへまいらんと思ふ給へかしと宮
3 つかへのらうもしるしなけるよにおもたまへうらみてなんこよひはさうやくもやと
4 思給ふれとのみどころのはしたなけに侍しあたり心地いとやすからてやすら
5 はれ侍るとみちのくにかみにおいつきかき給てまうけの物ともこまやかにぬひ
6 などもせさりける色々をしまきなどしつゝみそひつあまたかけこいれて老
7 人のもとに人々のれうにとて給へり宮の御かたにさふらひけるにしたかひて
8 いとおほくもえとりあつめたまはさりけるにやあらんたゝなるきぬあやなどした
9 にはいれかくしつゝ御れうとおほしき二くたりいときよらにしたるをひとへの

29ウ

1 御その袖にこたいの事なれと

2 さ夜ころもきてなれきとはいはずともかことはかりは

3 かけすしもあらしとおとしきこえ給へりこなたかなたゆかしけなき御事をはつ

4 かしういとゝ見給て御返もいかゝきこえんとおほしわつらふ程御つかひかたへはにけ

5 かくれにけりあやしきしも人をひかへてそ御かへり給ふ

6 へたてなきころはかりはかよふともなれし袖とは

7 かけしと思ふ心あはたゝしく思みたれ給へる名残にいとゝなをく

8 しきをおほしけるまゝと待見給ふ人はたゝあはれにぞ思なされ給ふ宮は

9 その夜内にまいり給てえまかて給ふましけなるを人しれす御心も空にて

30才

1 おほしなけきたるに中宮なをかくひとりおはしまして世中にすい給へる御なの

2 やうく聞ゆるなをいとあしき事也何事も物このまじうたてたる心なつかひ給そ

3 うへもうしろめたけにおほしのたまうと里すみかちにおはしますをいさめき

4 こえ給へはいとくるしとおほして御とのみどころに出給て御文かきて

5 たてまつれ給へる名残もいたく打なかめておはしますに中納言の君まいり

6 給へりそなたの心よせとおほせはれいよりもうれしうていかゝすへきいとかうく

7 らうなりぬるめるを心もみたれてなんとなけかしけにおほしたりよく御けし

8 きを見たてまつらんとおほして日ころへてかうまいり給へるをこよひさふらはせ

9 たまはていそきまかて給なんいとゝよろしからぬ事にやおほしきこえさせ

30ウ

1 たまはんたいはんところのかたにてうけたまはりつれは人しれすわつらはしき

2 宮つかへのしるしにあいなきかたうや侍らんとかほの色たかひ侍つると申

3 給へはいと聞にくゝそおほしのたまうやおほくは人のとりなす事なるへし世にとか

4 めあるはかりの心は何事にかつかうらんところせき身の程こそ中々なるわさなり

5 けれとてまことにいとほしうさへおほしたりいとおしう見たてまつり給ておなし

6 御さはかれにこそはおはすなれこよひのつみにはかはりきこえさせて身をもいた

7 つらになし侍なんかしこはた山に馬はいかゝ侍へきいとゝ物のきこえやさはり

8 ところなからんときこえ給へはたゝくれに暮てふけにける夜なれはおほ

9 しわひて御馬にて出たまひぬ御ともに中々つかうまつらし御うしろ

31才

1 見をとて此君は内にさふらひ給ふ中宮の御かたにまいり給へれば宮は出たまひぬる也

2 あさましういとおしき御さまかないかに人見たてまつらんうへきこしめしてはいさま
 3 きこえぬるいふかひなきとおほしのたまうこそわりなけれとのたまはすあまた
 4 宮たちのかくをとなひとのひ給へと大宮はいよくわかくおかしきはひなんまさり
 5 給ける女一の宮もかくそおはしますへかめるいかならんおりにかはかりにても物ちかう御声
 6 をたに聞たてまつらんとあはれにおほゆすいたる人の思ふましき心つかうらむも
 7 かやうなる御なからひのさすかにけとをからす入立て心にひかくしき心のたくひやは
 8 又世にあるへかめるそれになをうこきそめぬるあたりはえこそ思たえねなと思ぬ給
 9 へりさふらふかきりの女房のかたち心さまいづれとなくわろひたるなくめやすく

31ウ

1 とりくにおかしきなかにあてにすくれて目にとまるあれとさらにくみたれそめしの
 2 心にていときすくにもてなし給へりことさらに見えしらかふ人もあり大かたはつかし
 3 けにもてしめ給へるあたりなれはうはへこそ心ばかりもてしつめたれ心々なる世
 4 の中也ければ色めかしけにすゝみたるしたの心もりて見ゆるもあるをさまにくおか
 5 しうもあはれにもあるかなと立てもぬてもたゝつねなきありさまを思ありき給ふ
 6 かしこには中納言殿のことくしけにいひなし給へりつるを夜ふくるまでおはしまさて
 7 御文のあるをされはよとむねつふれておはするに夜なかちかうなりてあらまし
 8 き風のきをひにいとまなめかしうきよらにてにほひおはしたるもいかゝをろかに
 9 おほえたまはんさうしみもいさゝか打なひきて思しり給事あるへし

32オ

1 いみしうおかしけにさかりと見えてひきつくるひ給へるさまはましてたくひあらし
 2 はやとおほゆさはかりよき人をおほく見給ふ御めにたにけしうはあらすかたち
 3 よりはしめておほくちかまさりしたりとおほさるれば山里の老人ともはましてくち
 4 つきにくけに打系みつゝかくあたらしき御ありさまをなのめなるきはの人の見たて
 5 まつりたまはましいかにくちおしからまし思ふやうなる御すくせときこえつゝひめ
 6 宮の御心をあやしうもてなし給をもときくちひそみ聞ゆさかりすきたるさま
 7 ともにあさやかなる花の色々につかはしからぬをさしぬひつゝありつかすとり
 8 つくろひたるすかたともつみゆるされたるもなきを見わたされ給て
 9 ひめ宮我もやうくさかりすきぬる身そかしゝみを見ればやせく

32ウ

1 なりもてゆくをのかしらは此人ともゝわれあしとやはおもへるうしろては
 2 しらすかほにひたひかみをひきかけつゝ色とりたるかほつくりを
 3 よくして打ふるまふめり我身にてはまたいとあれるほどには
 4 あらすめもはなもなをしとおほゆるは心のなしにやあらんとうしろめたう
 5 見わたしてふし給へりはつかしけならん人に見えむ事はいよくかたはら
 6 いたういま一とせ二年あらはおとろへまさりなんはかなける身のありさまをと
 7 御手つきのほそやかにかよはくあはれなるをさし出ても世中を思つゝけ
 8 給ふ宮はありかたかりつる御いとまの程をおほしめくらすになを心やすかる
 9 ましき事にこそいとむねふたかりておほえ給けり大宮のきこえ

33オ

1 しさまなとかたりきこえ給て思なからとたえあらんをいかなるにかと
 2 おほすな夢にてもをろかならんかうまでもまいりくましきを心の程やいかゝ
 3 とうたかひて思みたれたまはんか心くるしさに身をすてゝなんつねに
 4 かうはえまどひありかしさるへきさまにてちかうわたしたてまつらんとふ

5 かふきこえ給へたとえまあるへうおほさるらんは音にきゝし御心のほと
 6 しるぎにやと心をかれてわか御ありさまからさまく物なけかしくてなん
 7 ありける明ゆく程の空につま戸をしあげ給てもろともにいさなひ出て見
 8 給へは霧わたれるさまところからのあはれおほくそひてれいの柴つむ舟の
 9 かすかに行かふ跡のしら浪めなれすもあるすまゐのさまかなと色なる

33ウ

1 御心はおかしうおほしなざる山のはのひかりやうく見ゆるに女君の御かたちの
 2 まほにうつくしけにてかきりなういつきすへたらんひめ君もかはかりこそ
 3 おはすへかめれ思なしの我がたさまのいといつくしきそかしこまやかなるにほひ
 4 など打とけて見まほしうなかくなるこゝちす水の音なひなつかしからす宇治
 5 はしのいと物ふりて見たさるゝなど霧はれゆけはいとゝあらまきわたりを
 6 かゝるところにいかて年へ給ふらんなど打なみたくまれ給へるをいとはつかしと聞給ふ
 7 おとこの御さまかきりなくなまめかしうきよらにて此世のみならず契りたのめ
 8 きこえ給へは思よらさりし事とは思ながら中々かの目なれたりし中納言のはつかしき
 9 よりはとおほえ給ふかれはおもふかたことにていいたうすみたる気しきの見え

34オ

1 にくゝはつかしけなりしによそに思きこえしはましてこよなうはるかに一
 2 くだりかき出給ふ御返事たにつゝましうおほえしをひさしうとたえた
 3 まはんは心ほそからんと思ならるゝも我なからうたてと思しり給ふ人々
 4 いたうこはつくりもよほし聞ゆれば京におはしまさん程はしたなからぬ程にと
 5 いと心あはたゝしけにて心よりほかならん夜かれを返々のたまう
 6 中たえむ物ならなくにはしひめのかたしく袖や

7 夜はにぬらさむ出かてに立かへりつゝやすらひ給

8 たえせしのわかたのみにや宇治はしのはるけき中を

9 待わたるへきことには出ねと物かなしき御けはひかきりなうおほされけり

34ウ

1 わかき人の御心にしみぬへくたくひすくなけなる朝けのすかたを見をくりて
 2 名残とまれる御うつり香なども人しれす物のあはれなるはされたる御心かな
 3 けさう物のあやめも見ゆる程にて人々のそきて見たてまつる中納言殿は
 4 なつかしうはつかしけなるさまにてそひ給へりける思なしのいま一きはにや此御さまは
 5 ことになとめて聞ゆみちすから心くるしかりつる御氣しきをおほし出でたちもかへ
 6 りなまほしうさまあしきまておほせと世のきこえをしのひてかへらせ給ふ程に
 7 えたはやすくもまきれさせたまはす御文は明る日ことにあまたかへりつゝたてま
 8 つらせ給ふをろかにあらぬにやと思ながらおほつかなき日数のつもるをいと心つくしに
 9 見しと思し物を身にまさりて心くるしうもあるかなとひめ宮はおほしなけかるれ

35オ

1 といとゝ此君の思しつみ給ふによりつれなくもてなしてみつからたになをかゝる事
 2 思くはへしといよくふかくおほす中納言の君も待とをにそおほすらんかしと
 3 おもひやりてわかあやまちにいとおしうて宮をきこえおとるかしたゝたえす御けしき
 4 を見給にいたうおもほしいれたるさまなれはさりともとうしろやすかり
 5 けり九月十日の程なれば野山のけしきも思やらるゝに時雨めきて
 6 かきくらし空のむら雲おそろしけなる夕暮宮いとゝしつ心なく
 7 なかめ給ていかにせんと御心ひとつを立出かね給ふおりをしはかりてまいり給へり

8 ふるの山里いかならんとおとろかしきこえ給もいとうれしとおほしてもろとも
9 にいさなひ給へはれいのひとつくるまにておはすわけ入給まゝにぞまいて

35ウ

1 なかめ給ふらん心のうちいとゝをしはかられ給ふみちの程もたゝ此事の心くるし
2 きをかたらひきこえ給たそかれ時のいみしう心ほそけなるに雨はひやゝかに
3 打そゝきて秋はつる氣しきのすきに打しめりぬれ給へるにほひともは
4 よの物に似すえんにて打つれ給へるを山かつともはいかゝ心まとひもせざらむ
5 女房日ころ打つふやきつる名残なくゑみさかへつゝおましひきつくるひ
6 なとす京にさるへきところゝにゆきちりたるむすめともめいたつ人二三
7 たつねよせてまいらせたり年ころあなつりきこえける心あさき人々めつらか
8 なるまらふと思おとろきたりひめ宮もおりうれしう思きこえ給ふにさかし
9 ら人のそひ給へるそはつかしうもありぬへうなまわつらはしうおもへと心はへののとかに

36オ

1 物ふかう物し給をけに人はかうはおはせさりけりと見あはせ給にありかたし
2 と思しらる宮をとろにつけてはいとことにかしつきいれたてまつりて此君
3 はあるしかたに心やすくもてなし給ふ物からまたまらうとゐのかりそめなる
4 かたにいたしはなち給へはいとからしと思給へり恨給ふもさすかにいとおしくて
5 物こしにたいめんし給ふたはふれにくゝあるかなかてのみやといみしう恨き
6 こえ給ふやうゝことほりしり給にたれと人の御うへにて物をいみしう思しつみ
7 給ていとゝかゝるかたをうき物に思はてゝなをひたふるにいかてかう打とけし
8 あはれとおもふ人の御心も数ならすつらしと思ぬへきわさにこそあめれ我も
9 人も見おとさす心たかはてやみにしかと思へる心つかひふかくし給へり宮の御

36ウ

1 ありさまなともとひきこえ給へはかすめつゝされはよとおほしくのたまへはいとお
2 しくておほしたる御さま氣しきを見ありくやうなとかたりきこえ給ふれいより
3 は心うつくしうかたらひてなをかく物おもひくはふる程すこしこゝちもしつまりて
4 きこえむとのたまう人にくゝけとをくはもてはなれぬ物からさうしの
5 かためもいとよししゐてやふらんをはつらういみしからんとおほしたれはおほさるゝ
6 やうこそはあらめかるゝしうことさまになひき給事はた世にあらしと心のとかなる
7 人はさいへといとよく思しつめ給たゝいまおほつかなく物へたてたるなんむねあかぬ
8 こゝちするをありしやうにてきこえむとせめ給へとつねよりもわかおもかけに
9 はつるころなれはうとましと見給ふてんもさすかにくるしきはいかなるにかとほ

37オ

1 のかに打わらひ給へる氣はひなとあやしうなつかしうおほゆかゝる御心にたゆめられた
2 てまつりてつゐにいかになるへき身にかなとなけきかちにてれいのとを山鳥
3 にてあけぬ宮はまた旅ねなるらむともおほさて中納言のあるしかたに
4 心のとかなるけしきこそ浦山しけれとのたまへは女君あやしときゝ給ふ
5 わりなくしておはしましては程なくかへり給ふかあかすくるしきにや宮
6 物をいみしうおほしたり御心のうちをしりたまはねは女かたにはいかならん人
7 わらへにやと思なけき給へはけに心つくしにくるしけなるわさかなとみゆ
8 京にもかくろへてわたり給ふへきところもさすかなし六条院には右のおほ
9 いとのかたつかたにすみ給てさはかりいかにとおほしたる六の君の御事をおほし

37ウ

1 よらぬになまうらめしと思きこえ給ふへかめりすぎくしき御さまにゆるしなく
 2 そしりきこえ給てうちわたりにもうれへきこえ給ふへかめれはいよくおほえ
 3 なくていたしすへたまはんもはかるもいとおほかりなへてにおほす人のきは
 4 は宮つかへのすちにて中々心やすけ也さやうのなみくにはおほされすもし
 5 世中うつりてみかときさひのおほしをきつるまゝにもおほしまさは人よりたか
 6 きさまにこそなさめなとたゝいまはいと花やかに心にかゝり給へるまゝにもて
 7 なさんかたなくるしかりける中納言は三条の宮つくりはてゝさるへきさま
 8 にてわたしたてまつらんとおほすけにたゝ人は心やすかりけりかくいと心くるし
 9 き御氣しきながらやすからすしのひ給ふからにかたみに思なやみ給ふへかめるも

38才

1 心くるしくてしのひてかくかよひ給ふよしを中宮などにももらしきこし
 2 めさせてしはしの御さはかれはいとおしくも女かたの御ためとかもあらしいと
 3 かく夜をたにあかしたまはぬくるしけさにいみしうもてなしてあらせたてまつら
 4 はやなと思てあなかちにもかくろへす衣かへなどはかくしう誰かはあつかふらむ
 5 などおほして御きちやうのかたひらかへしろなど三条の宮つくりはてゝわたり
 6 たまはん心まうけにしをかせ給へるをまつさるへきようなんいとしのひてきこえ
 7 たてまつれ給さまくゝなる女房のさうそく御めのとなどにものたまひつゝわ
 8 さともせさせ給けり十月ついたちころあしろもおかしき程ならんとそゝのかし
 9 きこえ給て紅葉御らんすへう申さため給ふしたしき宮人とも殿上人の

38ウ

1 むつましうおほすかきりいとしのひてとおほせとところせき御いきをいなれば
 2 をのつからことひろりて右のおほい殿のさいしやうの中將まいり給さてはこの
 3 中納言はかりそかんたちめはつかうまつり給たゝ人はおほかりかしこにはるなうなる
 4 やとりしたまはんさるへきさまにおほせさきの春も花見にたつねまいりこし
 5 これかれかゝるたよりに事よせて時雨のまきれに見たてまつりあらはすやうもそ
 6 侍などこまやかにきこえ給へりみすかけかへこゝかしこかきはらひ岩かくれにつも
 7 れるもみちのくちはすこしはるけやり水のみ草はらはせなどそし給ふよしある
 8 くだ物さかななどさるへき人なとたてまつれ給へりかつはゆかしけなけれといかゝ
 9 はせん是もさるへきにこそはと思ゆるして心まうけし給へり舟にてのほりくたり

39才

1 おもしろうあそひ給も聞ゆほのくゝありさま見ゆるをそなたに立出てわかき人々
 2 見たてまつるさうし見の御ありさまはそれと見えねとも紅葉をふきたる舟のかさり
 3 のにしきと見ゆるにこゑくゝふき出る物のねとも風につきておとろくしきまておほゆ
 4 よ人のなひきかしつきたてまつるさまかうしのひ給へるみちにもいとことにつくしきを
 5 見給にもけに七夕はかりにてもかゝるひこほしのひかりをこそ待出めとおほえたり
 6 文つくらせ給ふへき心まうけにはかせなともさふらひけりたそかれ時に御舟
 7 さしよせてあそひつゝ文つくり給紅葉をうすくこくかさして海仙樂といふ
 8 物をふきてをのく心ゆきたる氣しきなるに宮はあふみのうみのこゝちして
 9 をちかた人の恨いかにとのみ御心空也時につきたるたいいたしてうそふき

39ウ

1 すしあへり人のまよひすこししつめておはせんと中納言もおほしてさるへきやう
 2 にきこえ給程にうちより中宮のおほせ事にてさいしやうの御あにのゑもんのかみ
 3 ことくしきすい人ひきつれてうるはしきさましてまいり給へりかやうの御ありきはしのひ

4 給ふとすれとをのつから事ひろこりて後のためしにもなるわさなるをもくしき
 5 人数あまたもなくてにはかにおはしましにけるをきこしめしおとろきて殿上人
 6 あまたくしてまいりたるにはしたなくなりぬ宮も中納言もくるしとおほして物の
 7 けうもなくなりぬ御心のうちをはしらすゑひみたれてあそひあかしつけふはかうて
 8 とおほすに又宮の大夫さらぬ殿上人あまたたてまつれ給へり心あはたしく
 9 くちおしくてかへりたまはん空もなしかしこには御文たてまつれ給ふおかしきやう

40才

1 なる事もなくいとまめたちてかきつゝけ給へれと人しけうさはかしからんとて御かへり
 2 なし数ならぬありさまにてはめてたぎ御あたりにましらはんもかひなきわさかなと
 3 いとゝおほししり給ふよそにてへたゝる月日はおほつかなさもことはりにさりととも
 4 などなくさめ給をちかき程にのゝしりおはしてつれなくすぎ給なんつらうもくちお
 5 しうも思みたれ給ふ宮はましていふせうわりなしとおほす事かきりなしあしるの
 6 ひをも心よせたてまつりて色々の木葉にかきませてあそふをしも人などはいと
 7 おかしき事におもへれは人は人にしたかひつゝ心ゆく御ありきにみつからの御こゝちはむねのみ
 8 つとふたかりて空をのみななめ給ふ此ふる宮のこすゑはいとことにおもしろう
 9 常盤木にはひかれるつたの色なども物ふかけに見えてとをめさへす

40ウ

1 こけなるを中納言の君も中々たのめきこえけるをうれはしきわさかなとおほゆ
 2 こその春御ともなりし君たちは花の色を思出てをくれてこゝになかめ給ふらむ
 3 心ほそさをいふかうしのひくにかよひ給ふとほのきゝたるもあるへし心しらぬもま
 4 しりて大かたにとやかうやと人のうへはかゝる山かくれなれとをのつから聞ゆる物なれば
 5 いとおかしけにこそ物し給なれさうのこと上手にてこ宮の明暮あそひならはし給ければなとく
 ちく

6 いふさいしやうの中將

7 いつそやも花のさかりに一目見し木のもとさへや

8 秋はさひしきあるしかたとおもひていへは中納言

9 さくらこそおもひしらすれさきにほふ花ももみちも

41才

1 つねならぬ世をゑもんのかみ

2 いつこより秋はゆきけん山さとのもみちのかけは

3 すきうき物を宮の大夫

4 見し人もなき山さとのいはかきにこゝるなかくも

5 はへるくすかななかにおいしらひて打なき給ふみこのわかくおほしけるよの事

6 などおもひ出るなめり宮

7 秋はてゝさひしさまざる木のもとをふきなすくしそ

8 峯の松風とていといたう涙くみ給へるをほのかにしる人はけにふかうおほすなり

9 けりけふのたよりをすくし給う心くるしさと見たてまつる人あれとことくしう

41ウ

1 ひきつゝきておはしましよらすつくりける文のおもしろきところく打すし
 2 やまと歌もことにつけておほかれとかやうのゑいのまきれにましてはかくしき
 3 事あらんやはかたはしかきとゝめてたに見くるしくなんかしこにはすき給ぬる
 4 気はひをとをうなるまで聞ゆるにさきのことゑくたゝならすおほえ給ふ心まうけ
 5 しつる人々もいとくちおしとおもへりひめ宮はましてなをくゝとにきくつき草の

6 色なる御心なりけりほのかに人のいふをきはおとこといふ物はそらことをこそ
7 いとよくすなれおもはぬ人をおもふかほにとりなすことの葉おほかる物と此人
8 数ならぬ女房のむかし物語にいふをさるなをくしきなかにこそはけしからぬ
9 心あるもましるらめ何事もすちことなるきはになりぬれば人のきゝおもふ事つゝ

42才

1 ましうところせかるへき物と思しはさしもあるましきわさなりけりあためき
2 給へるやうにご宮も聞つたへ給てかやうにけちかき程まではおほしよらさりし物を
3 あやしき心ふかけにのたまひわたり思のほかに見たてまつるにつけてさへ身の
4 うさを思そふるかあちきなくもあるかなかう見をとりする御心をかつかの中
5 納言もいかにおもふ給ふらんこゝにもことにはつかしけなる人は打ましらねとをのくおもふ
らん

6 か人わらへにをこかましき事と思みたれ給ふにこゝちもたかひていとなやましうおほ
7 え給ふさうし見は玉さかにたいめんし給ふ時かきりなきふかき事をたのめ契り給へればさり
8 ともこよなうはおほしかはしおほつかなきもわりなきさはりこそは物し給ふらめと心の
9 うちに思なくさめ給ふかたあり程へにけるか思入られたまはぬにしもあらぬに中々にて

42ウ

1 打すき給ぬるをつらうもくちおしくもおもほゆるにいとゝ物あはれ也しのひ
2 かたき御氣しきなるを人なみくゝにもてなしてれいの人めきたるすまゐ
3 ならはかやうにもてはなし給ふましきをなとあね宮はいとゝしうあはれと
4 見たてまつり給我も世になからへはかうやうなる事見つへきにこそはあめれ
5 中納言のとさまかうさまにいひありき給も人の心を見むとなりけり心一に
6 もてはなれて思ふともこしらへやるかきりこそあれある人のこりすまに
7 かゝるすちの事をのみいかでと思ためれは心よりほかにつゐにもてなされぬへか
8 めり是こそは返々さる心して世をすくせとのたまひをきしかゝる事もやあらん
9 のいさめなりけりさもこそはうき身ともにてさるへき人にもをくれたてま

43才

1 つらめやうの物と人わらへなる事をそふるありさまにてなき御影をさへなやまし
2 たてまつらんかいみしさなを我たにさる物おもひにしつまつみなどいとふかからぬ
3 さきにいかでなくなりなんとおほししつむにこゝちもまことにくるしければ物も
4 露はかりまいらすたゝなからん後のあらまし事を明暮思つゝけ給に物心ほそくて
5 此君を見たてまつり給もいと心くるしう我にさへをくれ給ていかにいみしう
6 なくさむかたなからんあたらしうおかしきさまを明暮のみ物にていかで人々しう
7 も見なしたてまつらんと思あつかふをこそ人しれぬゆくさきのたのみにも思つれ
8 かきりなき人に物し給にもかはかり人わらへなるめを見てん人の世中に立ましり
9 れい人さまにてへたまはんはたくひすくなく心うからんなどおほしつゝくるにいふかひ

43ウ

1 もなく此世にはいさゝか思なくさむかたなくてすきぬへき身ともなめりと心ほそくお
2 ぼす宮は立かへりれいのやうにしのひてと出たち給けるをうちにかゝる御しのひ事
3 により山里の御ありきもゆくりかにおほし立なりけりかるくしき御ありさまとよ人
4 もしたにそしり申なりと衛門のもらし申給ければ中宮もきこしめしなけき
5 うへもいとゝゆるさぬ御氣しきにて大かた心にまかせ給へる御里すみのあしきなり
6 ときひしき事とも出てうちにつとさふらはせたてまつり給右のおほい殿の
7 六の君をうけひかすおほしたる事なれとをしたちてまいらせ給ふへくみなさ

8 ためらる中納言殿きゝ給てあいなう物を思ありき給ふわかあまりこと
9 やうなるそやさるへき契りやありけんみこのうしろめたしとおほしたりし

44才

1 さまあはれにわすれかたく此君たちの御ありさまけはひもことなる事なく
2 よにおとろへたまはんことのおしうもおほゆるあまりに人々しうもてなさはや
3 とあやしきまでもてあつかはるゝに宮もあやにくにとりもちてせめ給しかはわかお
4 もふかたはことなるにゆつらるゝありさまあいなくてかくもてなしてしをおもへはくやしう
5 もありけるかないつれもわか物にて見たてまつらんにとかむへき人もなしかしとりかへす
6 物ならねとをこましう心一に思みたれ給ふ宮はまして御心にかゝらぬおりなく
7 恋しううしろめたしとおほす御心につきておほす人あらはこゝにまいらせてれい
8 さまにのとやかにもてなし給へすことに思きこえ給へるにかなひたるやうに人の
9 聞ゆへかめるもなんくちおしきとおほす宮は明暮きこえ給時雨いたうして

44ウ

1 のとやかなる日女一の宮の御かたにまいり給へれば御まへに人おほくもさふらはすしめ
2 やかに御氣なと御らんする程也御きちやうはかりへたてゝ御物語きこえ給ふ
3 かきりもなくあてにけたかき物からなよひかにおかしき御氣はひを年ころ二つ
4 なき物に思きこえ給てまた此御ありさまになすらふ人世にありなんや冷
5 泉院のひめ宮はかりこそ御おほえの程うちくの御氣はひも心にくゝきこ
6 ゆれと打いてんかたもなくおほしわたるにかの山里人はらうたけにあてなるかた
7 のをとり聞ゆましきそかしなとまつ思出るにいとゝ恋しくてなくさめに御氣とも
8 あまたちりたるを見給へはおかしけなる女氣どもの恋するおとこのすまぬなどかき
9 ませ山里のおかしき家居なと心々に世のありさまかきたるをよそへらるゝ事

45才

1 おほくて御めのとまり給へはすこしきこえ給てかしこへたてまつらんとおほすさい五か
2 物かたりかきていもうとにきんをしへたるところの人のむすはんといひたるを
3 見ていかゝおほすらんすこしまいりより給ていにしへの人もさるへき程は
4 へたてなうこそならはして侍けいとうとくしうのみもてなさせ給こそと
5 しのひてきこえ給へはいかなる氣にかとおほすにをしまきよせて御まへにさしいれ
6 給へるをうつふして御らんする御くしの打なひきてこほれ出たるかたそはかりほのかに
7 見たてまつり給ふかあかすめてたうすこし物へたてたる人ゝ思きこえましかはと
8 おほすにしのひかたくて

9 わか草のね見む物とはおもはねとむすほゝれたる

45ウ

1 こゝちこそすれ御まへなりつる人々は此宮をはことにはちきこえて物のうしろに
2 かくれたりことしもこそあれうたてあやしとおほせは物ものたまはすことほりにて
3 うらなく物をといひたるひめ君もされてにくゝおほさるむらさきのうへの
4 とりわきて此二ところをはならはしきこえ給しかはあまたの御中にへたてなく
5 思かはしきこえ給へり世になくかしつききこえ給てさふらふ人々もかたほに
6 すこしあかぬところあるははしたなけ也やむ事なき人の御むすめなどいとおほ
7 かり御心のうつろひやすきはめつらしき人々にはかなくかたらひつきなどし給つゝ
8 かのわたりをおほしわするゝおりなき物からをとつれたまはて日ころへぬ待
9 きこえ給ところはたえまとをきこゝちしてなをかうなめりと心ほそうなかめ

46才

1 給ふに中納言おはしたりなまやましけにし給ふと聞て御とふらひなりけりいと
 2 こゝちまどふはかりの御なやみにもあらねとことつけてたいめんしたまはす
 3 おとろきなからはるけき程をまいりきつるをなをかのなやみ給ふらん御
 4 あたりちかくとせちにおほつかかなりきこえ給へは打つけてすまい給へる
 5 かたのみすのまへにいれたてまつるいとかたはらいたきわざとくるし
 6 かり給へとけにくゝはあらて御くしもたけ御いらへなときこえ給ふ宮
 7 の御心もゆかておはしすきにしありさまなとかたりきこえ給てのとかにお
 8 ほせ心いられしてなうらみきこえ給そなをしへきこえ給へはこゝには
 9 ともかくもきこえたまはさんめりなき人のいさめはかゝる事にこそと見侍

46ウ

1 はかりなんいとおしかりけるとてなき給ふ氣しき也いと心くるしう我さへはつかし
 2 きこゝ地して世中とはとてもかくてもひとつまにてすくす事かたくなん侍を
 3 いかなる事をも御らんししらぬ御心ともにはひとへにうらめしなとおほす事もあ
 4 らむをしめておほしのとめようしろめたうはよにあらしと思侍など人のうへを
 5 さへあつかうもかつはあやしうおほゆるゝはましていとくるしけにし給ければうと
 6 き人の御けはひちかきも中の宮のくるしけにおほしたれはなをれいのあなた
 7 にと人々聞ゆれとましてかくわつらひ給程のおほつかなさと思のまゝにまいり
 8 きていたしはなち給ふれはいとわりなくなんかゝるおりの御あつかひも誰かはかく
 9 しうつかうまつるなど弁のおもとにかたらひ給てみすほうともはしむへき事の

47オ

1 たまういと見くるしくことさらにもいとはしき身をと聞給へと思くまなくのたま
 2 はんもうたてあれはさすかになからへよと思給へる心はへもあはれ也又の朝にすこしも
 3 よろしくおほさるや昨日はかりにてたにきこえさんとあれは日ころふれはにや
 4 けふはいとくるしうなんさらはこなたにといひいたし給へりいとあはれにいかに物し
 5 給ふへきにかあらんありしよりはなつかしき御氣しきなるもむねつとふておほゆれは
 6 ちかうよりてよろつの事をきこえ給くるしうてえきこえすすこしためらはん
 7 程にていとかすかにあはれるけはひをかきりなう心くるしうてなけきぬ
 8 給へりさすかにつれくゝとかくておはしかたければいとしろめたければかへり給うかゝる
 9 御すまぬはなをくるしかりけりところさり給に事よせてさるへきところに

47ウ

1 うつろはしたてまつらんときこえをきてあさりにも御いのり心に入へ
 2 くのとたまひしらせて出たまひぬ此君の御ともなる人のいつしかとこゝなる
 3 わかき人をかたらひよりたるありけりをのかしゝの物語にかの宮の御しのひ
 4 ありきせいせられ給て内にのみこもりおはします年右のおほい殿の
 5 ひめ君をあはせてまつり給ふへかなる女かたは年ころの御ほいなれはお
 6 ほしとゝこほる事なくて年の内にありぬへか也宮はしふゝにおほしてうちわ
 7 たりにもたゝすきかましき事に御心をいれてみかときさきの御いましめに
 8 しつまり給ふへうもあらさめりわかとのこそなをあやしう人ににたまはすあまり
 9 まめにおはしまして人にはもてなやまれ給へこゝにかくわたり給のみなん目も

48オ

1 あやにおほろけならぬ事と人申なとかたりけるをさこそいひつれなと人々
 2 の中にてかたるを聞給ふにいとゝむねふたかりていまはかきりにこそあなれや
 3 む事なきかたにさたまりましたまはぬ程のなをさりの御すまぬにかうまでおほし

4 けんをさすかに中納言などのおもはんとおほしてことの葉のかきりふかきなり
 5 けりと思なし給にともかくも人の御つらさは思しられすいと、身のをきところ
 6 なきこゝ地してしほれふし給へりよはき御こゝちはいとゝ世に立とまるへうもお
 7 ほえずはつかしけなる人々にはあらねと思ふらんとくるしければきかぬやう
 8 にてね給へるをひめ宮物おもふ時のわさときゝしうたゝねの御さまのいとらうたけ
 9 にてかなひを枕にてね給へるに御くしのたまりたる程などありかたうつくしけ

48ウ

1 なるを見やりつゝおやのいさめしことの葉も返々思出られ給てかなしければ
 2 つみふかうなるそこにはよもしつみたまはしいつくにもゝおはすらんかたにむかへ
 3 給てよかういまいしう物おもふ身とを打すて給て夢にたに見えたまはぬよと
 4 思つゝけ給夕暮の空の氣しきいとすこう時雨て木のした吹はらふ風の音
 5 などにとへむかたなくきしかた行さき思つゝけられてそひふし給へるさま
 6 あてにかきりなく見え給しるき御そにかみはけつる事もしたまはて程へぬれと
 7 まよふすぢなく打やられて日ころにすこしあをみ給へるしもなまめかしさまさりて
 8 なかめいたし給へるま見ひたいつきの程も見しらん人に見せまほしひるねの君
 9 風のいとあらきにおとろかされておきあかり給へり山ふきうす色など花やか

49オ

1 なる色あはひに御かほはことさらにそめにほはしたらむやうにいとおかしう花々として
 2 いさゝか物思ふへきさまもしたまへらすこ宮の夢に見え給へるいと物おほしたるけしき
 3 にて此わたりにこそほのめき給へれとかたり給へはいとゝしうかなしきそひてうせ給て
 4 後いかて夢にも見たてまつらんと思ふをさらにこそ見たてまつらねとて二ところながら
 5 いみしうなき給ふ此ころ明暮思出たてまつればほのめきもやおはすらんいかてお
 6 はすらんところになつねまいらんつみふかける身とてと後の世をさへ思やり給
 7 人の国にありけんかうのけふりそいとえまほしうおほさるゝいとくらうなる程に宮より
 8 御つかひありおはすこし物おもひなくさみぬへし御かたはとみにも見たまはすなを
 9 心うつくしうおいらかなるさまにきこえ給へかうてはかなうもなり侍なはこれより

49ウ

1 名残なきかたにたにもてなし聞ゆる人もや出こんとうしろめたきをまれにも此人
 2 の思ひ出きこえたまはんにさやうなるあるまじき心つかう人はえあらしとおもへはつらき
 3 なからなんたのまれはへるときこえ給へはをくらさむとおほしけるこそいみしう侍れとて
 4 いよくかほひき入給かきりあればかた時もとまらしと思しかとなからふるわさなりけり
 5 と思侍そやあすしらぬ世のさすかになけかしきもたかためおしきいのちにかはとておほ
 6 となふらまいらせて見給ふれいのこまやかにかきたまひて

7 なかむるはおなし雲をいかなれはおほつかなさを

8 そふる時雨そかく袖ひつるなといふ事もやありけんみゝなれにたるなをあらし事と
 9 見るにつけてもうらめしさまさり給さはかり世にありかたき御ありさまかたちを

50オ

1 いとゝいかて人にめてられんこのましくえんにもてなし給へればわかき人の
 2 心よせたてまつりたまはんことはり也程ふるにつけても恋しうさはかりところ
 3 せきまで契りをき給しをさりともしとかくてはやましと思なをす心そつねに
 4 そひける御返こよひまいりなんと聞ゆればこれかれそゝのかし聞ゆれば一ことなん
 5 あられふるみ山のさとの朝ゆふになかむる空も
 6 かきくらしつゝかくいふは神な月つこもりなりけり月もへたゝりぬる

7 よと宮しつ心なくおほされてこよひくとおほしつゝさはりおほみなる程に
8 五せちなどよく出きたる年にてうちわたりいまめかしくまきれかちにてわさ
9 ともなけれとすくい給程にあさましう待とをなりはかなう人を見給につけ

50ウ

1 てもさるは御心にはなるゝおりなし右のおほひ殿のわたりの事大宮もなをさる
2 のとやかなる御うしろみをまうけ給てそのほかにたつねまほしうおほさるゝ人あらは
3 まいらせてをもくしくもてなし給へときこえ給へとしはしさ思給ふるやうなん
4 なときこえすまぬ給てまことにつらきめはいかてか見せんなどおほす御心を
5 しりたまはねは月日にそへて物をのみおほす中納言も見し程よりはかるひたる
6 御心かなざりともと思きこえけるもいとおしく心からおほえつゝおさくまいりたまはす
7 山里にはいかにくゝとふらひきこえ給此月となりてはすこしよろしうおはすときゝ
8 給けるにおほやけわたくし物さはかしきころにて五六日も人もたてまつれたま
9 はぬにいかならんと打おとろかれ給てわりなき事のしけさを打すてゝまかて

51オ

1 給ふすほうはをこたりはて給までとのたまひをきけるをよろしくなりにけりとてあ
2 さりをまかへし給ければいと人すくなにてれいの老人出て御ありさま聞ゆそこ
3 はかとなくいたきところもなくおとろくゝしからぬ御なやみに物をなんさらきこし
4 めさぬもとより人にたまはすあえかにおはしますうちに此宮の御事出きにし後いとゝ
5 物おほしたるさまにてはかなき御くた物たに御らんし入たまはさりしつもりにや
6 あさましくよはくなり給てさらにたのむへくも見えたまはす世に心うく侍り
7 ける身のいのちなかさにてかゝる事を見たてまつればまついかてさきたちきこえなんと
8 思い侍といひもやらすなくさまことほり也心うくなくともつけたまはさりける
9 院にも内にもあさましう事しけきころにて曰ころもえきこえさりつるおほつかなさ

51ウ

1 とてありしかたにいり給ふ御まぐらかみちかうて物きこえ給へと御こゑもなきやう
2 にてえいらへたまはすかくをもくなり給まで誰もくつけたまはさりつるかつらう思ふに
3 かひなき事と恨てれいのあさり大かた世にしるしありと聞ゆる人のかきりあま
4 たさうし給みすほうと経あくる日よりはしめさせたまはんとてとの人あまた
5 まいりつとひかみしもの人立さはきたれは心ほそさのこりなくたのもしけ也暮ぬれ
6 はれいのあなたにときこえて御ゆつけなとまいらんとすれとちかくてたに見たて
7 まつらんとてみなみのひさはさうのさなればひんかしおもてのいますこしちかき
8 かたに屏風なとたてさせていりぬ給中の宮くるしとおほしたれと此御中をなをもて
9 はなれたまはぬなりけりとみな思てうとくもえもてなしへたてたてまつらすそやより

52オ

1 はしめてほけ経をふたんによませ給こゑたうときかきり十二人していとたう
2 とし火はこなたのみなみのまにともしてうちほくらきにきちやうをひきあけてす
3 こしすへり入て見たてまつり給へは老人とも二三人そさふらふ中の宮はふとかくれ
4 たまひぬれはいと人すくなに心ほそくてふし給へるをなとか御こゑをたにきかせた
5 まはぬとて御手をとらへておとろかしきこえ給へはこゝちにはおもほえなから物いふか
6 いとくるしうでなん曰ころ音つれたまはさりつればおほつかなくてすき侍りぬへき
7 にやとくちおしくこそ侍つれといきのしたにのたまふかくまたれたてまつる程まで
8 まいりこさりける事とてさくりもよゝとなき給御くしなどすこしあつくそおはし
9 けるなにのつみなる御こゝちにか人のなけきおふこそかくはあんなれと御みゝにさし

52ウ

1 あてゝ物をおほくきこえ給へはうるさうもはつかしうもおほえてかほふたき給へり
 2 いとゝなよくとあえかにてふし給へるをむなしう見なしていかなるこゝちせんとむねも
 3 ひしけておほゆ日ころ見たてまつり給へらん御こゝ地もやすからすおほされつらん
 4 こよひたに心やすく打やすませ給へとのぬ人さふらふへしときこえ給へはうしろめ
 5 たけれとさるやうこそはとおほしてすこししそき給へりひたおもてにはあらねとはひより
 6 つゝ見たてまつり給へはいとくるしうはつかしけれとかゝるへき契りこそはありけめとおほ
 7 してこよなうのとかにうしろやすき御心をかのかたつかたの人に見くらへたてまつり給へはあ
 は

8 れとも思しられにたりむなしうなりなん後の思ひ出にも心こはく思くまなからしとつゝみ
 9 給てはしたなくもえをしはなちたまはず夜もすから人をそゝのかして御ゆなとまい

53才

1 らせたてまつり給へと露はかりまいる気しきもなしのみしのわさやいかにしてはかけとゝむ
 2 へきといはんかたなく思ひ給へるふたん経の暁かたのぬかはりたるこゑのいとたうときに
 3 あさりもよぬにさふらひてぬふりたる打おとろきてたらによむおいかれにたれといとくう
 4 つきてたのもしう聞ゆいかゝこよひはおはしましつらんなと聞ゆるついでにこ宮の御事なとき
 こ

5 え出てはなしはく打かみていかなるところにおはしますらんさりともしきかたにぞ思や
 り

6 たてまつるをさいつころ夢になん見えおはしましゝそくの御かたちにて世中をふかういとひ
 7 はなれしかは心とまる事なかりしをいさゝか打思しことにみたれてなんだゝしはしねかひの
 8 ところをへたゝれるをなんいとかやしきすゝむるわさせよとさたかにおほせられしを

9 たちまちにつかうまつるへき事のおほえ侍らねはたへたるにしたかひてをこなひし侍法師

53ウ

1 はら五六人してなにかしの念仏なんつかうまつらせ侍まては思給へたる事侍て常不
 2 輕をなんつかせ侍るなど申に君もいみしうなき給かの世にさへさまたけ聞らんつみの程を
 3 くるしきこゝちにもいとゝきえいりぬはかりおほえ給いかてかのまたさたまりたまはさらん
 4 さきにまうてゝおなしどころにもときゝふし給へりあさは事すくなにてたちぬこの
 5 さうふきやうそのわたりのさとゝ京までありきけるを暁の嵐にわひてあさりの
 6 さふらふあたりをたつねてちうもんのもとにゐていとたうとくつくえかうのすゑつ
 7 かたの心はへいとあはれ也まらうともこなたにすゝみたる御心にてあはれしのれたま
 8 はす中の宮せちにおほつかなくておくのかたなるきちやうのうしろにより給けるけはひ
 9 を聞給てあさやかになをり給て不輕のこゑはいかゝきかせ給つらんをもくしくみち

54才

1 にはをこなはぬ事なれとたうとくこそ侍けれとて

2 霜さゆるみきはの千鳥うちわひてなくねかなしき

3 朝ほらけかなこと葉のやうにきこえ給つれなき人の御けはひにもかよひて

4 おもひよそへらるれといらへにくゝて弁してそきこえ給

5 あか月の霜うちらはひなく千鳥物おもふ人の

6 心をやるにつかはしからぬ御かはりなれとゆへなからすきこえなすかやう

7 のはかなし事もつゝましけなる物からなつかしうかひあるさまにとりなし

8 のたまう物をいまはとてわかれないかなるこゝちせんと思まどひ給

9 宮の夢に見え給けんさまおほしあはするにかう心くるしき御ありさまとをも

54ウ

1 あまかけりてもいかに見給ふらんとをしはかられておはしまし、御寺にもみす
 2 経をせさせ給ところゝに御いのりのつかひいたしてさせ給おほやけにもわたくし
 3 にも御いとまのよし申給てまつりはらへよろつにいたらぬところなくし給へと物の
 4 つみめきたる御やまひにもあらざりければなにのしるしも見えすみつからもたい
 5 らかにあらんとも仏をもねんしたまは、こそあらめなをかゝるついでにいかでうせなん
 6 此君のかくそひめてのこりなくなりぬるをいまはもてはなれんかたなしさりとて

55オ

1 おほすをさまでさかしき事はえ打出たまはて中の宮にこゝちのいよくゝたのもしけなくおほ
 2 ゆるをいむ事なんいとしるしありていのちのふる事と聞しをさやうにあさりにのたまへとときこ
 え

3 給へはみななきさはきていとあるましき御事也かくはかりおほしまとふめる中納言殿も
 4 いかゝあへなきやうに思きこえたまはんとにけなき事に思てたのもし人にも申つかねは
 5 くちおしうおほすかくこもりぬ給へれは聞つきつゝ御とふらひにふりはへ物し給人もあり
 6 をろかにおほされぬ事と見たてまつればとの人したしきけいしなとはをのゝよろつの御
 7 いのりをせさせなけき聞ゆとよのあかりはけふそかしと京思やり給風いたうふきて
 8 雪のふるさまあはたゝしうあれまどふ都にはいとかうしもあらしかしと人やりならず
 9 心ほそうてうとくてやみぬへきにやと思ふ契りはつられとらむへうもあらすなつかしう

55ウ

1 らうたけなる御もてなしをたゝしはしにてもれいになして思つる事ともかたらはゝやと思つゝ
 けて

2 なかめたまうひかりもなくてくれはてぬ

3 かきくもり日かけも見えぬおく山にこゝろをくらす

4 ころにもあるかなたゝかくておはするをたのみにみな人思きこえたりれいのちか
 5 きかたにぬ給へるにみきちやうなどを風のあらはに吹なせは中の宮おくに

6 入給見くるしけなる人々もかゝやきかくれぬる程にいとちかうよりて

7 いかゝおほさるゝこゝちに思のこす事なくねんし聞ゆるかひなく御こゑをたに

8 きかすなりにたれはいとこそわひしけれをくらかしたまはゝいみしうつらからむと
 9 なくゝきこえ給物おほえすなりにたるさまなれとかほはいとよくかくし給へり

56オ

1 よろしきひまあらはきこえまほしき事も侍れとたゝきえ行やうに
 2 のみなりゆけはくちおしきわさにこそといとあはれと思給へる氣しきなるに
 3 いよくせきとめかたくてゆゝしうかく心ほそけに思ふとは見えしとつゝみ給へと
 4 こゑもおしますいかなる契りにてかきりなく思きこえなからつらき事おほくて
 5 別たてまつるへきにかすこしうきさまをたに見せたまはゝなん思さます

6 ふしにもせんとまもれといよくあはれけにあたらしくおかしき御ありさまのみ見ゆ
 7 かいななともいとほそうなりて影のやうによはけなる物から色あぬもかはらすしう
 8 ううつくしけになよくとしてしるき御そものなよひかなるにあはれををしやりて
 9 中にみもなきひゝなをふせたらむこゝちして御くしはいとこちたうもあらぬ程に打

56ウ

1 やられたる枕よりおちたるきはつやくとめてたうおかしけなるもいかになり給
 2 なんとするそとあるへき物にもあらさめりと見るかおしき事たくひなしこゝらひさし
 3 うなやみてひきもつくるはぬ気はひの心とけすはつかしけにかきりなうもてなしさまよふ
 4 人にもおほうまさりてこまかに見るまゝに玉しぬもしつまらんかたなしつゐに打すて給ては
 5 世にしはしもとまるへきにもあらすいのちもしかきりありてとまるへうともふかき山に
 6 さすらへなんとすたゝいま心くるしうてとまりたまはん御事をなん思きゆるといらへさせたて
 7 まつらむとてかの御事をかけ給へはかほかくし給御袖をすこしひきなをしてかくはかなかりけ
 8 物と思くまなきやうにおほされたりつるもかひなければ此とまりたまはん人をおなし事と
 9 思きこえ給へとほのめかしきこえしにたかへたまはさしましかはうしろやすからましと是のみ

57才

1 なんうらめしきふしにてとまりぬへくおほえ侍とのたまへはかくいみしう物おもふへき身
 2 にやありけんいかにもくことさまに此世を思かゝつらふかたの侍らさりつれば御おもむけに
 3 したかひきこえすなりにしいまなん心くるしうもおほゆるされともうしろめたくな思き
 4 こえ給そなとこしらへていとくるしけにし給へはすぼうのあさりとめめしいれさせさまくの
 5 けんあるかきりしてかちまいらせ給我も仏をねんせさせ給事かきりなし世中を
 6 ことさらにいとひはなれねとすゝめ給仏などのいとかくいみしき物はおもはせ給にやあらむ
 7 見るまゝに物のかれゆくやうにてきえはて給ぬるはいみしきわさかなひきとゝむへき
 8 かたなくあしすりもしつへく人のかたくなしと見む事もおほえすかきりと見たてまつり
 9 給て中の宮のをくれしと思まといひ給へるさまもことほり也あるにもあらす見え給を

57ウ

1 れいのさかしき女房いまはいとゆゝしき事とひきさけたてまつる中納言の君は
 2 さりともいとかゝる事あらし夢かとおほえて御となふちかうかゝけて見たてまつり
 3 給にかくし給ふかほもたゝね給へるやうにてかはり給へるところもなくうつくしけにて
 4 打ふし給へるをかくなからむしのからのやうにてもみるわさならましかはと思まとはるいまは
 5 の事ともするに御くしをかきやるにさと打にほひたるたゝありしなからのにほひになつかしう
 6 かうはしきもありかたう何事にて此人をすこしもなのめなりしと思さまさむまことに世中
 7 を思すてはつるしるへならはおそろしけにうき事のかなしさもさめぬへきふしをたに見つけ
 8 させ給へと仏をねんし給へといとゝ思のとめんかたなくのみあればいふにかひなくてひたふる
 9 けふりにたになしはてゝむとおほゝしてとかくれいのさほうともするそあさましかりける

58才

1 空をあゆむやうにたゝよひつゝかきりのありさまさへはかなけにてけふりも
 2 おほくむすほゝれたまはすなりぬるもあへなしとあきれてかへりたまひぬ御いみに
 3 こもれる人数おほくて心ほそさはすこしまきれぬるへけれと中の宮は人の見思ふ
 4 らむ事もはつかしき身の心うさを思しつみ給て又なき人に見え給宮よりも
 5 御とふらひいとしけくたてまつれ給おもはずにつらしと思きこえ給へりし氣しきもお
 6 ほしなをしてやみぬるをおほすにいと憂人の御ゆかり也中納言かくよの心うくおほ
 7 ゆるついでにほいとけむとおほさるれと三条の宮のおほさん事にはゝかり此
 8 君の御事の心くるしさに思みたれてかのゝたまひしやうにてかたみにも見るへかり
 9 ける物をしたの心は身をわけ給へりともうつろふへくはおほえさりしをかう物おもはせたてま
 つるよりは

58ウ

1 たゝ打かたらひてつきせぬなくさめに見たてまつりかよはまし物をなとおほすかり
 2 そめに京にも出たまはすかきたえなくさむかたなくてこもりおはするをよ人も
 3 をろかならず思給へる事と見聞て内よりはしめたてまつりて御とふらひおほかり
 4 はかなくて日ころはすきゆく七日の事もいとたうとくせさせ給つゝをろかならず
 5 けうし給へとかきりあれば御その色のかはらぬをかの御かたの心よせわきたりし人の
 6 いとくろうきかへたるをほの見たまうも

7 くれなぬにおつるなみたもかひなきはかたみの色は

8 そめぬなりけりゆるし色のこほりとけぬかで見ゆるをいとゝぬらしそへつゝなかめ給

9 さまのいとなまめかしうきよけ也人々のそきつゝ見たてまつりていふかひなき御事をは

59才

1 さる物にて此殿のかくならひたてまつりていまはとよそに思きこえむこそあたら

2 しうくちおしけれ思のほかなる御すくせにもおはしけるかなかくふかき御心の程をかたくに

3 そむかせ給へるよとなきあへり此御かたにはむかしの御かたみにいまは何事もきこえうけたま

は

4 らむとなん思給ふるうとくしくおほしへたつなときこえ給へはよろつの事うき身なりけり

5 と物のみつゝましくてまたたいめんして物なときこえたまはす此君はけさやかなるかたに

6 いますこしこめきけたかくおはする物からなつかしうにほひある心さまそをとり給へり

7 けるとことにふれておほゆ雪のかきくらしふる日ひねもすになかめくらしてよの人

8 のすさまじき事にいふなるしはすの月夜のくもりなくさし出たるをすたれまきあけて

9 見給へはむかひの寺のかねのこゑ枕をそはたてゝけふも暮ぬとかすかなるひゝきをきゝて

59ウ

1 をくれしと空ゆく月をしたふかなつぬにすむへき

2 此世ならねは風のいとはけしけれはしとみおろさせ給によもの山のかゝみとみゆる汀の

3 こほり月影にいとおもしろし京の家のかきりなくとみかくもえかうはあらぬはやとお

4 ほゆわつかにいき出て物したまはましかはもろともにきこえましと思つゝくるそむねより

5 あまるこゝ地する

6 恋わひてしぬるくすりのゆかしきに雪の山にや

7 跡をけなましなかはなるけをしへむおにもかな事つけて身もなけんとおほすそ心

8 きたなきひしり心なりける人々ちかうよひ出給て物語などせさせ給けはひなどのいとあらま

9 ほしうのとやかに心ふかきを見たてまつる人々わかきは心にしめてめてたしと思たてまつる老

たるはたゝくち

60才

1 おしういみしき事をいとゝおもふ御こゝちのをもくならせ給し事もたゝ此宮の御事をおもはす

に

2 見たてまつり給て人わらへにいみしとおほすめりしをさすかにかの御かたにはかくと思ふとし

られたて

3 まつらしとたゝ御心一に世をうらみ給ふめりし程にはかなき御くた物をもきこしめしいれすた

ゝ

4 よはりになんよはらせ給めりしうはへにはなにはかりことくしう物ふかけにももてなさせた

まはて

5 したの御心のかきりなく何事もおほすめりしにこ宮の御いましめにさへたかひぬる事とあいな

う人の

6 御うへをおほしなやみそめしなりときこえておりくゝにのたまひし事なとかたり出つゝ誰も

くなきまどふ

7 事つきせず我心からあぢきなき事をおもはせたてまつりけん事ととりかへさまほしくなへての
8 世もつらきにねんすをいとゝあはれにし給てまどろむ程なくあかし給にまた夜ふかき程
9 の雪のけはひいとさむけなるに人々こゑあまたして馬の音きこゆなにかはかゝる

60ウ

1 さ夜中に雪をわくへきとたいとこたちもおどろきおもへるに宮のかりの御そに
2 いたうやつれてぬれくゝいり給へるなりけり打たゝき給さまさなゝりと聞給て中納
3 言はかくろへたるかたにいり給ふてしのひておはす御いみは日数のこりおほかりけれと
4 心もとなくおほしわひて夜一夜雪にまとはされておはしましける日ころのつらさも
5 まきれぬへき程なれとたいめんし給ふへきこゝ地もせずおほしなきたるさまのはつかしか
6 りしをやかて見なをされたまはすなりにしもいまより後の御心あらたまらんはかひなかるへく
7 思しめて物し給へは誰もくゝいみしうことほりをきこえしらせつゝ物こしにてそ日ころのをこ
8 たりつきせずのたまうをつくくゝと聞ぬ給へり是もいとあるかなきかにてをくれ給ふましき
9 にやと聞ゆる御けはひの心くるしさをうしろめたういみしと宮もおほしたりけふは御身をすて

61オ

1 とまりたまひぬ物こしならてといたうわひ給へといますこし物おほゆる程まで侍らはとのみ
2 きこえ給てつれなきを中納言はけしき聞給てさるへき人めし出て御ありさまにたかひて
3 心あさきやうなる御もてなしのむかしもいまも心うかりける月ころのつみはさも思きこえ
4 給ぬへき事なれとにくからぬさまにこそかうかへたてまつりたまはめかやうなる事また見
5 しらぬ御心にてくるしうおほすらんなとしのひてさかしかり給へはいよく此君の御心もはつ
かし

6 うてえきこえたまはすあさましう心うくおほしけりきこえをきしさまをもむけにわすれ
7 給ける事とをろかならすなけき暮し給へるよのけしきいとゝけはしき風の音に人やり
8 ならすなけきふし給へるもさすかにてれいの物へたてゝきこえ給干ゝのやしるをひ
9 きかけて行さきなかき事を契りきこえ給もいかてかくくちなれ給けんこ心う

61ウ

1 けれとよそにてつれなき程のうとましきよりはあはれに人の心もたをやきぬへき御
2 さまを一かたにもえうとみはつましかりけりとたゝつくくゝときゝたまひて

3 きしかたをおもひいつるもはかなきをゆくすゑかけて

4 なにたのむらんほのかにのたまう中々いふせう心もとなし

5 ゆくすゑをみしかき物とおもひなは目のまへにたに

6 そむかさらなん何事もいとかう見る程なき世をつみふかくなおほしなそとよろつゝ

7 にこしらへ給へとこゝちもなやましくなるとて入給にけり人の見るらんもいとひとわろくて

8 なけきあかし給うらみんなもことほりなる程なれとあまり人にくゝつらき涙のおつれ

9 はましていかに思つらんとさまくゝあはれにおほししらる中納言のあるしかたにすみ

62オ

1 なれて人々やすらかにかよひつかひ人もあまたして物まいらせなとし給ふを
2 あはれにもおかしうも御らんすいといたうやせあをみほれくゝしきまで物を思たれは
3 心くるしと見給てまめやかにとふらひ給ふありしさまなとかひなき事なれと此宮
4 にこそはきこえめとおもへと打いてんにつけてもいと心よはくかたくなしく見えたてま
5 つらんにはゝかりて事すくな也ねをのみなきて日数へにければかほかはりしたるも見
6 くるしくはあらていよく物きよけになまめいたるを女ならはかならす心うつりなんとをの

7 かけしからぬ御心ならひにおほしやるもなまうしろめたかりければいかて人のそしり恨をも
 8 はふきて京にうつろはしてんとおほすかくつれなき物から打わたりにもきこしめして
 9 いとあしかるへきにおほしわひてけふはかへらせたまひぬをろかならすことの葉をつくし給へ
 と

62ウ

1 つれなきはくるしき物をと一ふしをおほししらせまほしくて心とけすなりぬ年の暮かたには
 2 かゝらぬところたに空の氣しきれいにはにぬをあれぬ日もなくふりつむ雪に打なかめつゝ
 3 明し暮し給こゝちつきせす夢のやう也御わさめいかめしうせさせ給宮よりもみす経
 4 などこちたきまでとふらひきこえ給かくてのみやはあたらしき年さへなけきすくさん
 5 こゝかしこにもおほつかなくてとち給へる事をきこえ給へはいまはとてかへりたまはんこゝち
 も

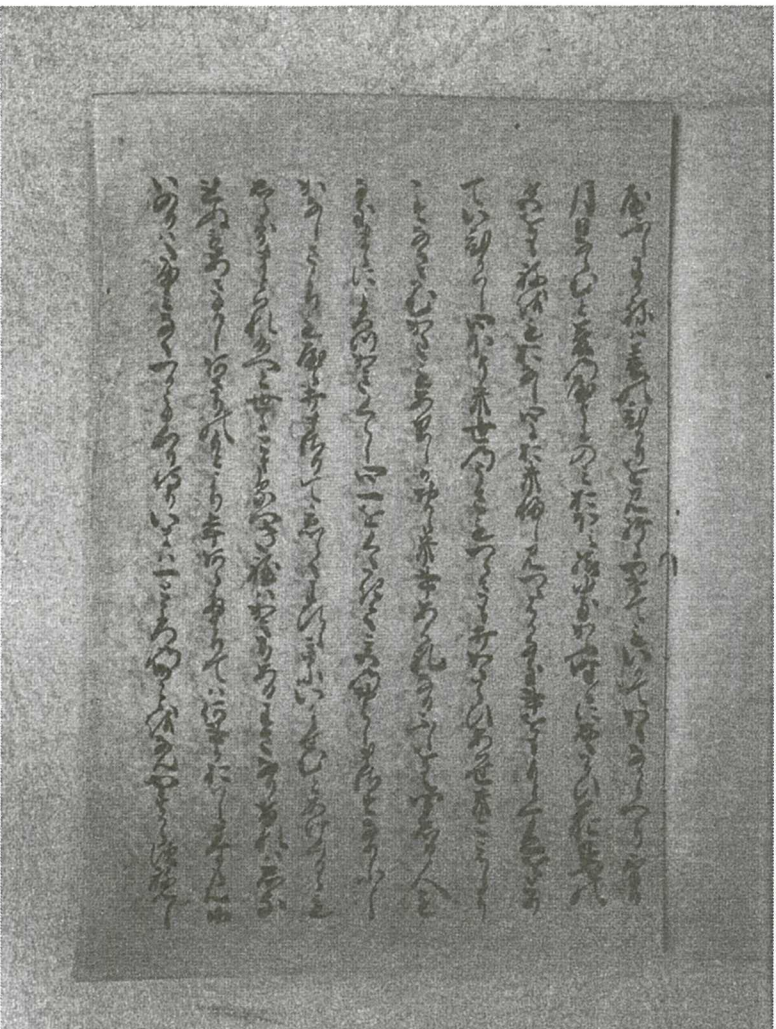
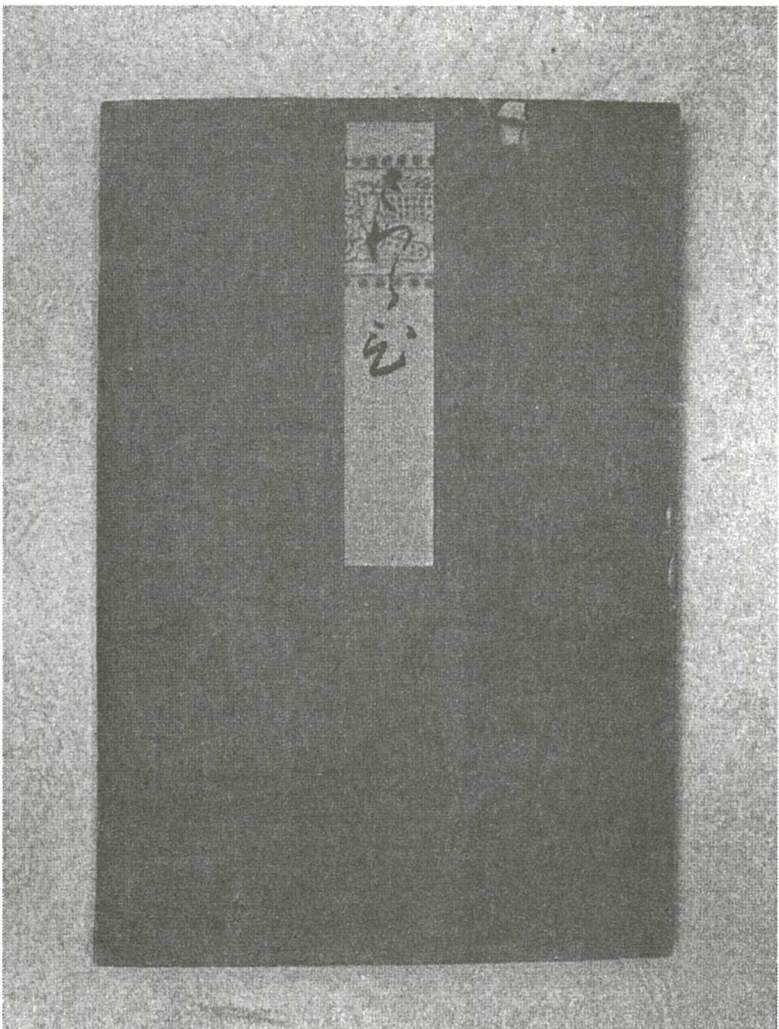
6 たとへんかたなしかくおはしならひて人しけかりつる名残なくならんを思わふる人々
 7 いみしかりしおりのさしあたりてかなしかりしさはきよりも打しつまりていみしうおほゆ
 8 時々おりふしおかしやかなる程にきこえかはし給し年ころよりもかくのとやかにてすくし
 9 給へる日ころの御ありさまけはひのなつかしうなけきふかうはかなき事にもまめなるかたにも

63オ

1 おもひやりおほかる御心はへをいまはかきりに見たてまつりさしつる事とおほゝれ
 2 あへりかの宮よりはなをかうまいりくる事もいとかたきを思わひてちかうわた
 3 いたてまつるへき事をなしたばかり出たるときこえ給へりきさいの宮きこし
 4 めしつけて中納言もかくをろかならず思ほれてゐたなるはけにをしなへて
 5 おもひかたうこそは誰もおほさるらめ心くるしかり給て二条院のにしのたいに
 6 わたい給てときくもかよひたまうへくしのひてきこえたまひければ女一の
 7 宮の御かたにことよせておほしなるにやとおほしなからおほつかな
 8 かるまじきはうれしくてのたまうなりけりさなゝりと中納言も
 9 きゝ給て三条の宮もつくりはてゝわたいたてまつらん事を思し

63ウ

1 物をかの御かはりになすらへても見るへかりけるをなとひきかへし
 2 こゝろほそし宮のおほしよるめりしすちはいとにけない事に思ひ
 3 はなれて大かたの御うしろみはわれならて又たれかはと
 4 おほすとや



1才

1 やふしわかねは春のひかりを見給につけてもいかてかくなからへにける
 2 月日ならむと夢のやうにのみおほえ給ゆきかふ時々にしたかひ花鳥の
 3 色をもねをもおなし心におきふし見つゝはかなき事をもとす糸をとり
 4 ていひかはし心ほそき世のうさもつらさも打かたらひあはせきこえしに
 5 こそなくさむかたもありしかおかしき事あはれなるふしをも聞しる人も
 6 なきまゝによろつかきくらし心一をくだきて宮のおはしまさすなりにし
 7 かなしさよりもやゝ打まさりて恋しくわひしきにいかにせむとあけくるゝも
 8 しらすまとはれ給へと世にとまるへき程はかぎりあるわさなりければしな
 9 れぬもあさましあさりのもとより年あらたまりては何事かおはしますらん御
 10 いのりははたゆみなくつかうまつり侍りいまはひとつの御ことをなんやすからすねんし

1ウ

1 きこえさするなときこえてわらひつくゝしおかしきこにいれて
 2 これはわらはへのくやうして侍るはつおなりとてたてまつり手は
 3 いとあしうてうたはわさとかましくひきはなちてかきたる
 4 君にとてあまたの春をつみしかはつねをわすれぬ
 5 はつわらひなり御まへによみ申さしめ給へとありたいしとおもひま
 6 はしてよみいたしつらんとおほせはうたの心はへもいとあはれにてなをさり
 7 にさしもおほさぬなめりと見ゆることの葉をめてたくこのましけに
 8 かきつくし給へる人の御文よりはこよなくめとまりてなみたもこ
 9 ほるれはかへり事かゝせ給
 10 この春はたれにか見せむなき人のかたみにつめる

2才

1 みねのさわらひつかひにろくとらせさせ給いとさかりにほひお
 2 ほくおはする人のさまゝの御物おもひにすこし打おもやせたてまつりいと
 3 あてになまめかしきけしきまさりてむかし人にもおほえたてまつり
 4 ならひたてまつりしおりはとりゝにてさらにたてまつりとも見えさりし
 5 を打わすれてはふとそれかとおほゆるまでかよひ給へるを中納言殿のからを
 6 たにとめて見たてまつる物ならましかはとあさ夕に恋きこえ給めるに
 7 おなしくは見えたてまつり給御すくせならさりけんよと見たてまつる人々は
 8 くちおしかるかの御あたりのかよひくるたよりに御ありさまはたえず聞かはし
 9 給けりつきせす思ほれ給てあたらしき年ともいはずなり給へる
 10 と聞給てもけに打つけの心あさゝには物したまはさりけりといとゝいまそ

2ウ

1 あはれもふかく思しらるゝ宮はおはします事のいところせくありかたけれ
 2 は京にわたしきこえんとおほしたちになりないえんなど物さはかしきころ
 3 すくして中納言のきみ心にあまる事をも又是にかはかたらはんとおほしわひて
 4 兵部卿の宮の御かたにまいり給へりしめやかなる夕暮なれは宮打なかめ給て
 5 はしちかくそおはしましけるさうの御ことかきならしつゝれいの御心よせなる梅の
 6 かをめておはするしつえををしおりてまいり給へるにほひのいとえんにめてたきを
 7 おりおかしうおほして
 8 おる人のこゝろにかよふ花なれやいろにはいてす
 9 したにほへるとのたまへは

10 見る人にかことよせける花のえをこゝろしてこそ

3才

1 おるへかりけれわつらはしくとたはふれかはし給へるいとよき御あはひ也
 2 こまやかなる御物語ともになりてはかの山さとの御事をそまつはいかにと
 3 宮はきこえ給中納言もすきにしかたのあかすかなしき事そのかみよりけふ
 4 まて思のたえぬよしおりくにつけてあはれにもおかしくもなきみわらひ
 5 み見とかいふらんやうにきこえて給にましてさはかりいろめかしく涙もろ
 6 なる御くせは人の御うへにてさへ袖もしほるはかりになりてかひくしくそあいしらい
 7 きこえ給める空の気しきもまたけにそあはれしりかほに霞わたれるよるに
 8 なりてはけしう吹出る風のけしきはた冬めきていとさむけにおほとものなふら
 9 もきえつゝやみはあやなきたとくしさなれとかたみにきゝさし給ふへくもあら
 10 すつきせぬ御物語をえはるけやりたまはて夜もいたうふけぬよにためし

3ウ

1 ありかたかりける中のむつひをいてさりともしいとさのみはあらさりけんとのこり
 2 ありけにとひなし給そわりなき御心ならひなめるかしさりながら物に心え給て
 3 なけかしき心のうちもあきらむはかりかつはなくさめ又あはれをもさましさまく
 4 かたらひ給御さまのおかしきにすかされたてまつりてけに心にあまるまで
 5 思むすほゝるゝ事もすこしつゝかたりきこえ給そよなくむねのひきあく
 6 こゝちし給宮もかの人ちかくわたしきこえてんとする程のこととかたらひきこ
 7 え給をいとうれしき事にも侍かなあひなくみつからのあやまちとなん思ふ給へら
 8 るるあかぬむかしのなこりを又たつぬへきかたを侍らねは大かたにはなに事につけて
 9 も心よせ聞ゆへき人となん思給ふるをもしひなくやおほしめさるへきとてかの
 10 こと人とな思わきそとゆつり給し心をきてもすこしはかたりきこえ給へといは

4才

1 せのもりのよふこ鳥めいたりし世のことは残したりけり心のうちにはかくなく
 2 さめかたきかたみにもけにさてこそかやうにもあつかひ聞ゆへかりけれとく
 3 やしきことやうくまさりゆけといまはかひなき物ゆへつねにかうのみおもはゝ
 4 あるましき心もこそいてくれたかためにもあちきなくをこましからんと
 5 おもひはなるさてもおはしまさんにつけてもまことに思ひうらみきこ
 6 えんかたは又たれかはおほせは御わたりの事ともゝ心まうけさせ給
 7 かしこにもよきわか人わらはなともとめて人々は心ゆきかほにいそきお
 8 もひたれといまはとて此ふしみをあらしはてんもいみしく心ほそければ
 9 なけれ給事つきせぬをさりとて又せめて心こはくたへこもりて
 10 もたけかるましくあさからぬ中の契りもたえはてぬへき御すまゐを

4ウ

1 いかにおはしえたるそとのみ恨きこえ給もすこしはことほりなれは
 2 いかゝすへからむと思いたれ給へりきさらきのついたちころとあれは程
 3 ちかくなるまゝに花の木とのけしきはむも残りゆかしくみねの霞の
 4 たつを見すてんことをのかとこ世にてたにあらぬ旅ねにていかに
 5 はしたなく人わらはれることもこそなとよろつにつゝましく心一に思ひ
 6 あかしくらし給御ふくもかきりある事なれはぬきすて給にみそきもあさ
 7 きこゝちそするおやところは見たてまつらさりしかは恋しき事はおもほ
 8 えすその御かはりにも此たひの衣をふかくそめむと心にはおほしのたまへと

9 さすかにさるへきゆへもなきわさなれはあかすかなしきことかきりなし
10 中納言殿より御くるま御まへの人々はかせなとたてまつれ給へり

5才

1 はかなしやかすみどころもたちしまに花のひもとく
2 おりも来にけりけに色々いときよらにてたてまつれ給へり御わたりの
3 程のかつけ物ともなとことくしからぬ物からしなくこまやかにおほしやり
4 つゝいとおほかりおりにつけてはわすれぬさまなる御心よせのありかたくはら
5 からなともえいとかうまてはおはせぬわさそなど人々はきこえしらす
6 あさやかならぬふる人とも心の心にはかゝるかたを心にしめて聞ゆわかき人は
7 とくくも見たてまつりならひていまはとことさらになりたまはんを
8 さうくしくいかに恋しくおほえさせたまはんときこえあへりみつからは
9 わたりたまはんことあすとのまたつとめておはしたりれのまらう
10 とゐのかたにおはするにつけてもいまはやうく物なれて我こそ人

5ウ

1 よりさきにかやうにも思そめしかなどありさまのたまひし心はへを
2 思ひ出つゝさすかにかけはなれことのほかになとはしたなめたまはさり
3 しを我心もてあやしうもへたゝりにしかなとむねいたく思つゝけ
4 られ給かいま見せしさうしのあなも思ひ出らるればよりて見給へと此
5 中をおろしこめたれはいとかひなし内にも人々思ひ出てきこえつゝ
6 打ひそみあへり中の宮はましてもよほさるゝ御涙の川にあすの
7 わたりもおほえたまはすほれくしけにてなかめふし給へるに月ころ
8 のつもりしそこはかとなけれといふせく思ひ給へらるゝをかたはしも
9 あきらめきこえさせてなくさめ侍らはやれいのはしたなくなさし
10 はなたさせ給そいとゝあらぬ世のこゝ地し侍るときこえ給へればはし

6才

1 たなしとおもはれたてまつらんとしもおもはねといさやこゝ地もれいの
2 やうにもおほえすかきあたりつゝいとゝはかくしからぬひか事もやとつゝ
3 ましうてなとくるしけにおほいたれといとおかしなとこれかれきこえて
4 中のさうしのくちにてたいめんし給へりいと心はつかしけになまめきて又この
5 たひはねひまさり給にけりとめもおとろくまてにほひおほく人にもにぬ
6 ようゐなどあなめてたの人やとのみ見え給へるをひめ宮はおも影さらぬ
7 人の御事をさへ思ひ出きこえ給にいとあはれと見たてまつり給つき
8 せぬ御物語などもけふはこといみすへくやといひさしつゝわたらせ給ふ
9 へきところちかく此ころすくしてうつろひ侍へければよなか暁と
10 月々しき人のいひ侍めるなにとのおりにもうとからすおほし

6ウ

1 のたまはせは世に侍らんかきりはきこえさせうけたまはりてすくさ
2 まほしくなん侍をいかゝはおほすらむ人の心さまくゝに侍る世なれはあひ
3 なくやなと一かたにもえこそ思侍らねときこえ給へは宿をはかれ
4 しとおもふ心ふかく侍をちかくなどのたまはするにつけてもよるつにみたれ
5 侍てきこえさせやるへきかたもなくなところくゝいひけちていみしく
6 物あはれと思給へるけはひなといとようおほえ給へるを心からよその物に見
7 なしつるといとくやくしく思ひ給へれとかひなければその夜のことかけても

8 いはすわすれにけるにやと見ゆるまでけさやかにもてなし給へり御まへ
9 ちかきこうはいの色も香もなつかしきにうくひすたに見すくしかたけに
10 打なきてわたるめれはまして春やむかしのと心をまとはし給とちの御物語

7才

1 におりあはれなりかし風のさと吹いるゝに花の香もまらうとの御にほ
2 ひもたちはなならねとむかし思ひ出らるゝつま也つれゝのまきはしにも
3 世のうきなくさめにも心とゝめてあそひ給し物をなと心にあまり給へは
4 見る人も嵐にまよふやまさにとむかしおほゆる
5 花のかそするいふともなくほのかにてたえゝきこえたるになつかしけに
6 うちすんして

7 袖ふれし梅はかはらぬにほひにてねこめうつろふ

8 宿やことなるたへぬ涙をさまよくのかひかくしことおほくもあらずまた
9 もなをかやうにてなん何事もきこえさせよかるへきなときこえをきて
10 たちたまひぬ御わたりにあるへき事とも人々にのたまひをく此宿もりに

7ウ

1 かのひけかちのとのぬ人なとさふらふへければ此わたりのちかき御さう
2 ともなとにその事ともゝのたまひあつけなとまめやかなる事ともをさへ
3 さためをき給弁そかやうの御ともにも思かけすなかきいのちいとつらく
4 おほえ侍を人もゆゝしく見おもふへければいまは世にある物とも人にしら
5 れ侍らしとてかたちもかへてけるをしめてめし出ていとあはれと見給ふ
6 れいのむかし物語なとせさせ給てこゝにはなを時々はまいりくへきをいと
7 たつきなく心ほそかるへきにかくて物したまはんはいとあはれにうれしかるへき
8 ことになんなどえもいひやらすなき給ふいとふにはへてのひ侍いのちの
9 つらく又いかにせよとて打すてさせ給けんとうらめしくなへての世をも思ひ
10 給へしつむにつみもいかにふかく侍らんと思ける事ともをうれへかけ聞ゆるも

8才

1 かたくなしけなれといとよくいひなくさめ給いたくねひにたれとむかし
2 きよけなりける名残をそきすてたれとひたひのほとさまかはれるに
3 すこしわくなりてさるかたにみやひかなり思わひてはなとかゝる
4 さまにもてなしたてまつらさりけむそれにのふるやうもやあら
5 ましなと一かたならすおほえ給にこの人さへうらやましければ
6 かくろへたるきちやうをすこしひきやりてこまかにそ
7 かたらひ給けにむけにおもひほけたるさまなから物うち
8 いひたるけしきよういくちおしからすゆへありける人のなこり
9 と見えたり

10 さきにたつなみたの川に身をなけは人にをくれぬ

8ウ

1 いのちならましと打ひそみ聞ゆそれもとつみふかゝなる
2 ことにこそかのきしにいたる事なとかさしもあるましきことにて
3 さへふかきそこにしつみすくさんもあいなしすへてなへて
4 むなしく思とるへき世になんなどのたまふ
5 身をなけむ涙の川にしつみても恋しきせゝに
6 わすれしもせしいかならん世にすこしもおもひなくさむる事

7 ありなんとほてもなきこゝちしたまふかへらむかたもなく
 8 なかめられて日もくれにけれとすゝろに旅ねせんも人
 9 のとかむることやあいなければかへりたまひぬおもほし
 10 のたまへるさまをかたりて弁はいとゝなくさめかた

9才

1 暮まとひとりみな人はこゝろゆきたる氣しきにて
 2 ものぬひいとなみつゝおひゆかめるかたちをもしらす
 3 つくろひさまよふにいよくやつして

4 人はみないそきたつめる袖の浦にひとりもしほを
 5 たるゝあまかなとうれへきこゆれは

6 しほたるゝあまの衣にことなれやうきたる涙に

7 ぬるゝわか袖世にすみつかんこともありかたかるへきわさと

8 おほゆれはさまにしたかひてこゝをはあれはてしとなんおもふを

9 さらはたいめんもありぬへけれとしはしの程も心ほそくてたち

10 とまり給を見をくにいと心もゆかすなんかゝるかたちなる人も

9ウ

1 かならずひたふるにしもたへこもらぬわさなめるをなをよの

2 つねに思なして時々も見え給へなといとなつかしくかたらひ給むかし

3 の人のもてつかひ給しさるへき御てうとともなとはみな此人にとゝめ

4 をき給てかく人よりふかくおもひしつみ給へるを見ればさきの

5 世もとりわきたる契りもや物し給けむとおもふさへむつましくあは

6 れになんとのたまふにいよくわらはへのこひてなくやうに心おさ

7 めんかたなくおほゝれぬたりみなかきはらひよつとりしたゝめて

8 御くるまともよせて御せんの人々四位五位いとおほかり御みつからも

9 いみしうおはしまさまほしけれとことくしくなりて中々あしかるへければ

10 たゝしのひたるさまにもてなして心もとなくおほさる中納言殿よりも

10才

1 御せんの人かすおほくたてまつれ給へり大かたのことをこそ宮より

2 はおほしをきつめれこまやかなるうちくの御あつかひはたゝこのとの

3 より思よらぬことなくとふらひきこえ給ふ日くれぬへしと内にも

4 とにももよほしきこゆるにこゝろあはたゝしくいつちならんと思ふにも

5 いとはかなくかなしとのみおほえ給ふに御くるまにのるたいふの

6 きみといふ人のいふ

7 ありふれはうれしきせにもあひけるを身を宇治川に

8 なけてましかは打ゑみたるを弁のあまの心はへにはこよなうもある

9 かなとこゝろつきなうも見たまういまひとり

10 すきにしか恋しきこともわすれねとけふはたまつも

10ウ

1 ゆく心かないつれも年へたる人々にてみなかの御かたをはこゝろよせ

2 ましきこゑためりしをいまはかくおもひあらためてこといみするも

3 心うの世やおほえ給へは物もいはれたまはすみちのほと

4 はるけくはけしき山みちのありさまを見給ふにそつらき

5 ののみ思なされし人の御中のかよひをことほりのたえまなりけりと

6 すこしおほししられける七日の月のさやかにさし出たるかけ
 7 おかしく霞たるを見給つゝいとをきにならはすくるしけれはうち
 8 なかめられて

9 なかむれは山よりいてゝゆく月も世にすみわひて

10 山にこそいれさまかはりてつゝにいかならんとのみあやうくゆくすゑ

11才

1 うしろめたきにとしころなに事をおもひけんととりかへま
 2 ほしきやよぬうちすきてそおはしつきたる見もしらぬ
 3 さまにめもかゝやくまてなる殿つくりの三葉四葉なる
 4 中にひきいれて宮いつしかとまちおはしましければ御くるま
 5 のもとにみつからよらせたまひておろしたてまつり給御しつらひ
 6 などあるへきかきりして女房のつほねゝまて御こゝろとめさ
 7 せたまひける程しるく見えていとあらまほしけなりいかはかりの
 8 ことにかと見えたまへる御ありさまのにはかにかくさたまりたまへは
 9 おほろけならすおほさるゝ事なめりと世人も心にゝおもひおとろ
 10 きけり中納言は三条のみやにこの二十よ日の程にわたりたまはん

11ウ

1 とてこのころは日々におはしつゝ見給ふにこの院ちかき
 2 ほとなれは気はひもきかんとて夜ふくるまておはし
 3 けるにたてまつれ給へる御せんの人々かへりまいりて
 4 ありさまなとかたりきこゆいみしう御心にいりてもてなし給ふ
 5 なるをきゝ給ふにもかつはうれしき物からさすかにわか心ながら
 6 をこましくむね打つふれて物にもかなやとかへすゝ
 7 ひとりこたれて

8 しなてるやにほのうみつらくく舟のまほならねとも

9 あひ見し物をといひくたさまほしきみきりのおほい殿は

12才

1 六の君を宮にたてまつりたまはん事この月にとおほし
 2 さためたりけるにかく思のほかの人をこのほとよりさきにと
 3 おほしかほにかしつきすへ給てはなれおはすれはいと物しけに
 4 おほしたりと聞給ふもいとおしければ御文はときゝたてまつれ給
 5 御もきの事世にひゝきていそぎ給へるをのへたまはんも
 6 人わらへなるへければ廿日あまりにきせたまつりたまふ
 7 おなしゆかりにめつらしけなくともこの中納言をよそ人に
 8 ゆつらんかくちおしきにさもやなしてまし年ころ人しれぬ物に
 9 おもひけん人をもなくなつて物心ほそくなかめぬ給なるをなと

12ウ

1 おほしよりてさるへき人してけしきとらせ給けれと世の
 2 はかなさをめにちかく見しにいと心うく身もゆゝしうおほゆれは
 3 いかにもゝさやうのありさまは物うくなとすさましけなるよし
 4 聞給ていかてかこの君さへおほなくゝこといつることを物うくは
 5 もてなすへきそとらみ給ければしたしき御なからひなから
 6 も人さまのいと心はつかしけに物し給へはしゐてしもきこえ

7 うこしたまはさりけり花さかりの程二条院の桜を見やり
 8 給にぬしなき宿のまつおもひやられ給へは心やすくやなどひ
 9 とりこちあまりて宮の御ともにまいり給へりこゝかちにおはしまし

13才

1 つきていとうすみなれにたれはめやすのわさやと見てま
 2 つる物からいのいかにそやおほゆる心のそひたるそあやし
 3 きやされとしちの御心はへはいとあはれにうしろやすくそ
 4 思きこえ給けるなにくれと御物語きこえかはし給てゆふつ
 5 かた宮は内へまいりたまはんとて御くるまのさうそくして人々
 6 おほくまいりあつまりなとすれはたち出給てたいの御かたへ
 7 まいり給へり山さとのけはひひきかへてみすのうち心にくゝ
 8 すみなしておかしけなるわらはのすきかけほの見ゆるして
 9 御せうそきこえ給へれば御しとねさし出てむかしの心しれる

13ウ

1 人なるへし出て御かへり聞ゆあさ夕のへたても
 2 あるましようおもふ給へらるゝ程なからその事となくてきこえ
 3 させんも中々なれゝしきとかめやとつゝみ侍程に世の中
 4 かはりにたるこゝちのみそかし侍や御まへのこすゑも霞
 5 へたてゝ見え侍にあはれなるこそおほくも侍かなとき
 6 こえて打なかめて物し給氣しき心くるしけなるをけに
 7 おはせましかはおほつかなからすゆきかへりかたみに花の色
 8 鳥のこゑをもおりにつけつゝすこし心ゆきてすくしへかり
 9 ける世をなとおほし出るにつけてはひたふるにたへこもり

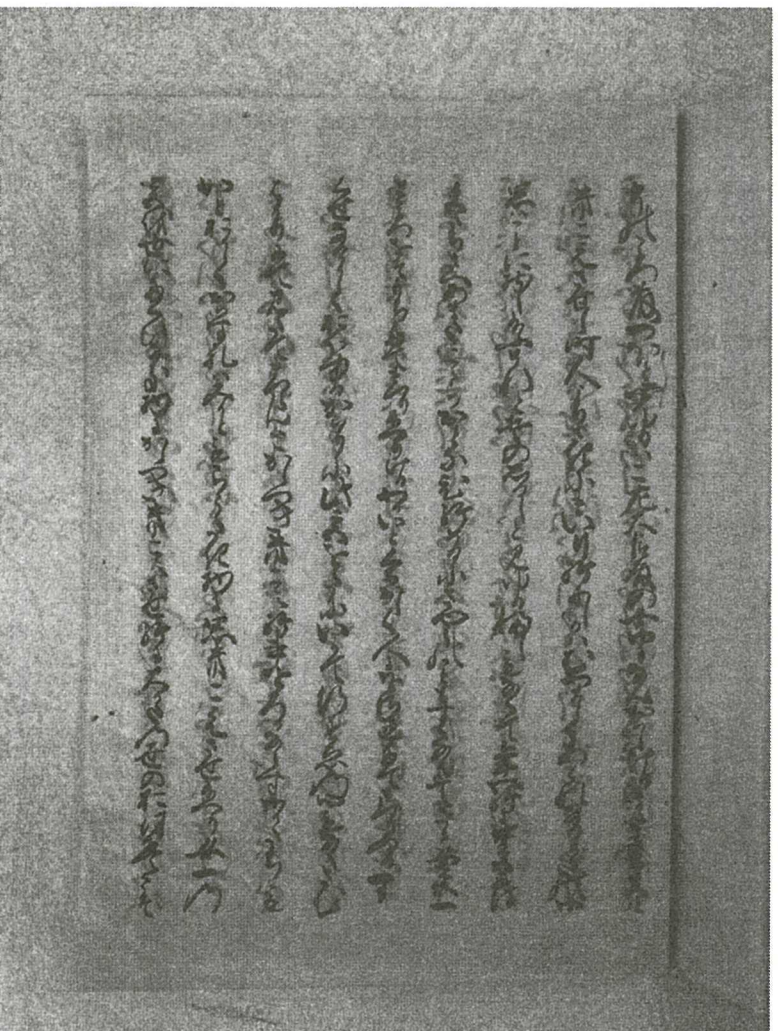
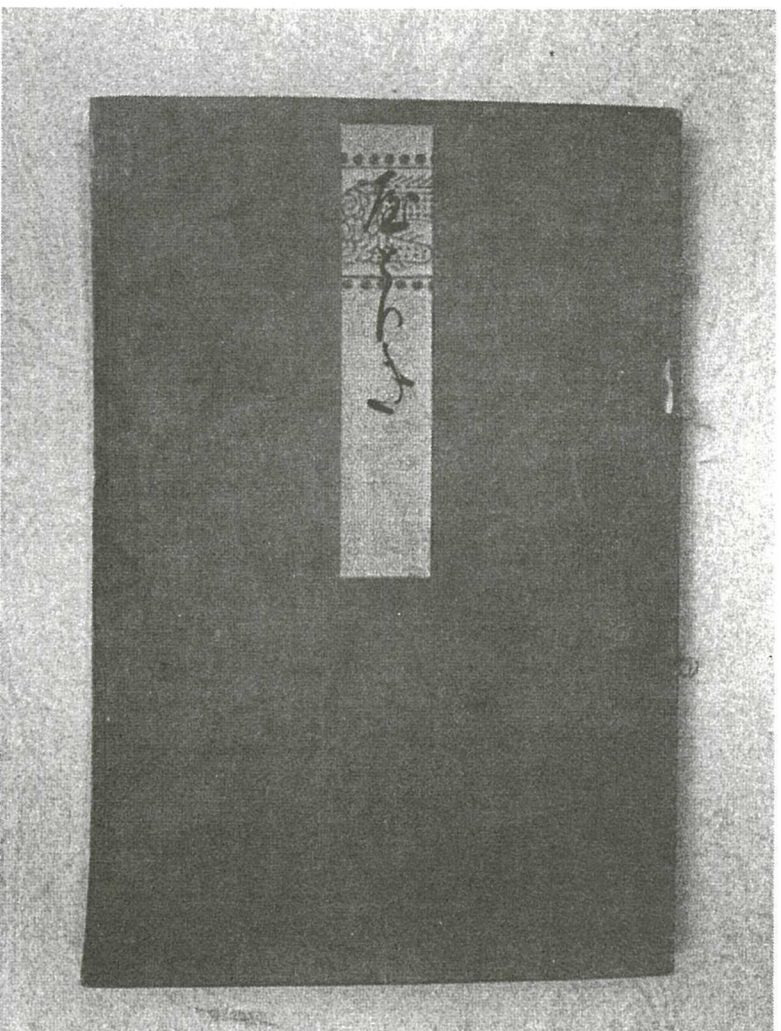
14才

1 給へりしすまゐの心ほそさよりもあかすかなしうくちおしき事そ
 2 いとゝまさりける人々もよのつねにうとくしくなもてなしきこえ給そ
 3 かきりなき御心の程をはいましこそ見たてまつらせ給へけれなきこ
 4 ゆれと人つてならすふとさし出きこえむことのつゝましきをやすらひ
 5 給程に宮出たまはんとて御まかり申しにわたり給へりいときよらにひき
 6 つくるひけさうし給て見るかひある御さま也中納言はこなたになりけりと
 7 見給てなとかむけにさしはなちてはいたしすへ給へる御あたりにはあまり
 8 あやしと思ふまでうしろやすかりし心よせを我ためはをこかましき
 9 こともやとおほゆれとさすかにむけにへたておほからんはつみもこそうれ

14ウ

1 ちかやかにてむかし物語も打かたらひ給へかしなときこえ給物から
 2 さはありともあまり心ゆるひせんもまたいかにそやうたかはしきしたの心に
 3 所あるやと打かへしのたまへは一かたならすわつらはしけれと我御心にもあは
 4 れふかく思しられにし人の御心をいましもをろかなるへきならねは
 5 かの人もおもひのたふめるさまにいにしへの御かはりとなすらへきこ
 6 えてかうおもひしりけりと見えたてまつるふしもあらはやとはお
 7 ほせとさすかにとやかくやとかたゝやすからすきこえなし給へ
 8 はくるしうおほされけり

宿木



1才

1 そのころ藤つほと聞ゆるはこ左大臣殿の女御になんおはしけるまた春宮と
 2 きこえさせし時人よりききにまいり給にしかはむつましくあはれなるかたの御
 3 思はことに物し給ふめれとそのしるしと見ゆるふしもなくて年へ給に中宮には
 4 宮たちさへあまたこゝらおとなひ給めるにさやうのこともすくなくてたゝ女宮一
 5 ところをそもちたてまつり給へりけるわかいとくちおしく人にをされたてまつりぬるす
 6 くてせなけかしくおほゆるかはりに此宮をたにいかて行す衆の心もなくさむ
 7 はかりにて見たてまつらんとかしつききこえ給事をろかならず御かたちも
 8 いとおかしくおはすれはみかともらうたき物に思きこえさせ給へり女一の
 9 宮を世にたくひなき物にかしつききこえさせ給に大かたの世のおほえこそ

1ウ

1 をよふへうもあらねうちくの御ありさまはおさくをとらすちゝおとゝの
 2 御いきほひいかめしかりし名残いたくおとろへねはことに心もとなき事などなく
 3 てさふらふ人々のなりすかたよりはしめたゆみなく時々につけつゝとのへこのみ
 4 ていまめかしくゆへくしきさまにもてなし給へり十四になり給とし御もぎせさせ
 5 たてまつりたまはんとて春より打はしめてこと事なくおほしいそきて何事
 6 もなへてならぬさまにおほしまうくいにしへよりつたはりたりけるたから物とも
 7 此おりにこそはとさかし出つゝいみしくいとなみ給に女御夏ころ物のけにわつ
 8 らひ給ていとはかなくうせたまひぬいふかひなくちおしき事を内にもおほし
 9 なけく心はへなさけくしくなつかしきところおはしつる御かたなれば殿上人ともゝ

2才

1 こよなくさうくしかるへきわさかなとおしみ聞ゆ大かたさるましききは
 2 の女官などまでしのひきこえぬはなし宮はましてわかき御こゝちに
 3 心ほそくかなしくおほしいりたるをきこしめして心くるしくあはれにおほし
 4 めさるれば御四十九日するまゝにしのひてまいらせたまつり給へり日々に
 5 わたらせ給つゝ見たてまつらせ給くるき御そにやつれておはするさまいとゝ
 6 らうたけにてあてなる気しきまさり給へり心さまもいとよくおとなひ給
 7 てはゝ女御よりもいますこししつやかにおもりかなるところはまさり給へるをう
 8 しろやすくは見たてまつらせ給へとまことには御はゝかたにてもうしろ見と
 9 たのませ給ふへきをちなとやうのはかくしき人もなしわつかに大蔵卿すりのかみ

2ウ

1 なといふは女御にもことはなりけることに世のおほえをもりかにもあらずやむ事ならぬ
 2 人々をたのもし人にておはせんに女は心くるしき事おほかりぬへきにこそいとおしけれなと
 3 御心一なるやうにおほしあつかうもやすからざりけり御まへの菊うつろひはてゝさかり
 4 なるころ空のけしきのあはれに打しくるゝにもまつ此御かたにわたらせ給て
 5 むかしの事なときこえさせ給に御いらへなとおほとかなる物からいはけなからす打き
 6 こえさせ給をうつくしく思きこえさせ給かやうなる御さまを見しりぬへからん
 7 人のもてはやしきこえむもなとかはあらさん朱雀院のひめ宮を六条院に
 8 ゆつりきこえ給しおりのさためともなとおほし出るにしははいてやあかすもあるかな
 9 さらにもおはしなましと聞ゆる事ともありしかと源中納言の人よりことなるあり

3才

1 さまにてかくよろつをうしろみたてまつるにこそそのかみの御おほえおとろへすや
 2 む事なきさまにてはなからへたまはめれさらすは御心よりほかなる事ともゝ出てをのつから

3 人にかろめられ給事もやあらましなとおほしつゝけてともかくも御らんする世にや思さた
 4 めましとおほしよるにはやかてそのついでまゝに此中納言よりほかによろしかるへき人また
 5 なかりけり宮たちの御かたはらにさしならへたらんに何事もめさましくあらしをもとより思ふ
 6 人もたりとて聞にくき事打ますましくはたあめるをつるにさやうの事なくてしもえあら
 7 しさらぬさきにさもやほのめかしてましなとおりゝおほしめしけり御こなとうたせ給暮行
 8 まゝに時雨おかしき程にて花の色もゆふはへしたるを御らんして人めしてたゝいま殿上
 9 にはたれゝかとはせ給に中つかさのみこかんつけのみこ中納言源のあそんさふらふと

3ウ

1 そうす中納言のあそんこなたへとおほせ事ありてまいり給へりけにかくとりわきてめし
 2 出るもかひありてとをくよりかほれるにほひよりはしめ人にことなるさまし給へりけふの時雨
 3 つねよりことにのとかなるをあそひなどもすさましかたにていとつれゝなるを
 4 いたつらに日をくりたはふれにても是なんよかるへきとてこはんめし
 5 出て御暮のかたきにめしよせいともかやうに気ちかくならしまつはし給にならひに
 6 たれはさにこそいと思ふによきのり物はありぬへけれとかるゝしきはえわたすま
 7 しきをなにをかはなとのたまはする御氣しきいかゝ見ゆらんいとゝ心つかひしてさふらい給ふ
 8 さてうたせ給に三はんに数まけさせたまひぬねたきわさかなとてまつけふは
 9 此花一えたゆるすとのたまはすれば御いらへきこえさせておりておもしろき

4オ

1 えたをおりてまいりたまへり
 2 よのつねのかきねにほふ花ならはこゝろのまゝに
 3 おりて見ましをとそうし給へるようゐあさからすみゆ
 4 霜にあへすかれにしそのゝ菊なれとのこりの色は
 5 あせすもあるかなとのたまはすかやうにおりゝほのめかさせ給御氣しきを人つて
 6 ならすうけたまはりなかられいの心のくせなれはいそかくしもおほえすいてやほい
 7 にもあらずさまゝいとおしき人々の御事ともをよく聞すくしつゝ年へぬるをいま
 8 さらにひしりよの物の世にかへりいてんこゝちすへき事と思ふもかつはあやしや
 9 ことさらに心をつくす人たにこそあなれとは思なからきさきはらにおはせはしもと

4ウ

1 おほゆる心のうちそあまりおほけなかりけるかゝる事を右のおほひ殿ほの聞給て
 2 六の君はさりととも此君にこそはしふゝなりともまめやかに恨よらはつゐにはえいなひはて
 3 しとおほしつるを思のほかの事出きぬへかなりとねたおほされければ兵部卿宮はた
 4 わさとはあらねとおりゝにつけつゝおかしきさまにきこえ給ふ事たえさりければさはれ
 5 なをさりのすきにはありともさるへきにて御心とまるやうもなかなからんみつもる
 6 ましく思さためんとてまなをゝしききはにくたらんはたいと人わろくあかぬ
 7 こゝちすへしなとおほしなりになり女御うしろめたけなる世のすゑにてみかとたに
 8 むこもとめ給世にましてたゝ人のさかりすきんもあいなしなとそしらはしけに
 9 のたまひて中宮をもまめやかに恨申給事たひかさなれはきこしめしわつらい

5オ

1 ていとおしくもかくおほなゝおもひ心さして年へぬるをあやにくのかれきこえむも
 2 なさけなきやうならんみこたちは御うしろみからこそともかくもあれうへの御世もすゑに
 3 なりゆくとのみおほしのたまうめるをたゝ人こそ一ことにさたまりぬればまた心をわ
 4 けん事もかたけなめれそれたにかのおとゝのまめたちなからこなたかなたうらやみ
 5 なくもてなして物したまはすやはあるまして是は思をきて聞ゆる事もかなはゝ

6 あまたもさふらはんになとかあらんなとれいならず事つゝけてあるへかしくきこえさせ
 7 給を我御心にももとよりもてはなれてはたおほさぬ事なればあなかちにはなとて
 8 かはあるまじきさまにもきこえさせたまはんたゝいと事うるはしけなるあたりに
 9 とりこめられて心やすくならひ給へるありさまのところせからん事をなまくるしく

5ウ

1 おほすに物うきなれとけに此おとゝにあまりえんせられはてんもあいな
 2 からんなとやうくおほしよほりにたるへしあたなる御心なればかのあせちの大納言の
 3 こうはいの御かたをもなをおほしたえす花もみちにつけてものたまいたりつゝいづれをも
 4 ゆかしくはおほしけりされとその年はかはりぬ女二の宮も御ふくはてぬれはいとゝ何事にかは
 5 はゝかりたまはんさもきこえ出はとおほしめしたる御氣しきなとつけ聞ゆる人々もあるを
 6 あまりしらすかほならんもむかしくなめけなりとおほしをこしてほのめかしまいらせ給お
 りくも

7 あるにはしたなきやうはなとてかはあらんその程におほしたためたなりとつてにもきく
 8 みつから御氣しきをもみれと心のうちにはなをあかすき給にし人のかなしさのみわするへき
 9 世なくおほゆれはうたてかく契りふかく物し給ける人のなとてかはさすかにうとくては

6才

1 すきにけんと心えかたく思出らるくちおしきしななりともかの御あさまにすこしもおほえ
 2 たらむ人は心もとまりなんかしむかしありけんかうのけふりにつけてたにいま一たび見たて
 3 まつる物にもかなとのみおほえてやむ事なきかたさまにいつしかなといそく心もなし右のおほ
 い殿

4 にはいそきたちて八月はかりにときこえ給けり二条院のたいの御かたには聞給ふにされ
 5 はよかならず人わらへに憂事出こん物そとは思ふくすくしつる世そかしあたなる御心と聞
 6 わたりしをたのもしけなく思なから目にちかくてはことにつらける事も見えすあはれに
 7 ふかき契りをのみし給へるをにはかにかはりたまはん程いかゝはやすきこゝ地はすへ
 8 からんたゝ人のなからいなどのやうにいとしも名残なくなどはあらずともいかにやすけ
 9 なき事おほからんなをいと憂身なめれは山すみにかへるへきなめりとおほすに

6ウ

1 やかて跡たえなましよりは山かつの待おもはんも人わらへなりかしと返々も宮ののたま
 2 をきし事にしたかひて草のもとをかれにける心かるさを我なからはつかしくもつらくも
 3 思しり給こひめ君のいとしとけなけに物はかなきさまにのみ何事もおほしのたま
 4 しかと心のそのつしやかなるところはこよなくおほしける中納言の君のいまに
 5 わするへき世なくなきわたり給めれともし世におはせましかはまたかやうにおほす事は
 6 ありもやせましそれをいとふかくいかてさはあらしと思ひり給てとさまかうさまにもて
 7 はなれん事をおほしてかたちをもかへんとし給しそかしかならずさるさまにてそ
 8 おはせましと思ふにいかにもりかなる御心をきてならましなき御影ともゝ我
 9 をはいかにこよなきあはつけさと見給ふらんとはつかしくかなしくおほせとなにかは

7才

1 かひなき物からかゝる氣しきをも見えたてまつらんとしのひかへしてきゝも
 2 いれぬさまにてすくし給宮はつねよりもあはれになつかしくおきふしかたらひ
 3 契りつゝ此世のみならずななき事をのみたのみきこえ給ふさるは此五月はかり
 4 よりれいなぬさまになやましくし給ふ事もありけりこちたくくるしかりなどは
 5 したまはねとつねよりも物まいる事もいとゝなくふしてのみおはすなるをまたさ
 6 やうなる人のありさまよくも見しりたまはねはたゝあつきころなればかくおほす

7 なめりとそおほしたるさすかにあやしとおほしとかむる事もありてもしいかなるぞさる
 8 人こそかやうにはなやむなれなどのたまふおりもあれといとはつかしくし給てさりけなく
 9 のみもてなし給へるをさしすききこえ出る人もなければたしかにもえしりたまはす八月に

7ウ

1 なりぬれはその日なとほかよりそつたへきゝ給宮はへたてんとはあらねといひいてん程心く
 るしく
 2 いとおしくおほされてさものたまはぬを女君はそれさへ心うくおほえ給しのひたる事にもあら
 す

3 世中なへてしりたる事をその程なとたにのたまはぬ事といかゝうらめしからさらんかくわたり
 給し

4 後はことなる事なければ内にまいり給てもよるとまる事はことにしたまはすこゝかしこの御夜
 かれ

5 などともなかりつるをにはかに思たまはんと心くるしきまきはしに此ころは時々御とのめとて
 まいり

6 給なとし給つゝかねてよりならはしきこえ給をもたゝつらきかたにのみそ思をかれ給ふへき中
 7 納言殿もいとゝおしきわさかなときこえ給花心におはする宮なればあはれとおほすともいま
 め

8 かしきかたにかならず御心うつるひなんかし女かたもいとしたゝかなるわたりにてゆるひなく
 きこえ

9 まつはしたまはゝ月ころもさもならひたまはてまつ夜おほくすくしたまはんこそあはれなるへ
 け

8オ

1 れなと思よるにつけてもあひなしや我心よなにしにゆつりきこえけんむかしの人に心をしめて
 し後

2 大かたの世を思はなれてすみはてたりしかたの心もにこりそめにしかはたゝ彼御事をのみとさ
 ま

3 かうさまには思なからさすかに人の心ゆるされてあらん事はしめより思しほいなるへしと
 はゝか

4 りつゝたゝいかにしてすこしもあはれとおもはれて打とけ給へらんけしきをも見むと行さきの
 あらまし事

5 のみ思つゝけしに人は心にもあらすもてなしてさすかに一かたにもえさしはなつましく思給へ
 るなくさめに

6 おなし身かといひなしてほいならぬかたにおもむけ給しかねたくうらめしかりしかはまつその
 心をたかへんと

7 ていそきせしわさそかしなとあなかちにめゝしく物くるをしく出ありきたはかりきこえし程思
 出

8 るもいとけしからさりける心かなと返々そくやしき宮もさりとその程のありさま思ひ出給我
 き

9 かんところをもすこしははゝかり給しやと思ふにいてやいまはそのおりの事なとかけてものた
 まひ出

8ウ

1 さめりかしなをあたなるかたにすゝみうつりやすくなる人は女のためのみにもあらすたのもし
 けなくかるゝ

2 しき事もありぬへきなめりかしなにくゝ思きこえ給わかまことにあまり一かたにしみたる心
ならい

3 人にはいとこよなくもとかしく見ゆるなるへしかの人をむなしく見なし給てし後思ひには
4 みかとの御むすめをたまはんとおもほしをきつるもうれしくもあらず此君を見ましかはお
5 ほゆる心の月日にそへてまさるもたゝかの御ゆかりと思ふに思はなれかたきそかしはらからと
6 いふ中にもかきりなく思かはし給へりし物をいまはとなり給にしはてにもとまるらん人をおな
し

7 事とおもへとてよろづはおもはずなる事もなしたゝかの思をきてしさまをたかへ給へるのみな
んくちお

8 しううらめしきふしにて此世には残るへきとのたまひし物をあまかけりてもかやうなるにつけ
9 てはいとゝつらしとや見給ふらなとつくゝと人やりならすひとりねし給夜なくゝははかな
き風の

9才

1 音にも目のみさめつゝきしかた行さき人のうへあちきなき世を思めくらし給なけのすまゐに物
を

2 いひふれけちかくつかひならし給人々の中にはをのつからにくからすおほさるゝもありぬへけ
れとまこ

3 とには心とまるもなきこそさはやかなれさるはかのきんたちの程にをとるましききはの人々
4 も時世にしたひつゝおとろへて心ほそけなるすまゐなとをたつねとりつゝあらせ給なといとお
ほかれと

5 いまはと世をのかれそむきはなれなん時此人こそとりたてゝ心とまるほたしになるはかりな
る

6 事はなくてすくしてんと思ふ心つかひふかりしをいてさもわろく我心ならねちけても

7 あるかななどつねよりもやかてまとろますあかし給へるあした霧のまかきより花の色々おも
8 しろく見えわたる中にあさかほのはかなけにてましりたるをなをことにめとまるこゝちし給あ
く

9 るまさきてとかつねなき世にもなすらふるも心くるしきなめりかしかうしもあけなから

9ウ

1 いとかりそめに打ふしつゝのみあかし給へは此花のひらくる程をもたゝひとりのみ見給ける
2 入めして北の院にまいらんにことゝしからぬくるまさし出させよとのたまへは宮は昨日より
3 うちになんおはしますなるよへ御くるまゐてかへり侍りにきと申すさはれかのたいの御かたの
4 なやみ給なるとふらひきこえんけふは内にまいるへき日なれば日たけぬさきにとのたまひて
5 御さうそくし給出給ふまゝにおりて花の中にましり給へるさまことさらにえんたち色めても
6 もてなしたまはねとあやしくたゝ打みるになまめかしくはつかしけにていみしくけしきたつ
7 色このみともになすらふへくもあらずをのつからおかしそ見え給けるあさかほをひき
8 よせ給ふに露いたくこほる

9 けさのまの色にやめてんをく露のきえぬにかゝる

10才

1 花と見るゝひとりこちておりてもたまへりをみなへしをは見すきてそ出給ぬるあけ
2 はなるゝまゝに霧立みちたる空おかしきに女とちはしとけなくあさいし給へらんかしかうし
3 つま戸など打たゝきこはつくらんこそうゐゝしかるへけれ朝またきまたき来にけりと思
4 なから人めしてちうもんのあきたるより見給へはみかうしともまいりて侍へし女房の御けはひ
5 もし侍つと申せはおりて霧のまきれにさまよくあゆみいり給へるを宮しのひたる

6 ところよりかへり給へるにやと見るに露に打しめり給へるかほりれいのいとさまことにほ
 7 ひくれはなをめさましくおはすかし心をあまりおさめ給へるそにくきなどあいなくわかき
 8 人々はきこえあへりおとろきかほにはあらずよき程に打そよめきてしとねさし
 9 いてなどするさまもいとめやすし是にさふらへとゆるさせ給程は人々しきこゝ地すれと

10ウ

1 なをかゝるみすのまへにさしはなたせ給へるうれはしきにしはくもえさふらはぬとのたまへ
 はさらは

2 いかゝは侍へからんなど聞ゆ北おもてなどやうのかくれそかしかるふる人などのさふらはん
 に

3 ことはりなるやすみところはそれも又たゝ御心なれはうれへ聞ゆへきにもあらずとてなけしに
 4 よりかゝりておはすれはれいの人々なをあしこもとなとそゝのかし聞ゆもとよりけはひはや
 り

5 かにをゝしくなとは物したまはぬ人からなるをいよくしめやかにもてなしおさめ給へれはい
 まはみつ

6 からきこえ給事もやうくうたてつゝましかりしかたすこしつゝうすらきておもなれ給にたり
 7 なやましくおほさるらんさまもいかなれはなとどひきこえ給へとはかゝしくもいらへきこえ
 たまはす

8 つねよりしめり給へる気しきの心くるしきもあはれにおもほえ給てこまやかに世中のあるへき
 9 やうなどをはらからやうの物のあらましやうにをしへなくさめきこえ給こゑなどもわさと

11オ

1 に給へりともおほえさりしかとあやしきまてたゝそれとのみおほゆるに見くるしかるましくは
 2 すたれもひきあけてさしむかひきこえまほしく打なやみ給へらんかたちゆかしおほえ給ふも
 3 なを世中に物おもはぬ人はえあるまじきわさにやあらんと所思られ給人々しくきらくしき
 4 かたには侍らすとも心に思ふ事ありなけかしく身をもちなやむさまになとはなくてすくし
 5 つへき此世とみつから思ふ給へしを心からかなしき事もをこましくやしき物おもひをもか
 たく

6 にやすからす思侍こそいとあひなけれつかさくらぬなといひてたいしにすめることはり
 7 のうれへにつけてなけきおもふ人よりもこれやいますこしつみのふかさはまさるらむ
 8 などいひつゝおり給へる花を扇に打きて見ぬ給へるにやうくあかみもてゆくも
 9 中々色のあはひおかしく見ゆればやをらさしいれて

11ウ

1 よそへてそ見るへかりけるしら露のちきりかをきし

2 あさかほの花ことさらひてしもてなさぬに露をおとさてもたまへりけるよとおかしく

3 見ゆるにをきながらゝ氣しきなれは

4 きえぬまにかれぬる花のはかなさにをくるゝ露は

5 なをそまされるなにゝかゝれるといとしのひて事もつゝかすつゝましけにいひけち

6 給へる程なをよくに給へる物かなと思ふにもまつそかなしき秋の空はいますこしなかめ

7 のみまさり侍つれくのまきはしにもと思てさいつころ内に物して侍き庭もま

8 かきもまことにいとゝあればてゝ侍しにたへかたき事おほくなんこ院のうせ

9 給て後二三年はかりのす糸に世をそむき給しさかの院にも六条院にもさし

12オ

1 のそく人の心おさめむかたなく侍る本草の色につけても涙に暮てのみなんかへり侍
 2 けるかの御あたりの人はかみしも心あさき人なくこそ侍けれかたゝつとひ物せられける人々

も

3 みなどころ／＼にあかれちりつゝをの／＼思はなるゝすまゐをし給ふめりしにはかなき程の女房

4 などとはまして心おさめんかたなくおほえ侍けるまゝに物おほえぬ心にまかせつゝ山はやしに入ましり

5 すゝるなるゐ中人になりなとあはれにまとひちるこそおほく侍けさせて中々みなあらしはてわすれ草おほして後なん此右のおとゝもわたりすみ宮たちなともかた／＼物し給へはむかしにかへり

7 たるやうに侍めるさる世にたくひなきかなしさと見給へし事も年月ふれは思さますおりの
8 出くるにこそはと見侍にけにかきりあるわさなりけりとなん見侍かくはきこえさせながらも
9 かのいにしへのかなしさはまたいはけなくも侍ける程にていとさしもしまぬにや侍けんを此

12ウ

1 ちかき夢こそさますへきかたなく思給へしらるゝはおなしことよのつねなきかなしひなれ
2 とつみふかきかたはまさりて侍にやとそれさへなん心うく侍とてなき給へる程いと心ふかけ也
3 むかしの人をいとしも思きこえさらん人たに此人の思給へる氣しきを見んにはすゝるに
4 たゝにもあるましきをまして我も物心ほそく思みたれ給につけてはいとゝつねよりも
5 おもかけに恋しくかなしくおほえ給心なれはいますこしもよほされて物もえきこえたまはす
6 ためらひかね給へるけはひをかたみにいとあはれと思かはし給世のうきよりはなと人はいひし
7 をもさやうに思くらふる心もことになくて年ころはすくし侍しをいまなんをいかてしつかなる

8 さまにてもすくさまほしく思給ふるをさすかに心にもかなはさめるを弁のあまこそ

9 浦山しく侍れ此廿日あまりの程はかのちかき寺の鐘のこゑも聞わたさまほしく

13オ

1 おほえ侍をしのひてわたさせ給てんやときこえさせはやとなん思侍つるとのた
2 まへはあらさしとおほすともいかてかは心やすきをのこたにゆきゝの程あらまほしき
3 山みちに侍れは思つゝなん月日もへたゝり侍こ宮の御忌日はかのあさりにさるへき
4 事ともみないひをき侍にきかしこはなをたうときかたにおほしゆつりてよ時々見給に
5 つけては心まとひのたえせぬもあひなきにつみうしなふさまになしてはやとなん思
6 給ふるをまたいかゝおほしをきつらんともかくもさためさせたまはんにしたかひて
7 こそはとてなんあるへからんやうにのたまはせよかし何事もうとからすうけたま
8 はらんのみこそほいのかなふにては侍らめなとまめたちたる事ともをきこえ給ふ経仏など
9 此うへにくやうし給ふへきなめりかやうなるついでに事つけてやをらこもりゐなはや

13ウ

1 なとおもむけ給へる氣しきなれいとあるましき事也なを何事も心のとかにおほしなせと
2 をしへきこえ給ふ日さしあかりて人々まいりあつまりなとすれはあまりなかるも事あり
3 かほならんによりて出給なんとていつこにてもみすの戸にはならひ侍らねはしたなきこゝ地
4 し侍となんいままたかやうにもさふらはんとてたちたまひぬ宮のなとかなきおりにはきつらんと
5 思たまひぬへき御心なるもわつらはしくてさふらひのへたうなる右京のかみめしてよへまかて
6 させたまひぬとうけたまはりてまいりつるをまたしかりければくちおしきを内にやまいるへき
と

7 のたまへはけふはまかてさせ給なんと申せはさらはゆふかたもとて出たまひぬなを此御氣はひ
8 ありさまを聞給たひことになとてむかしの人の御心をきてをもてたかへて思くまなかりけんと

9 くゆる心のみまさりて心にかゝりたるもむつかしくなそや人やりならぬ心ならんと思かへし給
その

14才

1 まゝにまたさうしにていとゝたゝをこなひをのみし給つゝ明し暮し給はゝ宮のなを
2 いたもわかくおほときてしとけなき御心にもかゝる御氣しきをいとあやふくゆゝしと
3 おほしていくよしもあらしを見たてまつらん程はなをかひあるさまにて見え給へ世中を
4 思すてたまはんをかゝるかたちにてはさまたけ聞ゆへきにもあらぬを此世のいふ
5 かひなきこゝちすへき心まとひにいとゝつみやえんとおほゆるとのたまふかかたし
6 けなくいとおしくてよろつを思けちつゝ御まへにては物おもひなきさまをつ
7 くり給右のおほひ殿には六条院のひんかしのおとゝみかきしつらひてかきり
8 なくよろつをとゝのへて待きこえ給に十六日の月やうくさしあかるまで心もと
9 なければいとしも御心にいらぬ事にいかならんとやすからすおもほしてあないし給へは

14ウ

1 此夕つかた内より出給て二条院になんおはしますなると人申すおほす人もたまへ
2 れは心やましけれとこよひすきんも人わらへなるへければ御この頭中将してきこえ給へり
3 おほ空の月たにすめるわか宿に待よるすきて

4 見えぬ君かな宮は中々いまなんとも見えし心くるしとおほして内におはしけるを御
5 文きこえ給へりける御返やいかゝありけんをいとあはれにおほされければしのひて
6 わたり給へりける也らうたけなるありさまを見すてゝ出へきこゝ地もせすいとおし
7 ければよろつに契りなくさめてもるともに月をなかくておはする程なりけり女君は
8 日ころもよろつに思ふ事おほかれといかて氣しきもいたさしとねんしかへしつゝ

15才

1 いとあはれ也中将のまいり給へるを聞給てさすかにかれもいとおしければ出たまはんとていま
いと

2 とくまいりこんひとり月な見給そよ心空なれはいとくるしときこえをき給てなをかた
3 はらいたければかくれのかたよりしんでんへわたり給御うしろてを見をくるにとまかくもおも
はね

4 とたゝ枕のうきぬへきこゝ地すれは心うき物は人の心なりけりと我ながら思しらるおさなき
5 程より心ほそくあはれなるみとにて世中を思とゝめたるさまにもおはせさりし人ひとところを
6 たのみきこえさせてさる山里に年へしかといつとなくつれゝにすこくありなからいとかく心
に

7 しみて世をうき物と思しらすりに打つゝきあさましき御事ともを思し程は世にまた

8 とまりてかた時ふへくもおほえす恋しくかなしき事のたくひあらしと思しをいのちなくて

9 いまゝてもなからふれは人の思たりしよりは人数にもなるやうなるありさまをなかかるへき

15ウ

1 事とおもはねと見るかきりはにくけなき御心はへもてなしなるにやうくおもふ事うすらきて
ありつる

2 を此ふしの身のうさはたいはんかたなくかきりとおほゆるわさなりけりひたすら世になく

3 なり給にし人々よりはさりとて是は時々もなとかはともおもふへきをこよひかく見すてゝ

4 出給ふつらさきしかた行ききみなかきみたり心ほそくいみしきか我心ながら思やるかたなく

5 心うくもあるかなをのつからなからへはなとなくさめんことを思ふにさらにをはすて山の

6 月すみのほりて夜ふくるまゝによるつ思みたれ給松風の吹くる音もあらましかりし

7 山おろしに思くらふれはいのとかになつかしくめやすき御すまぬなれとこよひはさもおほえす

8 しみの葉のをとにはをとておもほゆ

9 山さとの松のかけにもかくはかり身にしむあきの

16才

1 風はなかりきしかたをわすれにけるにやあらんかめいりておはするを見わつら
2 ひて老人ともなといまはいらせたまはね月見るはいみ侍物をあさましくはかなき

3 御くた物をたに御らんしいれねはいかにならせたまはんあな見くるしやゆゝしう思ひ出ら

4 るゝ事も侍をいとこそわりなくと打なけきていて此御事よさりとまかうてをろかに

5 はよもなりはてさせたまはしさいへともとの心さしふかく思そめつる中は名残なからぬ

6 物そなといひあへるもさまゝにきゝにゝゝいまはいかにもゝかけていはさらなたゝにこ

そ

7 見めとおほさるゝは人にはいはせしわれひとり恨きこえむとにやあらむいてや中

8 納言殿のさはかりあはれなる御心ふかさをなとのかみの人々はいひあはせて人の

9 御すくせのあやしかりける事よといひあへり宮はいと心くるしくおほしなからいまめかしき

16ウ

1 御心はいかてめてたきさまに待思はなれんと心けさうしてえならすたきしめ給へる

2 御けはひいはんかたなし待つけきこえ給へるところのありさまもいとおかしかりけり人の程さ

ゝ

3 やかになとはあらてよき程になりあひたるこゝ地し給へるをいかならん物々しくあさやきて

4 心はへもたをやかなるかたはなく物ほこりかになとやあらんさらはこそうたてあるへけれ

5 などとおほせとさやうなる御氣はひにはあらぬにや御心さしをろかなるへくもおほされさり

6 けり秋の夜なれとふけにしかはにや程なく明ぬかへり給てもたいへはふともえわたりたまはす

7 しはしおほとのもりておきてそ御文かき給ふ御氣しきけしうはあらぬめりとおまへなる人々

8 つきしろふたいの御かたこそ心くるしけれ天下にあまねき御心なりともをのつからけをさるゝ

9 事もありなんかしなとたゝにしもあらすみななれつかうまつりたる人々なれはやすからす

17才

1 打いふ文もありてすへてねたけなるわさにそありける御かへりもこなたにてこそはと

2 おほせと世の程のおほつかなさもつねのへたてよりはいかゝと心くるしけれはいそきわたり

3 給ふねくたれの御かたちいとめてたく見ところありて入給へるにふし給へるもうたてあれば

4 すこしおきあかりておはするに打あかみ給へるかほのにほひなとけさしもつねよりことにおか

し

5 けさまさりて見え給にあひなく涙くまれてしはし打まもりきこえ給をはつかしくおほして

6 打うつふし給へるかみのかゝりかんさしなとなをいとありかたけ也宮もなまはしたなきにこま

や

7 かなる事なとはふともえいひ出たまはぬおもかくしにやなとかくのみなやましけなる御けし

8 きならんあつき程の事とかのたまひしかはいいつとすゝしき程待出てもなをはれゝしから

9 ぬは見るしきわさかなさまゝにせさする事もあやしくしるしなきこゝちこそすれさは

17ウ

1 ありともす法は又のへてこそはよからめしるしあらん僧をかななにかし僧都をそよぬに

2 さふらはすへかりけるなとやうなるまめことをのたまへはかゝるかたにことよきは心つきなく

3 おほえさへとむけにいらへきこえさらんもれいならねはむかしも人ににぬありさまにてかやう

4 なるおりはありしかとをのつからいとよくをこたる物をとのたまへはいとよくこそさはやかな

れ

5 と打わらひてなつかしくあひきやうつきたるかたは是にならふ人はあらしかしとはおもひ
 6 なからなを又ゆかしきかたの心いられもたちそひ給へる御心さしをろかにもあらぬめり
 7 かしされと見給程はかはるけちめもなきにや後の世にてちかひたのめ給ふ事とも
 8 のつきせぬをきくにつけてもけに此世はみしかゝめるいのち待間もつらき御心は見え
 9 ぬへかめれは後の契りやたかはぬ事もやあらんとおもふにこそなをこりすまにまたも

18才

1 たのまれぬへけれとていみしくねんすへかめれとえしのひあへぬにやけふはなきた
 2 まひぬ日ころもいかてかう思けりと見えたてまつらしとよろつに思まきはしつる
 3 をさまゝに思あつむることしおほかれはさのみもえもてかくされぬにやこほれそめ
 4 てはとみにもえためらはぬをいとはつかしくわひしと思ていたくそむき給へはしゐて
 5 ひきむけ給つゝ聞ゆるまゝにあはれなる御ありさまと見つるをなをへたてたる御
 6 心こそありけれなさらずはよの程におほしかはりたるかとてわか御袖して涙をのこひ
 7 給へは夜のまの心かはりこそそのたまふにつけてをしはかられ侍ぬれとてすこしほゝゑみぬけに
 8 あか君やおさなの御物いひやなさりとまことには心にくまのなければ心やすしいみしくこと
 9 はりして聞ゆともいとしるかるへきわざそむけに世のことほりしりたまはぬこそらうたき

18ウ

1 物からわりなければよし我身になしても思めくらし給へ身を心ともせぬありさまなりかしもし
 2 思ふやうなる世もあらは人にまさりける心さしの程しらせたてまつるへき一ふしなん
 3 あるたはやすくこと出へき事にもあらねはいのちのみこそなどのたまう程にかしこに
 4 たてまつれ給へる御つかひいたくゑいすきにければすこしはゝかるへき事ともわすれて
 5 けさやかに此みなみおもてにまいれりあまのかるめつらしき玉藻にかつきむもれたるを
 6 さなめりと人々見るいつの程にいそきかき給へらむと見るもやすからすはありけんかし宮も
 7 あなちにかくすへきにはあらねとさしくみはなをいとおしきをすこしのようなぬはあれかしと
 8 かたはらいたれといまはかひなければ女房して御文とり入させ給おなしくはへたてなき
 9 さまにもてなしはてゝむとおもほしてひきあげ給へるにまゝはゝの宮の御手なめりと見ゆ

19才

1 れはいますこし心やすくて打をき給へりせんしかきにてもうしろめたのわさやさかしら
 2 いたさにそゝのかし侍れはなやましけにてなん

3 をみなへししほれそまさるあさ露のいかにをきける

4 名残なるらんあてやかにおかしくかき給へりかことかましけなるもわつらはしの世やま
 5 ことは心やすくてしはしはあらんと思ふ世を思のほかにもあるかななどはたまへとまた
 6 ふたつとなくてさるへき物に思ならひたるたゝ人の中こそかやうなる事のうらめしさなど
 7 も見る人くるしくはあれおもへは是はいとかたしつぬにかゝるへき御事也宮たちはと聞ゆる
 8 中にもすちことによ人思きこえたれはいくたりもゝえたまはん事もときある

19ウ

1 すへ給て心くるしきかたをろかならすおほしたるをそさいはひおはしけると聞ゆめる
 2 みつからの心にもあまりにならはし給てにはかにはしたなかるへきかなけかしきなめり
 3 かゝるみちをいかなれはあさからす人の思ふらんとむかし物語などをみるにも人のうへにても
 4 あやしききゝ思しはけにをろかなるましき御わさなりけりと我身になりてそ
 5 何事も思しられ給ける宮はつねよりもあはれに打とけたるさまにもてなし
 6 給てむけに物まいらさなるこそいとあしけれとてよしある御くた物めしよせ又さるへき

7 人めしてことさらにてうせさせなどしつゝ、そのかしきこえ給へいとはるかにのみおほし
8 たれは見るしきわさかなとなけききこえ給に暮ぬれは夕かたしんでんへわたり

9 たまひぬ風すゝしく大かたの空おかしきころなるにいまめかしきにすゝみ給へる御心なれば

20才

1 いとゝしくえんなるに物おもはしき人の御心のうちはよろつにしのひかたき事のみそおほかり
2 ける日くらしのなくこゑにも山のかけのみ恋しくて

3 大かたにきかましものを日くらしのこゑうらめしき

4 秋の暮かなこよひはまたふけぬに出給也御さきこのゑのとをくなるまゝにあまも釣する

5 はかりになるも我なからにくきかなとおもふゝきゝふし給へりはしめより物おもはせ給し
あり

6 さまなを思ひ出るもうとましきまておほゆ此なやましき事もいかならんとすらんついでに
7 もやはなくなりなんとすらんと思ふにはおしからねとかなしくもありまたいとつみふかくも
あなる

8 物をなとまどろまれぬまゝに思あかし給その日はきさひの宮なやましけにおはしますとて

9 誰もゝまいり給へれと御かせにおはしますとておとゝはひるまて給にける中納言の君さそ

ひ

20ウ

1 きこえ給て一つ御くるまにてそいて給にけるこよひのきしきいかならんきよらをつくさん

2 とおもほへかめれとかきりあらんかし此君も心はつかしけれとしたしきかたのおほえは我がた
さまに

3 又さるへき人もおはせず物のはへにせんと心ことにはたおはするなれはなめりかしれいならす
い

4 そかくまで給て人のうへに見なしたるをくちおしとも思たへすなにやかやともろ心にあつか
ひ

5 給へるをおとゝは人しれすなまねたしとおほしけりよぬすこしする程におはしましたりしん
6 てんのみなみのひさしひんかしによりておましまいれり御たいやつれの御さらなとうるはし
け

7 にきよらにてまたちいさきたい二つにけそくのさらともいまめかしくせさせ給てもちぬ

8 まいらせ給へりめつらしからぬことかきをくこそにくけれおとゝわたり給て夜いたうふけぬと

女房

9 してそゝのかし申給へいとおされてとみにも出たまはす北のかたの御はらからの左衛門督

21才

1 藤さいしやうなどはかり物し給からうして出給へる御さまいと見るかひあるこゝちすあるしの

2 頭中将さかつきさゝけて御たいまいるつきゝの御かはらけ二度三度まいり給中納言の

3 いたくすゝめ給へるに宮すこしほをゑみ給へりわつらはしきわたりをとふさはしからす

4 思ていひしをおほし出るなめりされと見しらぬやうにていとまめ也ひんかしのたい

5 に出給て御ともの人々もてはやし給おほえある殿上人ともいとおほかり四位六

6 人は女のさうそくにほそなかそへて五位十人はみへかさねのからきぬものこしも

7 みなけちめあるへし六位四位はあやのほそなかはかまなとかつはかきりある事をあかす

8 おほしければ物の色しさまなとをそきよらをつくし給へりけるめしつきとねりなどの

9 なくはみたりかはしきまていかめしくなんありけるけにかくにきはゝしく花やかなる事はみる

21ウ

1 かひあれは物語などにもまついひたてたるにやあらんされとくはしくはえそかそへたて

2 さりけるとや中納言殿の御せんのなかになまおほえあさやかならぬやくらきまぎれに
 3 立まじりたりけんかへりて打なけきて我とのゝなどかおいらかに此殿の御むこにうち
 4 ならせ給ふましきあちきなき御ひとりすみなりやとちうもんのもとにてつふやきける
 5 を聞つけ給ておかしとなんおほしける夜のふけてねふたきにかのもてかしつかれつる人々は
 6 こゝちよけにゑいみたれてよりふしぬらんかしと浦山しくなめりかし君は入てふし給て
 7 はしたなけなるわさかなことゝしけなるさましたるおやのいてゐてはなれぬなからひなれ
 8 とこれかれ火あかくかゝけてすゝめ聞ゆるさかつきなどを思ひ出たてまつり給ふけに我
 9 にてもよしと思ふ女御もたらましかは此宮ををきたてまつりて内にたにえまいらせさ

22才

1 ましとおもふに誰もゝ宮にたてまつらんと心さし給へるむすめは源中納言にこそとりく
 に
 2 いひならふなるこそ我おほえのくちおしくはあらぬなめりさるはいとあまり世つかすふるめき
 たる

3 物をなと心をこたりせらる内の御氣しきある事まことにおほしたらんにかくのみ物うく
 4 おほえはありともいかゝはあらんいかにそ此君にいとよくに給へらむ時にうれしからんかしと
 思ふら

5 るゝはさすかにもてはなるましき心なめりかしいのねさめなるつれゝなればあせちの君と
 て

6 人よりはすこし思ひまし給へるかつほねにおはしてその夜はあかし給つ明すきたらんを人のと
 かむへ

7 きにもあらぬにくるしけにいそきおき給をたゝならすおもふへかめり

8 うちわたし世にゆるしなきせき川を見なれそめけむ

9 名こそおしけれいとおしければ

22ウ

1 ふかからすうへは見ゆれとせき河のしたのかよひは

2 たゆる物かはふかしとのたまはんにてたにたのもしけなきを此うへのあさゝはいとゝ心やまし
 3 くおほゆらんかしつま戸をし明てまことは此空見給へいかてか是をしらすかほにてはあかさ
 4 とよえんなる人まねにてはあらていとゝ明しかたくなりゆくよるゝのねさめには

5 此世かの世までなん思やられてあはれなるなといひまきはしてそ出給ことにおかしき
 6 ことの数をつくさねとさまのなまめかしき見なしにやあらんなさけなくなどは人におも
 7 はれたまはすかりそめのたはふれことをいひそめ給へる人のけちかくて見たてまつら
 8 はやとのみ思聞ゆるにやあなかちに世をそむき給へる宮の御かたにえんをたつね

9 つゝまいりあつまりてさふらふもあはれなる事ほとゝにつけつゝおほかるへし宮は女君の

23才

1 御ありさまひる見きこえ給ふにいとゝ御心さしまさりけりおほきさよき程なる人の
 2 やうたいいときよけにてかみのさかりはかしらつきなどそ物よりことにあなめてた
 3 と見え給ける色あひあまりなるまでにほひて物々しく氣たかきかほのまみ

4 いとはつかしけにらうゝしくすへて何事もたらひてかたちよき人といはんにあかぬ
 5 ところなし廿に一二そあまり給けるいはけなき程ならねはかたなりにあかぬところ
 6 なくあさやかにさかりの花と見え給へりかきりなくもてかしつき給へるにかたほならす
 7 けにおやにては心まとはし給つへかりけりたゝやはらかにあいきやうつきらう

8 たき事そかのたいの御かたはまつおもほし出られける物のたまういらへなともはち
 9 いたれとまたあまりおほつかなくはあらすすへていと見ところおほくかとゝしけなり

23ウ

1 よきわか人とも三十人はかりわらは六人かたはなるなくさうそくなともれいの
 2 うるはしき事はめなれておほさるへかめれはひきたかへ心えぬまでこのみそし給へる
 3 三条殿はらの大君を春宮にまいらせ給へるよりも此御事をはことに思をきて
 4 きこえ給へるも宮の御おほえありさまからなめりかくて後二条院に心やすく
 5 わたりたまはすかるらかなる御身ならねはおほすまゝにひるの程なともえ出た
 6 まはねはやかておなしみなみのまちに年ころありしやうにおはしましてくるれば
 7 又えひきよきてもわたりたまはすなとして待とをなるおりゝあるをかゝらん
 8 とする事とは思しかとさしあたりてはいとかくやは名残なかるへきけに心あらん人
 9 は数ならぬ身をしらてましらふへき世にもあらさりけりと返々も山路分

24オ

1 出けむほどうつゝとおほえすくやしくなしければなをいかてしのひてわたりなんむ
 2 けにそむかんさまにはあらすともしはし心をもなくさめはやにくけにもてなしなとせは
 3 こそうたてもあらめこそ心一に思あまりてはつかしけれと中納言殿に文たてまつれ
 4 給一日の御事はあさりのつたへたりしにくはしく聞侍にきかゝる御心のなこりなからましかは
 5 いかにいとおしくと思給へらるゝにもをろかならすのみなんさりぬへくは身つからもときこ
 6 え給へりみちのくにかみにひきつくろはすすめたちかき給へるしもいとおかしけ也宮の
 7 御忌日にれいの事ともいとたうとくせさせ給へりけるをよるこひ給へるさまのおとろゝ
 8 しくはあらねとけに思しり給へるなめりかしれいは是よりたてまつる御かへりをたにつゝ
 9 ましけにおもほしてはかゝしくもつゝけたまはぬをみつからとさへのたまへるかめつらしく
 うれしきに

24ウ

1 心時めきもしぬへし宮のいまめかしくこのみたち給へる程にておほしをこたりけるもけに心
 2 くるしくをしはからるれはいとあはれにておかしやかなる事もなき御文を打もをかすひき返
 3 見ぬ給へり御かへりはうけ給はりぬ一日はひしりたちたるさまにてことさらにしのひはへし
 4 もさ思給ふるやう侍ころほひにてなん名残とのたまはせたるこそすこしあさくなりになる
 5 やうにとうらめしく思給へらるれよろつはさふらひてなんあなかしことすくよかにしろき色か
 み

6 のこはゝしきにてありさて又の日の夕つかたそわたり給へる人しれす思ふ心しそひたれば
 7 あいなく心つかひいたくせられてなよらかなる御そともをいとゝにほはしそへ給へるはあまり
 8 おとろゝしきまであるに丁子染の扇のもてならし給へるうつり香などさへたとへんかたなく
 9 めてたし女君もあやしかりし夜の事なと思ひ出給おりゝなきにしもあらねはまめやかにあは
 れ

25オ

1 なる御心はへの人にす物し給を見るにつけてもさてあらまし程はかりは思やし給ふらん
 2 いはけなき程にしおはせねはうらめしき人の御ありさまを思くらふるには何事もいと
 3 こよなく思しられ給にやつねにはへたておほかるもいとおしく物おもひしらぬさまに
 4 思給ふらんなと思給てけふはみすのうちにいれたてまつり給てもやのすたれにき
 5 ちやうそへて我はすこしひきいてたいめんし給へりわさとめしと侍らさりしかとれいな
 6 らすゆるさせ給へりしよろこひにすなはちもまいらまほしく侍しを宮わたらせ
 7 給ふとうけたまはりしかはおりあしくてやはとてけふになし侍にけるさるはとし
 8 ころのしるしもやうゝあらはれ侍にやへたてすこしうすらき侍にけるみすの

9 うちにめつらしく侍わさかなとのたまうになをいとはつかしくいひいてんこと葉も

25ウ

1 なきこゝちすれと一日うれしく聞侍し心のうちをれいのたゝむすほゝれなかし
2 すくし侍なは思しるかたはしをたにいかてかはとくちおしさにといとつゝ
3 ましけにのたまふかいたくしそきてたえゝほのかに聞ゆれば心もとなくていと
4 とをくも侍かなまめやかにきこえさせうけたまはらまほしき世の物語も侍物をと
5 のたまへはけにとおほしてすこしみしろきより給けはひを聞給にもふとむね

6 打つふるれとさりけなくいとゝしつめたるさまして宮の御心はへおもはずにあさう

7 おはしけるとおほしくかつはいひもうとめまたなくさめもかたゝにしつゝときこえ給つゝ

8 おはす女君は人の御うらめしさなとは打出かたらひきこえ給ふへき事にもあらねはたゝ

9 よやはうきなおもはせて事すくなにまきはしつゝ山里にあからさまにわたし給へと

26オ

1 おほしくいとねんころに思てのたまふそれはしも心一にまかせてはえつかうまつるましき

2 事に侍也なを宮にたゝ心うつくきこえさせ給てかの御氣しきにしたかひてなん

3 よく侍へきさらすはすこしもたかひめありて心かるくもなとおほし物せんにいとあしく

4 侍なんさたにあるましくはみちの程も御をくりむかへもおりたちてつかうまつらんに

5 なにのはゝかりかは侍らんうしろやすく人ににぬ心の程は宮もみなしらせ給へりなとはいひ

6 なからおりゝはすきにしかたのくやしさをわするゝおりなく物にもかなやとりかへさまほ

7 しきとほのめかしつゝやうゝくらくなりゆくまておはするにいとうるさくおほえてさらは

8 こゝ地もなやましくのみ侍を又よろしく思給へられん程に何事もとていり給ぬるけし

9 きなるかいとくちおしければさてもいつばかりおほし立へきにかいとしけくはへしみちの草も

26ウ

1 すこし打はらはせ侍らんかしときこえ給へはしはいりさして此月すきぬめれはつい

2 たちの程にもとこそは思侍れたゝいとしのひてこそよからめなにかよのゆるしなどことゝ

3 しくとのたまうこゑのいみしくらうたけなるかなとつねよりもむかし思ひ出らるゝにえつゝみ

4 あへてよりぬ給へるはしらのもとのすたれのしたよりやをらをよひて御袖をとらへつ

5 女さりやあな心うと思ふに何事かはいはれん物もいはていとゝひきいり給へはそれにつきて

6 いとなれかほになからはうちにいりてそひふし給へりあらすやしのひてはよかるへくおほす事

7 もありけるかうれしきはひかみゝかときこえさせんとそうとゝしくおほすへきにもあらぬを

8 心うの御氣しきやと恨給へはいらへすへきこゝちもせずおもはずににくゝ思なりぬるをせめて

9 思しつめて思のほかなりける御心の程かな人のおもふらんことよあさましとあはめてなきぬ

27オ

1 へき氣しきなるすこしはことほりなれはいとおしけれと是はとかあるはかりの事かはかはかり
の

2 たいめんはいにしへをもおほし出よかしすきにし人の御ゆるしもありし物をいとこよなくおほ
し

3 けるこそ中々うたてあれすきゝしくめさましき心はあらしと心やすくおもほせとていとのと
やかに

4 もてなし給へれと月ころくやしと思わたる心のうちのくるしきまてなりゆくさまをつくゝと

5 いひつゝけ給てゆるすへき氣しきにもあらぬにせんかたなくいみしともよのつね也中々

6 むけに心しらさらん人よりもはつかしく心つきなくてなき給ぬるをこはなぞあなわかく

7 しとはいひなからいひしらすらうたけに心くるしき物からようぬふかくはつかしけなる

8 けはひなどの見し程よりもこよなくねひまさり給にけるなどを見るに心からよそ人に

9 しなしてかくやすからす物を思ふ事とくやしきにも又けにねはなけれけりちかく

27ウ

1 さふらふ女房兩人はかりあれとすゝろなるおとこのうちいりきたるならはこそこは
2 いかなる事とてもまいりからめうとからすきこえかはし給御なからひなめれはさるやうこそ
3 はあらめと思ふにかたはらいたければしらすかほにてやをらしそきぬるそいとおしきや
4 おとこ君はいにしへをくゆる心のしのひかたさなともしつめかたかりぬへかめれとむかしたに
あり

5 かたかりし御心のようぬなれはなをいと思のまゝにももてなしきこえたまはさりけり
6 かやうのすちはこまかにもえなんまねひつゝけさりけるかひなき物から人目のあいなき
7 をおもへはよろつに思かへして出たまひぬまた宵と思つれと暁ちかうなりにけるを
8 見とかむる人もやあらんとわつらはしきも女の御ためのいとおしきそかしなやましけにきゝ
9 わたる御こゝちはことほりなりけりいとはつかしとおほしたりつるこしのしるしにおほくは心
くるしく

28オ

1 おほえてやみぬるかなれいのをこましの心やおもへとなさけなからん事はなをほい
2 なかるへしましたちまちの我心のみたれにまかせてあなちなる心をつかひて後心
3 やすくしもあらさらむ物からわりなくしのひありかん程も心つくしに女のかたゝおほし
4 みたれんことよなとさかしくおもふにせかれすいまのまも恋しきそわりなかりける見てはえ
5 あるましくおほえ給も返々あやになる御心なりやむかしよりはすこしほそやきて
6 あてにらうたけなりつるけはひなどは立はなれたりともおほえす身にそひたるこゝ地
7 してさらにことゝもおほえすなりにたり宇治にいとわたらまほしけにおほいためるをさもや
8 わたしきこえてましなとおもへはまさに宮はゆるし給てんやさりとてしのひてははた
9 いとひんなからんいかさまにしてかは人め見くるしからておもふ心の行へきと心もあくかれて

28ウ

1 なかめふし給へりまいいとふかき朝に御文ありれいのうはへはけさやかなるたてふみにて
2 いたつらにわけつるみちの露しけみむかしおほゆる
3 秋の空かな御氣しきの心うさはことほりしらぬつらさのみなんきこえせんかたなく
4 とあり御かへしなからんも人のれいならす見とかむへきをいとくるしければうけたま
5 はりぬいとなやましくてえきこえさせすとはかりかきつけ給へるをあまり事すくな
6 なるかなとさうゝしくておかしかりつる御けはひのみ恋しく思ひ出らるすこし世中をもしり
給へる

7 けにやさはかりあさましくわりなしとは思給へりつる物からひたふるにいふせくなどはあらて
いと

8 らうゝしくはつかしけなる氣しきもそひてさすかになつかしくいひこらへなとしていたし給
へる

29オ

9 程の心はへなを思ひ出るもねたくなしくさまゝに心にかゝりてわひしくおほゆなに事も
1 いにしへにはいとおほくまさりて思ひ出らるなにかは此宮かれはて給なは我をたのもし人に
2 し給ふへきにこそはあめれさてもあらはれて心やすきさまにはあらしとしのひつゝ又思ひ
3 ます人なき心のとまりにてこそはあらめなとゝ此事のみつとおほゆるそけしからぬ
4 心なるやさはかり心ふかけにさかしかり給へとおとこといふ物の心うかりける事よなき人の
5 御かなしさはいふかひなき事にいとかくくるしきまてはなかりけり是はよろつにぞ思ひ
6 めくらされ給けるけふは宮わたらせたまひぬなど人のいふを聞にもうしろみの心は

7 うせてむね打つふれていと浦山しくおほゆ宮は日ころになりけるは我心さへうら
8 めしくおほされてにはかにわたり給へるなりけりなにかは心へたてたるさまにも見えたて
9 まつらし山里に思たつもたのもし人におもふ人もうとましき心そひ給へりけりと

29ウ

1 見給に世中いところせく思なられなを憂身なりけりとたゝきえせぬ程は
2 あるにまかせておいらかならんと思はてゝいとらうたけにうつくしきさまにもて
3 なしてぬ給へれはいとゝあはれにうれしくおほされて日ころのをこたりなとか
4 きりなくのたまう御はらもふくらかになりたるにかのはち給しるしのおひの
5 ひきゆはれたる程なといとあはれにまたかゝる人をちかくても見たまはさりければ
6 めつらしくさへおほしたり打とけぬところにならひ給てよろつの事心やすくなつか
7 しくおほさるゝまゝにをろかならぬ事ともをつきせず契りのたまうをきくに
8 つけてもかくのみことよきわさにやあらんとあなかななりつる人の御氣しきも
9 思ひ出られて年ころあはれなる心はへとは思わたりかゝるかたさまにてはあれ

30オ

1 をもあるましき事と思ふにそ此御ゆくさきのたのめはいてやと思なからもすこし
2 みゝとまりけるさてもあさましくたゆめゝいていきたりし程よむかしの人にうと
3 くてすきにし事なとかたり給し心はへはけにありかたかりけれとなを打とけへく
4 はたあらけりかしなといよく心つかひせらるゝにもひさしくとたえん事はいと物おそろ
5 しかるへくおほえ給へはことに出ていはねとすきぬるかたよりはすこしまつはしきさまにもて
6 なし給へるを宮はいとかきりなくあはれにおもほしたるにかの御うつり香のいとふかくしみ
7 給へるか世のつねのかうのかにいたきしめたるにもにすしるきにほひなるをその人
8 にしおはすれはあやしととかめ出給ていかなりし事そとけしきとり給にことのほかにもてはな
9 れぬ事にしあれはいはんかたなくわりなくていとくるしとおほしたるをされはよかならすさま

30ウ

1 ことはありなんよもたゝにはおもはしと思わたる事そかしと御心さはきけりさるはひとへの御
そ

2 なともぬきかへ給てけれとあやしう心よりほかにそ身にしみにけるかはかりにては
3 残りありてしもあらしとよるつに聞にくゝのたまひつゝくるに心うくて身そをき
4 ところなき思きこゆるさまことなる物を我こそさきになど打そむくきはことに
5 こそあれまた御心をき給はかりの程や侍ぬる思のほかにうかりける御心かなとすへて
6 まねふへくもあらずいとおしけにきこえ給へともかくもいらへたまはぬさへねたくて

7 また人になれける袖のうつり香を我身にしめて

8 恨つるかな女はあさましくのたまひつゝくるにいふへきかたもなきをいかゝはとて

9 見なれぬる中のころもとたのみしをかはかりにてや

31オ

1 かけはなれなんとて打なき給へる氣しきのかきりなくあはれなるを見るにかゝれはそかしと
2 いとゝ心やましくて我もほろゝとこほし給ふそ色めかしき御心なるやまことにいみしき
3 あやまちありともひたふるにはえそうとみはつましくらうたけに心くるしきさまの
4 し給へれはえも恨はてたまはすのたまひさしつゝかつはこしらへきこえ給又の日も心
5 のとかにおほとのもりおきて御てうつ御かゆなともこなたにまいらす御しつらひなとも
6 さはかりかゝやくはかりこまもろこしのにしきあやをたちかさねたる目うつしにはよの
7 つねに打なれたるこゝ地して人々のすかたもなへはみたる打ましりなとしていとし
8 つかに見まはさる君はなよらかなるうす色ともになてし子のほそなかかさねて

9 打みたれ給へる御さまの何事もうるはしくことくしきまでさかりなる人の御よはひなに

31ウ

1 くれに思くらふれとけをとりてもおほえすなつかしくおかしきも心さしのをろか
 2 ならぬにはかりなきなめりかしまろにうつしくこへたりし人のすこしほそやきたるに
 3 色はいよくしろくなりてあてにおかしけ也かゝる御うつり香などのいちしるからぬおり
 4 たにあいきやうつきらうたきところなどのなを人におほくまさりておほさるゝには
 5 是をばらからなどにはあらぬ人の気ちかくいひかよひて事にふれつゝをのつからこゑ
 6 けはひをもぎゝ見なれんはいかてかたゝにもおもはんかならずしかおもひぬへき事なるをと
 7 わかいとくまなき御心ならひにおほししるればつねに心をかけてしるきさまなる文など
 8 やあるとちかきみつし二からひつやうの物をさりけなくてさかし給へとさる物もなしたゝいと
 9 すくよかに事すくなにてなをくしきなとそわざともなければと物にとりませなどしても

32オ

1 あるをあやしなをいとかうのみはあらしかしとうたかはるゝにいとゝけふはしたやす
 2 からすおほさるゝことはりなりかしかのけしきも心あらん女のあはれと思ぬへきを
 3 なたてかは事のほかにさしはなたんいとよきあはひなれはかたみにそ思ひかはすらん
 4 かしと思ひやるそわひしくはらたゝしくねたかりけるなをいとやすからさりければその
 5 日も出たまはす六条院には御文をそ二たひ三度たてまつれ給をいつのほに

6 つもる御ことの葉ならんとつふやく老人ともあり中納言の君はかく宮のこもりおはするを
 7 聞にも心やましくおほゆれとわりなしや我心のをこましくあしきぞかしうしろやすくと
 8 思そめてしあたりの事をかく思ふへしやとしめてそ思かへしてさはいへとえおほし
 9 すてさめりかしとうれしくもあり人々のけはひなどのなつかしき程になへはみためりしをと

32ウ

1 おもひやり給てはゝ宮の御かたにまいり給てよろしきまうけの物ともやさふらふつかうへき
 2 事など申給へはれいのたゝむ月のほうしのれうにしろき物ともやあらん染たるなどはいまは
 3 わさともしをかぬをいそきてこそせさせめとのたまへはなにかことくしきようぬにも侍ら
 4 すさふらはんにしたかひてとてみくしけ殿などとはせ給て女のさうそくともあまたくたり
 5 にほそなかともゝたゝあるにしたかひてたゝなるきぬあやなとりくし給みつからの御れう
 6 とおほしきには我御れうにくれなぬのうちめなへてならぬにしろきあやともなとあまたかさね
 7 給へるにはかまのくはなかりけるにいかにしたるにかこしの一あるをひきむすひくはへて

8 むすひける契りことなるしたひもをたゝ一すちに

33オ

1 の見るしきをつきくしくもてかくしてなどのたまひて御れうのはしのひやかなれと
 2 はこにてつゝみもことなり御らんせさせねとききくもかやうなる御心まとひはつねの事
 3 にてめなれにたれはけしきはみかくしひこしろふへきにもあらねはいかゝとも思わつら
 4 はて人々にとりちらしなとしたれはをのくさしぬひなとすわかき人々の御まへちかくつかう
 5 まつるなどをそとりわきてつくるひたつへきしもつかへなどのいたくなえはみたり
 6 つるすかたともなとしろきあはせなとにてけちえんならぬそ中々めやすかりける
 7 たれかは何事をもうしろみかしつき聞ゆる人のあらん宮はをろかならぬ御心さしの
 8 程にてよろづをいかてとおほしをきてたれとこまかなる内々の事まではいかゝはおほし
 9 よらんかきりなく人にのみかしつかれてならはせ給へれば世中打あはすさひしき事は

33ウ

1 いかなる物としりたまはぬことはりえんにそゝろさむく花の露をもてあそひて世はすく

2 ずへき物とおほしたる程よりはおほす人のためなれはをのつからおりふしにつけつゝまめやかなる

3 事まであつかひしらせ給こそありかたくめつらかなる事なめれはいてやなとそしらはしけに聞ゆる

4 御めのとなともありけるわらはへなとのなりあさやかならぬおりく打ましりなしたるをも女君

5 はいとはつかしく中々なるすまゐにもあるかななど人しれすおほす事なきにしもあらぬに

6 まして此ころは世にひゝきたる御ありさまの花やかさにかつは宮のうちの人の見おもふらむ

7 事も人けなき事とおほしみたるゝ事もそひてなけかしきを中納言の君はいとよくをし

8 はかりきこえ給へはうとからんあたりには見くるしくくたくしかるへき心しらひのさまもあなつる

9 とはなけれとなにかはことくしくしたるかほならんも中々おほえなく見とかむる人やあらんとおほす

34才

1 なりけりいまそ又れいのめやすきさまなる物ともせさせ給て御こうちきをらせあやのれう

2 たまはせなとし給ける此君しもそ宮にもをとりきこえたまはすさまことにかしつきたてられ

3 てかたはなるまで心おこりもし世をおもはすましてあてなる心はへはこよなけれとこみ

4 この御山すみを見そめ給しよりさひしきところのあはれさはさまことなり

5 けりと心くるしくおほされてなへての世をも思めくらしふかきなさけをもならひ

6 給にけるいとおしの人ならはしやとそかくてなをいかてうしろやすくおとなしくてやみなん

7 と思ふにもしたかはす心にかゝりてくるしければ御文などをありしよりはこまやかにてとも

8 すれはしのひあまりたる氣しき見せつゝきこえ給を女君いとわひしき事そひに

9 たる事とおほしなけかるひとへにしらぬ人ならばあな物くるをしとはしたなめさし

34ウ

1 はなたんにもやすかるへきをむかしよりさまことなるたのもし人にならひきていまはさら

2 に中あしくならんも中々人めあやしかるへしとさすかにあさはかにもあらぬ御心はへあり

3 さまのあはれをしらぬにはあらずさりとて心かはしかほにあひしらはんもいとつゝましくいか

ゝ

4 はすへからんとよろつに思みたれ給さふらふ人々もすこし物のいふかひありぬへくわか

5 やかなるはみなあたらし見なれたるとではかの山里のふる女房也思ふ心をもなつかしくいひ

6 あはすへき人のなきまゝにはこひめ君を思ひ出きこえたまはぬおりなしおはせましかは此人も

7 かゝる心をそへたまはましやといとかなしく宮のつらくなりたまはんなけきよりも此事いとくる

8 しくおほゆおとこ君もしのひて思わひてれいのしめやかなる夕つかたおはしたりやかてはしに

9 御しとねさしいたさせ給ていとなやましき程にてなんえきこえさせぬと人してきこえいたし

35才

1 給へるをきくにいみしくつらくて涙のおちぬへきを人めにつゝめはしゐてまきはしてなやませ

2 給おりはしらぬそうなともちかくまいりよるをくすしなとのつらにてもみすのうちにばさふらふ

3 ましくやはかく人つてなる御せうそこなんかひなきこゝちするとおのたまひていと物しけなる

4 御氣しきなるを一夜も物のけしき見し人々けにいと見くるしく侍めりとてまよのみす

5 打おろしてよめのそうのさにいれたてまつるを女君まことにこゝちもいとくるしけれと

6 人のかくいふにけちえんならんも又いかゝとつゝましかれば物うなからすこしぬさり出たい
7 めんし給へりいとほのかに時々物のたまう御けはひのむかしの人のなやみそめ給へりしころま
つ思

8 出らるゝもゆゝしくかなしくてかきくらすこゝちし給へはとみに物もえいはれすためらい
9 てそきこえ給こよなくをくまり給へるもいとつらくてすのしたよりきちやうをすこし

35ウ

1 をしいれてれいのなれゝしけにちかつけより給ふかいとくるしければわりなしとおほして
2 少将といひし人をちかくよひよせてむねなんいたきしはしをさへてのたまうを
3 きゝてむねはをさへたるはくるしくも侍物をと打なけてゐなをり給程にけにそ
4 したやすからぬいかなれはかくしもつねになやましくはおほさるらん人にとひ侍しかは
5 しはしこそこゝちはあしかなれさてまたよろしきおりありなとこそをしへはへしかあま
6 りわかゝしくもてなさせ給なめりかしのたまうにいとつかしくてむねはいつとも
7 なくかくこそ侍れむかしの人もさこそは物し給しかなかるましき人のするわざとか
8 人もいひはへめるとそのたまうけに誰も千とせの松ならぬ世をと思ふにはいと心
9 くるしくあはれなれば此めしよせたる人のきかんもつゝまれすかたはらいたぎすちの

36オ

1 事をこそえりとゝむれむかしより思きこえしさまなどをかの御みゝひとつには
2 心えさせなから人はまたかたはにも聞ましきさまにさまよくめやすくそいひなし
3 給をけにありかたき御心はへにもと聞たり何事につけても小君の御事をそ
4 つきせず思給へるいはけなかりし程より世中を思はなれてやみぬへき御心つかひをのみ
5 ならひ侍しにさるへきにや侍けんうとき物からをろかならず思そめきこえ侍し一ふしに
6 かのほいのひしり心はさすかにたかひやしにけむなくさめはかりにこゝにもかしこにも
7 ゆきかゝつらひて人のありさまを見むにつけてまきるゝ事もやあらんなどと思ふ
8 おりゝ侍れとさらにほかさまにはなひきへくも侍らさりけりよろづに思給へわひ
9 ては心のひくかたのつよからぬわさなりければすきかましきやうにおほさるらんと

36ウ

1 はつかしけれとあるましき心のかけてもあるへくはこそめさましからめたゝかはかりの程
2 にて時々おもふ事をもきこえさせうけたまはりなとしてへたてなくのたまひかよはんを誰
3 かはとかめ出へき世の人にぬ心の程はみな人にもとかるましく侍をなをうしろやすくお
4 ほしたれなと恨みなきみきこえ給うしろめたく思きこえはかくあやしと人も見思ひぬ
5 へきまてはきこえ侍へくや年ころこなたかなたにつけつゝ見る事ともの侍しかはこそ
6 さまことなるたのしも人にていまは是よりなとおとろかし聞ゆれとのたまへはさやうなるおり
も

7 おほえ侍らぬ物をいとかしこき事におほしをきてのたまはするにや此御山里出たちいそき

8 にからうしてめしつかはせ給ふへきそれも世に御らんししるかたありてこそはとをろかにやは

9 思侍などのたまひてなをいと物うらめしけなれと聞人あればおもふまゝにもいかてかはつゝけ

37オ

1 たまはんとのかたをなかめいたしたれはやうゝくらくなりにたるに虫のこゑはかりまきれな
く

2 て山のかたをくらくなにあやめも見えぬにいとしめやかなるさましてよりぬ給へるもわつら

3 はしとのみ内にはおほさるかきりたにあるなとしのひやかに打すして思給へわひにて侍る音な
しの

4 里もとめまほしきをか山里のわたりにわざと寺などとはなくともむかしおほゆる人形をも

5 つくりゑにもかきとりてをこなひ侍らんとなん思給へなりにとのたまへはあはれなる御
6 ねかひにまたうたてみたらしかはちかきこちする人かたこそ思やりいとおしく侍れこかねも
とむる

7 ゑしもこそなとうしろめたくそ侍よとのたまへはそよそのたくみもゑしもいかてかは心にはか
なふへき

8 わさならんちかき世に花ふらせたるたくみも侍けるをさやうならんへけの人もかななとどさま
かう

9 さまにわすれんかたなきよしをなけき給氣しきの心ふかけなるもいとおしくしていますこしちか
くすへり

37ウ

1 よりて人かたのついでにいとあやしく思よるましき事をこそ思ひ出侍れとのた

2 まうけはひのすこしなつかしきもいとうれしくあはれにて何事にかといふまゝにきちやう

3 のしたより手をとらふれはいとうるさく思ならるれといかさまにしてかゝる心をやめ

4 てなたらかにあらんとおもへは此ちかき人のおもはん事のあいなくてさりけなくもてなし

5 給へり年ころは世にやあらんともしらさりつる人の此夏ころとをきところより物して

6 たつね出たりしをうとくはおもふましけれとまた打つけにさしもなにかはむつひおもはんと

7 思侍しをさいつころきたりしこそあやしきまでむかしの人の御けはひにかよひたりしかは

8 あはれにおほえなりにしかかたみなとかうおほしのたまうめるは中々何事もあさましく

9 もてはなれたりとなん見る人々もいひ侍しをいとさしもあるましき人のいかてかは

38オ

1 さはありけんとのたまうを夢かたりかとまできくさるへきゆへあれはこそはさやうにもむつひ

2 きこえらるらめなとかいまゝてかくもかすめさせたまはさらんとのたまへはいさやそのゆへ

3 もいかなりけん事とも思わかれ侍らす物はかなきありさまともて世におちとまりさす

4 らへんとすらん事とのみうしろめたけにおほしたりし事ともをたゝひとりかきあつめて思

5 しられ侍に又あいなき事をさへ打そへて人も聞つたへんこそいとくおしかるへけれとのた

6 まふけしき見るに宮のしのひて物なとのたまひけん人のしのふ草つみをきたりける

7 なるへしと見しりぬにたりとのたまふゆかりにみゝとまりてかはかりにてはおなしは

8 いひはてさせ給てよといふかしかり給へとさすかにかたはらいたくてえこまかにきこえ

9 たまはすたつねんとおほす心あらはそのわたりとはきこえつへけれとくはしくしもえしら

38ウ

1 すやまたあまりいはゝ心をともしぬへき事になんとのたまへは世をうみなかにも玉の

2 ありかたつめるには心のかきりすゝみぬへきをいとさまておもふへきにはあらさなれと

3 いとかくなくさめんかたなきよりはと思より侍る人かたのねかひはかりにはなとかは山里

4 のほんそむにも思侍らさらんなをたしかにのたまはせよと打つけにせめきこえ給ふ

5 いさやいにしへの御ゆるしもなかりし事をかくまでもらし聞ゆるもいとくちかるけれと

6 へけのたくみもとめ給いとおしさにこそかくもとめていとをきところに年ころへに

7 けるをはゝなる人のうれはしきことに思てあななちになつねよりしをはしたなくも

8 えいらて侍しに物したりし也ほのかなりしかはにや何事も思し程よりは見くるしからず

9 なん見えし是をいかさまにもてなさんとなけくめりしに仏にならんはいとよこなき

39オ

1 ことにこそはあらめさまでいかてかはなときこえ給ふさりけなくてかくうるさき心を

2 いかていひはなつわさもかなと思給へると見るはつらけれとさすかにあはれ也あるましき

3 事とはふかく思給へる物からけせうにはしたなきさまにはえもてなしたまはぬも見しり

- 4 給へるにこそはおもふ心時めきに夜もいたくふけゆくを内には人めいとかたはらい
- 5 たくおほえ給て打たゆめて入給ぬれおとこ君ことはりと返々おもへとなをいと
- 6 うらめしくちおしきに思しつめんかたもなきこゝちして涙のこほるゝも人わるければ
- 7 よろつに思みたるれとひたふるにあさはかならんもてなしはたなをいとうたて我ため
- 8 もあいなるへければねんしかへしてつねよりもなけきかちにて出たまひぬかくのみ思
- 9 てはいかゝすへからんくるしくもあるへきかないかにしてかは大かたの世にはもときあるましきさま

39ウ

- 1 にてさすがにおもふ心のかなふわさをすへからんなどおりたちてねんしたる心ならねはにや我ため
- 2 人のためも心やすかるましき事をわりなくおもほしあかすにたりとのたまへる人も
- 3 いかてかはまことかと思へるへきさはかりのきはなれは思よらむにかたくはあらずとも人の
- 4 ほしいにもあらずはうるさくこそあるへけれなどなをそなたさまには心もたゝす宇治の
- 5 宮をひさしく見たまひぬ時はいとゝむかしとをくなるこゝ地してすゝろに心ほそければ九月
- 6 廿余日はかりにおはしたりいとゝしく風のみ吹はらひて心すくあらましけなる水の音のみ
- 7 宿もりにて人かけもことに見えすみるにはまつかきくらしかなしき事そかきりなき弁
- 8 のあまめし出たれはさうしくちにあをにひのきちやうさし出てまいれりいとかしこけれとまし
- 9 いとおそろしけに侍れはつゝましくてなんとてまほには出こすいかななめ給ふらんと思やるにおなし

40オ

- 1 心なる人もなき物語もきこえんとてなんはかなくもつもる年月かなとて涙をひとめうけておはす
- 2 るにおい人はいとゝさらにせきあへす人のうへにてあいなく物をおほすめりし心のそらそかしと思給へ出る
- 3 にいつと侍らぬ中にも秋の風は身にしてみてつらくおほえ侍てけになけかせ給ふめりしものしるき世
- 4 の中の御ありさまをほのかにうけたまはるもさまゝになんと聞ゆればとある事もかゝる事もなからふれはなほ
- 5 るやうもあるをあちきなくおほししみけんこそわかあやまちのやうになをかなしけれ此ころの御ありさま
- 6 はなにかそれこそよのつねなれされとうしろめたけには見えきこえさめりいひてもゝむなしき
- 7 空にのほりぬるけふりのみこそ誰ものかれぬ事なからくれさき立程はなをいといふかひなかりけれさても
- 8 またなきたまひぬあさりめしてれいのかの御忌日の経仏の事などのたまふさてこゝに時々物するに
- 9 つけてもかひなき事のやすからすおほゆるかいとやくなきを此してんこほちてかの山寺のかたはらに

40ウ

- 1 たうたてんとなんおもふをおなしとはとくはしめてんとのたまひてたういくつらうとも僧
- 2 房などあるへき事ともかきいてのたまうなとせさせ給をいとたうとき事ときこえ
- 3 しらすむかしの人のゆへある御すまぬにしみつくり給けんところをひきこほたんなさけ

4 なきやうなれとその御心さしもくのかたにはすゝみぬへくおほしけんをとまりたまはん
 5 人々をおほしやりてえさはきてたまはさりけるにやいまは兵部卿宮の北のかたこそは
 6 しり給へければかの宮の御りやうともいひつへくなりたりされはこゝなから寺になさん
 7 事はひんなかるへし心にまかせてさもえせしところもさまもあり川つらちかくけせう
 8 にもあればなをしんでんをうしなひてことさまにもつくりかへん心にてなんどのたまへはとさ
 ま

9 かうさまにいとかしこくたうとき御心也むかし別をかなしひてかはねをつゝみてあまたの
41才

1 年くひにかけて侍ける人も仏の御はうへんにてなんかのかはねのふくろをすてゝつぬに
 2 ひしりのみちに入侍にける此しんでんを御らんするにつけて御心うこきおはしますらむ
 3 一にはたいくしき事也また後の世のすゝめともなるへき事に侍けりいそぎつかうまつるへし
 4 こよみのはかせのはからひ申て侍らん日をうけたまはりて物のゆへしりたらんたくみ二三人
 5 をたまはりてこまかなる事とは仏の御をしへのまゝにつかうまつらせ侍らんと申とかくのた
 6 まひさためてみさうの人もめして此程の事ともあさりのいはんまゝにすへきよしなどおほ
 7 せ給ふはかなく暮ぬれはその夜はとゝまりたまひぬ此たひばかりこそ見めとおほしてたち
 8 めくりつゝ見給へは仏もみなかの寺にうつしてければあま君のをこなひのくのみありいとほか
 な

9 けにすまぬたるをあはれにいかにしてすくすらんと見給此しんでんはかへてつくるへきやう

41ウ

1 ありつくりいてん程はかのらうに物し給へ京の宮にとりわたさるへき物などあらはみさうの人
 2 めしてあるへからんやうに物し給へなとまめやかなる事ともをかたらひ給ほかにてはかはかり
 にさたすき

3 なん人をなにかと見いれ給ふへきにもあらねとよるもちかくふせてむかし物語なとせさせ
 4 給ご大なこんの君の御ありさまも聞人なきに心やすくていとこまやかに聞ゆいまはと
 5 なり給し程にめつらしくおはしますらん御ありさまをいふかしき物に思きこえさせ給ふ
 6 めりし御氣しきなどの思給へ出らるゝにかく思かけ侍らぬ世のすゑにかくて見たてまつり侍
 7 なんかの御よにむつましくつかうまつりをきししるしのをつから侍けるとうれしくもかな
 8 しくも思給へられ侍心うきいのちの程にてさまゝのこを見給へすくし思給へしり侍なん
 9 いとはつかしく侍宮よりも時々はまいりて見たてまつれおほつかなかたへこもりはてぬるはこ
 よ

42才

1 なく思へたてけるなめりなどのたまはするおりく侍れとゆゝしき身にてなんあみた仏よりほ
 か

2 に見たてまつらまほしき人もなくなりて侍なと聞ゆひめ君の御事ともはたつきせずとし
 3 ころの御ありさまなとかたりてなにのおりなにとのたまひし花もみちの色を見てもはかなく
 4 よみ給ける歌かたりなとをつきかならず打わなゝきたれとかたるにこめかしく事すく
 5 なゝる物からおかしかりける人の御心はへかなとのみいと聞そへ給宮の御かたはいますこし
 6 いまめかしき物から心ゆるささらん人のためにははしたなくもてなし給つへくこそ物し
 7 給ふめるを我にはいと心ふくなさけくしとは見えていかてすくしんとこそ思ふ給へれ
 8 など心のうちに思くらへ給さて物のついてにかのかたしるの事をいひ出給へり京に
 9 此ころ侍らんとはえしり侍らす人つてにうけたまはりし事のすち也こ宮またかゝる

42ウ

1 山さとすみもしたまはすこきたのかたうせ給へりける程ちかかりけるころ中将のきみ

2 とてさふらひける上臆の心はせなともけしうはあらさりけるをいとしのひてはか
 3 なき程に物のたまはせけるをしる人も侍らさりけるに女こをなんうみて侍けるを
 4 さもやあらんとおほす事のありけるからにあいなくわつらはしく物しきやうにおほしなりて
 5 又とも御らんしいるゝ事もなかりけりあいなくその事におほしこりてやかて大かたひしりに
 6 ならせ給けるをはしたなく思てえさふらはすなりにけるかみちのくにかみのめになりたり
 7 けるを一年のほりてその君たいらかに物し給ふよし此わたりにもほのめかし申たりけるを
 8 きこしめしつけてさらにかゝるせうそこあるへきにもあらすとのたまはせはなちければ
 9 かひなくてなんなけき侍けるさて又ひたちになりてくたり侍にけるか此年ころ音にも

43才

1 きこえたまはさりつるか此春のほりてかの宮にはたつねまいりたりけるとなんほのかにきゝは
 へし
 2 かの君の年はたちはかりにはなりたまひぬらんかしいとうつくしくおい出給ふかなしきな
 ところそ
 3 中ころは文にさへかきつゝけてはへめりしかと聞ゆくはしくはきゝあきらめ給てさらはまこと
 にて

4 もあらんかし見はやと思ふ心出きぬむかしの御けはひにかけてもふれたらん
 5 人はしらぬ国までもたつねしらまほしき心あるをかすまへたまはさりけれと
 6 けちかき人にこそはあなれわざとなくとも此わたりにをとなふおりあらんつ
 7 いてにかくなんいひしとつたへ給へなとはかりのたまいをくはゝ君はこきたの
 8 かたの御めいなり弁もはなれぬならひに侍へきをそのかみはほかゝに侍てく
 9 はしくも見給へなれさりきさひつころ京よりたいふかもとより申たりしかはかの

43ウ

1 君なんいかてかの御はかにたにまいらむとのたまふなるさる心せよなと侍しかとまたこゝ
 2 にさしはへてはをとなはす侍めりいまさらにはさやうのついてにかゝるおほせなとつたへ侍
 3 らむと聞ゆ明ぬれはかへりたまはんとてよへをくれてもてまいれるきぬわたなど
 4 やうの物あさりにをくらせ給あま君にも給ふほうしはらあま君のけすとのれうに
 5 とてぬのなといふ物をさへめしたふ心ほそきすまぬなれとかゝる御とふらひたゆまさり
 6 ければ身の程にはいとめやすくしめやかにてなんをこなひける木枯のたへかたきまで
 7 吹とをしたるに残るこす糸もなくちりしきたる紅葉をふみ分ける跡も見えぬを見わたりて
 8 とみにもえ出たまはすいと氣しきあるみ山木にやとりたるつたの色そまた残りたる
 9 こたになとすこしひきとらせ給て宮へとおほしくてもたせ給

44才

1 やとり木とおもひいてすはこのもとのたひねもいかに
 2 さひしからましとひとりこちたまうをきゝてあまきみ
 3 あれはつるくち木のもとをやとり木とおもひをきける
 4 程のかなしさあくまでふるめきたれとゆへなくはあらぬをそいさゝかのなくさめにはおほ
 5 しける宮よりとてなに心なくもてまいりたるを女君れいのむつまじき事もこそとくる
 6 しくおほせととりかくさんやは宮おかしきつたかなとたゝならすのたまひてめしよせて見給ふ
 7 御文には日ころ何事かおはしますらん山里に物し侍ていとゝ峯の朝霧にまどひ侍つる御物
 8 語もみつからんかしこのしんでんたうになすへき事あさりにいひつけ侍にき御ゆるし
 9 侍てこそはほかにうつす事も物し侍らん弁のあまにさるへきおほせ事はつかはせなとそある

44ウ

1 よくもつれなくかき給へる文かなまろありとそ聞つらんとのたまうもすこしはけにさやあり

2 つらん女君はことなきをうれしと思給ふにかくのたまうをわりなしとおほして打えんして
 3 ゐ給へる御さまよろつのつみゆるしつへくおかし返事かき給へ見しやとてほか
 4 さまにむき給へりあまえてかゝさらんもあやしければ山里の御ありきのうら山
 5 しくも侍かなかしこはけにさやうにてこそよくと思給へしをことさらに又いはほの
 6 なかもとめんよりはあらしはつましく思侍をいかにもさるへきさまになさせたまは、
 7 をろかならずなるときこえ給かくにくき氣しきもなき御むつひなめりと見給
 8 なから我御心ならひにたゝならしとおほすかやすからぬなるへしかれくゝなるせんさい
 9 の中に尾花の物よりことに手をさし出てまねくかおかしくみゆるにまたほに出さしたる

45才

1 も露をつらぬきとむる玉のをはかなけに打なひきたるなとれいの事なれとゆふかせ
 2 なをあはれなりかし
 3 ほにいてぬものおもふらししのすゝきまねくたもの
 4 露しけくしてなつかしき程の御そともになをしはかりき給てひわをひきぬ給へり
 5 わうしきてうのかきあはせをいとあはれにひきなし給へは女君も心にいり給へる事にて物えん
 6 もえしはてたまはすちいさきみきちやうのつまよりけうそくによりかゝりてほのかにさし出給
 へる
 7 いと見まほしくらうたけなり

8 秋はつる野辺の氣しきもしのすゝきほのめくかせに

45ウ

9 つけてこそしれ我身一のとて涙くまるゝかさすかにはつかしければ扇をまきはしておはする
 1 心のうちもらうたくをしはからるれとかゝるにこそ人もえ思はなたさめとうたかはしきかた
 たゝ

2 ならてうらめしきなめり菊のまたよくもうつろひはてゝわさとつくるひたてさせ給へるは中
 くゝをそ

3 きにいかなる一本にかあらんいと見ところありてうつろひたるをとりわきておらせ給て花の
 4 なかにひとへにとすし給てなにかしのみこの此花めてたる夕そかしいにしへ天人のかけりて
 5 ひわの手をしへけるは何事もあさくなりになるよは物うしやとてさしをき給をくちおしと
 6 おほして心こそあさくもあらめむかしをつたへたらん事さへはなとてかさしもとておほつかな
 き

7 手などをゆかしけにおほしたればさらはひとりことはさうくゝしきにさしいらへし給へかしと
 て

8 人めしてさうの御こととりよせさせてひかせたてまつり給へとむかしこそまねふ人も物し給し
 かはかくゝ

9 しくひきもとめすなりにし物をとつゝましけにて手もふれたまはねはかりのこともへたて
 給へるこそ心うけれ

46才

1 此ころ見るわたりはまたいと心とくへき程にもあらねとかたなりけるうぬことをもかくさすこ
 そあれ

2 すへて女はやはらかに心うつくしきなんよき事とこそその中納言もさたむめりしかかの君には
 たかく

3 もつゝみたまはしこよなき御中なめれはなとまめやかにうらみられて打なけきてすこしらへ
 4 給ゆるひたりければはんしきてうにあはせ給かきあはせなとつま音おかしけに聞ゆいせの海う

たい

5 給ふ御こゑのあてにおかしきを女房物のうしろにちかつきまいりてゑみひろこりてゐたりふた
6 心おはしますはつられとそれもとほりなれはなをわかおまへをはいはひ人こそ申さめ
かゝる

7 御ありさまにましらひ給ふへくもあらざりし年ころの御すまゐをまたかへりなまほしけに
8 おほしてのたまはするこそいと心うけれなとたゞいひにいへはわかき人々はあなかまやなど
9 せいす御ことゝもをしへたてまつりなとして三四日こもりおはして御物いみなことつけ給を

46ウ

1 かの殿にはうらめしくおほしておとゝ内より出給けるまゝにこゝにまいり給へれば宮ことゝ
しけなる

2 さましてなにしにいましつるそとよゝとむつかり給へとあなたにわたり給てたいめんし給
3 ことなる事なき程は此院を見てひさしくなり侍もあはれにこそなとむかしの御物語とも
4 すこしきこえ給てやかてひきつれきこえ給て出給いぬ御ことものとはさらぬ
5 かんたちめ殿上人なともいとおほくひきつゝき給へるいきをひこちたきを見るにならふ
6 へくもあらぬそくむしいたかりける人々のそきて見たてまつりてさきよらにおはしける
7 おとゝかなさはかりいつれとなくわかくさかりにてきよけにおはさうする御子どものに給ふ
8 へきもなかりけりあなめてたやといふもあり又さはかりやむことなける御さまにて
9 わさとむかへにまいり給へるこそにくけれやすけなの世中やなと打なけくもあるへし

47オ

1 御身つからもきしかたを思ひ出るよりはしめかの花やかなる御なからひに立ましるへくも
2 あらすかすかなる身のおほえをといよゝ心ほそければなを心あさくこもりぬなんのみこそめ
3 やすからめなといとゝおほえ給ふはかなくて年もくれ正月つこもりかたよりれいなぬさま
4 になやみ給を宮また御らんししらぬ事にていかならんとおほしなきてみすほうなどところ

く

5 にてもあまたせさせ給に又々はしめそへさせ給ふいといたくわつらひ給へはきさいの宮よりも
御

6 とふらひありかくて三年になりぬれと一ところの御心さしこそをろかならね大かたの世には物
々

7 しくももてなしきこえたまはさりつるを此おりそいつこにもくきこしめしおとろきて御とふ
らい

8 ともきこえ給ける中納言の君は宮のおほしさはくにをとらすいかにおはせんとなけきて

9 心くるしくうしろめたくおほさるれとかきりある御とふらひはかりこそあれあまりもえまかて

47ウ

1 たまはてしのひてそ御いのりなともせさせ給けるさるは女二の宮の御もきたゝ此ところに
2 なりて世中ひゞきいとなみのゝするよろつの事みかとの御心一なるやうにおほしいそけは
3 御うしろみなきしもそ中々めてたけに見えける女御のしをき給へる事をはさる事にてつくも
4 ところさるへきすらうともなととりゝにつかうまつる事ともいとかきりなしやかてその程に
5 まいりそめ給ふへきやうにありければおとこかたも心つかひし給ころなれとれいの事なれば
6 そなたさまには心もいらて此御事のみにとおしくなけかるきさらきのついたちころになをしも
7 のとかいふ事に権中納言になり給て右大将かけ給つ右のおほい殿左にておはしましけるか
8 しゝ給へるところなりけりよろこひにところゝありき給て此宮にまいり給へりいとくるしく
9 し給へはこなたにおはします程なりければやかてまいり給へりそうなとさふらひてひんなき

48オ

1 かたにとおとろき給てあさやかなる御なをし御したかさねとたてまつりひきつくりい
 2 給てたうのはいし給ふ御さまもとよりくいにいとめてたくやかてこよひつかさの人にく
 3 給ふあるしのところにさうしたてまつり給をなやみ給人によりてそおほしたゆたひ給
 4 める右大臣殿のし給けるまゝにとて六条院にてなんありけるゑんかのみこ

5 たちかんだちめたいきやうにをとらすあまりさはかしきまでなんつとひ給ける

6 此宮もわたり給てしつ心なければまた事はてぬにいそきかへり給ぬるを大殿の

7 御かたにはいとあかすめさましとのたまふをとるへくも御程なるをたゝいまのおほえの

8 花やかさにおほしおこりてをしたちてもてなし給へるなめりかしからうしてその暁

9 にをのこにてむまれ給へるを宮もいとかひありてうれしくおほしたり大将殿も

48ウ

1 よるこひにそへてうれしくおほすよくおはしましたりしかしこまりにやかて此御よろ

2 こひも打そへてたちなからまいり給へりかくこもりおはしませはまいりたまはぬ人なし

3 御うふやしなひ三日はれいのたゝ宮の御わたくし事にて五日の夜は大将殿より

4 とんしき五十具五てのせにわうはんなどはよのつねのやうにてこちの御まへの

5 ついかさね三十ちこの御そいつへかさねにて御むつきなとそこくしからすしのひや

6 かにしなし給へれとこまかに見ればわざとめなれぬ心はへなと見えける宮のおまへに

7 せんかうのおかしきたかつきともにてふすくまいらせ給へり女房のおまへにはついかさ

8 ねをはさる物にてひわりこ三十さまくしつくしたることももあり人目にことくしきは

9 ことさらにしなしたまはす七日の夜はきさいの宮の御うふやしなひなればまいり給ふ

49才

1 人々おほかり宮のたいふをはしめて殿上人かんだちめ数しらすまいり内にもきこしめして

2 宮のはしめておとなひ給なるにはいかてかとのたまはせて御はかしたてまつらせ給へり

3 九日もおほい殿よりつかうまつらせ給へりよろしからすおほすあたりなれと宮のおほさん

4 ところあれは御このきんたちなとまいり給てすへいとおもふ事なけにめてたければ御みつ

5 からも年ころ物おもはしくこゝ地のなやましきにつけても心ほそくおほしわたりつるにかくお

も

6 たゝしくいまめかしき事とものおほかれはすこしなくさみやし給ふらん大将はかくさへおとな

7 ひはて給ふめれはいとゝ我かたさまはけとをくやならん又宮の御心さしもいとをろかならし

8 とおもふ心はくちおしけれと又はしめよりの心をきておもふにはいとうれしくもありかくてそ

の

9 月の廿日あまりにそ藤つほの宮の御もきの事ありて又の日なん大将まいり給ける

49ウ

1 その夜の事はしのひたるさま也天のしたひゝきていつくしう見えつる御かしつきにたゝ

2 人のくしたてまつり給ふそなをあかす心くるしく見ゆるさる御ゆるしはありなからもたゝいま

3 かくいそかせ給ましき事そかしとそしらはしけに思のたまう人もありけれとおほし立ぬる

4 事すかくしくおはします御心にてきしかたのためしなきまておなしくはもてなさんとおほし

5 をきつるなめりみかとの御むこになる人はむかしもいまもおほかれとかくさかりの御代にたゝ

人の

6 やうにむことりいそかせ給へるたくひはすくなくやありけん右のおとゝもめつらしかりける人

の

7 御おほえすくせなりけりこ院たに朱雀院の御すゑにならせ給ていまはとやつし給し

8 きはにこそかのはゝ宮をえたてまつり給しか我はまして人もゆるさぬ物をひろひ

9 たりしやとのたまひ出れば宮はけにとおほすにはつかしくて御いらへもえしたまはす三日のよ

は

50才

1 大蔵卿よりはしめてかの御かたの心よせになさせ給へる人々けいしにおほせ事給てしの
 2 ひやかなれとかのこせんすいしくるまそいとねりまてろくたまはすその程の事ともは
 3 わたくし事のやうにてありけるかくて後はしのひくにまいり給心のうちにはなをわすれかた
 き

4 いにしへさまのみおほえてひるは里におきふしなめ暮してくるれは心よりほかにいそぎ
 5 まいり給をもならはぬこゝちにいと物うくるるしくてまかてさせたまつらんとおほし
 6 をきてけるはゝ宮はいとうれしき事におほしたりおはしますしてんゆつりきこえ給ふへく
 7 のたまへとかたしけなからんとて御ねんすたうのあはひにらうをつゝけてつくらせ給
 8 西おもてにうつろひ給ふへきなめりひんかしのたいともなともやけて後うるはしくあたら
 9 しくあらまほしきをいよくみかきそへつゝこまかにしつらはせ給かゝる御心つかひを内にも
 きかせ

50ウ

1 給て程なく打とけうつろひたまはんをいかゝとおほしたりみかとゝ聞ゆれと心のやみはおなし
 2 事なんおはしましけるはゝ宮の御もとに御つかひありける御文にもたゝ此事をなんきこえさせ
 給

3 けるこ朱雀院のとりわきて此あま宮の御事をきこえをかせ給しか世をそむき給へれ
 4 とゆつらす何事もとのまゝにそうせさせ給事などはかならずきこめしけれ御ようゐ
 5 ふかかりけりかくやむ事なき御心ともにかたみにかきりなくもてかしつきさはかれ給おもたゝ
 し

6 さもいかなるにかあらん心のうちにはことにうれしくもおほえすなをともしれば打なめつゝ
 うちの

7 寺つくる事をいそかせ給宮のわか君いかになり給ふ日かそへとりてそのもちゐいそきを心に
 8 入てこものひわりこなとまで見れ給つゝよのつねのなへてにはあらすとおほし心ざして
 9 ちんしたんしろかねこかねなとみちくのさいくともおほくめしさふらはせ給へはわれをとら
 しと

51才

1 さまくの事ともをしいつめりみつからもれいの宮のおはしまさぬひまにおはしたり心のなし
 にや

2 あらんいますこしをもくしくやむ事なける氣しきさへそひにけりとみゆいまは
 3 さりともむつかしかりしすゝる事などは思まきれ給にたらんとおもふに心やすくてたいめんし
 4 給へりされとありしなからのけしきにまつ涙くみて心にもあらぬましらひいとゝ思のほかなる
 5 物にこそと世を思給へみたるゝ事なんまさりにたるとあいたちなくそうれへ給いとあさ
 6 ましき御事かな人もこそをのつからほのかにももり聞侍れなどのたまへとかはかりめてた
 7 けなる事ともにもなくさますわすれかたく思給ふらん心ふかさよとあはれに思きこえ
 8 給にをろかにもあらす思しられ給おはせましかはとくちおしく思ひ出きこえ給へとそれ
 9 も我ありさまのやうにそうらやみなく身をうらむへかりけるかし何事も数ならては

51ウ

1 世の人めかしき事もあるましかりけりとおほゆるにそいとゝかの打とけ
 2 はてゝやみなんと思給へりし心をきてはをもくしく思ひ出られ給わか君をせち
 3 にゆかしかり給へはつかしけれとなにかはへたてにもあらんわりなきこと一につ
 4 けて恨しらるゝよりほかにはいかて此人の御心にたかはしとおもへは身つからともかくもいら

へ

5 きこえたまはてめのとしてさし出させ給へるさらなる事なれはにけならんやはゆゝしき
6 まてしろくうつくしくてたかやかに物語し打わらひなとし給かほを見るに我

7 物にて見まほしく浦山しきも世の思はなれかたくなりぬるやあらんされといふかひなくなり

8 給にし人のよのつねのありさまにてかやうならん人をもとゝめをき給へらましかはと

9 のみおほえて此ころおもたゝしけなるあたりにいつしかなとは思よらぬこそあまりすへなき君

52才

1 の御心なめれかくめゝしくねちけてまねひなすこそいとおしけれしかわるひかたほならん人
2 みかとのとりわけせちにちかつてむつひ給ふへきにもあらし物をまことしきさまの御心をき
て

3 などこそはめやすく物し給けめとそをしはからるへきけにいかくおさなき程を見せ給へも

4 あはれなれはれいよりは物語なとこまやかにきこえ給程に暮ぬれは心やすく夜をたにふか

5 すましきをくるしうおほゆれはなけくゝ出たまひぬおかしの人の御にほひやおとりつればとか
やいふやうに

6 驚もたつねきぬへきかめりなとわつらはしかるわかき人もあり夏にならば三条の宮ふたかるか
たに

7 なりぬへしとさためて四月のついたち比せちふんとかいふ事またしきさきにわたしたてまつり
給

8 あすとの日藤つほにうへわたらせ給て藤の花のえんせさせ給みなみのひさしのみすあけて

9 石たてたりおほやけわさにてあるしの宮のつかうまつり給にはあらすかんだちめ殿上人のきや
うなど

52ウ

1 くらつかさよりつかうまつり右のおとゝあせちの大納言とう中納言左兵衛督みこたちは三宮

2 ひたちの宮なとさふらひ給みなみの庭の藤の花のもとに殿上人の座はしたりこうりやうてんの

3 ひんかしにかくその人々めして暮行程にそうてうふきてうへの御あそびに宮の御かたより御こ
とゝも

4 ふえなといたさせ給へはおとゝをはしめたてまつりておまへにとりつゝまいり給て六条の院の
御てつからかき

5 給て入道の宮にたてまつらせ給しきんのふ二巻五えうのえだにつけたるをおとゝとり給てそ
うし給つきくゝにさうの御ことひわこんなど朱雀院の物ともなりけりふえは此夢につたへしい

にしへのかた

7 見のを又なき物の音なりとめてさせ給ければ此おりのきよより又はいつかははへくゝしきつ
いてのあ

8 らむとおほしてとうて給へるなめりおとゝわこん三宮ひわなととりくゝに給ふ大将の御ふえは
けふそ

9 世になきねのかきり吹たて給ける殿上人の中にもしやうかにつきなからぬともはめし出て

53才

1 おもしろくあそぶ宮の御かたよりふすくまいらせ給へりちんのおしきよつしたんのたかつきふ
ちの

2 むらこのうちしきにおりえたぬひたりしろかねのやうきるりのさかつきへひしはこんる也

3 兵衛督御まかなひつかうまつり給御さかつきまいり給におとゝしきりてはひんなかるへし

4 宮たちの御中にはたさるへきもおはせねは大将にゆつりきこえ給をはゝかり申給へと御けしき
も

5 いかゝありけむ御さかつきさゝけてをしとのたまへるこはつかひもてなしさへれいのおほやけ
事なれと

6 人ににす見ゆるもけふはいとゝ見なしさへそふにやあらんさしかへしたまはりておりてふたう
7 し給へる程いとたくひなし上臈のみこたち大臣などのたまはり給ふたにめてたき事なるを
8 是はまして御むこにてもてはやされたてまつり給へる御おほえをろかならずめつらしきにかき
りあれば

9 くだりたるさにかへりつき給へる程心くるしきまでそ見えけるあせちの大なこんは我こそ
53ウ

1 かゝるめをも見むと思しかねたのわさやと思ひ給へり此宮の御はゝ女御をそむかし心かけきこ
え給へり

2 けるをまいり給て後もなを思はなれぬさまにきこえかよひ給てはては宮をえたてまつらん
3 の心つきたりければ御うしろみのそむ気しきももらし申けれときこしめしたにつたへすなりに
4 ければいと心やましと思て人からはけに契りことなめれとなそ時のみかとのことゝしきまで
5 むこかしつき給ふへきまたあらしかしこゝのへの内におはしますてんちかき程にてたゝ人の
6 打とけさふらひてはてはえんやなにやとてさばかりゝ事はなといみしくそしりつふやき
7 申給けれとさすかゆかしかりければまいりて心のうちにそはらたちぬ給へりけるしそくさして
うた

8 ともたてまつる文台のもとによりつゝをく程の気じきはをのゝしたりかほなりけれとれいの
いかに

9 あやしけにふるめきたりけんと思やればあなかにみなもたつねかゝすかみの上臈とて御くち
54オ

1 つきともはことなる事見えさめれとしるしはかりとてひとつふたつそとひきこえたりし是は
2 大将の君のおもて御かさしおりてまいり給へりけるとか

3 すへらきのかさしにおると藤の花をよはぬえたに
4 袖かけてけりうけはりたるそにくきにや

5 よろつ代をかけてにほはむ花なればけふをもあかぬ
6 色とこそ見れ

7 きみかためおれるかさしはむらさきの雲にをよはぬ
8 花の気しきか

9 よのつねの色とも見えす雲ぬまてたちのほりける
54ウ

1 藤なみの花是や此はらたつ大納言のなりけんと見ゆれかたへはひか事にもや

2 ありけんかやうにことなるおかしきふしもなくてのみそあなりし夜ふくるまゝに御あそひ
3 いとおもしろし大将の君のあなたうとうたひ給へるこゑそかきりなくめてたかりける

4 あせちもむかしすくれ給へりし御こゑのなこりなれはいまもいと物々しくて打あはせ給へり
5 右のおほい殿の七らうわらはにてさうのふえふくいとうつくしかりければ御そたま

6 はすおとゝおりてふたうし給曉ちかうなりてそかへらせ給けるろくともかんだちめ

7 みこたちにはうへよりたまはす殿上人かくところの人々には宮の御かたよりしなく

8 たまはりその夜さりなん宮まかてさせたてまつり給けるきしきいと心こと也うへの女房

9 さながら御をくりつかうまつらせ給けるひさしの御くるまにてひさしなきいとけみつ

55オ

1 こかねつくりむつたゝのひらうけ二十あしろ二わらはしもつかへ八人つゝさふらふに

2 又御むかへのいたしくるまとも十二本所の人々のせてなんありける御をくりのかんたちめ

3 殿上人六位などいふかきりなききよらをつくさせ給へりかくて心やすく打とけて見たてまつり
4 給ふにいとおかしけにおはすさゝやかにあてにしめやかにてこゝはと見ゆるところなくおはす
れはすくせ

5 の程くちおしからさりけりと心おこりせらるゝ物からすきにしかたのわすられはこそはあらめ
なを

6 まきるゝおりなく物のみ恋しくおほゆれは此世にてはなくさめかねつへきわさなめり仏に
7 なりてこそはあやしくつらかりける契のほとをなにのむくひとあきらめて思はなれめと
8 おもひつゝ寺のいそぎにのみ心をはいれ給へりかものまつりなとさはかしき程すくして

9 廿日あまりの程にれいの宇治へおはしたりつくらせ給ふ御たう見給てすへき事とも

55ウ

1 をきてのたまふさてれいのくち木のもとを見給へすきかなをあはれなれはそなたさまに
2 おはするに女くるまのことくしきさまにはあらぬひとつあらましきあつまおとこのこしに物
おへる

3 あまたくしてしも人かすおほくたのもしけなる氣しきにて橋よりいまわたりくるみゆあ中ひ
4 たる物かなと見給つゝ殿はまつ入給てせんともはまた立さはきたる程に此くるまも此宮を
5 さしてくるなりけりとみゆみすいしんともかやくといふをせいし給てなに人そとはせ給へ
はこゑ打

6 ゆかみたる物ひたちのせんしとのゝひめ君のはつせのみ寺にまうてゝもと給へる也はしめも
こゝに

7 なんやとり給へりしと申においやきゝし人なりとおほし出て人々をはことかたにかくし給て
8 はや御くるまいれよこゝに又人やとり給へと北おもてになんといはせ給ふ御ともの人もみなか
り

9 きぬにてことくしからぬすかたともなれとなをけはひやしるからんわつらはしけに思て馬と
もひきさけ

56オ

1 なとしつゝかしこまりつゝそをくるまはいれてらうの西のつまにそよする此しんてんはまた
あら

2 はにてすたれもかけすおろしこめたるなかの二まにたてへたてたるさうしのあなよりのそき
3 給御そのなれはぬきをきてなをしさしぬきのかきりをきてそおはするとみにもおりてあま

4 君にせうそこしてかくやむ事なける人のおはするを誰そなとあないするなるへし

5 きみはくるまをそれと聞給へるより夢その人にまろありとのたまふなとまつくちかためさせ

6 給てければみなさ心えてはやくおりさせ給へまらうとは物し給へることかたになんといひいた
し

7 たりわかき人のあるまつおりてすたれ打あくめりこせんともものさまよりはこのおもとなれてめ
や

8 すし又おとなひたる人いまひとりおりてはやうといふにあやしくあらはなるこゝちこそすれと
9 いふこゑほのかなれとあてに聞ゆれいの御事こなたはさきくもおろしこめてのみこそは侍れ
さては

56ウ

1 又いつこのあらはなるへきそと心をやりていふつゝましけにおるゝを見ればまつかしらつき
2 やうたいほそやかにあてなる程はいとよく物おもひ出られぬへし扇をつとさしかくしたれば
3 かほは見えぬ程心もとなくてむね打つふれつゝ見給ふるまはたかくおるゝところはくたりた
るを

4 此人々はやすらかにおりなしつれといとくるしけにやゝみてひさしくおりていさりいるこうち
5 きになてしことおほしきほそなかわかなへ色のこうちききたり四尺の屏風を此さうしにぞへて
6 たてたるかかみよりみゆるあなゝれは残るところなしこなたをはうしろめたけに思てあなたさ
まに

7 むきてそそひふしぬるさもくるしけにおほしたりつるかないつみ川のふなわたりもまことにけ
ふは

8 いとおそろしくこそありつれ此きさらきには水のすくなかりしかはよかりしなりけりいてやあ
りく

9 はあつまちをおもへはいつかおそろしからんとふたりしてくるしとも思たらすいひあたる
に

57才

1 しうは音もせてひれふしたりかひなをさしいてたるかまろらかにをかしけるほともひたち殿な
と

2 いふへくは見えすまことにあて也やうゝこしいたきまで立すくみ給へと人のけはひせしとて
3 なをうこかて見給ふにわかき人あなかうはしやいみじきかうのかこそすれあま君のたき

4 給にやあらん老人まことにあなめてたの物のかや京人はなをいとこそみやひやかにいまめ

5 かしけれ天のしたにいみじき事とおほしたりしかとあつまにてかゝるたき物の香はえあはせ

6 いてたまはさりきかしこのあま君はすまぬかすかにおはすれとさうそくのあらまほしくにひ

7 いろあをにひといいといときよらにぞあるやなどほめあたりあなたのすのこよりわらはきて

8 御ゆなとまいらせ給へとておしきともゝとりつゝきてさしいてくた物とりよせなとしてものけ

9 たまはる是なおこせとおきねはふたりしてくりなとやうの物にやほろゝとくふもきゝゝ

57ウ

1 しらぬこゝ地にはかたはらいたくてしそき給へと又ゆかしくなりつゝなを立よりゝ見給是よ
り

2 まさるきはの人々をきさひの宮をはしめてこゝかしこにかたちよきも心あてなるもこゝらあく

3 まて見あつめ給へとおほろけならてはめも心もとまらずあまり人にもとかるゝまて物し給

4 こゝちにたゝいまはなにはかりすくれて見ゆる事なき人なれとかく立ざりかたくあなかにゆ
かしき

5 もあやしき心也あま君は此殿の御かたにも御せうそきこえいたしたりけれと御こゝちなや

6 ましとていまの程打やすませ給へるなりと御ともの人々心しらひていひたりければ此君をた

7 つねまほしけにのたまひしかは此ついてに物いひふれんとおもほすによりて日くらし給にやと
思て

8 かくのそき給ふらんとはしらすれいのみさうのあつかりとものまいれるわりこやなにやとこな
た

9 にもいれたるをあつま人ともにもくはせなと事どもをこなひをきて打けさうしてまらうと

58才

1 のかたにきたりほめつるさうそくけにいとかはらかにてみめもなをよしゝしくきよけにそあ
る

2 昨日おはしつきなんと待きこえさせしをなとかけふも日たけてはといふめれは此人いと

3 あやしくるしけにのみせさせ給へは昨日は此いつみ川のわたりにとゝまりてけさも

4 むこに御こゝちためらひてなんといらへておこせはいまはおきぬたるあま君をはちら

5 ひてそはみたるかたはらめ是よりはいとよくみゆまことにいとよしあるまみの

6 程かんさしのわたりかれをもくはしくつくゝとしも見たまはさりし御かほなれと

7 是を見るにつけてたゝそれと思ひ出らるゝにれいの涙おちぬあま君のいらへ
8 打するこゑけはひ宮の御かたにもいとよくにたりと聞ゆあはれなりける人かな
9 かゝりける物をいまゝてたつねもしらてすくしける事よ是よりくちおし

58ウ

1 からんきはのしなならんゆかりにてたにかはかりかよひきこえ
2 たらむ人をえてはをろかにおもふましきこゝちするにましてこれは
3 しられたてまつらさりけれとまことにこ宮の御ここにこそはありけれと
4 見なし給てはかきりなくあはれにうれしくおほえ給ふたゝいまも
5 はひよりて世の中におはしける物をといひなくさめまほしほうらひ
6 まてたつねてかんさしのかきりをつたへて見給けんみかとは
7 なをいふせかりけむこれはこと人なれとなくさめところありぬへきさま
8 なりとおほゆるはこの人にちきりのおはしけるあらんあま君は物かたり
9 すこししてとくいりぬ人のとかめつるかほりをちかくてのそき給なめり

59オ

1 と心えてければ打とけこともかたらはすなりぬへし日暮もていけは
2 君もやをら出て御そなとき給てそれいめし出るさうしくちにあま君
3 よひてありさまなととひ給ふおりしもうれしくまできあひたるをい
4 かにそかのきこえしことはとのたまへはしかおほせ侍し後はさるへき
5 ついて侍らはとまち侍しにこそはすきてこの二月になんはつせまうて
6 のたよりにはしめてたいめんして侍しかかのはゝの君におほしめしたるさま
7 はほのめかし侍しかはいとかたはらいたくかたしけなき御よそへにこそは侍なれ
8 などなん侍しかとそのころをひはのとやかにおはしますとうけたまはりしおり
9 ひんなくおもふ給へつゝみてかくなともきこえさせ侍らさりしを又此月にも

59ウ

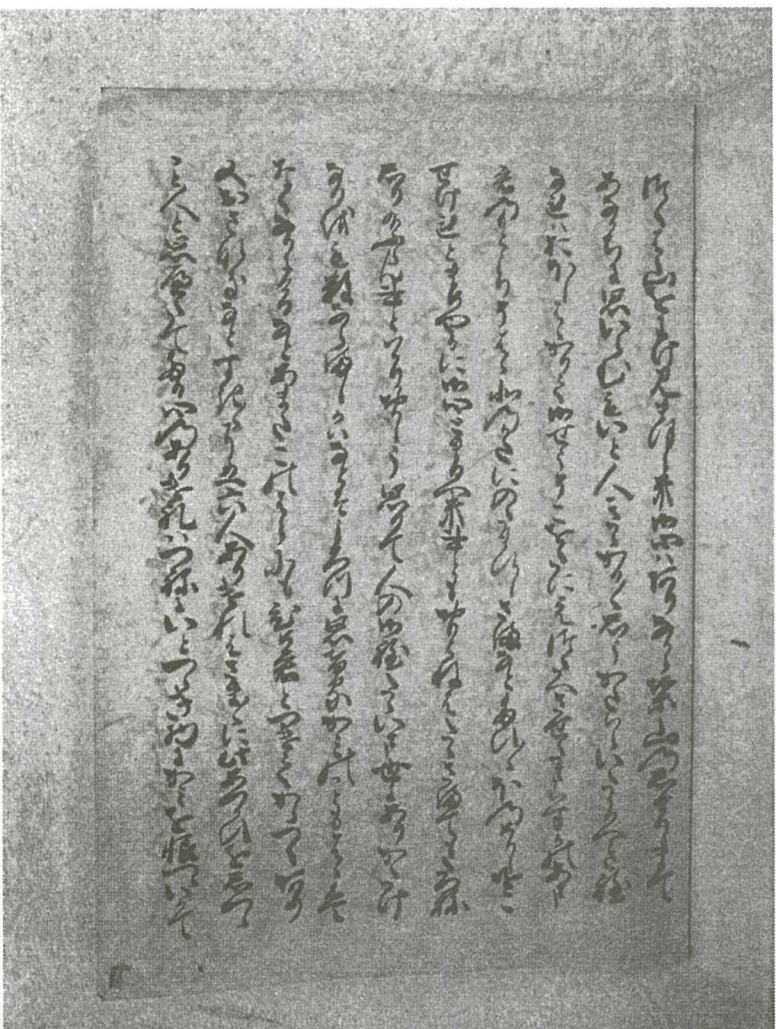
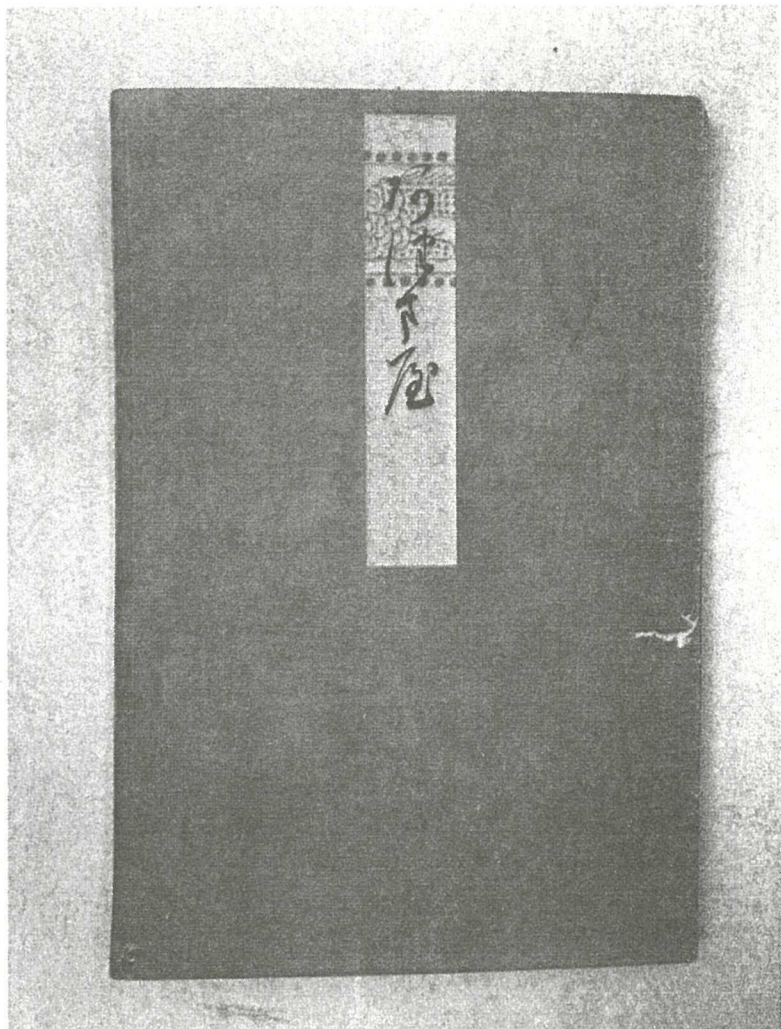
1 まうてゝけふかへり給なめりゆきかへりの中やとりにはかくむつひらるゝもたゝ
2 すきにし御氣はひをたつねきこゆるゆへになんはへめるかのはゝ君はさはる事
3 ありて此たひはひとり物し給めれはかくおはしますともなにかは物し侍らんとてと
4 聞ゆる中ひたる人ともにしのひやつれたるありきも見えしとてくちかため
5 つれといかゝあらんけすともはかくれあらしかしさていかゝすへきひとり物すらんこそ
6 中々心やすかなれかく契りふかくてなんまいりきあひたるとつたへ給へかしとのたまへ
7 は打つけにいつの程なる御契りにかは打わらひてさらはしかつたへはへらむ
8 とてゐるに

9 かほとりのこゑもきゝしにかよふやとしけみをわけて

60オ

1 けふそたつぬるたゝくちすさひのやうにのたまうをいりてかたり
2 けり

東屋



1才

1 つくは山をわけ見まほしき御心はありなから葉山のしけりまて
 2 あなかちに思いらむもいと人きゝかるゝしうかたはらいたかるへき程
 3 なれはおほしはゝかりて御せうそこをたにえつたへさせたまはすかのあま
 4 君のもとよりそはゝ北のかたにのたまひしさまなとたひゝほのめかしをこ
 5 せけれとまめやかに御心とまるへき事とおもはねはたゝさまてもたつね
 6 しり給ふらん事とはかりおかしう思ひて人の御程たゝいま世にありかたけ
 7 なるをも数ならましかはなとそよろつに思けるかみのこともはゝは
 8 なくなりにけるなとあまたこのはらにもひめ君とつけてかしつくあり
 9 又おさなきなとすぎゝに五六人ありければさまゝに此あつかひをしつゝ
 10 こと人と思へたてたる心のありければつねにいとつらき物にかみを恨つゝいかて

1ウ

1 ひきすくれておもたゝしき程にしなしても見えましかたと明暮此
 2 はゝ君思あつかひけるさまかたたちのなのめにとりましてもありぬへくは
 3 いとかうしもなにかはくるしきまてももてなやまましおなし事おもはせて
 4 もありぬへき世を物にもましらすあはれにかたしけなくおひ出給へは
 5 あたらしく心くるしき物におもへりむすめおほかりときゝてなまきん
 6 たちめく人々もおとなひいふいとあまたありけりはしめのはらの
 7 二三人はみなさまゝにくはりておとなひさせたりいまはわかひめ君
 8 をおもふやうにて見たてまつらはやと明暮まもりてなてかしつく
 9 事がきりなしかみもいやしき人にはあらさりけりかんたちめの
 10 すちにてなからひも物きたなき人ならずとくいかめしうなとあれば

2才

1 程々につけては思あかりては家のうちもきらゝしく物きよけにすみ
 2 なしことこのみしたるよりはあやしうあらゝかにぬなかひたる心そつき
 3 たりけるわかうよりさまあつまのかたのはるかなるせかいにむもれて年
 4 へけれはにやこゑなと程々打ゆかみぬへし物打いふすこしたみたるやう
 5 にてかうけのあたるおそろしくわつらはしき物にはゝかりおりすへていと
 6 またくすきまなき心もありおかしきさまにことふえのみちはとをうゆ
 7 みをなんいとよくひきけるなゝゝしきあたりともいはずいきをひにひか
 8 されてよきわか人ともつとひさうそくありさまはえならずとゝのへつゝ
 9 こしおれたるうたあはせ物語かうしんをしまはゆく見くるしくあそひ
 10 かちにこのめるを此けさうのきんたちらうゝしくこそあるへけれかたち

2ウ

1 なんいみしかなるおかしきかたにいひなして心をつくしあへる中に左近の
 2 少将とてとし廿二三はかりの程にて心はせしめやかにさえありといふ
 3 かたは人にゆるされたれときらゝしういまめいてなとえあらぬにや
 4 かよひしところなともたえていとねんころにいひわたりけり此はゝ君
 5 あまたかゝる事いふ人々のなかに此君は人からもめやすかなりやこれより
 6 まさりてことゝしききは人はたかゝるあたりをさいへとたつねよらしと
 7 思ひて比御かたにとりつけてさるへきおりゝはおかしきさまに返ことなとせさ
 8 せたてまつる心一に思まうけてかみこそをろかに思なすとも我はいのち
 9 をゆつりてかしつきてさまかたちのめてたきを見つきなはさりとをろかに

10 などはよも思ふ人あらしと思たち八月はかりと契りてうとをまうけはかな

3才

1 きあそひ物をせさせてもさまことにやうおかしうまきゑらてん
 2 のこまやかなる心はへまさりて見ゆる物をは此御かたにとりかくして
 3 をとりのを是これなんよきとてみすれはかみはよくしも見しらすそこ
 4 はかない物とも人のてうとゝいふかきりはたゝとりあつめてならへ
 5 すへつゝめをはつかにさし出るはかりにてことひわのしとてないけう
 6 はうのわたりよりむかへとりつゝならはす手一ひきとれはしちをたち
 7 ゐにおりみてよろつにろくをとらする事うつむはかりにてもてさはく
 8 はやりかなるこくの物なとをしへてしとおかしき夕暮などにひきあ
 9 はせてあそふ時は涙もつゝますをこましまてさすかに物めてしたり
 10 かゝる事ともをはゝ君はすこし物のゆへしりていと見くるしとおもへはことにあへしら

3ウ

1 はぬをあこをは思をとし給へりとつねに恨けりかくて此少将契りし程を待
 2 つけておなしくはとくとせめければ我心一にかう思いそくともいとつゝましう
 3 人の心のしりかたさを思てはしめよりつたへそめける人のきたるにちかふ
 4 よひよせてかたらふよろつとおほく思はゝかる事のおほかるを月ころかうのた
 5 まひて程へぬるをなみゝの人に物したまはねはかたしけなう心くるしうてかう
 6 思立にたるをおやなど物したまはぬ人なれば心一なるやうにてかたはらいとう打あ
 7 はぬさまに見えたてまつる事もやとかねてなん思ふわかき人々あまた侍れと思人
 8 くしたるはをのつからと思ゆつられて此君の御ことをのみなんはかなき世中を見る
 9 にもうしろめたくいみしきを物おもひしりぬへき御心さまと聞てかうよろつの
 10 つゝましさをわすれぬへかめるもおしもえし思はすなる御心はへも見えは人わらへに

4才

1 かなしうなんといひけるを少将の君にまうてゝしかゝなんと申けるにけしきあしく
 2 なりぬはしめよりさらにかみのみのむすめにあらすといふ事をなんきかさりつるおなし事
 3 なれと人きゝも氣をととりたるこゝ地して出入せんにもよからすなんあるへきようも
 4 あないせてうかひたることつたへけるとのたまふにいとおしくなりてくはしくもしり給へす
 5 女どものしるたよりにておほせことをつたへはしめ侍しになかにかしつくむすめとのみ聞侍れ
 6 はかみのとこそはそ思給へされこと人のこもたまへらむともとひ聞侍らさりつる也
 7 かたち心もすくれて物し給事はゝうへのかなしうし給ておもたゝしう氣たかき事を
 8 せんとあかめかしつかると聞侍しかはいかてかのへんのことつたへつへからん人もかなと
 9 のたまはせしかはさるたよりし給へりととり申になりさらにうかひたるつみ
 10 侍ましき事なりとはらあしくこと葉おほかる物にて申に君いとあてやか

4ウ

1 ならぬさまにてかやうのあたりにいきかよはんは人のおさゝゆるさぬ事なれ
 2 といまやうの事にてとかあるましうもてあかめてうしろ見たつにかくして
 3 なんあるたくひもあかめるをおなし事と内々には思ふともよそのおほえ
 4 なんへつらひて人いひなすへき源少納言さぬきのかみなどのうけはりたる
 5 けしきにて出いらんにかみにもおさゝうけられぬさまにてましらはんなんいと人
 6 けなかるへきとのたまふ此人ついそうあるうたである人の心にて是をいと
 7 うちおしうこなたかなたにいとおしと思ければまことにかみのむすめとおほさはま
 8 たわかうなとおはすともしかつたへ侍らんかしなかにあたるなんひめ君とてかみは

9 いとかなしうし給なりと聞ゆるいさやはしめよりしかいひよれる事をきて
10 又いはんこそうたてあれされとわかほいはかのかみのぬしの人からも

5才

1 物々しくおとなしき人なれはうしろ見にもせまほしう見るところ
2 ありて思はしめしこと也もはらかほかたちのすくれたらん女のねかひもなし
3 しなあてにえんならむ女をねかは、やすくえつへしされとさひしうことうち
4 あはぬとやひこのめる人のはてくは物きよくもなく人にもおほえたらぬを見
5 れはすこし人にそしるゝともなたらかにて世中をすくさんことをねかふ也
6 かみなんとかたらひてさもとゆるすけしきあらはなにかはさもとのたまふ
7 此人はいもうとのこの西の御かたにあるたよりにかゝる御文などもとりつたへ
8 はしめけれとかみはくはしくも見えしらぬ物なりけりたゝいきにかみの
9 ゐたりけるまへにいきてとり申へき事ありなんといはすかみ此わたりに
10 時々出いりはすときけとまへにはよひいてぬ人の何事いふにかはあらんとなま

5ウ

1 あらくしきけしきなれと左近の少将殿の御せうそこにてなんさふらふと
2 いはせたれはあひたりかたらひかたけなるかほしてちかうぬよりて月ころうちの
3 御かたにせうそこきこえさせ給を御ゆるしありて此月の程にと契りきこえ
4 させ給事侍を日はからひていつしかとおもほす程にある人の申けるやう
5 まことに北のかたの御はらに物し給へとかむの殿の御むすめにはおはせすきん
6 たちのおはしかよはんに世のきこえなんへつらひたるやうならむすらうの
7 御むこになり給かやうの君たちはたゝわたくしの君のことく思かしつき
8 たてまつり手にさゝけたる事かおもひあつかひうしろみたてまつるに
9 かゝりてなんさるふるまひし給人々物し給めるをさすかにその御ね
10 かひはあなかななるやうにておさくうけられたまはてけをとりて

6才

1 おはしかよはん事ひんなりぬへきよしをなんせちにそしり申人々あま
2 た侍なれはたゝいまおほしわつらひてなんはしめよりきらくしう人のうし
3 ろみとたのみきこえむにたへ給へる御おほえをえらひ申てきこえはしめ
4 申し也さらに人物し給ふらんといふことしらさりければもとの心さしのまゝに
5 またおさなきもあまたおはすなるをゆるいたまは、いとうれしくなん御け
6 しき見てまうてことおほせらるればといふにかみさらにかゝる御せうそこ
7 侍しくはしくうけたまはらすまことにおなしことに思ふ給ふへき人なれとよ
8 からぬわらはへあまた侍てはかくしからぬ身にさまく思給へあつかふ程には、
9 なる物も是をこと人と思わけたる事とくねりいふ事侍てともかくもくち
10 いれさせぬ人のことに侍れはほのかにしかなんおほせらるゝ事侍とはきゝ

6ウ

1 侍しかとなにかしをとりところにおほしける御心はしり侍らさりけるさるはいと
2 うれしく思給へらるゝ御ことにこそ侍なれいとらうたしと思ふめのわらははあまたの
3 中是をなんいのちにもかへんと思侍のたまふ人々あれといまの世の人のみ心さため
4 なくきこえ侍に中々むねいたきめをやみんのはゝかりに思さたむる事もなくて
5 なんいかでうしろやすくも見給へをかんと思暮かなしく思給ふるを少将殿にをき
6 たてまつりてはこ大將殿にもわかくよりまいりつかうまつりき家のこにて見たてまつり
7 しにいとくきやうさくつかうまつらまほしと心つきて思きこえしかとはるかなる

8 ところに打つゝきてすくし侍年ころの程にうぬ／＼しくおほえ侍てなんまいりも
 9 つかまつらぬをかゝる御心さしの侍けるを返々おほせのことたてまつらんはやすき事
 10 なれと月ころのたかへるやうに此人思給へんことをなん思ふ給へはゝかり侍といと
 11 こまやかにいふよろしけなめりとうれしくおもふなにかとおほしはゝかるへき事

7才

1 にも侍らすかの御心さしはたゝ一ところの御ゆるし侍らんをねかひおほしていはけ
 2 なく年たらぬ程におはすともしんしちのおやのやむことなく思をきて給へらむをこそ
 3 ほいかなふにはせめもはらさやうのほとりは見たらんふるまひすへきにもあら
 4 すとなんのたまひつる人からはいとやむことなくおほえ心に／＼おはする君なり
 5 けりわかき君たちとてすき／＼しくあてひてもおはします世のあたりさま
 6 もいとよくしり給へりやうし給ところ／＼もいとおほく侍り又年ころの御とく
 7 なきやうなれとをのつからやむことなき人の御気はひのありけなるやうな人を
 8 のかきりなきとみといふめるいきをひにはまさり給へり来年四位になり給
 9 なんこたみのかみはうたかひなくみかとの御くちつからこて給へる也よろつ事
 10 たらひてめやすきあそんのめをなんさためさとやさるへき人えりて
 11 うしろみをまうけよかんたちめにはわれしあれはけふあすといふはかりになし

7ウ

1 あけてむとこそおほせらるなれ何事もたゝ此君とみかともしたしく
 2 つかうまつり給なる御心はたいみしうかうさくにをも／＼しくなんおはしますめる
 3 あたら人の御むこをかう聞給程におもほしたちなんこそよからめかの殿をは
 4 我も／＼むこにとりたてまつらんとところ／＼に侍なれはこゝにしふ／＼なる御けはひ
 5 あらはほかさまにもおほしなりなん是たゝうしろやすき事をとり申なりといと
 6 おほくよけにいひつゝくるにいとあさましくひなひたるかみにて打糸みつゝきゝゐ
 7 たり此ころの御とくなどの心もとなからん事はなのたまひそなにかしいのち侍らん
 8 程はいたゝきにもさゝけたてまつりてん心もとなくなにをあかぬとかおほすへき
 9 たとひあへすしてつかうまつりさしつとも残りのたから物りやうし侍る
 10 ところ／＼ひとつにても又とりあらそふへき人なし子ともおほく侍れと

8才

1 是はさまことに思そめたる物に侍りたゝま心におほしかへり見させたま
 2 はゝ大臣のくらぬをもとめんとおほしねかひて世になきたから物をもつく
 3 さむとしたまはんになき物侍るましたうしのみかとしかめくみ申給なれは
 4 御うしろみは心もとなかるまし是かの御ためにもなにかしかめのわらはのためにも
 5 さいはひとあるへき事にやともしらすとよろしけにいふ時もうれしくなりて
 6 いもうとにもかゝることありともかたらずあなたにもよりつかてかみのいひつる事
 7 をいとも／＼よけにめてたしと思ひて聞ゆれば君すこしひなひてそあるとは聞
 8 給へとにくからす打糸みて聞ぬ給へり大臣にならんそくらうをとらせんなどそあま
 9 りおとろ／＼しき事とみゝとまりけるさてかの北のかたにはかくと物しつやこゝろ
 10 さしことに思はしめ給ふらんひきたかへたらむひか／＼しくねちけたるやうに

8ウ

1 とりなす人もあらんいさやとおほしたゆむたるをなにか北のかたもかの
 2 ひめ君をはいとやむことなき物に思かしつきたてまつり給なりけりたゝ
 3 なかのこのかみにて年もおとなひ給を心くるしき事に思ひてそなたにも
 4 おもむけて申されけるなりけりと聞ゆ月ころはまたなくよのつね

5 ならずかしつくといひつる物の打つけにかくいふもいかならんとおもへともなをひと
 6 わたりはつらしとおもはれ人にはすこしそしらるゝともなからへてたの
 7 もしきことをこそといとまたくかしこき君にて思とりてければ日を
 8 たにとりかへす契し暮にそおはしはしめける北のかたは人しれすいそき
 9 たちて人々のさうそくせさせしつらひなとよししくし給御かたをも
 10 かしらあらはせとりつくるひて見るに少将などいふ程の人に見せんもおかしく

9オ

1 あたらしきさまをあはれやおやにしられたてまつりておひたちたまはまし
 2 かはおはせずなりにたれとも大將殿のたまふらんさまにおほけなくともなと思ひ
 3 たらましされと内々にこそかくおもへほかのときゝはかみのことも思わかすまた
 4 しちをたつねしらむ人も中々おとしめ思ぬへきこそかなしけれなと思つゝいかゝ
 5 はせんさかりすぎたまはんもあいなしやしからすめやすき程の人のかくねん
 6 ころにのたまふめるをなと心一に思きたむるも中たちのかくことよくいみしきに
 7 女はましてすかされたるにやあらんあすあさてとおもへは心あはたゝしくいそかしきに
 8 こなたにも心のとかにあられたらすそゝめきありくにかみとよりいきてなかくゝと
 9 とゝこほるところもなくいひつゝけて我を思へたてゝあこの御けさう人を
 10 うははんとし給けるおほけなく心おさなき事めてたからむ御むすめをはせさせ給

9ウ

1 君たちあらしいやしくことやうならんなにかしらか女こそいやしうもたつね
 2 のたまふめれかしこく思くはたてられけれともほらほいなしてほかさまへ思なり
 3 給へるなれはおなしくはと思ひてなんさらは心とゆるし申つるなどあやしくあふなく
 4 人のおもはんところもしらぬ人にていひちらしぬたり北のかたあぎれて物もいは
 5 れてとはかり思ふに心うさをかきつらね涙もおちぬはかり思つゝけられてやをら
 6 たちぬこなたにわたりて見るにいとらうたけにおかしけにてぬ給へるにさりととも
 7 人にはをとりたまはしとは思なくさむめのとゝふたり心うき物は人の心なりけり
 8 をのれはおなし事思あつかふとも此君のゆかりとおもはん人のためにはいのちをも
 9 ゆつりつへくこそおもへとおやなしときゝあなつりて又おさなくなりあはぬ人をさしこえて
 10 かくはいひなるへしやうくちかきあたりに見しきかしと思ぬれとかみのかく

10オ

1 おもたゝしき事に思ひてうけとりさはくめれはあひくゝにたか世のありさまをすへてかゝる
 2 ことにくちいれしとおもふいかてゝゝならぬところにしはしありしかたと打なけきつゝいふめ
 のと

3 もいとほらたゝしくわか君をかくおとしむる事なにか是も御さひはいにてたかふ事とも
 4 しらすかく心くるおしくいましける君なれはあたら御さまを見しらさましわか君
 5 をは心はせせあり物おもひしりたらむ人にこそ見せたてまつらまほしけれ大將殿の御
 6 さまかたちのほのかに見たてまつりしにさもいのちのふるこゝちのし侍しかなあはれにはた
 7 きこえ給也御すくせにまかせておほしよりねかしといへはあなおそろしや人のいふを
 8 きけは年ころおほろけならん人をは見しとのたまひて右のおほい殿あせちの大納言
 9 式部卿の宮などのいとねんころにほのめかし給けれと聞すくしてみかとの御かしつき
 10 むすめをえ給へる君はいかはかりの人かまめやかにはおほさむかのはゝ宮などの御かたに

10ウ

1 あらせて時々も見むとはおほしもしなんそれはたけにめてたき御あたりなれ
 2 いとむねいたかるへき事也宮のうへのかくさいはひと申なれと物おもはしけにお

3 ほしたるを見ればいかにもくふた心なからむ人のみこそめやすくだのもしき
 4 ことにはあらはわかみにてもしりにきこ宮の御ありさまはいとなさけくしくめてた
 5 くおかしくおはせしかと人数にもおほさゝりしかはいかはかりかは心うくつらかりし
 6 このいといふかひなくさけなくさまあしき人なれとひたおもむきに二心なきを見
 7 れは心やすくて年ころをもすくしつる也おりふしの心はへのかやうにあひきやうなく
 8 ようぬなき事こそにくけれなかしくうらめしきこともなくかたみに打いさかひても心え
 9 あはぬ事をはあきらめつかんたちめみこたちにてみやひかに心はつかしき人の御あたりといふ
 10 とも我数ならてはかひあらしよろつのこと我身からなりけりとおもへはよろつにかなしくこそ

11才

1 見たてまつれといかにして人わらへならすしたてまつらんとかたらふかみはいそきたちて
 2 女房などこなたにめやすきあまたあなるを此程はあらせ給へやかてちやうなどもあ
 3 たらしくしたてられためるかたをことにはかになりたためはとりわたしとかくあらたむ
 4 ましとて西のかたにきてたちぬとかくしつらひさはくめやすきさまにさはらかにあたりく
 5 あるへきかきりしたるところをさかしらに屏風とももてきていふせきまでたて
 6 あつめてつしにかひなどあやしきまでしくはへて心をやりていそけは北のかた見
 7 くるしく見れとくちいれしといひてしかはたゝに見きく御かたは北おもてにあたり人の
 8 御心は見しりはてぬたゝおなし子なればさりとともいとかくは思はなちたまはしとこそ思つれ
 9 されば世にはゝなき子はなくやはあるとてむすめをひるよりめのとゝふたりなてつくるひ
 10 たてたれはにくけにもあらず十五六の程にていとちいさやかにふくらかなる人のかみうつ

11ウ

1 くしけにてこうちきの程也すそいとふさやか也是をいとめてたしと思てつくるひな
 2 にか人のさまことに思かまへられける人をしもとおもへと人からのあたらしくかうさくに物し
 給

3 君なれば我もくゝとむこにとらまほしくする人のおほかなるにとられなんもくちおし
 4 くてなんとかの中人にはかられていふもいとをこなりおとこ君も此程のいかめ
 5 しく思ふやうなる事とよろつのつみあるましう思ひてその夜もかへすきそめぬ
 6 はゝ君御かたのめのといとあさましく思ひひかくしきやうなれはとかく見あつ
 7 かふも心つきなければ宮の北のかたの御もとに御文たてまつるその事と侍らては
 8 なれくしくやかしこまりてえ思給ふるまゝにもきこえさせぬをつゝしむへき
 9 こと侍てしはしところかへさせんと思ふ給へるにいとしのひてさふらひぬへきかくれの
 10 かたさふらはゝいともくうれしくなん数ならぬ身一のかけにはかくれもあへすあはれなる

12才

1 ことのみおほく侍世なればたのもしきかたにはまつなんと打なきつゝかきたる文を
 2 あはれとは見給けれとこ宮のさはかりゆるしたまはてやみにし人をわれひ
 3 とり残りてしりかたらはんもいとつゝましく又見るしきさまにて世にあふれむ
 4 もしらすかほにてきかんこそ心くるしかるへけれことなることなくてかたみにちりほはん
 5 もなき人の御ために見くるしかるへきわさをおほしわつらふたいふかとしもいと心
 6 くるしけにいひやりたりければさるやうこそ侍らめ人にくゝはしたなくもな
 7 のたまはせそかゝるをとりの物の人の御中にましり給もよのつねの事なりなとき
 8 こえてさらはかの西のかたにかくろへたるところし出ていとむつかしけなめれとさても
 9 すくい給つへくはしはしの程といひつかはしついでうれしとおもほして人しれす出たつ
 10 御かたもかの御あたりをはむつひきこえまほしと思ふ心なれば中々かゝる事ともの出きたるを

12ウ

1 うれしと思ふかみ少将のつかひをいかばかりめてたきことをせむと思ふにそのきら／＼
 2 しかるへき事もしらぬ心にはたゝあらゝかなるあつまきぬともををしまろかし
 3 なけいてつくい物もところせきまてなんはこひ出てのゝしりけるけすともなど
 4 はそれをいとかしきなさけに思ければ君もいとあらまほしく心かしこくとりより
 5 にけりと思けり北のかた此程を見すてゝしらさむもひかみたらむと思ひ
 6 ねんしてたゝするまゝにまかせて見ぬたりまらうとの御ていさふらひとし
 7 つらひさはけは家はひろけれと源少納言ひんかしのたいにはすむをのこゝなどの
 8 おほかるにところもなし此御かたにまらうとすみつきぬれはらうなとほとり
 9 みたらむにすませたてまつらんもあかすいとおかしくおほえてとかく思めくらす程
 10 宮にとは思ふなりけり此御かたさまにかすまへ給人のなきをあなつるなめりとおもへは

13才

1 ことにゆるいたまはさりしあたりをあなちになまいらすめのとわかき人々三人はかり
 2 して西のひさしの北によりて人氣とをきかたにつほねしたり年ころかくはるか
 3 なりつれとうとおほすましき人なれはまいる時はちたまはすいとあらまほしく
 4 けはひことにてわか君の御あつかひをしておはする御ありさまうら山しくおほゆるもあ
 5 はれ也我もこきたのかたにははなれたてまつるへき人かはつかうまつるといひしはかりに
 6 かすまへられたてまつらすくちおしくてかく人にはあなつらるゝと思ふにはかく
 7 しぬてむつひ聞ゆるもあちきなしこゝには御物いみといひてければ人もかよ
 8 はす二三日はかりはゝ君もぬたりこたみは心のとかに見る宮わたり給ゆかし
 9 くて物のはさまより見ればきよらに桜をおりたるさましてわかたのもし人に
 10 思ひてつらうらめしけれと心にはたかはしと思ふひたちのかみよりさまかたち

13ウ

1 も人の程もこよなく見ゆる五位四位ともあひひさまつきさふらひてこの
 2 ことかの事とあたり／＼の事ともけいしともなと申又わかやかなる五位ともかほも
 3 しらぬともゝおほかりわかまゝこのしきふのそうにてくら人なる内の御つかひにてまい
 4 れり御あたりにもえちかくまいらすこよなき人の御けはひをあはれこはなに人そ
 5 かゝる御あたりにおはするめてたさよくよそに思ふ時はめてたき人々と聞ゆとも
 6 つらきめ見せたまはゝと物うくをしはかりきこえさせつらんあさましきよ此御ありさま
 7 かたちを見ればたなはたはかりにてもかやうに見たてまつりかよはんはいといみし
 8 かるへきわさかな思ふもわか君いたきてうつくしみおはす女君みしかききやう
 9 をへたてゝおはするををしやりて物なときこえ給御かたちともいときよらににあひ
 10 たりこ宮のさひしくおはせし御ありさまを思くらふるに宮たちと聞ゆれといこよな

14才

1 きわさところありけれとおほゆちやうのうちに入たまひぬれはわか君はわかき人
 2 めのとなにてあそひ聞ゆ人々まいりあつまれとなやましとおほとのこもり
 3 くらしつ御たいこなたにまいるよろつの事氣たかく心ことに見ゆればわかいみしき
 4 ことをつくすと見おもへはなをくしき人のあたりはくちおしかりけりと思なりぬれは
 5 わかむすめもかやうにてさしならへたらむにはかたはならしかしいきをひをたのみ
 6 てちゝぬしのきさきにもなしてんと思たる人々おなしわかこなからけはひこよ
 7 なきを思ふもなをいまより後も心はたかくつかうへかりけりと夜一夜あら
 8 ましかたり思つゝけらる宮日たけておき給てきさいの宮れいのなやましくし
 9 給へはまいるへしとて御さうそくなとし給ておはすゆかしうおほえてのそけはうるはしく
 10 ひきつくるひ給へるはたにる物なく氣たかくあいきやうつきよらにてわか君を

14ウ

1 え見すてたまはてあそひおはす御かゆこはいぬなとまいりてそなたより出給
 2 けさよりまいりてさふらひのかたにやすらひける人々いまそまいりて物なと聞
 3 ゆる中にきよけたちてなてうことなき人のすさまじきかほしたるなをしきたち
 4 はきたるありおまへにてなにと見えぬをかれそのひたちのかみむこの少将なはしめは
 5 御かたにとさためけるをかみのむすめをえてこそいたはらめなといひてかしかるめ
 6 わらはをえたるななりいさこのあたりの人はかけてもいはすかの君のかたよりよくきく
 7 たよりのあるそをのかとちいふきくらむともしらて人のかくいふにつけてもむねつふれ
 8 て少将をめやすき程と思ける心もくちおしくけにことなることなるへかりけりと
 9 思ひていとしくあなつらはしく思なりぬわか君のはひ出てみすのつまよりのそぎ給へ
 10 るを打見給て立かへりよりおはしたり御こゝ地よろしく見えたまはゝやかてまかてなん

15才

1 なをくるしくしたまはゝこよひはとのみにそいまは一夜をへたつるもおほつかなき
 2 こそくるしけれとてしはしくさめあそはして出ぬるさまの返々見るともくあく
 3 ましくにほひやかにおかしければ出給ぬる名残さうくしくそなかめらるゝ女君の
 4 おまへに出ていみしくめてたてまつればお中ひたるとおほしてわらひ給こうへ
 5 のうせ給し程はいふかひなくおさなき御程にていかにならせたまはんと見たてまつる
 6 人もこ宮もおほしなけしをこよなき御すくせの程なりければさる山ふと
 7 ころのなかにもおひ出させ給しにこそありけれくちおしくこひめ君のおはしまさ
 8 すなりにたるこそあかぬ事なれなと打なきつゝ聞ゆ君も打なき給て世の中の
 9 うらめしく心ほそきおりくも又かくなからふれはすこしも思なくさめつへきおりもあるを
 10 いにしへたのみきこえけるかけともにくれたてまつりけるは中々によつねにおもひ

15ウ

1 なされて見たてまつりしらすなりにければあるをなを此御ことはつきせすいみしく
 2 こそ大將のよろつの事に心のうつらぬよしをうれつゝあさからぬ御心のさまを見るに
 3 つけてもいとこそくちおしけれとのたまへは大将殿はさはかり世にためしなきまで御
 4 かとのかしつきおほしくなるに心おこりし給ふらんかしおはしまさましかはなを此こと
 5 せかれししたまはさらましやなと聞ゆいさややうの物と人わらはれるこゝち
 6 せましも中々にやあらまし見はてぬにつけて心にくゝもある世にこそはとおもへと
 7 かの君はいかなるにかあらんあやしきまで物わすれす此宮の御のちの世をさへ
 8 思やりふかくうしろ見ありき給めるなど心うつくしうかたり給かのすきにし御かはりに
 9 たつねて見むと此数ならぬ人をさへなんかの弁のあま君にはのたまひける
 10 さもやと思ふ給へよるへき事には侍らねと一もとゆへにこそはとかたしけ

16才

1 なけれとあはれになん思ふ給へらるゝ御心ふかさなるなどいふついでに此君を
 2 もてわつらふことなくくかたるこまかにはあらねと人も聞けりと思ふに少將の
 3 思あなつりけるさまなとほめかしていのち侍らんかきりはなにかあさ夕のなくさめに
 4 て見すくしつへし打すて侍なん後はおもはすなるさまにちりほひ侍らんかな
 5 しさにあまになしてふかき山にやしすへてさるかたに世中思たえて侍らまし
 6 などなんおもふ給わひては思より侍なといふけに心くるしき御ありさまにこそは
 7 あなれとなにか人にあなつらるゝ御ありさまはかやうになりぬる人のさかにこそさり
 8 とでもたえぬわさなりければむけにそのかたに思をきて給へりし身たにかく
 9 心よりほかになからふれはまいいていとあるましき御事なりやついたまはんもいとおし

10 けなる御さまにこそなといとおとなひてのたまへは、君いとうれしと思たりねひに

16ウ

1 たるさまなれとよしならぬさまゝてきよけなるいたくこえすきにたるなん
 2 ひたち殿とは見えけるこ宮のつらふなざけなくおほしはなちたりしにいと、人
 3 けなく人にもあなつられ給と見給ふれとかうきこえさせ御らんせらるゝに
 4 つけてなんいにしへのうさもなくさみ侍なと年ころの物かたりうき嶋の
 5 あはれなりし事もきこえいつ我身一のとのみいひあはする人もなきつくは
 6 山のありさまもかくあきらめきこえさせていつもくいとかくてさふらはまほしく
 7 思給へなり侍ぬれとかしこにはよからぬあやしの物ともいかに立さはきもとめ
 8 侍らんさすかに心あはたゝしく思給へらるゝかゝる程のありさまに身をやつすは
 9 くちおしき物になん侍けると身にも思しらるゝを此君はたゝまかせきこえ
 10 させてしり侍らしなとか打きこえかくれはけに見くるしからてもあらなんと

17オ

1 見給かたちも心さまもえにくむましうらうたけ也物はちもおとろく
 2 しからずさまよふこめいたる物からかとなからすちかくさふらふ人々にもいと
 3 よくかくれてぬ給へり物なといひたるもむかしの人の御ありさまにあやし
 4 きまておほえたてまつりてそあるやかの人かたもとめ給人に見せたて
 5 まつらはやと打おもひ出給おりしも大將殿まいり給と人聞ゆれはれいの
 6 みきちやうひきつくろひて心つかひて此まらうとは、君いて見た
 7 てまつらんほのかに見たてまつりける人のいみしき物に聞ゆめれと宮の御あり
 8 さまにはえならひたまはしといへは御まへにさふらふ人々いさやえこそきこえ
 9 さためねときこえ給へりむかひておはせしかは宮はいとなさけなけに人に
 10 くゝこそ見え給しかとりはなちてはいつれもともかくもわかれすかたちよき

17ウ

1 人は人をけつこそにくけれとのたまへは人々わらひてされと御まへには
 2 をされたてまつりたまはさんめりいかはかりならん人か宮をはけちたてまつらん
 3 などいふ程にいまそくるまよりおり給なると聞程かしきまてをひのゝしり
 4 てとみにも見えたまはすまたれたる程にあゆみいり給さまを見ればけに
 5 あなめてたおかしけにも見えすなからそなまめかしうあてにきよけなるや
 6 すゝろに見えくるしうはつかしくてひたひかみなともひきつくろはれて心はつ
 7 かしけにようぬおほくきはもなきさまそし給へる内よりまいり給へるなへし御せん
 8 とものけはひあまたしてよへきさいの宮のなやみ給よしうけたまはりてまいり
 9 たりしかは宮たちのさふらひたまはさりしかはいとおしく見たてまつりて宮の御
 10 かはりにいまゝてさふらひ侍るけさもいとけたいしてまいらせ給へるをあひなう

18オ

1 御あやまちにをしはかりきこえさせてなんときこえ給へはけにぞろかならすおもひ
 2 やりふかき御ようぬとなんとはかりいらへきこえ給宮は内にとまり給ぬるを見をき
 3 てたゝならすおはしたるなめりれいの物語いとなつかしけにきこえ給ことにふれて
 4 たゝいにしへのわすれかたく世中の物うくなりまさるよしをあらはにはいひなさてかすめ
 5 うれへ給さしもいかてか世をへて心にはなれすのみはあらむなをあさからすいひそめ
 6 てしことのすちなれは名残なよろしとにやなと見なし給へと人のけしきはしるき物
 7 なれは見もてゆくまゝにあはれなる御心さまを岩木ならねはおもほししる恨きこえ
 8 給事もおほかれはいとわりなく打なけてかゝる御心をやむるみそきをせさせたて

9 まつらまほしくおもほすにやあらむかの人かたのたまひ出ていとしのひて此わたりに
10 なんとほのめかしきこえ給をかれもなへてのこゝ地はせすゆかしくなりたれと打つけに

18ウ

1 ふとうつらむこゝちはたせすいてやそのほんそんねかひみて給ふへくはこそたうと
2 からめ時々心やましくは中々山水もにこりぬへくとのたまへははてくはうたての御ひしり
3 心やとほのかにわらひ給もおかしう聞ゆいてさらはつたへはてさせ給へかし此御のかれ
4 こと葉こそ思ひ出れはゆゝしくとのたまひてもまたなみたくみぬ

5 見し人のかたしるならは身にそへて恋しきせゝの

6 なて物にせむとれいのたはふれにいひなしてまきはしたまふ

7 みそき川せゝにいたさんなて物を身にそふかけと

8 たれかたのまむひく手あまたにとかやいとおしくそ侍やとのたまへはつゐに

9 よるせはさらなりやいとうれたきやうなる水のあわにもあらそひ侍はかなきなか

10 さるゝなて物いてまことそかしいかてなくさむへき事そなといひつゝくらうなるも

11 (19才)

12 うるさければかりそめに物したる人もあやしと思ふらんもつゝましきをこよひはなを

13 とく返たまはねとこしらへやりたまはさらはそのまらうとにかゝる心のねかひ年

14 へぬるを打つけになとあさふ思なすまじうのたまはせしらせ給てはしたなける

15 まじうはこそいとうあゝしうならひにて侍身はなに事もをこかましきまでなんとかた

16 らひきこえをきて出給ぬるに此はゝ君いとめてたく思ふやうなる御さまかなとめてゝ

17 めのとゆくりかに思よりてたひくゝいひしことをあるましきことにいひしかと此御ありさまを

18 見るにはあまの川をへたてゝもかゝるひこほしのひかりをこそ待つさせめ我むすめは

19 なめならむ人に見せんおしけなるさまをえひすめきたる人をもみ見ならひて少将

20 をかしき物に思けるをくやしきまで思なりにけりよりぬ給へりつるまきましら

21 もしとねも名残にほへるうつり香いへはいとことさらめきたるまでありかたし時々見たて

22 (19ウ)

23 まつる人たにたひことに聞ゆ経などをよみてくどくのすくれたる事あめるにもかの

24 かうはしきをやむことなき事に仏のたまひをきけるもことほりなりやくわうほんなど

25 にもとりわきてのたまへるこつせんたんとかやおとろくしき物の名なれとまつかの殿の

26 ちかくふるまひ給へは仏はまことし給けりとこそおほゆれおさなくおはしけるよりをこなひ

27 もいみしくし給ければよなどいふもあり又さきの世こそゆかしき御ありさまなれなくちくゝ

28 めつる事ともをすゝるにゑみて聞ぬたり君はしのひてのたまへることをほのめかし

29 のたまう思そめつる事しうねきまでかるくゝしからす物し給めるをけにたゝいまの

30 ありさまなどをおもへはわつらはしきこゝ地すへけれとかのよをそむきてもなと思より給ふ

31 らむもおなし事に思なして心み給へかしとのたまへはつらきめ見せず人にあなつられしの

32 心にてこそ鳥のねきこえさらむすまぬまで思給へをきつれけに人の御ありさま

20才

1 けはひを見たてまつり思給ふるはゑもつかへの程なとにてもかゝる人の御あたりになれ

2 きこえんはかひありぬへしまいてわかき人は心つけたてまつりぬへく侍めれと数ならぬ

3 身に物おもひのたねをやいとゝまかせて見侍らんだかきもみしかきも女といふ物は

4 かゝるすちにこそ此世のちのよまてくるしき身になり侍なれと思給へ侍れはなん

5 いとおしく思給へ侍れもたゝ御心になんともかくもおほしすす物せさせ給へときこ

6 ゆれはいとわつらはしくなりていさやきしかたの心ふかさに打とけてゆくさきのありさま

7 はしりかたきをと打なきてことに物ものたまはすなりぬ明ぬれはくるまなどゐてき

8 てかみのせうそなといとはらたゝしけにをひやかしたれはかたしけなくよろつにたのみ
9 きこえさせてなんなをしはしかくさせ給ていはほのなかもいかにとも思給へめくらし侍程
10 かすかに侍らすともおもほしはなたす何事ををしへさせ給へなと打なけきつゝきこえをきて

20ウ

1 女この御かたもいと心ほそくならはぬこゝ地に立はなれんおもへといまめかしくおかしくみゆる

2 あたりにしはしも見なれたてらむとおもへはさすかにうれしくおもほえけりくるまひき出る
3 程のすこしあかうなりぬるに宮うちよりまかて給わか君おほつかなくおほえ給ければ
4 しのひたるさまにてくるまなともれいならておはしますにさしあひてをしとゝめてたて
5 たれはらうに御くるまよせており給なそのくるまそくらき程にいそき出るはと
6 めとゝめさせ給かやうにてそしのひたるところには出るかしと御心ならひにおほしよるも
7 むくつけしひたち殿のまかてさせ給と申わかやかなる御せんともとのこそあさやかなれと
8 わらひあへるをきくもけにこよなの身の程やかなく思たゝ此御かたのことを思ふゆへに
9 そをのれからも人々しくならまほしくおほえけるましてさうしみをなをくしくやつして
10 見ん事はいみしくあたらしく思なりぬ宮いり給てひたち殿といふ人やこゝにかよはし

21オ

1 給心あるあさほらけにいそき出つくるまそひなとこそことさらめきて見えつれなと
2 なをおほしうたかひてのたまう聞にくゝかたはらいたしとおほしてたいふなとか
3 わかくてのころともたちにてありける人はことにいまめかしうも見えさめるをゆへく
4 しけにものたまひなすかな人の聞とかめつへき事をのみつねにとりない給こそなき
5 名はたてゝと打そむき給もらうたけにおかし明るもしらすおほとのもりたるに
6 人々あまたまいり給へはしんでんにわたりたまひぬきさひの宮はことくしき御なやみ
7 にもあらてをこたり給にければこゝ地よけにて右のおほい殿の君たちなとこうちあん
8 ふたきなどしつゝあそひ給夕つかた宮こなたにわたらせ給へは女君は御ゆるの
9 程なりけり人々をのく打やすみなとして御まへには人もなしちいさきわらはのある
10 しておりあしき御ゆるするの程こそ見るしかめれさうくしくてやなかめんどときこえ給へは

21ウ

1 けにおはしまさぬひまぐにこそれいはすさせあやしう日ころも物うから
2 せ給てけふすきはこの月は日もなし九十月はいかてつかまつらせつるををといふ
3 いとおしかるわか君もね給へりければそなたにこれかれある程に宮はたゝすみ
4 ありき給て西のかたにれいならぬわらはの見えつるをいままいりたるかなとお
5 ほしてさしのそき給なかの程なるさうしほそめにあきたるより見給へはさうし
6 あなたに一尺はかりひきさけて屏風たてたりそのつまにきちやうすにそへて
7 たてたりかたひらひとへを打かけてしをん色の花やかなるにをみなへしのをり
8 物と見ゆるかさなりて袖くちさしいてたり屏風の一ひらたゝまれたるより
9 心にもあらて見ゆるなめりいままいりのくちおしからぬなめりとおほして此ひさしに
10 かよふさうしをいとみそかにをしあげ給てやをらあゆみより給も人しれす

22オ

1 こなたのらうのなかのつほせんさいのいとおかしう色々にさきみたれ
2 たるにやり水のわたりの石たかき程いとおかしければはしちかくそひふして
3 なかむるなりけりあきたるさうしをいますこしをしあけて屏風のつまより
4 のそき給に宮とは思もかけすれいこなたにきなれたるやうたいいと
5 おかしう見ゆるにれいの御心は見すくしたまはてきぬのすそをとらへ給てこ

6 なたのさうしはひきたて給て屏風のはさまにぬたまひぬあやしと思ひ
 7 て扇をさしかくして見かへりたるさまいとおかしあふきをもたせなからとらへ給て
 8 誰そ名のりこそゆかしけれとのたまふにむくつけくなりぬさる物のつらにかほを
 9 ほかさまにたてかくしていいたうしのひ給へれは此たゝならすほめかし給ふらん
 10 大将にやかうはしき氣はひなとも思わたさるゝにいとつかしくせんかたなし

22ウ

1 めのと人けのれいならぬをあやしと思ひてあなたなる屏風をしあけて
 2 きたり是はいかなることにか侍らんあやしきわさにも侍かなときこゆれと
 3 はゝかり給ふへき事にもあらずかく打つけなる御しわさなれとことの葉
 4 おほかる御本上なれはなにやかやとのたまふに暮はてぬれと誰ときか
 5 さらむ程はゆるさしとてなれゝしくふし給に宮なりけりと思侍にめのとい
 6 はんかたなくあきれてゐたりおほとなふらはとうろにてまいれりいまわ
 7 たらせ給なんと人々いふ也おもへならぬかたのみかうしもそおろすなるこ
 8 なたははなれたてたるかたにしなしてたかきたなつし一よろひたて
 9 屏風のふくろにいれこめたるところゝによせかけなにかのあらゝなる
 10 さまにはなちたりかく人の物し給へはとてかよふみちさうし一まはかりそ

23オ

1 あけたるを右近とてたいふかむすめのさふらふきてかうしおろしてこゝに
 2 よりてくなりあなくらやまたおほとなふらもまいらせさりけりみかうしを
 3 くるしきにいそきまいりてやみにまよふとてひきあくる宮もなまくるしと
 4 聞給めのはたいとくるしと思ひて物つゝみせすはやりかにをそき人にて物
 5 きこえ侍らんこゝにいとあやしきことの侍に見給へこうしてなんえうこき
 6 侍らてなん何事そとてさくりよるにうちきすかたなるおとこのいとかうはしく
 7 そひふし給へるをれのけしからぬ御さまと思よりにけり女の心あはせ給まし
 8 き事とをしはからるれはけにいと見くるしきことにも侍かな右近はいか
 9 にかきこえさせむいままいりて御せんにこそはしのひてきこえさせめとてた
 10 つをあさましくかたはに誰もゝおもへと宮はおちたまはすあさましきまで

23ウ

1 あてにおかしき人かななをなに人ならむ右近かけしきもいとおしなへて
 2 のいまゝいりにはあらさめりと心えかたくおほされてといひかくいひ恨給
 3 心つきなけに氣しきはみてもてなさねとたゝいみしうしぬばかり
 4 おもへるかいとおしければなさけありてこしらへ給右近うへにしかゝこそお
 5 はしませいとおしくいかにもおもほらん聞ゆれはれの心うき御さまかなのはゝも
 6 いかにあはゝしくけしからぬさまに思たまはんとすらむうしろやすくと返々いひ
 7 をきつる物をいとおかしくおほせといかゝきこえんさふらふ人々もすこし
 8 わかやかによろしきは見すて給ことなくあやしき人の御くせなれはいかてかは
 9 思より給けんとあさましきに物もいはれたまはすかんだちめあまたまいり
 10 給ふ日にてあそひたはふれてはれいもかゝる時はをそくもわたり給へはみな打

24オ

1 とけてやすみ給そかしさてもいかにすへきことそかのめのとこそおそましかりけれ
 2 つとそひてゐてまもりたてまつりひきもかなくりたてまつるへくこそ思たり
 3 つれと少將とふたりしていとおしかる程に内より人まいりて大宮この夕暮
 4 より御むねなやませ給をたゝいまいみしくをもくなやませ給よし申さす右近心な

5 きおりの御なやみかなきこえさせむとてたつ少將いてやいまはかひなくも
 6 あへいことををこかましくあまりなおひやかしきこえ給そといへはいなまたしかる
 7 へしとしのひてさゝめきかはすをうへはいとゝ聞にくき人の御本上にこそ
 8 あめれすこし心あらん人は我あたりをさへうとみぬへかめりとおほすまいりて
 9 御つかひの申よりもいますこしあはたゝしけに申なせはうこき給ふへきさまに
 10 もあらぬ御けしきにたれかまいりたるれいのおとろゝしくおひやかすとのたまはす

24ウ

1 れは宮のさふらひにたいらのしけつねとなんなのり侍つると聞ゆ出たまはん
 2 このいとわりなくちおしきに人めもおほされぬにうこん立出て此御つかひにし
 3 おもてにてとへは申つきつる人もよりきて中つかさの宮まいらせたまひぬたいふは
 4 たゝいまなんまいりつるみちに御くるまひき出る見侍つと申せはけににはかに
 5 時々なやみ給おりゝもあるをとおほすに人のおほすらんこともはしたなくなりて
 6 いみしう恨契りをきて出たまひぬおそろしき夢のさめたるこゝ地してあせにをし
 7 ひたしてふし給へりめのと打あふきなとしてかゝる御すまぬはよろつにつけてつゝましう
 8 ひんなかりけりかくおほしましそめてはさらによきこと侍らしあなおそろしやかきりなき
 9 人と聞ゆともやすからぬ御ありさまはいとあちきなるへしよそのさしはなれ
 10 たらむ人にこそよしともあしともおほえられたまはめ人きゝもかたはらいたき事と

25オ

1 思給てかまのさうをいたしてつと見たてまつりつれはいとむくつけくけすゝし
 2 き女とおほして事をいたくつませ給へるこそなを人のけさうたちていとお
 3 かしくもおほし侍つれかの殿にはけふもいみしくいさかひ給けりたゝ一ところの
 4 御うへを見あつかひ給とてわかこともをおほしたりまらうとおはする程の
 5 御たひぬ見くるしとあらゝしきまでそきこえ給けるしも人さへきゝいと
 6 おしかりけりすへて此少將の君そいとあいきやうなくおほえ給此みこと侍ら
 7 さらましかはうちゝやすからすむつかしき事はおりゝ侍れともなたらかに年ころの
 8 まゝにておはしますへき物をなと打なけきつゝいふ君はたゝいまともかくもおもひ
 9 めくらされすたゝいみしくはしたなく見しらぬを見つるにそへてもいかにおほす
 10 らむと思ふにわひしければうつふしてなき給いとくるしと見あつかひて

25ウ

1 なにゝかくおほすはゝおはせぬ人こそたつきなうかなしかるへきなれよそのおほ
 2 えはちゝなき人はいとくちおしけれとさかなきまゝはゝににくまれんよりは
 3 是はいとやすしともかくもしたてまつり給てんなおほしくんせそさりとものはつせ
 4 のくはんをんおはしませはあはれと思きこえ給ふらんならはぬ御身にたひゝしきり
 5 てまで給事は人のかくあなつりさまにのみ思きこえたるをかくもありけりと
 6 思ふはかりの御さいはひおはしませとねんし侍れあま君は人わらはれにては
 7 やみ給なんやと世をやすけにいひぬたり宮はいそきて出給也内ちかきかた
 8 にやあらむこなたのみかとより出給へは物のたまふ御こゑも聞ゆいとあてにかきり
 9 もなくきこえて心はへあるふる事なと打すし給てすき給程すゝるにわつら
 10 はしくおほゆうつしむまともひきいたしてとのぬにさふらふ人十人はかりして

26オ

1 まいり給うへいとおしくうたて思ふらんとてしらすかほにて大宮なやみ給とてま
 2 いり給ぬれはこよひは出たまはしゆするのなこりにやこゝ地もなやましくておき
 3 ゐ侍をわたり給へつれゝにもおほさるらむときこえ給へりみたりこゝ地のいとくる

4 しょう侍をためらひてとめのとしてきこえ給いかなる御こゝちそと立かへりとふらひ
 5 きこえ給へはなにこゝちとおほえ侍らすたゝいとくるしく侍ときこえ給へは
 6 少将右近めましろきをしてかたはらそいたくおほすらむといふもたゝなる
 7 よりはいとおしいとくちおしく心くるしきわさかな大将の心とゝめたるさまにのたまふ
 8 めりしをいかにあはしく思おとさんかくみたりかはしくおはする人はきゝにくゝ
 9 しちならぬ事をもくねりいふ又まことにすこしおもはすならむ事をもさすかに見ゆ
 10 るしつへうこそおはすめれ此君はいはてうしとおもはん事いとはつかしけに心ふかきを

26ウ

1 あいなく思ふことそひぬる人のうへなめり年ころ見すしらさりつる人のうへなれと
 2 心はへかたちを見ればえ思はなつましうらうたく心くるしきに世中はありかた
 3 むつかしけなる物かな我身のありさまはあかぬ事おほかるこゝちすれとかく物かな
 4 きめも見つへかりける身のさはゝふれすなりにけるにこそけにめやすきなり
 5 けれいまはたゝ此にくき心そひ給へる人のなたらかにて思はなれなはさらに何
 6 事も思ひれすなりなんとおもはすいとおほかる御くしなれはとみにもえほしやら
 7 すおきぬ給へるもくるししろき御そ一かさねはかりにておはするほそやかにて
 8 おかしけ也此君はまことにこゝちもあしくなりにたれとめのといとかたはらいし
 9 ことしもありかほにおほすらむをたゝおほとかにて見えたてまつり給へうこんの君
 10 などにはことのありさまはしめよりかたり侍らんとせめてそゝのかしたてゝこなたの

27オ

1 さうしのもとにてうこんの君に物きこえさせんといへはたちて出たれはいとあや
 2 しく侍つることのなごりに身もあつうなり給てまめやかにくるしけに見えさせ
 3 給を御まへにてなくさめきこえさせ給へとてなんあやまちもおはせぬ身を
 4 いとつゝましけにおもほしわひたためるもいさゝかにても世をしり給へる人こそ
 5 あれいかてかはとことほりにいとおしく見たてまつるとてひきおこして
 6 まいらせたてまつる我にもあらず人の思ふらむ事もはつかしけれといと
 7 やはらかにおほときすぎ給へる君にてをしられれてゐ給へりひたひ
 8 かみなどのいたうぬれたるをもてかくしてひのかたにそむき給へるさま
 9 うへをたくひなく見たてまつるにをとる見えすあてにおかし是におほし
 10 つきなほめさましけなる事はありなんかしかゝらぬをたにめつらしき人おかしう

27ウ

1 し給御心をとふたりはかりそおまへにてえはちあへたまはねは見あたりける
 2 物語いとなつかしくし給てれいならすつゝましきところと思なし給そ
 3 こひめ君のおはせすなりにし後わするゝ世なくいみしく身もうらめしく
 4 たくひなきこゝ地してすすすにいとよく思よそへられ給御なさを
 5 れはなくさむこゝちしていみしうあはれになん思ふ人なき身にむかし
 6 の御心さしのやうにおもほさはいとうれしくなんなとかたらへ給へといと物つゝま
 7 しくてまたひなひたる心にいらへきこえん事もなくて年ころいとはるかに
 8 のみ思きこえさせしにかう見たてまつり侍れは何事もなくさむこゝち
 9 し侍でなんとばかりいとわかひたるこゑにていふゑなとり出させてみ
 10 しかく火ともしてと右近にことはよませて見給にむかひて物はちもえ

28オ

1 しあへたまはず心にいれて見給へるほかけさらにこゝかと思ゆるところ
 2 なくこまかにおかしけ也ひたひつきまみのかほりたるこゝ地していとおほ

3 とかなるあてさはたゝそれとのみ思ひ出らるればゑはことにめもとゝめ
 4 たまはていとあはれなる人のかたちかないかてかうしもありけるにかあ
 5 らむご宮にいとよくにたてまつりたるなめりかしこひめ君は宮の御
 6 かたさまに我ははゝうへにたてまつりたるところはふる人ともいふなりしか
 7 けににたる人はいみじき物なりけりとおほしくらふるに涙くみて見給かれ
 8 はかきりなくあてに氣たかき物からなつかしうなよらかにかたはなる
 9 まてなよゝとたはみたるさまし給へりしにこそ是はまたもてなしの
 10 うゐゝしきによろつの事をつゝましようのみ思たるけにや見ところおほかる

28ウ

1 なまめかしさをとりたるゆゝしきけはひたにもてつけたらは大将の
 2 見たまはんにもさらにかたはなるましなどこのかみに思あつかはれ給物語など
 3 し給てあか月かたになりてそね給かたはらにふせてご宮の御事とも年ころ
 4 おはせし御ありさまなとまほならねとかたり給いとゆかしう見たてまつらす
 5 なりにけるをいとくちおしうかなしと思たりよへの心しりの人々はいかなり
 6 つらむなといとらうたけなる御さまをいみしうおほすともかひあるへ
 7 き事かはいとおしといへは右近そさもあらしかの御めのとのひきすへてすゝ
 8 ろにかたりうれへし氣しきもてはなれてせいひし宮もあひてもあはぬやう
 9 なる心はへにこそうちこそふきくちすさひ給しかはいさやことさらにもやあらん
 10 そはしらすかしよへのほかけのいとおほとかなりしもことありかほには見えたまは

29オ

1 さりしを打さゝめきていとおかしかるめのとくるまこひてひたち殿へいぬ北のかたに
 2 かうゝといへはむねつふれさはきて人もけしからぬさまにいひ思ふらんさうしみも
 3 いかゝおほすへきかゝるすちの物にくみはあて人もなき物なりとをのか心ならひにあは
 4 たゝしく思なりて夕つかたまいりぬ宮おはしまさねは心やすくてあやしく心をさな
 5 けなる人をまいらせをきてうしろやすくはたのみきこえさせなからいたちの
 6 侍らんやうなるこゝ地のし侍れはよからぬ物ともにくみうらみられ侍ときこゆ
 7 いさいふはかりのおさなけさにはあらさめるをうしろめたけにけしきはみたる御まかけ
 8 こそわつらはしけれとてわらひ給へるか心はつかしけなる御まみを見るも心のおにゝはつ
 9 かしくそおほゆるいかにおほすらむとおもへはえも打出きこえすかくてさふらひ
 10 たまはゝ年ころのねかひのみつこゝ地して人のもり聞侍らんもめやすくおもたゝ

29ウ

1 しき事になん思給ふるをさすかにつゝましき事になん侍けるたかき山のほいはみ
 2 さほになん侍へきをとて打なくもいとゝおしくてこゝはなに事かうしろめたく
 3 おほえ給ふへきとてもかくてもうとゝしく思はなちきこえはこそあらはけし
 4 からすたちてよらぬ人の時々物し給めれとその心をみな人見しりためれは心つ
 5 かひしてひんなうはもてなしきこえしと思ふをいかにをしはかり給にかとのたまふ
 6 さらに御心をはへたてありても思きこえさせ侍らすかたはらいたうゆるしな
 7 かりしすちはなにゝかかけてもきこえさせ侍らんそのかたならておもほしはなつ
 8 ましきつなも侍をなんとらへところにしたのみきこえさするなどをろかならす
 9 きこえてあすあさてかたき物いみに侍をおほそうならぬところにてすくし
 10 て又もまいらせ侍らるときこえていさなういとおしくほいなきわさかなとお

30オ

1 ほせとえとゝめたまはすあさましようかたはなることにおとろきさはきたれも

2 おさく物もきこえていてぬかやうのかたかへところと思ひてちいさき家
 3 まうけたりけり三条わたりにされはみたるかまたつくりさしたるところ
 4 なれははかくしきしつらひもせてなんありけるあはれ此御身一をよろつにもて
 5 なやみ聞ゆるかな心にはなほぬ世にはありふましき物にこそありけれみつから
 6 はかりはたゝひたふるにしくしらす人けなうたゝさるかたにはひこもりて
 7 すくしつへし此御ゆかりは心うしと思きこえしあたりをむつひ聞ゆるにひんなき
 8 こともいてきなはいと人わらへなるへしあちぎなしことやうなりともこゝを人にも
 9 しらせすしのひておはせよをのつからともかくもつかうまつりてんといひをきて
 10 身つからはかへりなんとす君は打なきて世にあらむことところせける身と思

30ウ

1 くし給へるさまいとあはれるおやはたましてあたらしくおしければつゝか
 2 なくて思ふこと見なさむとおもふさるかたはらいたき事につけて人にも
 3 あはくしくおもはれいはれんかやすからぬなりけりこゝちなくなどはあらぬ
 4 人のなまはらちやすく思のまゝにそすこしありけるかの家にも
 5 かくろへてはすへたりぬへけれとしかかくろへたらむをいとおしと思ひてかくあつ
 6 かふに年ころかたはらさらず明暮見ならひてかたみに心ほそくわりなしと
 7 おもへりこゝは又かくあはれてあやうけなるところなめりさる心し給へとのぬ人の
 8 事なといひをきて侍もいとうしろめたけれとかしこにはらたちうらみらるゝか
 9 いとくるしければとなきてかへる少将のあつかひをかみは又なき物に思いそき
 10 てもろ心にさまあしくいとなさすとえんするなりけりいと心うく此人々よりかゝる

31オ

1 まきれともゝあるそかしと又なく思ふかたのこのかゝれはつらく心うくておさく
 2 見いれすかの宮の御まへにていと人けなく見えしにおほく思おとしてければわた
 3 くし物に思かしつかましをなと思しことはやみにたりこゝにてはいかゝ見ゆらんまたうち
 4 とけたるさま見ぬにと思ひてのとかにぬ給へるひるつかたこなたにわたりてものより
 5 のそくしろきあやのなつかしけなるにいまや色のうちめなともきよらなるをきて
 6 はしのかたにせんさい見るとてゐたるはいつかかは人にをとるいときよけなめるはと
 7 みゆむすめまたかたなりになに心もなきさまにてそひふしたり宮のうへのなら
 8 ひておはせし御さまとも思ひ出れはくちおしのさまともやと見ゆまへなるこ
 9 たちに物なといひたはふれて打とけたるはいと見しやうににほひなく人わろけ
 10 にも見えぬをかの宮なりしはこと少将なりけりとおもふおりしもいふことよ兵部卿の

31ウ

1 宮のはきのなをことにおもしろくもあるかないかてさるたねありけんおなしえたさし
 2 などのいとえんなるこそ一日まいりて出給程なりしかはえおらすなりにきことたにおしき
 3 と宮の打すし給へりしをわかき人たちに見せたらましかはとて我もうたよみぬ
 4 たりいてや心はせの程をおもへは人とおほえすいてきえはいとこよなかりけるに
 5 なに事いひぬたるそとつふやかるれといとこゝ地なけるさまはさすかにしたらねは
 6 いかゝとてこゝろみに

7 しめゆひしこはきかうへもまよはぬにいかなるつゆに
 8 うつるした葉そとあるにいとおしくおほえて

9 みやき野のこはきかもとゝしらませは露もこゝろを

10 わかすそあらましいかてみつからきこえさせあきらめむといひたりこ宮の御事

32オ

1 聞たるなめりと思ふにいとゝいかて人とひとしくとのみ思あつかはるあいなく大将殿の御
 2 さまかたちそ恋しうおもかけに見ゆるおなしうめてたしと見たてまつりしかと宮は思ひ
 3 はなれ給て心もとまらずあなつりてをしり給へりけるを思ふもねたし此君はさすがに
 4 たつねおほす心はへのありながら打つけにもいひかけたまはすつれなしかほなるしもこそ
 5 いたけれよろつにつけて思いてらるればわかき人はましてかくや思ひ出きこえ給ふらん
 6 我物にせんとかくにくき人を思ひけんこそ見くるしき事なへかりけれなとたゝ心に
 7 かゝりてなかめのみせられてとてやかくてやとよろつにうからんあらましことを思ひ
 8 つゝくるにいとかたしやむことなき御身の程御もてなし見たてまつり給へらん人は
 9 いますこしなのめならすいかはかりにてかは心をとゝめたまはん世の人のありさまを
 10 見聞にとりまさりいやしうあてなるしなにしたかひてかたちも心もあるへき物

32ウ

1 なりけりわかこともを見るに此君にもにるへきやはある少将を此家のうちに又なき
 2 物におもへとも宮に見くらへたてまつりしかはいともくちおしかりしにおしはかゝるたう
 3 たいの御かしつきむすめをえたてまつり給へらん人の御めうつしにはいともくはつかしく
 4 つゝましかるへき物かなとおもふにすゝろにこゝちもあくかれにけり旅のやとりはつれく
 5 にて庭の草もいふせきこゝちするにいやしきこゑしたる物ともはかりのみ出入
 6 なくさめに見るへきせんさいの花もなし打あはれてはれくしからてあかしくらすに
 7 宮のうへの御ありさま思ひ出るにわかいこゝ地に恋しかりけりあやにくたち給へりし人の
 8 御けはひもさすがに思ひ出られて何事にかありけんいとおほくあはれけにのたまひ
 9 しかな名残おかしかりし御うつり香もまた残りたるこゝ地しておそろしかりしも
 10 思ひ出らるはゝ君たつやといとあはれなる文をかきてをこせ給をろかならず心くる

33オ

1 しう思あつかひ給めるにかひなうもてあつかはれたてまつることしも打なかれていかに
 2 つれくに見ならはぬこゝちし給ふらむしはししのひすくし給へとある返事につれくはなに
 3 かこゝろやすくてなん

4 ひたふるにうれしからまし世のなかにあらぬところと

5 おもはましかはとおさなけにいひたるを見るまゝにほろくゝと打なきてかうまとはし
 6 はふるやうにもてなす事といみしければ

7 うき世にはあらぬところをもとめてもきみかあたりを

8 見るよしもかなとなをくしき事ともをいひかはしてなん心のへけるかの大将殿はれい
 9 の秋ふかくなりゆくころならひにし事なればねさめくゝに物わすれせずあはれにのみ
 10 おほえ給ければうちの御たうつくりはてつと聞給と身つかからおはしましたりひさしう

33ウ

1 見たまはさりつるに山のもみちもめつらしうおほゆこほちししんでんこたみは
 2 いとはれくしうつくりなしたりむかしいとことそきてひしりたち給へりすまゐ
 3 をおもひ出るにこ宮も恋しうおほえ給てさまかへてけるもくちおしきまで
 4 つねよりもなめ給もとありし御しつらひはいとたうとけにていまかたつ
 5 かたををんなしくこまやかになと一かたならさりしをあしる屏風なにかの
 6 あらくしきなどはかのみたうのそうはうのくにことさらになさせ給へり山さと
 7 めきたるくともをことさらにせさせ給ていたうもことそかすいときよけに
 8 ゆへくしくしつらはれたりやり水のほとりなる岩にお給てとみにもたゝれす
 9 たえはてぬしみつになとかなき人のおもかけをたに
 10 とゝめさりけん涙ををしのこひつゝ弁のあま君のかたに立より給へれはいとかな

34才

1 しと見たてまつるにたゝひそみにひそむなけしにかりそめにぬ給てすたれの
 2 つまひぎあけて物語し給きちやうにかくろへてゐたりことのついでにかの人はさい
 3 つころ宮にと聞しをさすかにうぬくしくおほえてこそ音つれやらねなを是より
 4 つたへはて給へとのたまへは一日かのはゝ君のふみ侍きいみたかうとてこゝかしこに
 5 なんあくかれ給める此ころもあやしきご家にかくろへ物し給めるも心くるしく
 6 すこしちかき程ならましかはそこにわたして心やすかるへきをあらましき
 7 山みちにたはやすくもえ思たゝてなんと侍しと聞ゆ人々のかくおそろしく
 8 すめるみちにまるこそふりかたくわけくれなにはかりの契りにかとおもへはあはれに
 9 なんとてれいの涙くみ給へりさらはその心やすからんところにせうそし給へ
 10 身つからやはかしこに出たまはぬとのたまへはおほせことをつたへ侍らんことはやすし

34ウ

1 いまさらに京を見侍らん事は物うくて宮にたにえまいらぬをときこゆ
 2 などでかともかくも人の聞つたへはこそあらめあたこのひしりたに時に
 3 したかひてはいてすやはありけるふかき契りをやふりて人のねかひ
 4 を見てたまはんこそたうとからめとのたまへは一たひわたすことも
 5 侍らぬに聞にくき事もこそ出まうてくれとくるしけに思たれとなを
 6 よきおりなゝるをとれいならすしのひてあさてはかりくるまたてまつ
 7 れんそのたひのところたつねをき給へゆめをこかましくひかわさすましう
 8 をとほゝゑみてのたまへはわつらはしくいかにおほすことならんとおもへとあふなく
 9 あはくしからぬ御心さまなれはをのつからわか御ためにも人きゝなどはつゝみ給ふ
 10 らむと思ひてさらはうけたまはりぬちかき程にこそ御文などを見せさ

35才

1 せ給へかしふりはへさかしらめきて心しらひのやうにおもはれ侍らむも
 2 いまさらにいかたうめのかたてにやとつゝましくてなんと聞ゆ文はやすかる
 3 へきを人の物いひいとうたである物なれは右大将はひたちのかみのむすめを
 4 なんよはふなるなもとりなしてむをやそのかんのぬしいとあらくしけなめ
 5 りとのたまへは打わらひていとおしと思ひくらふなれは出給下草のおかしき花
 6 とも紅葉などおらせ給て宮に御らんせさせ給かひなからすおはしぬへけれど
 7 かしこまりをきたるさまにていたうもなれきこえたまはすそあめるうちより
 8 たゝのおやめきて入道の宮にもきこえ給へはいとやむことなきかたはかきり
 9 なく思きこえ給へりこなたかなたとかしつききこえ給宮つかへにそへてむつかし
 10 きわたくし心のそひたるもくるしかりけりのたまひしまたつとめてむつましく

35ウ

1 おほすけらうさふらひひとりかほしらぬうしかひつくり出てつかはすさうの物とも
 2 のぬなかひたるめし出つゝつけよとのたまふかならずいへくのたまへりければ
 3 いとつゝましくくるしけれと打けさうしつくるひてのりぬ野山のけしきを見る
 4 につけてもいにしへよりのふることと思ひ出られてなかくめくらしでなんきつき
 5 けるいつつれく人にめも見えぬところなれは心やすくひきいてかくななんまいり
 6 きつるとするへのおとこしていはせたれははつせのともにあしわか人出ておろす
 7 あやしきところをなかくめくらしあかすにむかしかりもしつへき人のきたれはうれしく
 8 てよひ入給ておやときこえける人の御あたりの人と思ふにむつまじきなるへし
 9 あはれに人しれす見たてまつりし後よりは思ひ出きこえぬおりなれと世中かはり

10 思給へすてたる身にてかの宮にたにまいり侍らぬを此大将殿のあやしきまで

36才

1 のたまはせしかは思給へをこしてなんと聞ゆ君もめのともめてたしと見をきき
 2 こえてし人の御さまなれはわすれぬさまにのたまふらんもあはれなれとにはかに
 3 かくおほしたはかるらむと思もよらすよ打する程に内より人まいれりとて
 4 かとしのひやかに打たゝくさにやあらむとおもへと弁あけさせたれはくるま
 5 をそひきいるにあやしと思ふにあま君にたいめんたまはらむとて此ちかき
 6 みさうのあつかりのなりのをせさせ給へは戸くちにぬさり出たり雨すこしうち
 7 そゝくに風はいとひやゝかに吹いりていひしらすかほりくれはかうなりけりと
 8 誰もゝ心ときめきしぬへき御けはひおかしければよいもなくあやしきに
 9 又思あへぬ程なれは心さはきていかなることにかあらむといひあへり心やすきところ
 10 にて月ころの思あまることもきこえさせんとてなんとはいはせ給へりいかに聞ゆへき

36ウ

1 ことにかと君はくるしけに思ひてぬ給へはめのと見るしかりてしかおはし
 2 ましたらんをたちなからやかへしたてまつりたまはんが殿にこそかくなんと
 3 しのひてきこえめちかき程なれはといふうぬゝしくなとてかさはあらんわかき
 4 御とち物きこえたまはんはふとしもしみつへくもあらぬをあやしきまで心
 5 のとかに物ふかうおはする君なれはよも人のゆるしなくては打とけたまはしなど
 6 いふ程雨やゝふりくれは空はいとくらしとのぬ人のあやしきこゑしたる
 7 夜行うちしてやかのたつみのくつれいとあやうし此人のみくるまいるつくは
 8 ひきいれてみかとさしてよからぬ人のとも人こそ心はうたてあれなと
 9 いひあへるもむくゝしく聞ならはぬこゝちし給さのゝわたりに家も
 10 あらなくになとくちすさひて里ひたるすこのはしつかたにぬ給へり

37才

1 さしとむるむくらやしけきあつまやのあまりほとふる

2 雨そゝき哉わかたちぬれんと打わらひ給へるをひかせいとかたはなる
 3 まてあつまの里人もおとろきぬへしとさまかうさまにきこえのかれむ
 4 かたなければみなみのひさしにおましひきつくろひていたてまつる心やすく
 5 もたいめしたまはぬをこれかれをしいたりやり戸といふ物さしていさゝかあけ
 6 たれはひたのたくみもうらめしきへたてかなかゝる物のとはまたぬならはすとう
 7 れへ給ていかゝし給けんいりたまひぬかの人かたのねかひはのたまはておほえなき
 8 物のはさまより見しよりすゝろに恋しきことさるへきにやあらむあやしき
 9 まてぞ思聞ゆるとそかたらひ給ふへき人のさまいとらうたけにおほとき
 10 たれは見をとりもせすいとあはれとおほえけり程もなう明ぬるこゝちするに

37ウ

1 鳥などはなかくておほちちかきところにおほとれたるこゑしていかにとか聞
 2 もしらぬなのりをして打むれてゆくなどぞ聞ゆるかやうのあさほらけに
 3 見れは物いたゝきたる物のおにのやうなるさまそかしと聞給もかゝる
 4 よもきのまろねにならひたまはぬこゝ地もおかしくもありけりとぬ人もかと
 5 あけて出るをとすをのゝいりてふしなとするを聞給て人めしてくるまつま戸
 6 によせさせ給かきいたきてのせ給つ誰もゝあやしうあへなき事を思さ
 7 はきて九月にもありけるを心うのわさやいかにしつることそとなけゝはあま
 8 君もいとゝおしく思のほかなる事ともなれとをのつからおほすやうあらむ

9 うしろめたうな思給そ長月はあすこそせちふと聞しかといひなくさむけふ
10 は十三日なりけりあま君こたみはえまいらし宮のうへきこしめさんことも

38才

1 あるにしのひてゆきかへり侍らむいとうたてなんと聞ゆれとまたき此ことを
2 きかせたてまつらむも心はつかしくおほえ給てければ後にもつみさり申給
3 てんかしこにしるへなくてはたつきなきところをもせめてのたまふ人ひとりや侍
4 へきとのたまへは此君にそひたる侍従とのりぬめのとあま君のともなりしわらは
5 などともをくれていとあやしきこゝちしてあたりちかき程にやとおもへはうちへおは
6 するなりけりうしなとひきかふへき心まうけし給へりかはらすきほうさうしのわたり
7 おはしますに夜は明はてぬわかき人はいとほのかに見たてまつりてめてきこえて
8 すゝろに恋たてまつるに世中のつゝましきもおほえす君そいとあさましきに
9 物もおほえすうつふしゝたるをいしたかきわたりはくるしき物をとていたき給へり
10 うす物のほそなかをくるまのなかにひきへたてたれば花やかにさし出たる朝日影に

38ウ

1 あま君はいとはしたなくおほゆるにつけてこひめ君の御ともにこそかやう
2 にても見たてまつりつへかりしかありふれは思かけぬことをも見るかなとかな
3 しうおほえてつゝむとすれと打ひそみつゝなくを侍従はいとにくゝ物の
4 はしめにかたちことにてのりそひたるをたにおもふになそかくいやめなる
5 とにくゝをこにも思おいたる物はすゝろに涙もろにある物そとおろそかに
6 うちおもふなりけり君も見る人にはくからねと空の氣しきにつけても
7 きしかたの恋しさまさりて山ふかく入まゝにも霧たちわたるこゝ地し
8 給打なかめてよりぬ給へる袖のかさなりなからなかやかに出たりけるか川霧
9 にぬれて御そのくれなゐなるに御なをしの花のおとろゝしううつり
10 たるをおとしかけのたかきところに見つけてひきいれたまふ

39才

かた見そと見るにつけてはあさ露のところせきまで

1 ぬるゝ袖かなと心にもあらずひとりこち給を聞いていとゝしほるはかりあま君
2 の袖もなきぬらすをわかき人あやしう見くるしき世かな心ゆくみちにいと
3 むつかしきことそひたるこゝちすしのひかたけなるはなすゝりをきゝ給て我
4 もしのひやかに打かみていかゝおもふらむといとおしはあまたの年ころこの
5 みちをゆきかふたひかさなるをおもふにそこはかとなく物あはれなるかな
6 すこしおきあかりて此山の色も見給へいとむもれたりやとしゐてかき
7 おこし給へはおかしき程にさしかくしてつゝましけに見いたしたるまみ
8 などとはいとうく思ひ出らるれとおいらかにもあまりおほときすきたる
9 そ心もとなかめるいといたうこめいたる物からようゐのあさからす物し給し
10

39ウ

1 はやとなをゆくかたなきかなしさはむなしきそらにもみちぬ
2 へかめりおはしつきてあはれなき玉ややとりて見給ふらむ
3 誰によりてかくすゝろにまよひありく物にもあらなくにと思ひ
4 つゝけ給ておりてはすこし心しらひてたちさり給へり女ははゝ
5 君のおもひたまはん事なといとなけかしけれとえんなるさまに心
6 ふかくあはれにかたらひ給に思なくさめておりぬあま君はことさらに
7 おりてらうによするをわざとおもふへきすまゐにもあらぬをよう

8 おこそあまりなれと見給みさうよりれいの人々はかしきまで
9 まいりあつまる女の御たいはあま君のかたよりまいるみちはしけかり

40才

1 つれと此ありさまいとわれくし川の氣しきも山の色もてはやし
2 たるつくりさまを見いたして日ころのいふせきなくさみぬるこゝ
3 ちすれといかにもてないたまはんとするにかとうきてあやしう
4 おほゆ殿は京に御ふみかき給也あはぬ仏の御かさりなと見給へをき
5 てけによろしき日なりければいそき物し侍てみたりこゝ地のなや
6 ましきに物いみなりけるを思給へ出てなんけふあすこゝにてつゝしみ
7 侍へきなどはゝ宮にもきこえ給打とけたる御ありさまいますこし
8 おかしくていりおはしたるもはつかしけれともてかくすへきにも
9 あらてゐ給へり女の御さうそくなと色々にきよくと思ひてしかさね

40ウ

1 たれとすこしゐなかひたる事も打ましりてそむかしのいとなみ
2 はみたりし御すかたのあてになまめかしかりしのみ思ひ出られ
3 てかみのすそのおかしけさなどはこまゝとあて也宮の御くしの
4 いみしくめてたきにもをとるましかりけりと見給かつは此人をいかに
5 もてなしてあらせんとすらむたゝいま物々しけにてかの宮にむかへすへんも
6 をときひんなかるへしさりとてこれかれあるつらにておほそふに
7 ましらはせむはほいながらむしはしこゝにかくしてあらむと思も見すは
8 さうくしかるへくあはれにおほえ給へはをろかならすかたらひくらし給
9 こ宮の御事もたまひ出てむかしの物語おかしうこまやかにいひたはふ

41才

1 れ給へとたゝいとつゝましけにてひたちにはちたるをさうくしうおほす
2 あやまりてもかうも心もとなきはいとよくをしへつゝも見てんあ中ひ
3 たるされ心もてつけてしなくしらすはやりかならましはしもかたしろふよう
4 ならましと思なし給こゝにありけるぎんさうのことめし出てかゝることはた
5 ましてえせしかしとくちおしければひとりしらへて宮うせ給て後こゝ
6 にてかゝる物にいとひさしうてふれさりつかしとめつらしく我なからおほえて
7 いとなつかしくまさくりつゝなかめ給に月さし出ぬ宮の御きんのねの
8 おとろくしくはあらていとおかしくあはれにひき給しはやおほし出て
9 むかし誰もくおはせし世にこゝにおひ出給へらましかはいますこしあはれは

41ウ

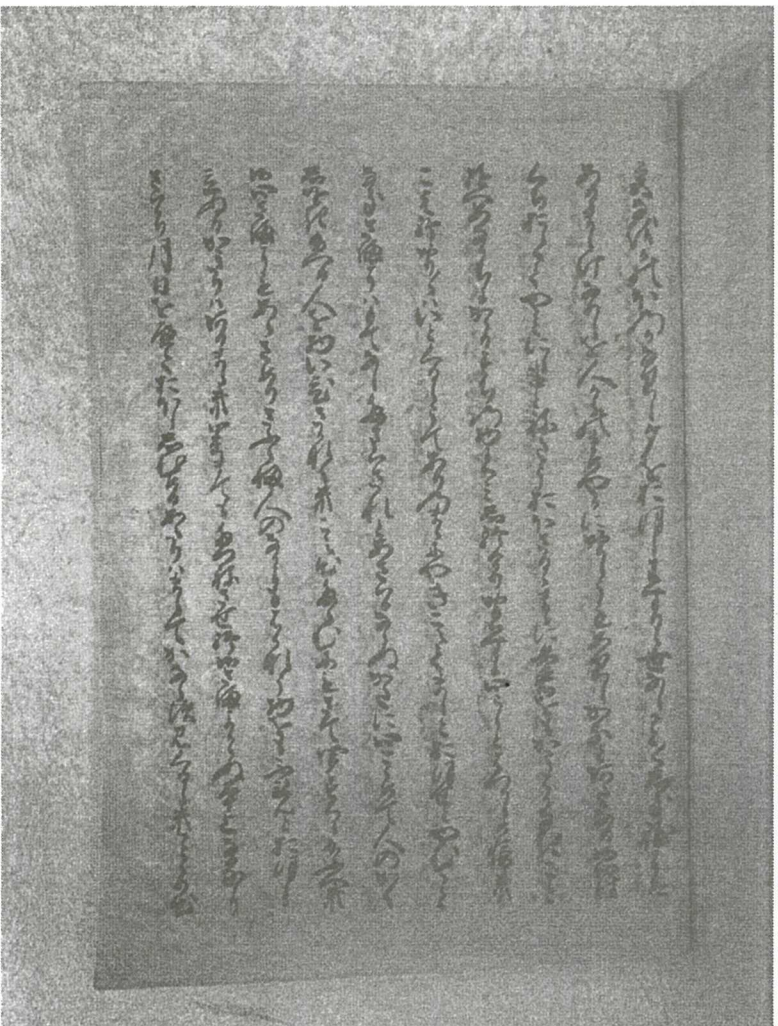
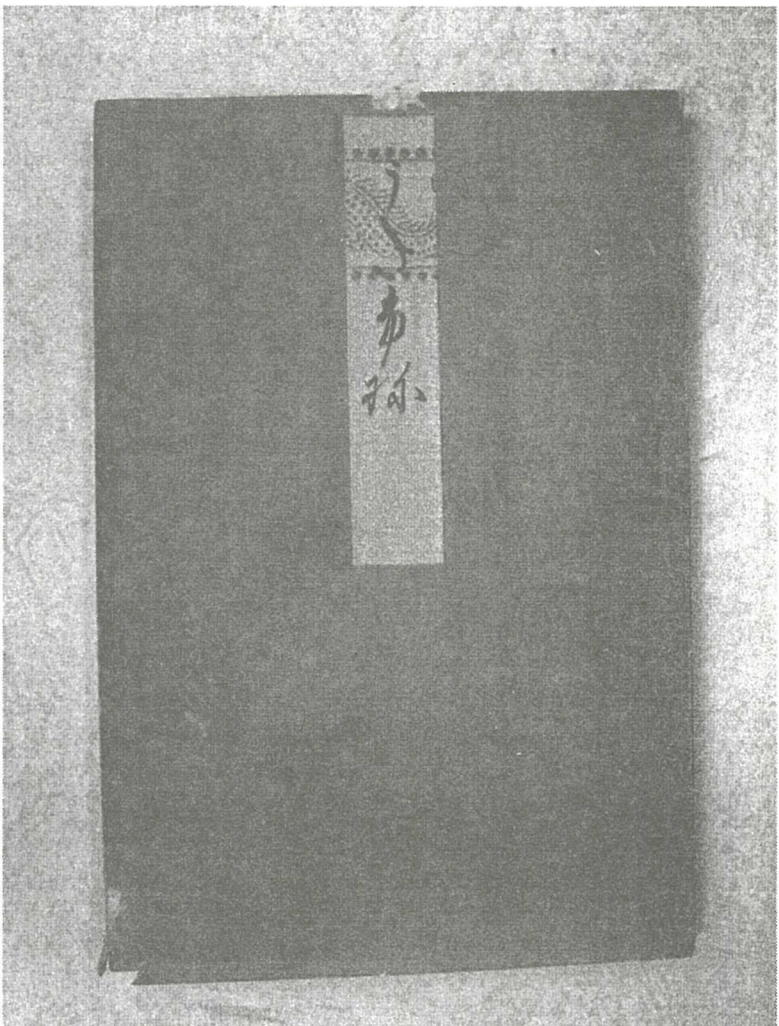
1 まさりなましみこの御ありさまはよその人たにあはれに恋しく
2 こそおもひいてられ給へなとてさるところには年ころへたまへしそと
3 のたまへはいとはつかしくてしろきあふきをまさくりつゝそひふしたる
4 かたはらめいとくまなうしろうてなまめいたるひたひかみのひまなど
5 いとよくおもひ出られてあはれ也まいてかやうのこともつきなからす
6 をしへなさはやおほしてこれはすこしほのめいたまひた
7 るやあはれわかつまといふことはさりとて手ならし給けんなどどひ
8 たまふそのやまところ葉たにつきなくならひければましてこれ
9 はといふいとかたはにこゝろをくれたりとは見えすこゝにをきては

42才

1 えおもふまゝにもこざらん事をおほすかいまよりくるしきはなのめには
 2 おほさぬなるへしことはをしやりて楚わうのたいのうへのよるのきんの
 3 こゑとすんし給へるもかのゆみをのみひくあたりにならひていとめてたく
 4 おもふやうなりと侍従も聞ゐたりけりさるはあふきの色もこゝろ
 5 をきつきねやのいにしへをはしらねはひとへにめてきこゆるそ
 6 をくれたるかしことこそあれあやしくもいひつるかなとおほす
 7 あま君のかたよりくたものまいれりはこのふたにもみちつた
 8 なとおりしきてゆへなからすとりませてしきたるかみに
 9 ふつゝかにかきたる物くまなき月にふと見ゆれはめとゝめ

42ウ

1 たまふほとにくたものいそきにそ見えける
 2 やとり木は色かはりぬる秋なれとむかしおほえて
 3 すめる月かなとふるめかしくかきたるをはつかしくも
 4 あはれにもおほされて
 5 里の名もむかしなからも見し人のおもかはりせる
 6 ねやの月かけわさとかへり事とはなくてのたまうを
 7 しゝうつたへけるとそ



1才

1 宮なをかのほのかなりし夕をおほしわするゝ世なしことゝしき程には
 2 あるまじけなりしを人からのまめやかにおかしうもありしかなどあたる御心は
 3 くちおしくてやみにし事とねたうおほさるゝまゝに女君をまかうはかなきこと
 4 ゆへあなちにかゝるすちの物にくみし給けりおもはずに心うしとはつかしめ恨き
 5 こえ給おりゝはいとくるしうてありのまゝにやきこえてましとおほせとやむこと
 6 なきさまにはもてなしたまはされとあさはかならぬかたに心とゝめて人のかく
 7 しをき給へる人を物いひさかなくきこえ出たらむにもさて聞すぐし給ふへき
 8 御心さまにもあらさめりさふらふ人のなかにもはかなう物をもふれんとおほし
 9 立ぬるかきりはあるまじき里までもたつねさせ給御さまよからぬ本上なるに
 10 さばかり月日をへておほししむめるあたりはましてかならず見くるしきことゝり出

1ウ

1 給てんほかよりつたへ聞たまはんはありともふせくへき人の御心あるさまならねは
 2 よその人よりは聞にくゝなとはかりそおほゆへきとてもかくてもわかをこたりにては
 3 もてそこなはしと思かへし給つゝいとおしなからえきこえ出たまはすことさまに
 4 つきゝくはひひなしたまはねはをしこめて物えんししたるよのつねの人に
 5 なりてそおはしけるかの人とはとしへなくのとかにおほしをきて待とをなりとおもふ
 6 らむと心くるしうのみ思やり給なからところせき身の程をさるへきついで
 7 なくてやすくかよひ給ふへきみちならねは神のいさむるよりもわりなしされといま
 8 よくもてなさむとす山里のなくさめと思をきてし心あるをすこし日数もへぬ
 9 へき事ともつくり出でのとやかにゆきても見むさてしはしは人のしるましき
 10 すみところしてやうゝさるかたにかの心をものとめをきわかためにも人のもとき

2才

1 あるまじくなのめにてこそよからめにはかにな人そいつよりなと聞とかめられむ
 2 も物さはかしくはしめの心にたかふへしたま宮の御かたの間おほさむ事もとの
 3 ところををきはかゝしうゐてはなれむかしをわすれかほならむいとほいなしなど
 4 おほししつむるもれいののとけさすきたる心からなるへしわたすへきところおほし
 5 まうけてしのひてそつくらせ給けるすこしいとまなきやうにもなり給にたれと
 6 宮の御かたにはなをたゆみなく心よせつかうまつり給事おなしやう也見たてまつる人
 7 もあやしきまでおもへと世中をやうゝおほししり人のありさまを見聞給まゝに是
 8 こそはまことにむかしをわすれぬ心なかさのなこりさへあさからぬためしなれと
 9 あはれもすくなからすねひまさり給まゝに人からも世のおほえもさまことに物した
 10 まへは宮の御心のあまりたのもしけなき時々はおもはずなりけるすくせかなこひめ

2ウ

1 君のおほしをきてしまゝにもあらてかく物おもはしかるへきかたにしもかゝり
 2 そめけんよとおほすおりゝおほくなんされとたいめし給事はかたしとし
 3 月もあまりむかしをへたてゆく内々の御心をふかうしらぬ人はなをゝしき
 4 たゝ人こそさはかりのゆかりたつねたるむつひをもわすれぬにつきゝしけれ
 5 中々かうかきりある程にれいにたかひたるありさまもつゝましければ宮のた
 6 えすおほしうたかひたるもいよくくるしうおほしはゝかり給つゝをのつからうとき
 7 さまになりゆくをさりとてたえすおなし心のかはりたまはぬなりけり宮も
 8 あたなる御本上こそ見まうきふしもましれわか君のいとうつくしうおよすけ
 9 給まゝにほかにはかゝる人も出くましきにやとやむことなき物におほして打とけ

10 なつかしきかたには人にまさりてもてなし給へはありしよりはすこし物おもひしつ
3才

1 まりてすくし給むつきのついたちすきたるころわたり給てわか君のとしまさり
2 給へるをもてあそひうつくしみ給ひるつかたちいさきわらはみとりのうすやうなる
3 つゝみふみのおほきやかなるにちいさきひけをこ松につけたるまたすくく
4 しきたてふみとりそへてあふなくわりこはまいりて女君にたてまつれば宮それ
5 はいつくよりそとのたまふ宇治よりたいふのおとゝにとてもてわつらひ侍つるを
6 れいのおまへにてそ御らんせむとてとり侍ぬるといふもいとあはたゝしき氣しき
7 にて此こはかねをつくりて色とりたるこなりけり松もいとよようにてつくりたる
8 えたそとよにゑみていひつゝくれは宮もわらひ給ていて我ももてはやし
9 てんとめすを女君いとかたはらいたくおほして文はたいふかりやれとのた
10 まふ御かほのあかみたれは宮大将のさりけなくしなしたる文にやうちのなのりも

3ウ

1 つきくしとおほしよりて此文をとり給つさすかにそれならんときにと
2 おほすにいとまはゆければあけて見むよえんしやしたまはんとする
3 とのたまへは見るしうなにかはその女とちのなにかきかよはしたらむ
4 打とけふみをは御らんせむとのたまふかさはかぬけしきなれはさはみんよ
5 女の文かきはいかゝあるとてあけ給へれはいとわかやかなる手にておほつ
6 かなくて年も暮侍にける山さとのいふせきこそみねのかすみも
7 たえまなくてとはしに是わか宮の御まへにあやしう侍めれとゝか
8 きたりことにらうくしきふしと見えねとおほえなきを御めたてゝこの
9 たて文を見給へはけに女のにて年あらたまりて何事かさふらふ御
10 わたくしにもいかにたのもしき御よろこひおほく侍らんこゝにはいとめてたき

4才

1 御すまゐの心ふかさをふさはしからす見たてまつるかくてのみつくくゝとなかめ
2 させ給よりは時々はわたりまいらせ給て御心もなくさめさせ給へと思侍に
3 つゝましくおそろしき物におほしとりてなん物うきことになけかせ給める
4 わか宮の御まへにとてうつちまいらせ給おほきの御らんせさらむ程に
5 御らむせさせ給へとなんこまゝとこいみもえ思あへす物なけかしける
6 さまのかたくなしけなるも打かへしくあやしと御らんしていまはのたまへかし
7 たかそとのたまへはむかしかの山里にありける人のむすめのさるやうありてこの
8 ころかしこにあるとなん聞侍しときこえ給へはをしなへてつかうまつるとは見えぬ
9 文かきと心え給にかのわつらはしき事あるにおほしあはせつうつちおかしうつれく
10 なりける人のしわざと見えたりまたふり山たち花つくりてつらぬきそへたるえたに

4ウ

1 またふりぬ物にはあれと君かためふかきこゝろに
2 まつとしらななとことなることなきをかの思わたる人のにやとおほしよりぬるに
3 御めとまりて返事し給へなきけなしかくい給ふへき文にもあらさめるをなと御け
4 しきのあしきまかりなよとてたちたまひぬ女君少将などとしていとおし
5 くもありつるかなおさなき人のとりつらんを人はいかて見さりつるそなとしのひて
6 のたまふ見給へましかはいかてまいらせましすへて此こはこゝ地なからさしすくして
7 侍りおいさき見えて人はおほとかなるこそおかしけれなとにくめはあなかまおさ
8 なき人なはらたてそとのたまふこそその冬人のまいらせたるわらはへのかほ

9 はいとうつくしかりければ宮もいとらうたくし給なりけりわか御かたにおはし
10 ましてあやしうもあるかな内に大将のかよひ給事は年ころたえすときく中

5才

1 にもしのひてよるとまり給時もありと人のいひしをいとあまりなる人のかたみとてさるま
2 しきどころに旅ねし給事と思つるはかやうの人かくし給へるなるへしとおほししるかたも
3 ありて御文のことにつけてつかひ給大内記なる人のかの殿にしたきたよりあるをおほし
4 出て御まへにめすまいれりゐんふたきすへきにしふともえり出てこなたなるつしにつむへき事
5 などのたまはせて右大将の宇治へいますることなをはてたえすや寺をこそいとかしこく
6 つくりたなれいかてか見るへきとのたまへは寺いとかしこくいかめしくつくられてふたんの三
7 まいたうなどたうとくをきてられたりとなん聞給ふるかよひ給事はこそその秋ころより
8 はありしよりもしくはく物し給也しもの人々のしのひて申しは女をなんかくしすへさせ
9 給へるけしうはあらすおほす人なるへしあのわたりにらうし給ところくの人みなおほせにて
10 まいりつかうまつるとのぬにさしあてなとしつゝ京よりもいとしのひてさるへき事などとはせ

5ウ

1 給いかなるさいはひ人のさすかに心ほそくてお給へるならんとなんたゝ此しはすのころをひと
申と

2 聞給ふへしと聞ゆいとうれしくも聞つるかなとおもほしてたしかにその人とはいはすや
3 かしこにもとよりあまそとふらひ給ときゝしあまはらうになんすみ侍なる此人はいまたてら
4 れたるになんきたなけな女房などもあまたしてくちおしからぬけはひにてゐて侍と
5 聞ゆおかしきことかななにの心ありていかなる人をかさてすへ給へらむなをいとけしきあり
6 てなへての人にぬ心也右のおとゝなど此人のあまりに道心にすゝみて山寺によるさへ
7 とすれはとまり給なるかるゝしさととき給ときゝしをけになとかさしも仏の
8 みちにはしのひありくらむなをかのふる里に心とゝめたと聞しかゝることこそはありけ
9 れいつら人よりはまめなるとさかしかる人しもことに人の思いたるましきくまあるかま
10 へよとのたまひていとおかしとおほいたり此人はかの殿にいとむつましくつかうまつる

6才

1 けいしのむこになんありければかくし給事もきくなるへし御心のうちにはいかにして此人を
2 見し人かとも見さためんかの君のさはかりにてすへたるはなへてのよろし人にはあらし此わた
り

3 にはいかてかうとからぬにはあらん心をかはしてかくし給へりけるもいとねたうおほゆたゝ
4 そのことを此ころはおほししみたりのりゆみのないえんなどすくして心のとかなるにつかさ
5 めしなといひて人の心つくすめるかたはなにもおほされぬは宇治へしのひておはしまさむ
6 ことをのみおほしめくらす此内記はのそむことありてよるひいかて御心にいらむとおもふ
7 ころれいよりはなつかしうめしつかひていとかたき事なりともわかいはん事はたばかりてんや
8 などのたまふかしこまりてさふらふいとひんなきことなれとかの内にすむらん人ははやうほの
9 かに見し人のゆくゑもしらすなりにしか大将にたつねとられけると聞あはすることこそ
10 あれたしかにはしるへきやうもなきをたゝ物よりのそきなとしてそれかあらぬか見さた

6ウ

1 めんとなん思ひさゝか人にしらるましきかまへはいかゝすへきとのたまへはあな
2 わつらはしとおもへとおはしまさんことはいとあらき山みちになん侍れとことに程とを
3 くはさふらはすなん夕つかた出させおはしましてゐねの時にはおはしましつきなん
4 さて暁にこそはかへりうせたまはめ人のしり侍らん事はたゝ御ともにさふらい
5 侍らんこそはそれもふかき心はいかてかしり侍らむと申さかしむかしも一たひ

6 二たひかよひしみち也かるくしきもときおいぬへきか物のきこえのつゝましき
7 なりとて返々あるましきことに我御心にもおほせとかうまで打出給へればえ思
8 とゝめたまはす御ともにむかしもかしこのあないしれし物二三人此ないきさては
9 御めのと此藏人よりかうふりえたるわかき人むつまじきかきりをえり給て大將
10 けふあす世におはせしなといきによくあない聞給て出たち給につけてもい

7才

1 にしへをおほしいつあやしきまで心をあはせつゝゐてありきし人のためにうしろめたき
2 わさにもあるかなとおほし出ることさまゝなるに京のうちに人しらぬ御ありきは
3 さはいへとえしたまはぬ御身にしもあやしきさまのやつれすかたして御馬にておはする
4 こゝちも物おそろしくややましけれと物のゆかしきかたはすゝみたる御心なれば山ふかう
5 なるまゝにいつしかいかならむ見あはする事もなくてかへらむこそさうくしくあるへけれと
6 おほすに心もさはき給ほうさう寺の程までは御くるまにてそれぞれそ御馬にはたて
7 まつりけるいそきてよぬする程におはしましぬ内記あないよくしれるかの殿の人に
8 とひ聞たりければとのみ人あるかたにはよらてあしかきしこめたる西おもてをやをら
9 すこしこほちていりぬ我もさすかにまた見ぬ御すまぬなればたとくしけれと
10 人しけうなとしあらねはしんでんのみなみおもてに火ほのかにくらう見えて衣のをと

7ウ

1 そよくとするまいりてまた人はおきて侍へしたゝ是よりおはしまさんとしるへして
2 いれたてまつるやをらのほりてかうしのひまあるを見つけてより給にいよすは
3 さらにとなるもつゝましあたらしうきよけにつくりたれとさすかにあらくしくて
4 ひまありけるを誰かはきて見むと打とけてあなもふたかすきちやうのかた
5 ひら打かけてをしやりたり火あかうともして物ぬふ人三四人ゐたりわらはの
6 おかしけなるいとをそよる是かかほまつかのほかけに見給しそれ打つけめかと
7 なをうたかはしきに右近となのりしわかき人もあり君はかいなを枕にて火をなかも
8 たるまみかみのこほれかゝりたるひたひつきいとあてやかになまめきてたいの
9 御かたにいとようおほえたり此うこん物をとてかくてわたらせ給なはとみにし
10 もえかへりわたらせたまはしを殿は此つかさめしの程すきてついたちころには

8才

1 かならずおはしましなんと昨日の御つかひも申けり御文にはいかゝきこえさせ給へりけん
2 といへといらへもせずと物おもひたるけしき也おりしもはひかくれ給へるやうならむ
3 か見くるしさといへはむかひたる人それはかくなんわたりぬると御せうそこきこえ
4 給つらんこそよからめかるくしういかてかはをとなくてははひかくれさせたまはん御物
5 まうての後はやかてわたりおはしましねかしかくて心ほそきやうなれと心にま
6 かせてやすらかなる御すまゐにならひて中々旅こゝちすへしやなといふ又あるは
7 なをしはしかくて待きこえさせたまはんそのとやかにさまよかるへき京人など
8 むかへたてまつらせ給へらむ後おたしくておやにも見えたてまつらせ給へかし
9 此おとゝのいときうに物し給てにはかにかうきこえなし給なめりかしむかしもいまも
10 物ねんしてのとなる人こそさいはひは見はて給なれなといふ也右近なとてこの

8ウ

1 まゝをとゝめたてまつらすなりにけん老ぬる人はむつかしき心のあるにこそとにくむ
2 はめのとやうの人をそしるなめりけにくき物ありきかしとおほしとけたる
3 事ともをいひて宮のうへこそいとめてたき御さひはいなれ右のおほい殿のさ
4 はかりめてたき御いきをひにていかめしうのゝしり給なれとわか君むまれ給て

5 後はこよなくおはしますなるかゝるさかしら人とおはせて御心のとかにかしこ
6 もてなしておはしますにこそあめれといふ殿たにまめやかに思きこえ給事かはら
7 すはをとりきこえ給ふへき事かはといふを君すこしおきあかりていと聞にくき
8 事よその人にこそをとらしともいかにとおもはめかの御事なかけてもいひそもり
9 聞ゆるやうもあらはかたはらいたからんなどいふなにはかりのしそくにかはあらんいよく
10 もにかよひたるけはひかなと思くらふるに心はつかしけにてあてなるところは

9才

1 かれはいとこよなし是はたゝらうたけにこまかなるところそいとおかしき
2 よろしうなりぬあはぬところを見つけたらむにてたにさはかりゆかしとおほし
3 しめたる人をそれと見てさてやみ給ふへき御心ならねはましてくまもなく
4 見給にいかてか是を我物にはなすへきと心も空になり給てなをまもり
5 給へは右近いとねふたしよへもすゝろにおきあかしてきつとめての程にも
6 是はぬひてんいそかせ給とも御くるまは日たけてそあらんといひてし
7 さしたる物ともとりくしてきちやうに打かけなとしつゝうたゝねのさま
8 によりふしぬ君もすこしおくに入てふす右近きたおもてにいきて
9 しはしありてそきたる君の跡ちかくふしぬねふたしと思ければいとう
10 ねいりぬる氣しきを見給てまたせんやうもなければしのひやかにこの

9ウ

1 かうしをたゝき給右近きゝつけてたそといふこはつくり給へはあてなるしは
2 ふきと聞しりて殿のおはしたるにやと思ひておきて出たりまつ是あけ
3 よとのたまへはあやしうおほえなき程にも侍かな夜はいたうふけ侍ぬらん
4 物をといふ物へわたり給ふへかんなりとなかのふかいひつれはおとろかれつるまゝに
5 出たちていとこそわりなかりつれまつあけよとのたまふこゑいとようま
6 ねひさせ給てしのひたれは思もよらすかいはなつみちにていとわりなく
7 おそろしきことのありつれはあやしきすかたになりてなん火くらふなせと
8 のたまへはあないみしとあはてまとひて火はとりやりつわれ人に見すなよ
9 きたりとて人おとろかすなとらうゝしき御心にてもとよりもほのかに
10 にたる御こゑをたゝかの御けはひにまねひていり給ゆゝしきことのさまと

10才

1 のたまひつるいかなる御すかたならんといとおしくて我もかくろへて見たてまつる
2 いとほそやかになよくとさうそきてかのかうはしきこともをとらすちかう
3 よりて御そともぬきなれかほに打ふし給へればれいのおましにこそなと
4 いへと物ものたまはす御ふすままいりてねふる人々おこしてすこししそき
5 てみなねぬ御ともの人なとれいのこゝにはしらぬならひにてあはれる夜のおは
6 しましさまかなかゝる御ありさまを御らんししらぬよなとさかしらかる人もあれと
7 あなかも給へ夜こゑはさゝめくしもそかしき事といひつゝねぬ女君はあらぬ
8 人なりけりと思ふにあさましういみしけれとこゑをたにせさせたまはすいとつゝ
9 ましかりしところにてたにわりなかりし御心なればひたふるにあさましはしめ
10 よりあらぬ人としりたらいはいかゝいふかひもあるへきを夢のこゝ地するに

10ウ

1 やうゝそのおりのつらかりし年ころ思わたるさまのたまふに此宮としらぬ
2 いよくはつかしくかのうへの御事など思ふにまたたけき事なければかきりなう
3 なく宮も中々にてたはやすくあひ見さらむ事おほすになき給夜はたゝ

4 あけにあく御ともの人きてこはつくる右近聞てまいれり出たまはんこゝ地
 5 もなくあかすあはれなるにまたおはしまさん事もかたければ京にはもとめさはか
 6 るともけふはかりはかくてあらん何事もいけるかきりのためこそあれたゝいま
 7 出おはしまさはまことにしぬへくおほさるれば此うこんをめしよせていとこゝ地なし
 8 とおもはれぬへけれとけふはえ出ましようなんあるをのこともは此わたりちかからん
 9 ところによくかくろへてさふらへ時かたは京へ物して山寺にしのひてなんとつき
 10 つきしからんさまにいらへなとせよとのたまふにいとあさましくあきれて心もな

11才

1 かりけるよのあやまちを思ふにこゝちもまとひぬへきを思いつめていまはよろつに
 2 おほゝれさはくともかひあらし物からなめけ也あやしかりしおりにいとふかうおほしいれ
 3 たりしもかうのかれさりける御すくせにこそありけれ人のしたるわさかはと
 4 思なくさめてけふ御むかへにと侍しをいかにせさせたまはんとする御事にかかうの
 5 かれきこえさせ給ふましかりける御すくせはいときこえさせ侍らむかたなしおりこそ
 6 いとわりなく侍れけふは出おはしまして御心さし侍らはのとかにもと聞ゆおよすけても
 7 いふかなとおほして我は月ころ思つるにほればてにければ人のもとかんもしら
 8 れすひたふるに思なりにつけりすこしも身のことをおもはゝかゝらむ人のかゝるありき
 9 は思たちなんや御かへりにはけふは物いみなといへかし人にしらるましきことを
 10 たかためにもおもへかしことゝはかひなしとのたまひて此人の世にしらすあはれに

11ウ

1 おほさるゝにはよろつのそしりもわすれぬへし右近出て此をとなふ人にかく
 2 なんのたまはするをなをいとかたはならむとを申させ給へあさましうめつらかなる御あり
 3 さまはさおほしめすともかゝる御とも人との御心にこそあらめいかてかう心
 4 おさなうはゐてたてまつり給こそなめけることをきこえさする山かつなども
 5 侍らましかはいかならましといふ内記はけにいとわつらはしくもあるかなとおもひ
 6 たてり時かたとおほせらるゝは誰にかはさなんとつたふわらひてかうかへ給事どもの
 7 おそろしければさらすともにつけてまかてぬへしまめやかにはをろかならぬ御けしき
 8 を見たてまつれば誰もゝ身をすてゝなんよしゝとのぬ人もみなおきぬ
 9 なりといそき出ぬうこん人にしらすましようはいかゝはたはかるへきとわりなう
 10 おほゆ人々おきぬるに殿はさるやうありていみしうしのはせ給けしき見たて

12才

1 まつればみちにていみしき事のありけるなめり御そともな夜さりしのひて
 2 もてまいるへくなんおほせられつるなといふこたあなむくつけやこはた山は
 3 いとおそろしかなる山そかしれいの御さきもをはせたまはすやつれておはしまし
 4 けんよあないみしやといへはあなかまゝけすなどのちりはかりも聞たへむにいと
 5 いみしからむといひゐたるこゝ地おそろしあやにくに殿の御つかひのあらむ時いかに
 6 いはんとはつせのくはんをんけふことなくてくらし給へと大くはんをたてける石山に
 7 けふまうてさせんとてはゝ君のむかふるなりけり此人々もみなさうししきよ
 8 まいりてあるにさらはけふはえわたらせ給ましきなめりないとくちおしき事と
 9 いふ日たかなれはかうしなとあけてうこんそちかくつかうまつりけるもやのすたれは
 10 みなおろしわたして物いみなとかゝせてつけたりはゝ君もやみつかからおはするとて

12ウ

1 ゆめ見さはかしかりつといひなすなりけり御てうつなとまいりたるさまはれいの
 2 やうなれとまかなひめさましうおほされてそこにあらはせたまはゝと

3 のたまふ女いとさまよう心にくき人を見ならひたるに時のまも見さらむにしぬ
 4 へしとおほしこかるゝ人を心さしふかしとはかゝるをいふにやあらむと思しらるゝ
 5 にもあやしかりける身を誰も物のきこえあらはいかにおほさんとまつかのうへの
 6 御心を思ひ出聞ゆれとしらぬを返たいと心うしなをあらむまゝにのたまへ
 7 いみしきけすといふともいよくなんあはれなるへきとわりなうとひた
 8 まへとそのいらへはたえてせすことくはいいとおかしく気ちかきさまにきこえ
 9 などしてなひきたるをいとかきりなうらうたしとのみ見給日たかくなる
 10 程にむかへの人きたりくるま二馬なる人々のれいのあらゝかなる七八人をのこ

13才

1 ともおほくしなくしからぬ気はひにさえつりつゝいりきたれは人々かたはらいた
 2 かりつゝあなたにかくれよといはせなとすうこんいかにせんとのおはするといひたらむ
 3 に京にさはかりの人のおはしおはせすをのつからきゝかよひてかくれなき事もこそあれと
 4 思ひて此人々にもことにいひあはせす返事かくよへよりけかれさせ給ていとくちおし
 5 き事をおほしなけくめりしにこよひ夢見さはかしく見えさせ給へればけふはかり
 6 つゝしませ給へとてなん物いみにて侍返々くちおしく物のさまたけのやうに見た
 7 てまつり侍とかきて人々に物なとくはせてやりつあま君もけふは物いみにてわたり
 8 たまはぬといはせたりれいはくらしかたののみかすめる山きはをななめわひ給
 9 に暮ゆくはわひしくのみおほしはゝからる人にひかれたてまつりていとはかなう
 10 くれぬまきるゝ事なくのとけき春の日に見れともくあかすその事

13ウ

1 そとおほゆるくまなくあひきやうつきなつかしくおかしけ也さるはかのたいの
 2 御かたにはをとりにおほい殿の君のさかりににほひ給へるあたりにてはこよ
 3 なかるへき程の人をたくひなくおほさるゝ程なれとまたしらすおかしとのみ
 4 見給女はまた大將殿をいときよけにまたかゝる人あらむやと見しかと
 5 こまやかににほひきよなる事はこよなくおはしけりとみるすゝりひきよせ
 6 て手ならひなとし給いとおかしけにかきすさひゑなとを見ところおほく
 7 かき給へればわかきこゝ地には思もうつりぬへし心よりほかにえ見さらむ
 8 程は是を見給へよとていとおかしけなるおとこ女もろともにそひふしたる
 9 かたをかき給てつねにかくてあらはやなどのたまふもなみたおちぬ
 10 なかき夜をたのめてもなをかなしきはたゝあすしらぬ

14才

1 いのちなりけりいとかう思ふこそゆかしけれ心に身をもさらにえまかせすよろつに
 2 たはからむ程まことにしぬへくなんおほゆるつらかりし御ありさまを中々なにゝ
 3 たとへ出けんなどのたまふ女ぬらし給へるふてをとりて
 4 こゝろをはなけかさらしいのちのみさためなき世と
 5 おもはましかはとあるをかはらんをはうらめしうおもふへかめりけりと見給にもいとらう
 6 たしいかなる人の心はかりを見ならひてなとほゝゑみて大將のこゝにわたしはしめ
 7 給けん程を返々ゆかしかり給てとひ給をくるしかりてえいはぬ事をかうのたまふ
 8 こそと打えしたるさまもわかひたりをのつからそれは聞出てんとおほす物からいは
 9 せまほしきそわりなきやよさり京へつかはしつるたいふまいりて右近にあひたり
 10 きさいの宮よりも御つかひまいりて右のおほい殿もむつかりきこえさせ給て

14ウ

1 人にしらせたまはぬ御ありきはいとかろくしくなめけなる事もあるをすへてうち

2 などにきこしめさん事も身のためなんいとからきいみしく申させ給けりひん
 3 かし山にひしりの御らむしにとなん人には物し侍つるなどかたりて女こそつみ
 4 ふかうおはする物はあれすゝろなるけそうの人をさへまとはし給てそらことを
 5 さへせさせ給よといへはひしりの名をさへつけきこえさせ給てければいとよし
 6 わたくしのつみもそれにてほろほし給ふらんまことにいとあやしき御心のけにいかて
 7 ならはせ給けんかねてかうおはしますへしとうけたまはらましにもいとかたしけな
 8 ければたはかりきこえさせてまし物をあふなき御ありきにこそはとあつかひ聞ゆ
 9 まいりてさなんとまねひ聞ゆればけにいかならんとおほしやるにところせき身
 10 こそわひしけれかるらかなる程の殿上人などにてしはしあらはやかゝすへきかう

15才

1 つゝむへき人めもえはゝかりあふましくなん大将もいかにおもはんとすらむさるへき程とは
 2 いひなからあやしきまでむかしよりむつましきなにかゝる心のへたてのしられたらむ
 3 時はつかしうまたいかにそや世のたとひにいふ事もあれば待とをなるわかをこたりをも
 4 しらすうらみられたまはんをさへなん思ふ夢にも人にしられ給ましきさまにてこゝ
 5 ならぬところにゐてはなれたてまつらんとそのたまふけふさへかくてこもりぬ給ふ
 6 へきならねは出給なんとするにも袖の中にそとゝめ給へらむかし明はてぬさきにと
 7 人々しはふきおとろかし聞ゆつま戸にもろともに出おはしてえ出やりたまはす

8 世にしらすまとふへきかなさきにたつなみたもみちを

9 かきくらしつゝ女もかきりなくあはれとおもひけり

10 なみたをもほとなき袖にせきかねていかにわかれを

15ウ

1 とゝむへき身そ風の音もいとあらましう霜ふかき暁にをのかきぬゝもひ
 2 やゝかになりたるこゝ地して御馬にのり給程ひきかへすやうにあさましけれと
 3 御ともの人々いとたはふれにくしと思ひてたゝいそかしにいそかし出れば我々もあら
 4 て出たまひぬ此五位二人なん御馬のくちにはさふらひけりさかしき山こえ出て
 5 そをのゝ馬にはのるみきはのこほりをふみならず馬のあし音さへ心ほそく
 6 物かなしむかしも此みちにのみこそはかゝる山ふみもし給しかはあやしかりける
 7 里の契りかなとおほす二条院におはしましつきて女君のいと心うかりし
 8 御物かくしもつられければ心やすきかたにおほとのこもりぬるにねられたま
 9 はすいとさひしきに物おもひまされば心よはくたいにわたりたまひぬ
 10 なに心もなくいきよけにておはすめつらしくおかしと見給し人よりも又是は

16才

1 なをありかたきさまはし給へりかしと見給物からいとよくにたるを思ひ出給もむね
 2 ふたかれはいたく思おほしたるさまにてみちやうにいりておほとのこもる女君も
 3 出入きこえ給てこゝちこそいとあしけれいかならむとするにかと心ほそくなん
 4 あるまろはいみしくあはれと見をいたてまつるとも御ありさまはいととくかはり
 5 なんかし人のほいはかならずかなふなれはとのたまふけしからぬ事をもまめ
 6 やかにさへのたまうかなと思ひてかう聞にくきことのもりてきこえたらはいか
 7 やうにきこえなしたるにかと人も思よりたまはんこそあさましけれ
 8 心うき身にはすゝろなる事もいとくるしくとてそむき給へり宮もまめ
 9 たち給てまことにつらしと思聞ゆることもあらんはいかゝおほさるへき
 10 まろは御ためにをろかなる人かは人もありかたしなとかむるまでこそ

16ウ

1 あれ人にはこよなう思おとし給ふへかめりそれもさるへきにこそはことほら
 2 るゝをへたて給御心のふかきなんいと心うきとのたまふにもすぐせのを
 3 ろかならてたつねよりたるそかしとおほし出るに涙くまれぬまめやかなるを
 4 いとおしういかやうなる事を聞給へるならむとおとろかるゝにいらへきこえたまはん
 5 こともなし物はかなきさまにて見そめ給しに何事をもかるらかにをしはかり給に
 6 こそはあらめすゝるなる人をするへにてその心よせを思しりはしめなとしたるあ
 7 やまちはかりにおほえをとる身にこそとおほしつゝくるもよろつかなくしていとゝらう
 8 たけなる御けはひ也かの人見つけたりとはしはししらせたてまつらしとおほせはことさま
 9 におもはせて恨給をたゝ此大将の御事をまめくしくのたまふとおほすに人やそら
 10 ことをたしかなるやうにきこえたらむなとおほすありやなしやをきかぬまは見え

17才

1 たてまつらんもはつかし内より大宮の御文あるにおとろき給てなを心とけぬ御けしきに
 2 あなたにわたりたまひぬ昨日のおほつかなさなやましくおほされたるよろしくはまいり
 3 給へひさしうもなりにけるをなとやうにきこえ給へればさはかれたてまつらんもくるしければ
 4 まことに御こゝ地もたかひたるやうにてその日はまいりたまはすかんたちめあまたまいり
 5 給へとみすのうちにてくらし給夕つかた右大将まいり給へりこなたにをとて打とけなから
 6 たいめんし給へりなやましけにおはしますと侍つれば宮もいとおほつかなくおほしめしてなん
 7 いかやうなる御なやみにかときこえ給見るからに御心さはきのいとゝまされは事すくな
 8 にてひしりたつといひなからこよなかりける山ふしの心かなさはかりあはれなる人を
 9 さてをきて心のとかに月日待わひますらむよとおほすれいはさしもあらぬ事の
 10 ついてにたに我はまめ人ともてなしなのり給をねたかり給てよろづにのたまひ

17ウ

1 やふるをかゝる事見あらはひたるをいかにのたまはましされとさやうのたはふれ
 2 こともかけたまはすいとくるしけに見え給へはふひんなるわさかなおとろくしからぬ
 3 御こゝちのさすかに日数ふるはいとあしきわさに侍御かせよくつくるはせ給へなとま
 4 めやかにきこえをきて出たまひぬはつかしけなる人なりかし我ありさまをいかに思
 5 くらへけんなどさまゝなる事につけつゝもたゝ此人を時のまわすれすおほしいつ
 6 かしこには石山もとまりていとつれくも也御文にはいといみしき事をかきあつめ給てつか
 7 はすそれたに心やすからす時かたとめしゝたいふのすさの心もしらぬしてなんやり
 8 ける右近かふるくしれりける人の殿の御ともにてたつね出たるさらかへりてねんころ
 9 かるるともたちにはいひきかせたりよろづ右近そそらことのみならひける月も
 10 たちぬかうおほしいらるれとおはします事はいとわりなしかうのみ物をおもはゝさらに

18才

1 えなからふかましき身なめりと心ほそさをそへてなけき給大将殿すこしのとか
 2 になりぬるころれのいのしひておはしたり寺に仏などおかみ給御す経せさせ給ふ
 3 そうに物給なとして夕つかたこゝにしのひたれと是はわりなくもやつしたまはすえ
 4 ほうしなをしのすかたいとあらまほしくきよけにてあゆみいり給よりはつかしけに
 5 ようぬことなり女いかて見えたてまつらむとすらんとそらさへはつかしくおそろしき
 6 にあなかななりし人の御ありさま打思ひ出らるゝに又此人に見えたてまつらんを
 7 思やるなんいみしう心うき我は年ころ見る人をもみな思かはりぬへきこゝ地なん
 8 するとのたまひしをけにそのゝち御こゝ地くるしとていつくにもくゝれの御ありさま
 9 ならて御すほうなとさはくなるをきくに又いかにきゝておほさんと思ふもいとくる
 10 し此人はたいとけはひことに心ふかくなまめかしきさましてひさしかりつる程の

18ウ

1 をこたりなどのたまふも事おほからて恋しかなしとおりたゝねとつねにあひ見え
 2 ぬ恋のくるしさをさまよき程に打のたまへるいみしくいふにはまさりていとあれと人
 3 の思ひぬへきさまをしめ給へる人から也えんなるかたはさる物にてゆくすゑなかく人
 4 のたのみぬへき心はへなとこよなくまさり給へりおもはすなるさまの心はへなともし
 5 きかせたらむ時もなのめならすいみしくこそあへけれあやううつし心もなうお
 6 ぼしいらるゝ人をあはれと思ふもそれはいとあるまじくかるき事そかしこの人に
 7 うしとおもはれわすれ給なん心ほそさはいとふかうしみにければ思みたれたるけしきを
 8 月ころにこよなう物の心しりねひまさりにけりつれゝなるすみかの程に思残す事
 9 はあらしかしと見給も心くるしければつねよりも心とゝめてかたらひ給つくらるゝところ
 10 やうくよろしうしなしてけり一日なん見しかはこゝよりは氣ちかき水に花も見給つ

19オ

1 へし三条の宮もちかき程也明暮おほつかなきへたてもをのつからあるましきを此春の
 2 程にさりぬへくはわたしてんと思ひてのたまうにかの人ののとなるへきところ思まう
 3 けたりと昨日ものたまへりしをかくることもしらてさおほすらむよとあはれながらもそ
 4 なたになひくへきにはあらずかしと思ふからにありし御ありさまのおも影におほゆれば
 5 我なからもうたて心うの身やと思つゝけてなきぬ御心はへのかゝらておいらかなり
 6 しこそのとかにうれしかりしか人のいかにきこえしらせたることかあるすこしもをろ
 7 かならむ心さしにてはかうまでまいりくへき身の程みちのありさまにもあらぬ
 8 をなとついたちころの夕月夜にすこしはしちかくふしてなかめいたし給へりおとこ
 9 はすきにしかたのあはれをもおほしいて女はいまよりそいたる身のうさをな
 10 けきくはへてかたみに物おもはし山のかたは霞へたてゝさむきすさきにたてるかさ

19ウ

1 さきのすかたもところからはいとおかしう見ゆるに宇治はしのはるゝと見たさるゝに
 2 柴つみ舟のところゝにゆきちかひたるところからなれは見給たひことになをその
 3 かみのことのたゝいまのこゝ地していとこゝらぬ人を見かはしたらんたにめつらしき中のは
 4 れ

4 おほかるへき程也まいて恋しき人々よそへられたるもこよなからすやうゝ物の心して
 5 みやこなれゆくさまのおかしきもこよなく見まさりしたるこゝちし給に女はかきあつめたる
 6 心のうちにもよほさるゝ涙ともすれは出たつをなくさめかねたまひつゝ

7 宇治はしのななき契りはくちせしをあやふむかたに
 8 心さはくないま見たまひてんとたまふ

9 たえまのみ世にはあやうき宇治はしをくちせぬ物と

10 なをたのめとやさきゝよりもいと見すてかたくしはしも立とまらまほしくおほさるれと
 20オ

1 人の物いひのやすからぬにいまさら也心やすきさまにてこそなとおほしなして暁に
 2 かへりたまひぬいとようもおとなひつるかなと心くるしくおほし出る事ありしに
 3 まさりけりきさらきの十日の程に文つくらせ給とて此宮も大将もまいりあひ給へり
 4 おりにあひたる物のしらへともに宮の御こゑはいとめてたくて梅かえなとうたひ給
 5 なる事も人よりはこよなうまさり給へる御さまにてすゝろなる事おほしいらるゝのみ
 6 なんつみふかりける雪にはかにふりみたれ風なとはけしければ御あそひもやみ
 7 ぬ此宮の御とのぬところに入々まいり給物まいりなとして打やすみ給へり大将人
 8 に物のたまはんとてすこしはしちかく出給へるに雪やうゝつもるかほしのひかりにおほくゝ

9 しきをやみはあやなしとおほゆるにほひありさまにて衣かたしきこよひもやと打
10 すし給へるもはかなき事をくちすさひにのたまへるもあやしくあはれなるけしき

20ウ

1 そへる人さまにていと物ふかけ也ことしもこそあれ宮はねたるやうにて御心さはく
2 をろかにはおもはぬなめりかしかたしく袖を我のみ思やるこゝちしつるをおなし心
3 なるもあはれ也わひしくもあるかなかはかりなるもとつ人をきて我かたにまさる
4 思いかてかつくへきそとねたうおほさるつとめて雪のいとたかうつもりたるに
5 文たてまつりたまはんとて御まへにまいり給へる御かたち此ころいみじくさかりに
6 きよけ也かの君もおなし程にていま二三まさるけちめにやすこしねひまさ
7 りけしきよういなとそこさにもつくりたらんあてなるおとこのほんにし
8 つへく物し給みかとの御むこにてあかぬ事なしとそよ人もことはりけるさえ
9 などもおほやけくしきかたもをくれすそおはすへき文かうしはてゝみな人
10 まかて給宮の御文をすくれたりとすしのしれとなにとも聞かれたま

21オ

1 はすいかなるこゝちにてかゝる事をもしいつらんとそらにのみおもほしほれたりかの
2 人の御けしきにもいとおとろかれ給ければあさましうたばかりておはしまし
3 たり京にはとも待はかりきえ残たる雪山ふかく入まゝにやゝふりつみたり
4 つねよりもわりなきまれのほそみちをわけ給程御ともの人もなきぬはかり
5 おそろしうわつらはしきことをさへ思しるへの内記は式部少輔なんかけたりける
6 いつかたもくことくしかるへきつかさなからいとつきくひきあけなとしたる
7 すかたもおかしかりけりかしこにはおはせんとありつれとかゝる雪にはと打とけた
8 るに夜ふけて右近にせうそこしたりあさましうあはれと君もおもへり右近は
9 いかになりはて給ふへき御ありさまにかとかつはくるしけれとこよひはつゝまし
10 さもわすれぬへしいひかへさむかたもなければおなしやうにむつましくおほ

21ウ

1 いたるわかき人の心さまあふなからぬをかたらひていみしくわりなき事おなし
2 心にもてかくし給へといひてけりもろともにいれたてまつるみちの程にぬれ
3 給へるかのところせうにほふももてわつらひぬへけれとかの人の御けはひに
4 にせてもてまきはしける夜の程にて立かへりたまはんも中々なるへければ
5 こゝの人めもいとつゝましさに時かたにたはからせ給て川よりをちなる人の家に
6 ゐておはせむとかまへたりければさきたてゝつかはしたりけるに夜ふくるほどに
7 まいれりいとよくようゐしてさふらふと申さすこはいかにし給事にかと右近も
8 いと心あはたゝしければねをひれておきたるこゝちもわなゝかれてあや
9 しわらはへの雪あそひしたるけはひのやうにそふるいあかりけるいかてか
10 などもいひあへさせたまはすかきいたきて出たまひぬ右近は此うしろ

22オ

1 見にとゝまりて侍従をそたてまつるいとはかなける明くれ見いたすちいさき
2 舟にのり給てさしわたり給程はるかならむきしにしもこきはなれたらん
3 やうに心ほそくおほえてつとつきていたかれたるもいとらうたしとお
4 ほすあり明の月すみのほりて水のおもてもくもりなきに是なんたち花の
5 小島と申て御舟しはしさとゝめたるを見給へはおほきやかなる岩のさまして
6 されたるときは木のかけしけれりかれ見給へいとはかなけれと干とせも
7 ふへきみとりのふかさをとのたまひて

8 年ふともかはらむ物かたちはなのこしまかさきにちきるこゝろは#
9 をんなもめつらしからむみちのやうにおほえて

10 たちはなの小島はいろもかはらしをこのうき舟そゆくゑしられぬ#

22ウ

1 おりから人のさまにおかしくのみなに事もおほしなすかのきしにさしつきており
2 給に人にいたかせたまはんはいと心くるしければいたき給てたすけられつゝ
3 いり給をいと見くるしくな人にをかくもてさはき給ふらむと見てまつる時かた
4 かをちのいなはのかみなるからうするさうにはかなふつくりたる家なりけり
5 またいとあらゝしきにあしる屏風など御らんもしらぬしつらひにて風もことに
6 さはらすかきのもとに雪むらきえつゝいまもかきくもりてふる日さし出て
7 軒のたるひのひかりあひたるに人の御かたちもまさるこゝ地す宮もところせき
8 みちの程にかるらかなるへき程の御そとも也女もぬきすへさせ給てしかは
9 ほそやかなるすかたつきいとおかしけ也ひきつくるふこともなく打とけたる
10 さまをいとはつかしくまはゆきまてきよなる人にさしむかひたるよと

23オ

1 おもほえとまきれんかたもなしなつかしき程なるしろきかきりを五はかり袖
2 くちすその程までなまめかしく色々にあまたかさねたらんよりもおかしう
3 きなしたりつねに見給人とてもかくまで打とけたるすかたもいとめやすき
4 わか人なりけり是さへかゝるを残りなうみるよと女君はいみしと思ふ宮も是
5 はまたたそ我名もらすなよとくちかため給をいとめてたしと思きこえ
6 たりこゝの宿もりにてすみける物時かたをしうと思ひてかしつきありけは
7 此おはしますやり戸をへたてゝところえかほにゐたりこゑひきしゝめかしこ
8 まりて物語しけるをいらへもえせずおかしと思けりいとおそろしくうらない
9 たる物いみにより京の内をさへさりてつゝしむ也ほかの人よすなといひたり
10 人めにたゝて心やすくかたらひくらし給かの人の物し給へりけんにかくて見えつ

23ウ

1 らんかしとおほしやりて恨給二の宮をいとやむことなくてもちたてまつり
2 給へるありさまなどもかたり給かのみゝとゝめ給し一ことはのたまひ出ぬそにく
3 きや時かた御てうつ御くた物なとりつきてまいるを御らんしていみしく
4 かしつかるめるまらうとのぬしきてな見えそやといましめ給侍従いゝめかしき
5 わかうとのこゝ地におかしと思てこたいふとそ物語してくらしける雪のふり
6 つもれるに我すむかたを見やり給へれば霞のたえゝにこすゑはかり見ゆ
7 山はかゝみをかけたるやうにきらゝと夕日にかゝやきたるによへわけこし
8 みちのわりなさなどあはれおほうそへてかたりたまふ

9 みねの雪みきはのこほりふみわけて君にそまとふ

10 みちはまとはすこはたの里に馬はあれとなとあやしきすゝりめし出てならひ給ふ

24オ

1 ふりみたれみきはにこほる雪よりもなか空にてそ

2 我はけぬへきとかきけちたりこの中空をなかめ給けににくゝもかき

3 てけるかなとはつかしくてひきやりつさうてたに見るかひある御ありさまを

4 いよくあはれにいみしと人の心にしめられむとつくし給ことのはけしきいはんかた

5 なし御物いみ二日とたはかり給へれば心のとかなるまゝにかたみにあはれとのみ

6 ふかくおほしまさる右近はよろつにれいのいひまきはして御そなとたて

7 まつりたりけふはみたれたるかみすこしけつらせてこきゝぬにこうはいの
8 をり物などあはひおかしくきかへてゐたり侍従もあやしきしひらき
9 たりしをあさやきたれはそのもとをとり給て君にきせ給て御
10 てうつまいらせ給ひめ宮に是をたてまつりたらいみしき物に

24ウ

1 し給てんかしいとやむことなききはの人おほかれとかはかりのさま
2 したるはかたくやと見給かたはなるまであそひたはふれつゝくらし
3 給しのひてゐてかくしてんことを返々のたまふその程かの人に見え
4 たらはといみしき事ともをちかはせ給へはいとわりなき事と思ていら
5 へもやらす涙さへおつる気しきさらにめのまへにたに思うつらぬなめ
6 りとむねいたうおほさる恨てもなきてもよろづのたまひあかして夜
7 ふかくゐてかへり給れいのいたき給いみしくおほすめる人はかうはよもあらし
8 に見しら給たりやとのたまへはけにと思ひてうつきてゐたるいとらうた
9 け也右近つま戸はなちていれたてまつるやかて是わかれて出給もあかす
10 いみしとおほさるかやうのかへさはなを二条院にそおはしますいとなやま

25オ

1 し給て物なともたえてきこしめさす日をへてあをみやせ給御けしきも
2 かはるを内にもいつくにもおもほしなけくいと物さはかしくて御ふをたにこまかには
3 かきたまはすかしこにもかのさかしきめのとむすめのこうむところに出たりける
4 かへりきにければ心やすくもえみすかくあやしきすまぬをたゝかの殿のもて
5 なしたまはんさまをゆかしく待事にてはゝ君も思なくさめたるにしのひたるさま
6 なからもちかくわたしてんことをおほしなりにければいとめやすくうれしかるへき
7 ことに思てやうゝ人もとめわらはのめやすきなとむかへてをこせ給我心にも
8 それこそはあるへき事にはしめより待たれとは思ながらあなかななる人の御
9 ことを思ひ出るに恨給しさまのたまひし事とおも影につとそひていさゝかま
10 ところめは夢に見え給つゝいとうたてあるまでおほゆ雨ふりやまで日ころおほく

25ウ

1 なるころいとゝ山路おほしたえてわりなくおほされければおやのかうこは
2 ところせき物にこそとおほすかたしけなしつきぬ事ともかき給て
3 なかめやるそなたの雲も見えぬまでそらさへくるゝころのわひしさ#
4 筆にまかせてかきみたり給へるしも見どころありおかしけこといにとをもく
5 などとはあらぬわかきこゝちにいとかる心を思ふもまさるへけれとはしめより
6 契り給しさまもさすかにかれはなをいと物ふかう人からのめてたきなども
7 世中をしりにしはしめなれはにやかゝるうき事聞つゝけて思うとみ給
8 なん世にはいかてかあらむいつしかと思まとふおやにもおもはずに心つき
9 なしとこそはもてわつらはめかく心いられし給人はたあたる御心の本上と
10 のみ聞しかはかゝる程こそあらめまたかうなからも京にもかくしすへなからへ

26オ

1 てもおほしかすまへむにつけてはかのうへのおほさん事よろづかくれなき
2 世なりければあやしかりし夕暮のしるへはかりにたにかうたつね出給めり
3 ましてわかありさまのともかくもあらむを聞たまはぬやうはありなんやと思たと
4 るにわか心もきすありてかの人にくとまれたてまつらんなをいみしかるへ
5 しと思みたるゝおりしもかの殿より御つかひありこれかれと見るもいとうたて

6 あれはなを事おほかりつるを見つゝふし給へは侍従右近めを見あはせて
7 なをうつりにけりなといはぬやうにいてふことはりそかし殿の御かたちをたくひ
8 おはしまさしと見しかと此御ありさまはいみじかりけり打みたれ給へるあひきやうよ
9 まるならはかはかりの御思を見るゝえかくてあらしきさひの宮にもまいりてつねに
10 見たてまつりてんといふうこんうしろめたの御心の程や殿の御ありさまにまさり給

26ウ

1 人はたれかあらむかたちなどはしらす御心はへけはひなとよなを此御かたはいと見
2 くるしきわさかないかゝならせたまはんとすらむとふたりしてかたらふ心一に思ひ
3 しよりはそらこともたより出きにけり後の御文には思ながら日ころになる事時々
4 それよりもおとろかいたまはんこそ思ふさまならめをろかなるにやはなとはしかきに
5 水まさるをちのさと人いかならむはれぬなかめにかきくらすころ#
6 つねよりも思やり聞ゆる事まさりてなんとしるき色紙にてたてふみ也御ても
7 こまかにおかしけならねとかきさまゆへゝしく見ゆ宮はいとおほかるをちいさく
8 むすひなし給へるさまゝおかしまつかれを人見ぬ程にと聞ゆけふは聞ゆましとはちら
9 ひててならひに
10 里の名をわか身にしれはやましろの宇治のわたりそいとゝすみうき#

27オ

1 宮のかき給へりし糸を時々見てなけれけりなからへてあるましきことそとさま
2 かうさま思なせとほかにたへこもりてやみなんはいとあはれにおほゆへし
3 かきくらしはれせぬみねのあま雲にうきてよをふる身ともなさはや#
4 ましりなはときこえたるを宮は夜ことなけれ給さりともし恋しと思ふらんかしとおほし
5 やるも物おもひてゐたらむさまのみおも影に見え給まめ人はのとかに見給つゝあはれいかに
6 なかむらむとおもひやりていと恋し
7 つれゝと身をしる雨のをやまねは袖さへいとゝみかさまさりて#

8 とあるを打もをかず見給女宮に物語なときこえ給てのついてにめしともやおほ
9 さむとつゝましなからさすかに年へぬる人の侍をあやしきところにすてをきていみし
10 く物おもふなるか心くるしさにちかうよひよせてと思侍むかしよりことやうなる心はへ侍し

27ウ

1 身にて世中をすへてれいの人ならてすくしてんと思侍しをかく見たてまつるにつけてひた
2 ふるにもかたければありと人にもしらせさりし人のうへさへ心くるしうつみえ
3 ぬへきこゝちしてなときこえ給へはいかなる事に心をく物ともしらぬをといらへ
4 給内になどあしさまにきこしめさする人や侍らむよの人の物いひそいとあちき
5 なくけしからす侍やされとそれはさはかりの数にたに待るましなときこえ給みちたる
6 ところにわたしてんとおほしたつにかゝるれうなりけりなと花やかにいひなす人やあらん
7 などくるしければいとしのひてさうしはらすへき事なと人しもこそあれこの
8 内記かする人のおや大蔵大輔なる物にむつましく心やすきさまにのたまひ
9 つけたりければ聞つきて宮にはかくれなくきこえけり糸しともなとも御
10 すいしんともななかにあるむつましき殿上人などをえりてさすかにわさとなん

28オ

1 せさせ給と申にいとゝおほしさはきてわか御めののとをきすゝうのめにてくだ
2 る家しもつかたにあるをいとしのひたる人しはしかくいたらむとかたらひ給け
3 れはいかなる人にかはとおもへとたいしとおほしたるにかたしけなければさらはと
4 きこえけり是をまうけ給てすこし御心のとめ給此月のつこもりかたに

5 くだるへければやかてその日わたしとおほしかまふかくなん思ふゆめくといひ
 6 やり給つゝおはしまさん事はいとわりなくある内にもこゝにもめのといとさかし
 7 ければかたかるへきよしを聞ゆ大將殿は卯月の十日となんため給へりける
 8 さそふ水あらはとおもはすいとあやしくいかにしなすへき身にかあらんとうき
 9 たるこゝちのみすればはゝの御もとにしはしわたりて思めくらす程あらむと
 10 おほせと少將のめこうむへき程ちくなりぬとてすほうと経なとひまなく

28ウ

1 さはけは石山にもえ出たつましはゝそこわたり給へるめのと出きて殿より
 2 人々のさうそくなどもこまかにおほしやりてなんいかてきよけになに事もと
 3 思給ふれとまゝか心一にはあやしくのみそし出侍らむかしなといひさはくかこゝ地
 4 よけなるを見給にも君はけしからぬ事ともの出きて人わらへならは誰もく
 5 いかにおもはんあやにくにのたまふ人はたやへたつ山にこもるともかならず我も人も
 6 いたつらになりぬへしなを心やすくかくれなん事をおもへとけふものたまへるいかにせん
 7 とこゝちあしくてふし給へりなとかかくれいならすいたくあをみやせ給へるとおとろぎ
 8 給日ころあやしくのみなんはかなき物もきこしめさすなやましけにせさせ給といへは
 9 あやしきことかな物のけなとにやあらむといかなる御こゝ地そとおもへと石山もとま
 10 り給にきかしといふもかたはらいたければふしめ也暮て月いとあかしあり明の空を

29オ

1 思ひ出るも涙のいととゝめかたきはいとけしからぬ心かなと思ふはゝ君むかし物語などして
 2 あなたのあま君よひ出てこひめ君の御ありさま心ふかくおはしてさるへき事も
 3 おほしいれたりし程にめにみすゝきえ入給にし事なとかたるおはしまさましかは
 4 宮のうへなどのやうにきこえかよひ給て心ほそかりし御ありさまとものいとこよな
 5 き御さいはひにそ侍らましといふにもわかむすめはこと人かは思ふやうなるすくせ
 6 のおはしはてはをとらしをなと思つゝけて夜とともに此君につけて物をも思ひた
 7 れしけしきのすこし打ゆるひてかくてわたりたまひぬへかめれとこゝにまいりくる
 8 ことかならずしもことさらにはえ思たち侍らしかゝるたいめんのおりくゝにむかしのことも心
 9 のとかにきこえうけたまはらまほしけれなとかたらふゆゝしき身とのみ思ふ給へ
 10 しみにしかはこまやかに見えたてまつりきこえさせんもなにかはつゝましくてすくし

29ウ

1 侍つるを打すてゝわたらせ給なはいと心ほそくなん侍へれとかゝる御すまめは心もと
 2 なくのみ見たてまつるをうれしくも侍へかなるかな世にしらすをもくゝしくおはしますへかめ
 る

3 殿の御ありさまにてかくたつねきこえさせ給しもおほろけならしときこえをき侍
 4 にしうきたる事にや侍けるなどいふ後はしらねとたゝいまはかくおほしはなれぬさまに
 5 のたまふにつけてもたゝしるへをなん思ひ出聞ゆる宮のうへのかたしけなくあはれに
 6 おほしたりしとつゝましことなどのをのつから侍しかは中空にとろせき御身なりと思ひ
 7 なけき侍てといふあま君打わらひて此宮のいときはかしきまで色におはします
 8 なれは心はせあらんわかき人さふらひにくけになん大かたはいとめてたき御
 9 ありさまなれとさるすちの事にてうへのなめしとおほめんなんわりなきとたいふ
 10 かむすめのかたり侍しといふにもさもやましてと君はきゝふし給へりあな

30オ

1 むくつけやみかとの御むすめをもちたてまつり給へる人なれとよそくにてあしく
 2 もよくもあらむはいかゝはせんとおほけなく思なし侍よからぬことをひき出

3 給へらましかはすへて身にはかなしくいみしと思ひ聞ゆとも又見たてまつらさら
 4 ましなといひかはす事ともにいとゝ心きもゝつふれぬなを身をうしなひて
 5 はやつゐに聞にくき事は出きなと思つゝくるに此水の音のおそろしけにひゝ
 6 きてゆくをかゝらぬなかれありかし世ににすあらましきところに年月をすくし
 7 給をあはれとおほしぬへきわさになんなどはゝ君したりかほにいひぬたりむかし
 8 より此川のはやくおそろしき事をいひてさいつころわたしもりかむまこのわらは
 9 さほさはつしておち入侍にけるすへていたつらになる人おほかる水に侍りと人々もいひ
 10 あへり君はさても我身ゆくゑもしらすなりなは誰もゝあへなくいみしとしはしこそ

30ウ

1 思ふたまはめなからへて人わらへにうきこともあらむはいつかその物おもひのたえむとする
 2 と思かくるにはさはりとこもあるましさはやかによろつ思なさるれと打かへし
 3 いとかなしおやのよろつに思ひふありさまをねたるやうにてつくゝと思みたるなや
 4 ましけにてやせ給へるをめのにもいひてさるへき御いのりなとせさせ給へまつり
 5 はらへなともすへきやうなといふみたらし川にみそきせまほしけなるをかくもしら
 6 てよろつにいひさはく人すくななめりよくさへからんあたりをたつねていままいりは
 7 とゝめ給へやむことなき御ながらひはさうししみこそ何事もおいらかにおほさめよからぬ
 8 中となりぬるあたりはわつらはしきこともありぬへしかくしひそめてさる心し給へなと思
 9 いたらぬことなくいひをきてかしこにわつらひ侍人もおほつかなしとてかへるをいと物
 10 おもはしくよろつ心ほそければ又あひ見てもこそともかくもなれとおもへはこゝ地のあしく侍

31オ

1 にも見たてまつらぬかいとおほつかなくおほえ侍をしはしもまいりこまほしくこそと
 2 したふさなん思侍れとかしこもいと物さはかく侍り此人々もはかなき事などえし
 3 やるましくせはくなど侍れはなんたけふのこうにうつろひ給へともしのひてはま
 4 いりなんをなをゝしき身の程はかゝる御ためこそいとおしく侍れなど打なきつゝ
 5 のたまふ殿の御文はけふもありなやましときこえたりしをいかゝとどふらひ給へり
 6 みつからと思侍をわりなきさはりおほくてなん此程のくらしかたさこそ中々くる
 7 しくなとあり宮は昨日の御かへりもなかりしをいかにおほしたゝよふそ風のなひかん
 8 かたもうしろめたくなんいとゝほれまさりてななめ侍など是はおほくかき給へりあめ
 9 ふりし日きあひたりし御つかひともそけふもきたりける殿のみすいしんかのせう
 10 か家にて時々見るをのこなれはまうとはなにしにこゝにはたひゝまいるそとどふ

31ウ

1 わたくしにとふらふへき人のもとにまうつるなりといふわたくしの人にやえんなる
 2 文はさしとらする気しきあるましようとかな物かくしはなそといふまことは此かう
 3 の君の御文女房にたてまつり給といへは事たかひつゝあやしとおもへとこゝにて
 4 さためいはんもことやうなるへければをのゝまいりぬかとゝしき物にてともに
 5 あるわらはを此をのこにさりけなくてめつけよさいものたいふの家によ
 6 いると見せければ宮にまいりてしきふのせふになん御文はとらせ
 7 侍つるといふさまでたつねん物ともをとりのけすともはおもはすことの心を
 8 もふかうしらさりければとねりの人に見あらはされにけんそくちおし
 9 きや殿にまいりてたゝいま出たまはんとする程に御文たてまつらす
 10 なをしにて六条院にきさひの宮の出させ給へるころなれはまいり給なり

32オ

1 けりことゝしく御せんなどもあまたもなし御文まいらする人にあやしき事の侍つる

2 見給へさためんとていまゝてさふらひつるといふをほの聞給てあゆみ出給まゝになに
 3 ことそととひ給此人のきかんつゝましと思ひてかしこまりておる殿もしか見しり給
 4 て出たまひぬ宮れいならすなやましけにおはすとて宮たちもみなまいり給へり
 5 かんたちめなどおほくまいりつとひてさはかしけれとことなることもおはしまさず
 6 かの内記はうはつかさなれはをくれてそまいる此御文もたてまつるを宮たい
 7 はんところにおはしまして戸くちにめしよせてとり給を大将御まへのかたよりたち出
 8 給そはめに見とをし給てせちにもおほすへかめる文のけしきかなとおかしさにたち
 9 とまり給へりひきあけて見給くれなぬのうすやうにこまやかにかきたるへしと
 10 見ゆ文に心をいれてとみにもむきたまはぬにおとゝもたちてとさまにおはすれば

32ウ

1 此君はさうしより出給とておとゝ出給と打しはふきておとるかいたてまつり給ひき
 2 かくし給へるにそおとゝさしのそき給へるおとろきて御ひもさし給殿もついる
 3 給てまかて侍りぬへし御しやけのひさしくおこらせたまはさりつるをおそろしき
 4 わさなりや山のさすたゝいまさうしにつかはさむといそかしけにて立たまひぬ
 5 夜ふけてみな出たまひぬおとゝは宮をさきにたてたてまつり給てあまたの
 6 御ことものかんたちめ君たちをひきつゝけてあなたにわたりたまひぬ此殿は
 7 をくれて出給すいしんけしきはみつるあやしとおほしければこそんなどをりて
 8 火ともす程にすいしんめしよす申つる事はなに事そととひ給けさかのうちに
 9 出雲のこんのかみ時かたのあそんのもとに侍おとこのむらさきのうすやうにて桜
 10 につけたる文を西のつま戸によりて女房にとらせ侍つる見給つけてしかゝとひ

33才

1 侍つればことたかへつゝそらことのやうに申侍つるをいかに申そとてわらはへして見
 2 せ給へれば兵部卿の宮にまいり侍てしきふのせふみちさたのあそんになんその
 3 返事はとらせ侍けると申す君はあやしとおほしてその返事はいかやうにしてい
 4 たしつるそれは見給へすことかたよりいたし侍にける下人の申侍つるはあかき色
 5 紙のいときよらなるとなん申侍つると聞ゆおほしあはするにたかう事なしさまで見
 6 せつらんをかとゝしとおほせと人々かければくはしくものたまはすみちすからなを
 7 いとおそろしくまなくおはする宮なりやいかなりけんついでにさる人ありと
 8 聞給けんいかていひより給けんぬ中ひたるあたりにてかやうのすちのまきれば
 9 えしもあらしと思けるこそさるすきことをものたまはめむかしよりへたて
 10 なくてあやしきまでしるへしゐてありきたてまつりし身にしもうしろめたく

33ウ

1 おほしよるへしやと思ふにいと心つきなしたいの御かたの御事をいみしく思つゝ年ころ
 2 すくすは我心のをもさはこよなかりけりさるはそれはいまはしめてさまあしかるへき
 3 程にもあらすもとよりのたよりにもよれるをたゝ心のうちのくまあらんは我ためも
 4 くるしかるへきによりてこそ思はゝかるもをこなるわさなりけり此ころかくなやま
 5 しくし給てれいよりも人しけきまきれにいかてはるゝとかきやり給ふらんおはし
 6 そめにけんいとはるかなるけさうのみちなりやあやしくておはしところたつねら
 7 れ給もありときこえきかしさやうのことにおほしみたれてそこはかとなくなやみ
 8 給なるへしむかしをおほし出るにもえおはせざりし程のなけきはいとゝおしけ也
 9 きかしとつくゝと思ふに女のいたく物おもひたるわさなりしもかたはし心えそめ給ては
 10 よろつおほしあはするにいとありかたき物は人の心にもあるかならうたけにおほとか

34才

1 なりとは見えなから色めきたるかたはそひたる人そかし此宮の御具にてはいと
 2 よきあはひなりと思もゆつりつへくのくこちし給へとやむことなく思そめはしめ
 3 し人ならはこそあらめなをさる物にてをきたらむいまはとて見さらんはた恋し
 4 かるへしと人わるく色々心のうちにおほすわれすさましく思なりてすてをき
 5 たらはかならずかの宮よひとり給てん人のため後のいとおしさをもちに
 6 たとり給ふましさをやうにおほす人こそ一品の宮の御かたに人三人まいらせ
 7 給たなれさて出たちたらんを見きかんとおしくなどをすてかたくけしき
 8 見まほしくて御文つかはすれいのみすいしんめして御てつから人まにめしよせたり
 9 みちさたのあそんはなをなかのふか家にやかよふさん侍と申宇治へつね
 10 にやこのありけんをのこはやるらんかすかにてゐたる人なればみちさた

34ウ

1 思かへらんかしと打うめき給て人に見えてをまかれをこなりとのたまふ
 2 かしこまりてせうかつねに此殿の御ことあないしかしこの事とも思あはす
 3 れと物なれてえ申出す君もけすにくはしくはしらせしとおほせはとはせ
 4 たまはすかしこには御つかひのれいよりしけきにつけても物おもふことさまく也
 5 たかくそのたまへる

6 波こゆるころともしらす系の松まつらんとのみおもひけるかな#

7 人にわらはせ給なとあるをいとあやしと思ふにむねもふたかりぬ御

8 返事を心えかほにきこえむもいとつましひか事にてあらんもあやしければ
 9 御文はもとのやうにしてところたかへのやうに見え侍れはなんあやしくなや
 10 ましくて何事もとかきそへてたてまつれ給見給てさすかにいたくも

35オ

1 したるかなかけて見をよはぬ心はへよとほゝゑまれ給もにくしとはえおほし
 2 はてぬなめりまほならねとほのめかし給へるけしきをかしこにはいとゝ思そふつあ
 3 に我身はけしからすあやしくなりぬへきなめりといとゝ思ふところ右近きて
 4 殿の御文はなとてかへしたてまつり給へるそゆゝしくいみ侍なる物といへは
 5 ひか事のあるやうに見えつればところたかへかとてとのたまふあやしと見ければみち
 6 にてあけて見けるなりけりよからすの右近かさまやな見つとはいはてあな
 7 いとおしくるしき御事ともにこそ侍れ殿は物のけしき御らんしたるへしといふに
 8 おもてさとあかみて物ものたまはす文見つらむとはおもはねはことさまにてかの御氣
 9 しき見る人のかたりたるにこそはと思ふにたれかさいふそなともとひたまはす
 10 此人々のみ思ふらんこともいみしくはつかしわか心もてありそめし事ならねとも心うき

35ウ

1 すぐせかなと思ひりてねたるに侍従とふたりして右近かあねのひたちもふ
 2 たり見侍しを程々につけてたかくそかしこれもかれもとらぬ心さしにて思
 3 まとひて侍し程に女はいまのかたにいますこし心よせまさりてそ侍ける
 4 それにねたみてつゐにいまのをはころしてしそかしさて我もすみ侍らす
 5 なりにきくにゝもいみしきあたつは物ひとりうしなひつ又このあやまちたる
 6 もよきらうとうなれとかゝるあやまちしたる物をいかてかつかはんとて国のうち
 7 もをいはらはれすへて女のたいくしきそとてたちのうちにもおい給へらざりし
 8 かはあつまの人になりてまゝもいまに恋なき侍れはつみふかくこそ見給ふれゆし
 9 きついでやうに侍れとかみしもゝかゝるすちの事はおほしみたるゝ事はいと
 10 あしきわざ也御いのちまてにはあらずとも人の御程々につけて侍事也しぬる

36才

1 まさるはちなる事もよき人の御身には中々侍也一かたにおほしきためてよ宮
 2 も御心さしまさりてさやうにたにきこえさせたまはゝそなたさまにもなひ
 3 かせ給て物ないたくなけかせ給そやおとろへさせ給もいとやくなしさばかり
 4 うへの思いたつききこえさせ給物をまゝかこの御いそきに心をいれてまとい
 5 ゐて侍につきてもそれよりこなたにときこえさせ給御事こそいとくるしく
 6 いとおしけれといふにいまひとりうたておそろしきまでなきこえさせ給そ
 7 何事も御すくせにこそあらめたゝ御心のうちにすこしおほしなひかんかたを
 8 さるへきにおほしならせ給へいてやいとかたしけなくいみしき御けしきなりしかは
 9 人のかくおほしいそくめりしかたにも心もよらすしはしかくるへても思ひの
 10 まさらせたまはんによらせたまひねとそおもひえ侍ると宮をいみしくめて

36ウ

1 聞ゆる心なればひたみちにいふいさや右近はとてもかくてもことなくすくさせ
 2 給へとはつせ石山などにくはんをなんたて侍此大將殿の御さうの人々と
 3 いふ物はいみしきふたうの物ともにてひとるいこの里にみちて侍也大かた
 4 此山しろやまとに殿のりやうし給へるところゝの人なんみな此うとねりと
 5 いふ物のゆかりかけつゝ侍なるそれかむこのうこんのたいふといふ物をもゝして
 6 よろつの事をきておほせられたなるなゝりよき人の御中とちはなさけ
 7 なき事しいてよとおほさすとも物の心えぬ中人とものゐ人にてかはりゝ
 8 さふらへはをのかはんにあたりていさゝかなることもあらせしなとあやまちもし
 9 侍なんありし世の御ありきはいとこそむくつけく思ふ給へられしか宮はわりなく
 10 つゝませ給とて御とも人もゐておはしますさすやつれてのみおはしますをさる物

37才

1 の見たてまつりたらむはいといみしくなんといひつゝくるを君はなを我を宮に
 2 心よせたてまつりたと思ひて此人々のいふいとはつかしく心にはいつれとも
 3 おもはずたゝ夢のやうにあきれていみしくいられ給をはなとかくしもとはかり
 4 おもへとたのみきこえて年ころになりぬる人をいまはともてはなれんとおもは
 5 ぬによりこそかくいみしと物を思ひみたるれよからぬ事も出きたらむ
 6 ときとつくゝと思ひたりまろはいかてしなはやよつかす心うかりける
 7 身かなかくうきことあるためしはけすなどのなかにたにおほくやはあなる
 8 とてうつふしゝ給へはかくなおほしめしそやすらかにおほしなせとてこそ
 9 きこえさせ侍れおほしぬへき事をもさらぬかほにのみのとかに見えさせ給へる
 10 を此御ことの後いみしく心いられをせさせ給へはいとあやしくなん見たてまつると

37ウ

1 心しりたるかきりはみな思みたれさほくにめのとをのか心をやりてものそめ
 2 いとなみぬたりいまゝいりわらはなどのめやすきをよひとりつゝかゝる人御らむ
 3 せよあやしくてのみふさせ給へるは物のけなどのさまたけきこえさせんとするに
 4 こそとなけく殿よりはありしかへり事をたにのたまはて日ころへぬのをと
 5 しゝうとねりといふ物そきたるけにいとあらゝしくふつゝかなるさましたる
 6 おきなのこゑかれさすかにけしきある女房に物とり申さんといはせたれは右近
 7 しもあひたり殿にめし侍しかはけさまいり侍たゝいまなんまかりかへり侍つる
 8 さうしもおほせられつるついでにかくておまします程に夜なか暁のことも
 9 なにかしらかくてさふらふとおほしてとのゐ人わざとさしたてまつらせ給事

10 もなきを此ころきこしめせは女房の御ともにしらぬところくの人々かよふ

38才

1 やうになんきこしめす事あるたいくしき也とのぬにさふらふ物ともはそのあない
 2 きゝたらむしらてはいかゝさふらふへきととはせ給へるにうけたまはらぬ事なれば
 3 なにかしは身のやまひをもく侍てとのぬつかまつる事用ころをこたりて侍れは
 4 あんないもえしり侍らするへきをのこともけたいなくもよほしさふらはせ
 5 侍をさのとききひしきやうのこのさふらはんをはいかてかうけたまはらぬやうは
 6 はへらんとなん申させ侍つるようぬしてさふらへひんなき事もあらはをもく
 7 かむたうせしめ給ふへきよしなんおほせ侍つれといかなるおほせ事にかと
 8 おそれ申侍といふを聞にふくろふのなかんよりもいと物おそろしいらへもやらてさり
 9 やきこえさせしにたかはぬ事ともをきこしめせ物のけしき御らんしたるなめり御
 10 せうそこも侍らぬよとなけくめのとほの打聞ていとうれしくもおほせられたり

38ウ

1 ぬす人おほかんなるわたりにとのぬ人もはしめのやうにもあらすみな身の
 2 かはりにといひつゝあやしきけすをのみまいらすれば夜行をたにせぬにとよ
 3 ろこふ君はけにたゝいまいとあしくなりぬへき身なめりとおほすに宮
 4 よりはいかにくこけのみたるゝわりなさをのたまふいとわつらはしくなん
 5 とてもかくてもひとかたゝにつけていとうたてある事は出きなん我身一
 6 のなくなりなんのみこそめやすからめむかしはけさうする人のありさまの
 7 いつれとなきに思わつらひてたにこそ身をなくするためしもありけれながらへは
 8 かならずうき事見えぬへき身のなくならむはなにかおしかるへきおやもしはし
 9 こそなけきたまはめあまたの子ともあつかひにをのつからわすれ草つみてん
 10 ありなからもてそこなひ人わらへなるさまにてさすらへんはまさる物思なるへし

39才

1 なと思なるこめきおほとかにたをく見ゆれと氣たかう世のありさまをも
 2 しるかたすくなくしておほしたてたる人にしあればすこしをすかるへき
 3 事を思よるなりけんかしむつかしきほうくなどやりておとろくしく一たひに
 4 もしたゝめすとうたいの火にやき水になけいれさせなとやうくうしなふ
 5 心しらぬこたちは物へわたり給へければつれくなる月日へてはかなくしあつめ
 6 給へるてならひなとをやり給なんめりと思ふ侍従などそ見つくる時はなとかくは
 7 せさせ給あはれる御中に御心とゝめてかきかはし給へる文は人にこそ見せさせたま
 8 はさらめ物のそこをかせ給て御らんするなん程々につけてはいとあはれに侍さ
 9 はかりめてたき御かみあつかひかたしけなき御ことの葉をつくさせ給へるをかく
 10 のみやはられ給なさけなき事といふなにかむつかしくなかるましき身に

39ウ

1 こそあめれおちとゝまりて人の御ためもいとおしからむさかしらに是をとり
 2 をきけるよなともし聞たまはんこそはつかしけれなどのたまふ心ほそきことを
 3 思もてゆくには又え思たつましきわさなりけりおやをきてなくなる人
 4 はいとつまふかくなる物をなとさすかにほの聞たる事をも思ふ廿日あまり
 5 にもなりぬかの家あるし廿八日にくたるへし宮はその夜かならずむかへむ
 6 しも人などによくけしき見ゆましき心つかひし給へこなたさまよりは
 7 ゆめにもきこえあるましくうたかひ給ななどのたまふさてあるましきさま
 8 にておはしたらんにいま一たひ物をもきこえすおほつかなくてかへしたてま

9 つらんとするかひなく恨てかへりたまはんさまなを思やるにれいのおもかけ
10 はなれすたえすかなしくて此御文をかほにをしあてゝしはしはつゝめともいと

40才

1 いみしくなき給右近あか君かゝる御けしきつゐに人見たてまつりつへし
2 やう／＼あやしなと思ふ人侍へかめりかうかゝつらひおもほさてさるへきさまにき
3 こえさせ給てよ右近侍らはおほけなき事もたばかりいたし侍らはかはかりちい
4 さき御身一は空より出たてまつらせ給なんといふとはかりためらひてかくのみいふこそい
5 と心うけれさもありぬへき事と思かけはこそあらめあるましき事とみな思とるに
6 わりなくかみのみたるみたるやうにのたまへはいかなる事をし出たまはんとするにか
7 なと思ふにつけて身のいと心うきなりとて返事もきこえたまはすなりぬ宮かくのみ
8 なをうけひくけしきもなくて返事さへたえにたるはかの人のあるへきさまに
9 いひしたゝめてすこし心やすかるへきかたに思さたまりぬるなめりことはり
10 とおほす物からいとくちおしくねたくさりととも我をはあはれと思たりし物をあひ

40ウ

1 見ぬとたえに人々のいひしらするかたによるならんかしなとかめ給にゆくかた
2 しらすむなしき空にみちぬるこゝ地し給へれはいのいみしくおほしたちておほし
3 ましぬあしかきのかたをみるにれいならすあれはたそといふこゑ／＼にいさとけなりたち
4 のきて心しりのをのこをいれたればそれをさへとふさき／＼のけはひにもにす
5 わつらはしくて京よりとみの御ふみあるなりといふ右近かすきの名をよひて
6 あひたりいとわつらはしくいとゝおほゆさらにとよひはふよう也いみしくかたしけ
7 なき事といはせたり宮などかくもてはなるらんをおほすにわりなくてまつとき
8 かたிரて侍従にあひてさるへきさまにたはかれとてつかはすかと／＼しき人にて
9 とかくいひかまへてたつねてあひたりいかなるにかかの殿のたまはする事あるとて
10 とのゐにある物とものさかしかりたちたるころにていとわりなき也御まへにも

41才

1 物をのいみしくおほしためるはかゝる御事のかたしけなきをおほし見たるゝに
2 こそと心くるしくなん見たてまつるさらにこよひは人しけき見侍なは中々にいと
3 あしかりなんやかてさも御心つかひせさせ給ふへからん夜こゝにも人しれすおもひ
4 かまへてなんきこえさすへかめるめのとのいさとき事なともかたるたいふおはします
5 みちのおほろけならすあなかななる御けしきにあへなくきこえさせ給へと
6 いさなふいとわりなからんといひしろふ程によもいたくふけゆく宮は御馬にて
7 すこしとをく立給へるに里ひたるこゑしたる犬ともの出きてのゝしるもいと
8 おそろしく人すくなにいとあやしき御ありきなれはすゝろならん物のほしり出
9 きたらむもいかさまにとさふらふかきり心をそまとはしけるなをとく／＼まいり
10 なんといひさはかして侍従をいてまいるかみわきよりかいこしてやうたいいか

41ウ

1 おかしき人也馬にのせむとすれとさらにきかねはきぬのすそをとりてたち
2 そひてゆくわかくつをはかせてみつからはともなる人のあやしき物をはき
3 たりまいりてかくなんと聞ゆれはかたらひ給ふへきやうたになければ山かつのかき
4 ねのをとるむくらのかけにあふりといふ物をしきておろしたてまつるわか御こゝ地にも
5 あやしきありさまかなかゝるみちにそこなはれてはか／＼しくはえあるましき
6 身なめりとおほしつゝくるになき給事かきりなし心よはき人はましていと
7 いみしきあたを鬼につくりたりともをろかに見すつましき人の御ありさま也

8 ためらひ給てたゝ一こともえきこえさすましきかなれはいまさらに
9 かゝるそなを人々のいひなしたるやうあるへしとのたまふありさまくはしくきこえ
10 てやかてさおほしめさむ日をかねてはちるましきさまにたはらせ給へかくかた

42才

1 しけなき事ともを見たてまつり侍れは身をすてゝも思ふ給へたばかり侍らるときこゆ
2 我も人めをいみしくおほさは一かたに恨たまはんやうもなし夜はいたくふけゆくに
3 此物とかめする犬のこゑたえず人々をいさけなとするにゆみひきならしあやしき
4 をのこともこのゑともして火あやうしなといふもいと心あはたゝしければ
5 かへり給ふほといへはさらなり

6 いつくにか身をはすてんとしら雲のかゝらぬ山に

7 なくくそゆくさらははやとて此人をかへし給御けしきなまめかしくあはれに
8 夜ふかき露にしめりたる御かのかうはしさなとたとへんかたなしなくくそ
9 かへりきたる右近はいひきりつるよいひあたるに君はいよく思みたるゝ事お
10 ほくてふし給へるにいりきてありつるさまかたるにいらへもせねと枕のやうくうきぬるを

42ウ

1 かつはいかに見るらんとつゝましつとめてもあやしからむまみをおもへはむこにふしたり
2 物はかなけにおひなとして経よむおやにさきたちなんつみうしなひ給へとのみおもふ
3 ありしゑをとり出て見てかき給し手つきかほのにほひなどのむかひきこえたらん
4 やうにおほゆれは夜へ一ことをたにきこえすなりにしはなをいまひとへまさりて
5 いみしと思ふかの心のとかなるさまにて見むとゆくすゑとをかるへき事をのたま
6 ひわたる人もいかゝおほさんといとおしきさまにいひなす人もあらんこそ思やり
7 はつかしけれと心あさくけしからす人わらへならんをきかたてまつらむよりはと
8 おもひつゝけて

9 なけきわひ身をはすつともなきかけにうき名なさん

10 ことをこそおもへおやもいと恋しくれいはことに思ひ出ぬはらからの見にくやかなるも

43才

1 恋し宮のうへをも思ひ出聞ゆるにすへていま一たひゆかしき人おほかり人はみな
2 をのくものそめいそきなにやかやといへとみゝにもいらすよるとなれは人に見つけ
3 られす出てゆくへきかたを思まうけつゝねられぬまゝにこゝ地もあしくみなた
4 かひたり明たては川のかたを見やりつゝひつしのあゆみよりも程なきこゝ地す
5 宮はいみしき事ともをのたまへりいまさらに人や見むとおもへは此御返事をたに思ふ
6 まゝにもかゝす

7 からをたにうき世の中にとゝめすはいつこをはかと

8 君もうらみむとのみかきていたしつかの殿にもいまはのけしき見せたてまつら
9 まほしけれと心々にかきをきてはなれぬ御中なれはつゐに聞あはせたまはん事
10 いたうかるへしすへていかになりにけんと思かへす京よりはゝの御文もてきたり

43ウ

1 ねぬる夜の夢にいとさはかしく見給へはす行ところくせさせなとし侍やかてその
2 夢の後ねられさりつるけにやたゝいまのひるねして侍夢に人のいむといふ
3 事なん見え給つれはおとろきながらたてまつるよくつゝしませ給へ人はなれたる御
4 すまゐにて時々立よらせ給人の御ゆかりもいとおそろしくなやましけに
5 物せさせ給おりしも夢のかゝるをよろつになん思給ふるまいりこまほしきを
6 少将のかたのなをいと心もとなけに物の氣たちてなやみ侍れはかた時もたち

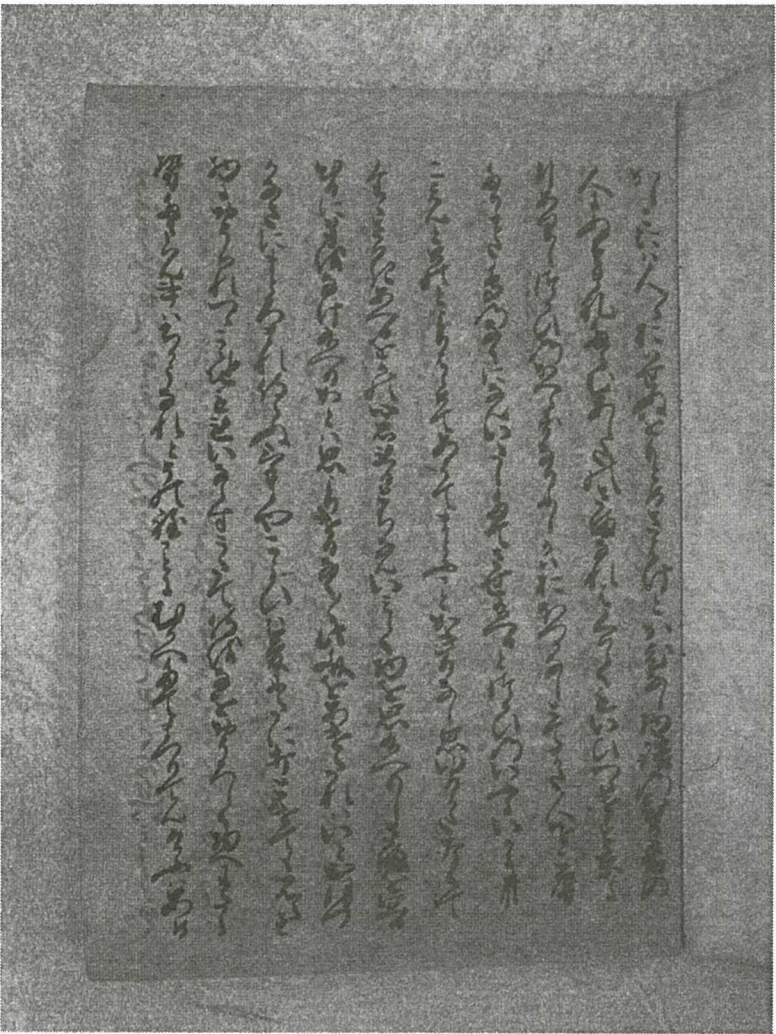
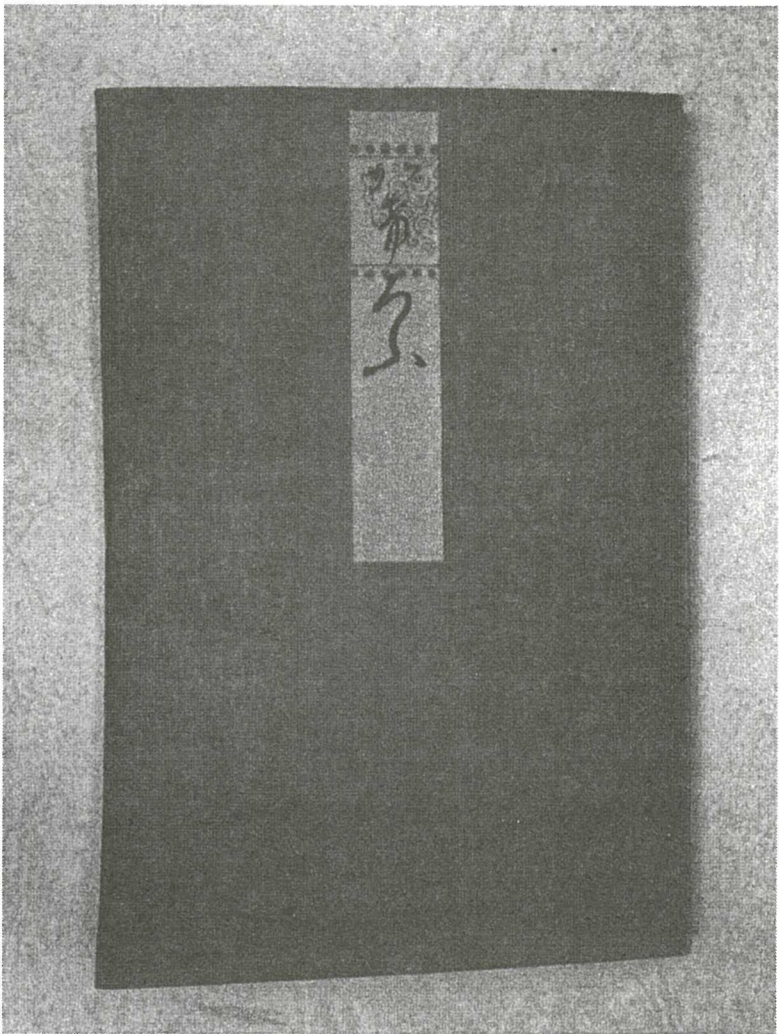
7 さることゝいみしくはれ侍てなんそのちかき寺にも御す経せさせ給へとてその
 8 れうの物ふみなどかきそへてもてきたりかきりと思ふいのちの程をしらて
 9 かくいひつゝけ給へるもいとかなしと思ふ寺へ人やりたる程返事かくいはまほし
 10 きことおほかれとつゝましくてたゝ

44才

1 鐘のをとのたゆるひゝきにねをそへてわか世つきぬと
 2 きみにつたへよもてきたるにかきつけてこよひはえかへるましと
 3 いへは物のえたにゆひつけてをきつめのとあやしく心はしりのする
 4 かな夢もさはかしくとのたまはせたりつとのぬ人よくさふらへと
 5 いはするをくるしときゝふし給へり物きこしめさぬいとあやし
 6 御ゆつけなどよろつにいふをさかしかるめれいと見にくゝおい
 7 なりて我はなくはいづくにかあらむとおもひやり給もいとあはれ
 8 なり世中にえありはつましきさまをほのめかしていはんなど
 9 おほすにまつおとろかれてさきたつなみたをつゝみ給て
 10 物もいはれすうこんほとちかくふすとてかくのみのものを

44ウ

1 おもほせは物おもふ人のたましぬはあくかるなる物なれば
 2 ゆめもさはかきならんかしつかたとおほしきたまりて
 3 いかにもゝおはしまさなんとうちなけくなへたるきぬを
 4 かほにをしあてゝふしたまへりとなん



1才

- 1 かしこには人々おはせぬをもとめさはけとかひなし物語のひめ君の
- 2 人にぬすまれたらむあしたのさまなれはくはしくもいひつゝけす京よ
- 3 りありしつかひのかへらすなりにしかはおほつかなしとてまた人をこせ
- 4 たりまた鳥のなくなんいたしたてさせ給へるとつかひのいふにいかనికి
- 5 こえんとめのとよりはしめてあはてまどふことかきりなし思ゆるかたなくて
- 6 たゝさはきあへるをかの心しれるとちなんいみしく物を思給へりしさまを思ひ
- 7 出るに身をなけ給へるかとは思よりけるなくく此文をあけてたれはいとおほつ
- 8 かなさにまどろまれ侍らぬけにやこよひは夢にたに打とけても見えず
- 9 物におそはれつゝこゝ地もれいならすうたて侍をなをそろしく物へわたら
- 10 せたまはん事はちかうなれとその程こゝにむかへたてまつりてんけふはあめ

1ウ

- 1 ふり侍りぬへければなとありよへの御かへりをもあけて見て右近いみしうなく
- 2 されはよ心ほそき事はきこえ給けり我になとかいさゝかのたまふことの
- 3 なかりけむおさなかりし程より露心をかたてまつる事なくちりはかりへたて
- 4 なくてならひたるにいまはかきりのみちにしも我ををくらかしけしきをたに
- 5 見せたまはさりけるかつらき事と思ふにあしすりといふ事をしてなくさまわかき
- 6 こともものやう也いみしくおほしたる御気しきは見たてまつりわたれとかけても
- 7 かくなへてならすおとろくしき事おほしやらむ物とは見えさりつる人の御心さまは
- 8 なをいかにしつる事にかとおほつかなくいみしめのととは中々物もおほえてたゝいかさま
- 9 にせんくそいはれける宮にもいとれいならぬけしきありし
- 10 御返いかに思ならん我をさすかにあひ思たるさまなからあたる

2才

- 1 心なりとのみふかくうたかひたれはほかへいきかくれんとにやあらむとおほし
- 2 さはきて御つかひありあるかきりなきまどふ程にきて御文もえたて
- 3 まつらすいかなるそとけす女にとへはうへのこよひにはかにうせ給にけれ
- 4 は物もおほえたまはすたのもしき人もおはしまさぬおりなれはさふらひ
- 5 給人々はたゝ物にあたりてなんまとひ給といふ心もふかくしらぬをのこ
- 6 にてくはしうもとはてまいりぬかくなんと申させたるに夢とおほえて
- 7 いとあやしいたくわつらふともきかす日ころはなやましとのみありし
- 8 かと昨日の御返ことはさりけもなくつねよりもおかしけなりし物をとお
- 9 ほしやるかたなければ時かたいきてけしき見たしかなる事とひきけと
- 10 のたまへはかの大将殿いかなる事が聞給こと侍けんとのあする物をろか

2ウ

- 1 なりなといましめおほせらるゝとて下人のまかり出るをも見とかめ侍
- 2 なれはことつくる事なくて時かたまかりたらむを物のきこえ侍らはおほし
- 3 あはする事などや侍らんさてにはかに人のうせ給つらんところはろんなう
- 4 さはかしう人しけく侍らんと聞ゆさりとてはいとおほつかなくてやは
- 5 あらんなをとかくさるへきさまにかまへてれいの心しれる侍従などにあひ
- 6 いかなる事をかくいふそとあないせよけすはひか事もいふなりとのたまへは
- 7 いとおかしき御気しきもかたしけなくて夕つかたゆくかやすき人は
- 8 とくいきつきぬ雨すこしふりやみたれとわりなきみちにやつれて
- 9 けすのさまにきたれは人おほく立さはきてこよひやかておさめ

10 たてまつるなりなどいふをきくこゝちもあさましくおほゆ右近に

3才

1 せうそこしたれともえあはすたゝいま物おほえすおきあからんこゝち
 2 もせてなんさるはこよひはかりこそかくも立たまはめえきこえぬ事といは
 3 せたりさりとてかくおほつかなくてはいかゝかへりまいり侍らんいま一とこ
 4 たにとせちにいひたれは侍従そあひたりけるいとあさましくおほしもあへ
 5 ぬさまにてうせ給にたれはいみしといふにもあかす夢のやうにて誰もゝま
 6 とひ侍よしを申させ給へすこしもこゝ地のとめ侍てなん日ころも物おほしたり
 7 つるさまひとよいと心くるしと思きこえさせ給へりしありさまなどもきこえさせ
 8 侍へき此けからひなと人のいみはつる程すくしていま一たひ立より給へといひてなく
 9 こといみし内にもなくこゑゝのみしてめとなるへしあか君やいつかたにかおはしまし
 10 ぬるかへり給へむなしきから見たてまつらぬかかひなくかなしくもあるかな明暮見た

3ウ

1 てまつりてあかすおほえ給いつしかかひある御さまを見たてまつらんとあした夕にた
 2 のみきこえつるにこそいのちものひ侍つれ打すて給てかくゆくゑもしらせたま
 3 はぬ事おにかみもあか君をはえりやうしたてまつらし人のいみしくおしむ人をは
 4 たいしやくもかへし給也あか君をとりたてまつらん人にもまれ鬼にもまれかへ
 5 したてまつれなき御からをも見たてまつらんといひつゝくるか心えぬ事ともまじる
 6 をあやしと思てなをのたまへもし人のかくしきこえ給へるかたしかにきこしめさんと
 7 御身のかはりにいたしたてさせ給へる御つかひ也いまはともかくてもかひなき事なれ
 8 と後にもきこしめしあはする事の侍らんにたかう事ましらはまいりたらん御つかひ
 9 のつみなるへし又さりとともたのませ給て君たちにたいめんせよとおほゝれつる
 10 御心はへもかたしけなしとはおほされすや女のみちにまとひ給事は人のみかたとにふかきた

4才

1 めしともありけれとまたかゝる事此世にはあらしとなん見たてまつるといふにけにいとあ
 2 はれなる御心つかひにこそあれかくすともかくてれいならぬ事のさまをのつからきこえなん思
 3 てなとかいさゝかにても人やかくいたてまつりたまふらんと思よるへき事あらんには
 4 かくしもあるかきりまとひ侍らん日ころいといみしく物をおほしいるめりしかはかの殿の
 5 わつらはしけにほのめかしきこえ給事などもありき御はゝに物し給人もかくのゝしる
 6 めのとなともはしめよりしりそめたりしかたにわたりたまはんとなんいそきたち
 7 て此御事をは人しれぬさまにのみかたしけなくあはれと思きこえさせ給へりしに
 8 御心みたれけるなるへしあさましう心と身をなくし給つるやうなれはかく心の
 9 まとひにひかくしくいひつゝけるゝなめりとさすかにまほならす心えかたく
 10 おほえてさらはのとかにまいらむたちなから侍もいことそきたるやう也

4ウ

1 いま御みつからおほしましなんといへはあなかたしけないまさら人のしりきこ
 2 えさせんもなき御ためは中々めてたき御すくせ見ゆへきなれとしのひ
 3 給し事なれはまたもらせせたまはてやませたまはなん御心さしに侍
 4 へきこゝにはかくよつかすうせ給へるよしを人にきかせしとよろつにまきら
 5 はすをしねんにことともの氣しきもこそ見ゆれとおもへはかくそゝのかし
 6 やりつ雨のいみしかりつるまきれにはゝ君もわたり給へりさらにいはんかた
 7 もなくめのまへになくなしたらむかなしさはいみしくともよのつねにてたく
 8 ひある事也はいかにしつる事そとまどふかゝる事ともまきれありて

9 いみしう物おもひ給ふらんともしらねは身をなけ給へらむとも思もよらす
10 鬼やくひつらんきつねめく物やとりもていぬらんとむかし物かたりの

5才

1 あやしき物の事のたとひにかさやうなる事もいふなりしと思ひいつさては
2 かのおそろしと思聞ゆるあまりに心なとあしき御めのとやうの物やかうむかへ
3 給へしと聞てめさましかりてたはかりたる人もやあらんとけすなとをうたか
4 ひいまゝいりの心しらぬやあるととへはいとよはなれたりとてありならはぬ
5 人はこゝにてはかなき事もえせずいとてまいらむといひてなんみなそ
6 のいそくへき物ともなとりくしつゝかへりて侍にしとてもとよりある人
7 たにかたへはなくていと人すくなゝるおりになんありける侍従なとこそ曰ころ
8 の御氣しき思ひいて身をうしなひてはやなどなき入給しおりゝのありさま
9 かきをき給へる文をも見るになきかけにとかきすさひ給へる物のすゝりの
10 したにありけるを見つけて川のかたを見やりつゝひゝきのゝしる水のをとを

5ウ

1 聞にもうとましくかなしと思つゝさてうせ給けん人をとかくいひさはきて
2 いづくにもくゝいかなるかたになり給にけむとおほしうたかはんもいとおしき
3 事といひあはせてしのひたる事とても御心よりおこりてありし事ならず
4 おやにてなき後に聞給へりともいとやさしき程ならぬをありのまゝにきこ
5 えてかくいみしくおほつかなき事ともをさへかたゝ思まとひ給さまはすこ
6 しあきらめさせたてまつらんなくなり給へる人とてもからをきててもて
7 あつかふこそよのつねなれよつかぬ氣しきにて曰ころもへはさらにかくれあ
8 らしなをきこえていまは世のきこえをたにつくるはんとかたらひてしの
9 ひてありしさまを聞ゆるにいふ人もきえいりえいひやらす聞こゝ地
10 もまとひつゝさはこのいとあらましと思ふかはになかれうせ給にけりとお

6才

1 もふにいとゝ我もおちいりぬへきこゝ地しておはしましにけんかたをたつねて
2 からをたにはかくしくおさめむとのたまへはさらににのかひ侍らしゆくゑ
3 もしらぬ大海のはらにこそおはしましにけめさる物から人のいひつらん事はいと
4 聞にくしと聞ゆればとさまかくさまに思ふにむねのせきのほるこゝちしてい
5 かにもくすへきかたもおほえたまはぬを此人々ふたりしてくるまよせさせて
6 おましとも氣ちかうもてつかひ給し御てうともみななからぬきをき給へる御
7 ふすまなどやうの物をとりいれてめのとこのたいとくそれかをちのあさり
8 そのてしのむつまじきなともとよりしりたる老ほうしなと御いみにこもるへき
9 かきりして人のなくなりたるけはひにまねひていたしたつるをめのとはゝ
10 君はいといみしくゆゝしとふしまろふたいふうとねりなとおとしきこえし物ともゝ

6ウ

1 まいりて御さうそうの事は殿にことのよしも申させ給て曰さたらいかめしう
2 こそつかうまつらめといひけれとことさらこよひすくすまいとしのひてと思ふ
3 やうあれはなん此くるまをむかひの山のまへなるはらにやりて人もちかうよせすの
4 あないしりたるほうしのかきりしてやかすいとはかなくてけふりははてぬぬ中人
5 とものは中々かゝる事をことくしくしなしこといみなとふかくする物なりければいとあやしう
6 れいのさほうなとあることしもしらすけすゝしくあへなくてせられぬる事かなと
7 そしりければかたへおはする人はことさらにかくなん京の人はし給なとそさまゝになん

8 やすからすいひけるかゝる人ともいふ思ふ事たにつゝましきをまして物のきこえ
9 かくれなき世中に大將殿わたりにもなくうせ給にけりときかせたまはゝ
10 かならずおほえしうたかふ事もあらんを宮はたおなし御なからひにてさる人の

7才

1 おはしおはせずしはしこそしのふともおほさめつゐにかくれあらしまた
2 さためて宮をしもうたかひきこえたまはしいかなる人かゐてかくし
3 けんなどとおほしよせんかしき給て後の御すくせはいと氣たかくお
4 はせし人のけになき影にいみしきことをやうたかはれたまはんとおもへは
5 こゝのうちなるしも人ともにもけさのあはたゝしかりつるまとひにけしき
6 も見聞つるにはくちかためあないしらぬにはきかせしなとそたばかりけるなから
7 へては誰にもしつやかにありしさまをもきこえてんたゝいまはかなしき
8 さめぬへき事ふと人つてにきこしめさんはなをいゝおしかるへき事
9 なるへしと此人ふたりそふかく心の鬼そひたれはもてかくしける大將殿は
10 入道の宮のなやみ給ければ石山にこもり給てさはき給ころなりけりさて

7ウ

1 いとゝかしこをはおほつかかうおほしけれとはかゝしうさなむといふ人はなかりければ
2 かゝるいみしき事にもまつ御つかひのなきを人めも心うしと思ふにみさうの
3 人なんまいりてしかゝと申させければあさましきこゝちし給て御つかひ又の
4 その日またつとめてまいりたりいみしき事は聞まゝにみつから物すへきに
5 かなやみ給御事によりつゝみしてかゝるところに日をかきりてこもりたれば
6 なんよへのことはなとかこゝにせうそこして日をのへてもさる事はする物を
7 いとかるかなるさまにていそきせられにけるとてもかくてもおなし
8 いひかひなさなれととちめの事をしも山かつのそしりさへおふなん
9 こゝのためもからきなとかのむつまじき大藏大輔してのたまへり御つかひの
10 きたるにつけてもいとゝいみしきにきこえむかたなき事ともなればたゝ涙に

8才

1 おほゝれたるはかりをかことにてはかゝしうも出やらすなりぬなをいとあへなく
2 いみしと聞給にも心うかりけるところかな鬼なとやすむらんなどていま
3 まてさるところにすへたりつらんおもはすなるすちのまきれあるやうなり
4 しもかくはなちをきたるに心やすくて人もいひをかし給なりけんかしと
5 思ふにもわかつたゆくよつかぬ心のみくやしく御むねいたくおほえ給なや
6 ませ給あたりにかゝる事おほしみたるゝもうたてあれは京におはしぬ宮の御
7 かたにもわたりたまはすことゝしき程にも侍らねとゆゝしき事をちかう
8 聞侍れは心のみたれ侍程もいまゝしうてなときこえ給てつきせずはかな
9 くいみしき世をなけき給ありしさまたちいとあいきやうつきおかし
10 かりしけはひなどのいみしく恋しくかなしければうつゝの世にはなとかくしも

8ウ

1 思ひいれすのとかにてすくしけんたゝいまはさらに思しつめんかたなきまゝに
2 くやしき事の数しらすかゝる事のすちにつけていみしう物すへきすくせ
3 なりけりさまことに心さしたりし身の思のほかにかくれい人にてなからふるを仏など
4 のにくしと見給にや人の心をおこさせむとて仏のし給はうへんはしひをもかくして
5 いまやうにこそはあなれと思つゝけ給つゝをこなひをのみし給かの宮はたまして二
6 三日は物もおほえたまはすうつし心もなきさまにていかなる御物のけならんなどさはく

7 にやうく涙つくし給ておほししつまるにしもそありしさまはかなしういみしく
 8 思ひ出られ給ける人にはたゞ御やまひのをもきさまをのみ見せてかくすそなる
 9 いやめのけしきしらせしとかしこくもてかくすとおほしけれとをのつからいとしるかり
 10 ければいかなる事にかくおほしまとひ御いのちもあやうきましてつみ給ふらんといふ

9才

1 人もありければかの殿にもいとよく此御けしきを聞給にされはよなをよそのふみかよはし
 2 のみにはあらぬなりけりと見給てはかならずさおほしぬへかりし人そかしなからへ
 3 ましかはたゝなるよりそ我ためにをこなる事も出きなましとおほすになんこかるゝ
 4 むねもすこしさむるこゝ地し給ける宮の御とふらひに日々にまいりたまはぬ人なく世の
 5 さはきとなれることゝしききはならぬ思にこもりぬてまいらさむもひかみたる
 6 へしとおほしまいり給そのころ式部のきやうの宮と聞ゆるもうせ給にければおほん
 7 をちのふくにてうすにひなるも心のうちにあはれに思よそへられてつきゝしく見ゆす
 8 こしおもやせていとゝなまめかしき事まさり給へり人々まかり出てしめやかなる夕暮也
 9 宮ふししつみてはかなき御こゝちなれはうとき人にこそあひたまはねみすのうち
 10 にもれいり給人にはたいめんしたまはすもあらず見えたまはんもあひなくつゝ

9ウ

1 まし見給につけてもいとゝ涙のまつせきかたきをおほせと思しつめておとろくゝ
 2 しきこゝちにも侍らぬをみる人つゝしむへきやまひのさまなりとのみ物す
 3 れは内にも宮にもおほしさはくかいとくるしくけに世中のつねなきをも
 4 心ほそく思侍とのたまひてをしのこひまきはし給ふとおほすなみたの
 5 やかてとゝこほらすふり■つれはいとはしたなけれとかならずしもいかてか
 6 心えむたゝしく心よはきとや見ゆらんとおほすもさもやたゝ此事をのみ
 7 おほすなりけりいつよりなりけん我をいかておかしと物わらひし給こゝ地に月
 8 ころおほしわたりつらんと思ふに此君はかなしさはわすれ給へるをこよなく
 9 もをろかなるかな物のせちにおほゆる時はいとかならぬ事につけてたに空とふ
 10 鳥のなきわたるにももよほされてこそかなしけれわかかくすそに心よはきに
 11 つけてももし心えたらむにさいふはかり物のあはれもしらぬ人にもあらず世中のつ

10才

1 ねなき事おしみておもへる人しもつねなきとら山しくも心にくゝもおほさるゝ物から
 2 まきはしらはあはれ也是にむかひたらむさまもおほしやるにかた見そかしとも
 3 打まもり給やうく世の物語きこえ給にいとこめてしもはあらしとおほして
 4 むかしより心にこめてしはしもきこえさせぬ事のこし侍かきりはいといふせく
 5 のみ思給へられしをいまは中々上らうになりて侍るまして御いとまなき御
 6 ありさまにて心のとかにおはしますおりも侍らねはとのぬなとにその事となくて
 7 すくし給をなんむかし御らんせし山里にはかなくてうせ侍にし人のおなしゆかり
 8 なる人おほえぬところに侍りと聞つけ侍て時々さても見つへくや思給えしに
 9 あひなく人のそしりも侍りぬへかりしおりなりしかは此あやしきをきてはへりしを
 10 おさくまかりて見る事もなく又かれもなにかしひとりをあひたのむ心もことに
 11 なくてやありけんとは見給へれとやむことなく物々しきすちに思給へはこそあらめ

10ウ

1 見るにはたことなるとかも侍らすなとして心やすくらうたしと思給へる人の
 2 いとはかなくてなくなり侍にけるなへて世のありさまを思給つゝけ侍にかなしくなん
 3 きこしめすやうも侍らんかしとていまそなき給是もいとかうは見たてまつらし

4 をこなりと思つれともこほれそめてはいととめかたし氣しきいさゝかみたり
 5 かほなるをあやしういとおしとおほせとつれなくといとあはれなることにこそ昨日
 6 ほのかに聞侍りきいかにとも聞ゆへく思侍なからわさと人にきかせたまはぬ事と
 7 聞侍しかはなんとつれなくのたまへといとたへかたければことすくなにておはしますさるかた
 8 にても御らんせさせはやと思給へりし人になんをのつからさもや侍けん宮にもまいり
 9 かよふへきゆへ侍しかはなとすこしつゝ氣しきはみてこゝ地れいならぬ程はすそなる
 10 このこともきこしめしいれ御みゝおとろくもあいなきことになんよくつゝしませおはし
 11 ませなときこえをきて出たまひぬいみしくもおほしたりつるかないとはかなかり

11才

1 けれとさすかにたかき人のすくせなりけりたうしのみかときさきのさはかりかしつき
 2 たてまつり給みこかほかたちよりはしめてたゝいまの世にはたくひおはせさめり見
 3 給人とてもなのめならすさまゝにつけてすほうと経まつりはらへとみちゝにさはくは此
 4 人をおほすゆかりの御こゝ地のあやまりにこそはありけれ我もかはかりの身にて時の
 5 みかとの御むすめをもちたてまつりながら此人のらうたくおほゆるかたはをとりやは
 6 しつるましていまはおほゆるには心をのとめんかたなくもあるかなさるはをこ也
 7 かゝらしと思しのふれとさまゝに思みたれて人木石にあらされはみななさけ
 8 ありと打すうしてふし給へり後のしたゝめなどいとはかなくしてけるを宮にも
 9 いかゝ聞給ふらんといとおしくあへなくはゝのなをゝしくてはらからあるはなとさやうの
 10 人はいふ事あんなるを思ひてことそくなりけんかしなと心つきなくおほすおほつかなさ
 11 もかきりなきをありけんさまも身つかまほしとおほせとなかこもりしたまはんも

11ウ

1 ひんなしいきといきて立かへらんも心くるしなとおほしわつらふ月たちてけふそわたら
 2 ましとおほし出給日の夕暮いと物あはれ也御まへちかきたち花の香のなつかしきに
 3 時鳥二こゑはかりなきてわたる宿にかよはゝとひとりこち給もあかねは北の宮
 4 にこゝにわたり給日なりければたち花をおらせてきこえたまふ

5 しのひねやきみもなくらんかひもなきしてのたをさにこゝろかよはゝ#

6 宮は女君の御さまのいよくにたるをあはれとおほして二ところなかめ給おりなりけり
 7 氣しきある文かなと見給て

8 たちはなのかほるあたりはほとゝきすこゝろしてこそなくへかりけれ#

9 わつらはしとかき給女君このことのけしきはみな見しり給てけりあはれにあさま

10 しきはかなさのさまゝにつけて心ふかきなかにわれひとり物おもひしらねはいまゝて

12才

1 なからふるにやそれもいつまでと心ほそくおほす宮もかくれなき物からへたて給もいと心
 2 くるしければありしさまなとすこしはとりなをしつゝかたりきこえ給かくし給しか
 3 つらかりしなとなきみわらひみきこえ給にもこと人よりはむつましくあはれ也ことゝ
 4 しくうるはしくてれいならぬ御事のさまもおとろきまとい給ところにては御とふらひの人
 5 しけくちゝおとゝせうとの君たちひまなきもいとうるさきにこゝはいと心やすく
 6 てなつかしくそおほされけるいと夢のやうにのみなをいかていとはかなりけること
 7 にはかとのみいふせければれいの人々めして右近をむかへにつかはすはゝ君もさらに
 8 此水の音けはひを聞に我もまるひいりぬへくかなしく心うきことのとまるへくも
 9 あらねはいとわひしうてかへり給にけりねんふつのそうともをたのもしき物にて
 10 いとかすかなるにいきたればことゝしくにはかに立めくりしとのぬ人ともゝ見

12ウ

1 とかめすあやにくにかきりのたひしもいれたてまつらすなりにしよと思ひ出るも
 2 いとおしさるましき事をおもほしこかるゝ事と見くるし見たてまつれとこゝに
 3 きてはおはしましゝ夜なくゝのありさまたかれたてまつり給て舟にのり給しけはひ
 4 のあてにうつくしかりし事などと思ひ出るに心つよき人なくあはれ也右近あいて
 5 いみしうなくもことほり也かくの給たまはせて御つかひになんまいりつるといへはいまさうに
 6 人もあやしといひおもはんもつゝましくまいりてもはかくゝしくきこしめしあきらむはか
 7 り物きこえさすへきこゝ地もしはへらすこの御いみはてゝあからさまに物になんと人
 8 にいひなさんすこしにつかはしかりぬへき程になしてこそ心よりほかのいのち
 9 侍らはいさゝか思しつまらむおりになんおほせ事なくともまいりてけにいと夢の
 10 やうなりし事ともゝかたりきこえまほしきといひてけふはうこくへくもあらすたいふ

13才

1 もなきてさらに此御中の事こまかにしりきこえさせ侍らすならたくひなき御心さ
 2 しを見たてまつり侍しかは君たちをもなにかはいそきてしもきこえうけたまはらんつ
 3 ゐには心よせつかうまつるへきあたりにこそと思給しをいふかひなくかなしき御事の
 4 程はわたくしの御心さしも中々ふかさまりてなんとかたらふわさと御くるまなどお
 5 ほしめくらしてたてまつれ給へるをむなしくてはいとくおしうなんいま一ところにても
 6 まいり給へといへはまして何事をかはきこえさせんさてもなを此御いみの程にはいか
 7 てかいましたまはぬかといへはなやませ給御ひゝきにさまゝの御つゝしみとも侍めれ
 8 といみあへさせ給ましき御けしきになんまたかくふかき御契りにてはこもらせ給
 9 てもこそおはしまさめ残りの日いくはくならずなを一ところまいり給へとせむれは
 10 侍従そありし御さまもいと恋しう思聞ゆるにいかならん世にかは見たてまつらんかゝる

13ウ

1 おりにと思なしてまいりけるくろききぬともきてひきつくろひたるかたちもいと
 2 きよけなりもはたゝいま我よりかみなる人なきに打たゆみて色もかへさり
 3 ければうす色なるをもたせてまいるおはせましかは此みちにそしのひて出たまは
 4 まし人しれす心よせきこえし物をなと思ふにもあはれ也みちすからなくゝなんき
 5 ける宮は此人まいれりときこしめすもあはれ也女君にはあまりうたてあはれは
 6 きこえたまはすしんでんにおはしましてわた殿におろし給へりありけんさまなどくは
 7 しうとはせ給に日ころおほしなけしさまそのよなき給しさまあやしきまで事
 8 すくなにおほゝとのみ物し給ていみしとおほす事をも人に打出給事はかたく物つゝみを
 9 のみし給しけにやのたまひをく事も侍らす夢にもかく心つゝきさまにおほし
 10 かくらむとは思給へすなん侍りしなとくはしう聞ゆれはましていといみしうさるへきにて

14才

1 ともかくもあらましよりもいかばかり物を思たちてさるつみにおほゝれけんとおほし
 2 やるに是を見つけてせきとめたらましかはとわきかへるこゝちし給へとかひなし
 3 御文をやきうしなひ給しなどになとてめをたて侍らさりけんなど夜一夜かたらい
 4 給にきこえあかすかの巻数にかきつけ給へりしはゝ君の返事などを聞ゆなにはか
 5 りの物とも御らんせさりし人もむつましくあはれにおほさるればわかもとにあれかし
 6 あなたももてはなるへくやはとのたまへはさふらはんにつけても物のみかなしからんを
 7 思給ふれはいま此御はてなとすくしてと聞ゆ又もまいれなと此人をさへあかす暁か
 8 へるにかの御れうにとてまうけさせ給けるくしのはこ一よろひ衣はこ一よろ
 9 いをくり物にせさせ給さまゝにせさせ給事はおほかりけれとおとろゝしかりぬへけ
 10 れはたゝ此人におほせたる程なりけりなに心もなくまいりてかゝる事とものあるを

14ウ

1 人はいかゝ見むすゝろにむつかしきわさかなと思わふれといかゝきこえかへさん右近
 2 とふたりしのひて見つゝつれゝなるまゝにこまかにいまめかしうしあつめたる事とも
 3 を見てもいみしうなくさうそくもいとうるはしうしあつめたる物ともなれはかゝる御
 4 ふくに是をはいかてかくさむなどもてわつらひける大將殿もなをいとおほつか
 5 きにおほしあまりておはしたりみちの程よりむかしかゝる思かけぬはてまで思ひ
 6 あつかひ此ゆかりにつけては物をのみ思ふよいとたうとくおはせしあたりに仏を
 7 しるへにて後の世をのみ契りしに心きたなきすゑのたかひめに思しらす
 8 なめりとそおほゆる右近めし出てありけんさまもはかゝしうきかすなをつきせず
 9 あさましうはかなければいみの残りもすくなくなりぬすくしてと思つれとしつめ
 10 あへす物しつる也いかなるこゝちにてかはかなくなり給にしととひ給にあま君などもけ

15才

1 しき見てければつゐに聞あはせたまはんを中々かくしても事たかひてきこえんに
 2 そこなはれぬへしあやしきことのすちにこそそらことも思めくらしつゝならひしかかく
 3 まめやかなる御けしきにさしむかひきこえてはかねてといはんかくいはんとまうけ
 4 しことはをもわつらはしうおほえければありしさまの事ともをきこえつあさましう
 5 おほしかけぬすちなるに物もとばかりものたまはすさらにあらしとおほゆるかな
 6 へての人の思ひいふ事をもこよなく事すくなにおほとかなりし人はいかてかさるおとろ
 7 おとろしき事は思立へきそいかなるさまに此ひとゝもてなしていふにかあらん御心も
 8 みたれまさり給へと宮もおほしなけきたるけしきとしるしこゝのありさまもしか
 9 つれなしつくりたるけはひはをのつから見えぬへきをかくおはしましたるにつけて
 10 もかなしくいみしき事をかみしもの人のつとひてなきさはくをと聞給へは御ともに

15ウ

1 くしてうせたる人やあるなをありけんさまをたしかにいへ我ををろかに
 2 思ひてそむき給事はよもあらしとなん思ふいかやうなるたちまちに
 3 いひしらぬ事ありてかさるわさはしたまはん我なんえしんすましきと
 4 のたまへはいとゝおしくされはよとわつらはしくてをのつからきこしめしけん
 5 もとよりおほすさまならておい出給へりし人のよはなれたる御すまゐの
 6 後はいつとなく物をのみおほすを侍きこえさせ給にもとよりの御身
 7 のなけきをさへなくさめ給つゝ心のとかなるさまにて時々も見たてまつら
 8 せ給ふへきやうにいつしかとのみことに出てはのたまはねとおほし
 9 わたるめりしをその御ほいかなふへきさまにうけたまはる事とも侍
 10 しにかくてさふらふ人ともゝうれしき事に思給へいそきかのつく

16才

1 は山もからうして心ゆきたる氣しきにてわたらせたまはんことをいとなみ
 2 思給へしよ心えぬさま御せうそこ侍けるに此とのゐつかうまつる物ともゝ女房
 3 たちらうかはしかなりなといましめおほせらるゝ事なと申て物のこゝろえす
 4 あらゝしきはぬ中人ともあやしきさまにとりなし聞ゆる事とも侍しをそのゝち
 5 ひさしう御せうそこなとも侍さりしに心うき身なりとのみいはけなかりし程より
 6 思しるを人数にいかて見なさんとのみよろつにあつかひ給はゝ君の中々なる
 7 この人わらはれになりてはいかに思なけかれむなと思ひけてなんつねになけき給
 8 しそのすちよりほかに何事をおもひ給へよるにたに侍らすなん鬼などのかくし
 9 聞ゆともいさゝか残るところも侍物をとてなくさまもいみしければいかなる

10 ことにかとまきれつる御心もうせてせきあえたまはす我は心に身をまかせす

16ウ

1 けんせうなるさまに持てなされたるありさまなれはおほつかなしと思ふおりも
2 いまちかくて人の心をくましくめやすきさまにもてなしてゆくすゑなかく
3 をと思のとめつゝすくしつるををろかに見なし給へらむこそ中々わくるかたあ
4 りけるとおほゆれはいまはかくたにいはいしとおもへと又人のきかはこそあらめ宮の御
5 ことよいつよりありそめけんさやうなるにつけてやいとかたはに人の心をまとはし
6 給宮なれはつねにあひ見たてまつらぬなけきに身をもうしなひ給つるとなん
7 思ふなをいへ我にはさらになかくしそとのたまへはたしかにこそは聞給てけれと
8 いとくおしくていと心うき事をきこしめしけるにこそは侍なれ右近もさふらはぬおり
9 も侍らぬ物をとなかめやすらひてをのつからきこしめしけん此宮のうへの御かた
10 にしのひてわたらせ給へりしをあさましく思かけぬ程にいりおはしましたり

17オ

1 しかといみしき事をきこえさせ侍て出させ給にきそれにおち給てかのあや
2 しく侍しところにはわたらせ給へりし也そのゝち音にもきこえしとおほしてやみ
3 にしをいかてかきかせ給けんたゝ此きさらきはかりより音つれきこえ給へし
4 御文はいとたひく侍しかと御らんしいるゝ事も侍らさりきいとかたしけなく
5 うたであるやうになとそ右近なときこえさせしかは一たひ二たひ
6 やきこえさせ給けんそれよりほかの事は見給へすときこえさするにそい
7 はんかししめてとはんもいとおしくてつくくゝと打なかつゝ宮をめぐらしくあはれ
8 と思きこえてもわかたをさすかにをろかにおもはさりける程にいとあきら
9 むるところなくはかなけなりし心にて此水のちかきをたよりにて思よるなり
10 けんかしわかこゝにさしはなちすへさらましかはいみしくうき世にふともいかてか

17ウ

1 かならずふかき谷をもとめ出ましといみしうき水の契りかなと此川の
2 うとましうおほさるゝ事いとふかし年ころあはれと思そめたりしかたにてあらし山
3 路をゆきかへりしもいまは又心うくて此里の名をたにえきくましきこゝ地し給け
4 る宮のうへのたまひはしめし人かたとつけそめたりしさへゆゝうたゝわかあや
5 まちにうしなひつる人なりと思もてゆくにははゝのなをかるひたる程にて後の
6 うしろみもいとあやしくこそきてしなしけるなめりと心ゆかす思つるをくはしう
7 聞給になんいかに思ふらむさはかりの人のこにてはいとめてたかりし人のひたる事は
8 かならずしもえしらてわかゆかりにいかなる事のありけるならむとぞ思ふなるらんかし
9 などよろつにいとおしくおほすけからひとふ事はあるましけれと御ともの人めもあれは
10 のほりたまはて御くるまのしちをめてつま戸のまへにてお給けるも見るしければ

18オ

1 いとしけき木のしたに苔をおましにてとはかりぬ給へりいまはこゝをきて見むことも
2 こゝろうかるへしとのみ見めくらしたまひて
3 われも又うきふるさとをかれはてはたれやとり木の
4 かけをしのはんあさりいまはりしになりけりめして此ほうしのことをきてさせ給ねんふつ
5 そうのかすそへなとせさせ給つみいとふかゝなるにさとおほせはかるむへき事をすすへき七日
6 七日に経仏くやうすへきよしなどこまかにのたまひていとくらうなりぬるにかへり給もあら
7 ましかはこよひかへらましやはとのみなんあま君に御せうこそせさせ給つれといともく
8 ゆゝしき身のみ思給へしつみていとゝ物も思給へられすほれ侍てなんうつふし

9 ふして侍ときこえて出こねはしめても立よりたまはすみちすからとくむかへとりた
10 まはすなりにけることくやしう水の音の聞ゆるかきりは心のみさはき給てから

18ウ

1 をたにたつねすあさましくてもやみぬるかななるさまにていつれのそこ
2 のうつせにましりにけんなどやるかたなくおほすかのは、君は京にこうむへき
3 むすめのことによりつゝしみさはけはれいの家にもえいかすゝろ
4 なる旅ぬのみして思なくさむおりもなきにまた是もいかならんとおもへと
5 たいらかにうみてけりゆゝしければえよらす残りの人々のうへもおほえす
6 ほれまとひてすすに大將殿より御つかひしのひてあり物おほえぬこゝち
7 にもいとうれしくあはれ也文あさましき事はまつきこえんと思給へしを心も
8 のとまらすめもくらきこゝ地してまいていかなるやみにかまとはれ給ふらんと
9 その程をすくしつるにはかなくて日ころもへにけることをなんよのつねなさも
10 いとゝ思のとめんかたなくのみ侍を思のほかにもなからへはすきにし名残とは
11 かならすさるへき事にもたつね給へなとこまかにかき給て御つかひにはかの大蔵

19オ

1 大輔をそ給へりける心のかによろつを思つゝ年ころにさへなりにける程かなら
2 すしも心さしあるやうには見たまはさりけんされといまより後なに事に
3 つけてもかならすわすれきこえしまたさやうにを人しれす思をき給へおさな
4 き人ともゝあまたあなるをおほやけにつかうまつらむにもかならすうしろみおもふ
5 へくなんなどこと葉にものたまへりいたくしもいむましきけからひなれはふかうも
6 ふれ侍らすなといひなしてせめてよひすへたり御返なくゝかくいみしきことにしなれ
7 侍らぬいのちを心うく思ふ給へなけき侍にかゝるおほせ事見侍りけるにやとなん
8 年ころは心ほそきありさまを見給へなからそれは数ならぬ身のをこたりに思たまへ
9 なしつゝかたしけなき御一ことをゆくすゑなかくたのみきこえ侍しにいふかひなく見
10 給へはてゝは里の契りもいと心うかなしくなんさまゝにうれしきおほせ事にいのち
11 のひ侍ていましはしなからへ侍らはなをたのみきこえ侍へきにこそと思給ふるにつけて

19ウ

1 もめのまへの涙に暮てえきこえさせやらすなんなどかきたり御つかひになへての
2 ろくなとは見くるしき程也あかぬこゝちもすへければかの君にたてまつらんと
3 心さしてもたりけるよきはむさいのおひたちのおかしきなどふくろにいれて
4 くるまにのる程是はむかしの人の御心さしなりとてをくらせてけり殿に御らん
5 せさすれはいとすそろなるわさかなとのたまふこと葉には身つからあひ侍給て
6 いみしくなくゝよろつの事のたまひておさなき物とものことまておほせられたるか
7 いとはつかしう人になにゆへなどはしらせ侍らてあやしきさまともをもみなまいら
8 せ侍てさふらはせんとなん物し侍つると聞ゆけにことなる事なきゆかりむつひ
9 にそあるへけれとみかともささはかりの人のむすめたてまつらすやはあるそれに
10 さるへきにて時めかしおほさんをは人のそしるへき事はたゝ人はたあやしき

20オ

1 女よにふりにたるなとをもちぬるたくひおほかりかのかみのむすめなりけりと人の
2 いひなさんにもわかもてなしのそれにけかるへくありそめたらはこそあらめひとり
3 のこをいたつらになして思ふらんおやの心よなを此ゆかりこそおもたゝしかりけれと
4 思しるはかりようぬはなからす見すへき事とおほすかしこにはひたちのかみた
5 ちなからきておりしもかくてぬ給へる事なんとはらたつ年ころいつくになんおは

6 するなどありのまゝにしらせさりければはかなきさまにてそおはすらむと思ける
 7 を京になどむかへ給て後めいほくありてなとしらせむと思ける程にかゝれはいまは
 8 かくさむもあひなくてありしさまなくくかたる大将殿の御文もとり出て見すれば
 9 よき人かしこくして打かへしくいとめてたき御さいはひをすてうせ給にける
 10 人かなをのれもとの人にてまいりつかうまつれともちかくめしつかう事もなくいとけ

20ウ

1 たかくおもはする殿也わかき物ともの事おほせられたるはたのもしき事になん
 2 などよろこぶを見るにもましておはせましかはと思ふにふしまろひてなかる
 3 かみもいまなん打なきけるさるはおほせし世にはかゝるたくひの人しもたつね給ふ
 4 へきにしもあらずかしわかあやまちにてうしなひつるもいとおしなくさめむとお
 5 ほすよりなん人のそしりねんころにたつねしとおほしける四十九日のわさなど
 6 せさせ給にもいかなりけん事にかはとおほせはともかくてもつみうましき事なれ
 7 はいとしのひてかのりしの寺にてせさせ給ける六十そうのふせなとお
 8 ほきにをきてられたりは君もきめて事ともそへたり宮よりは右近かもと
 9 にしろかねのつほにこかね入て給へり人見とかむるはかりおほきなるわさはえし
 10 たまはす右近か心さしにてしたりければ心しらぬ人はいかてかくななどいひける
 11 殿の人ともむつまじきかきりあまた給へりあやしくをとせさりつる人の

21オ

1 そてをかくあつかはせ給ふ誰ならんといまおとろく人のみおほかるにひたちのかみ
 2 きてあるしかりをるなんあやしと人々見ける少将のこうませていかめしき事
 3 せさせんとまとひ家のうちになき物はすくなくもろこししらきのかさりをも
 4 しつへきにかきりあればいとあやしかりけり此御ほうしのしのひたるやうにおほし
 5 たれとけはひこよなきを見るにいきたらましかは我身をならふへくもあらぬ人
 6 の御すくせなりけりと思ふ宮のうへもす経したまひ七そうのまへの事せさせ給
 7 けりいまなんかゝる人ももたまへりけりとみかとまでもきこしめしてをろかにも
 8 あらさりける人を宮にかしこまりきこえてかくしをき給たりけるいとおしとおほし
 9 けるふたりのひとの御心のうちふりすかなしくあやにくなりし御思のさかりにかきた
 10 えてはいといみしけれとあたる御心はなくさむやなど心み給事もなをいふかひな
 11 き事をわすれかたよくおほすきさいの宮の御きやうふくの程はなをかくておはしますに

21ウ

1 二の宮なん式部卿になり給にけるをもくしうてつねにしもまいりたまはす此宮は
 2 さうくしく物あはれなるまゝに一品の宮の御かたをなくさめところにし給よき人の
 3 かたちをもえまほに見たまはぬ残りおほかり大将殿のからうしていとしのひ
 4 てかたらはせ給こ宰相の君といふ人のいふ人のかたちなどもきよけ也心はせ
 5 あるかたの人とおほされたりおなしことをかきならすつま音はち音も人にはま
 6 さり文をかき物いひたるもよしあるふしをなんそへたりける此宮にも年ころいと
 7 いたき物にし給てれいのいひやふり給へとなどかさしもめつらしけなくはあらんと心つよく
 8 ねたきさまなるをまめ人はすこし人よりことなりとおほすになんありけるかく物
 9 おほしたるさまも見しりければしのひあまりて
 10 あはれしるころは人にをくれねとかすならぬ身に

22オ

1 きえつゝそふるかへたらはとゆへあるかほにかきたり物あはれなる夕暮しめ
 2 やかなる程をいとよくをしはかりていひたるもにくからず

3 つねなしとこゝら世を見るうき身たに人のしるまで

4 なけきやはする此よるこひあはれなりしおりからもいとゝなんなといひにたち
5 より給へりいとはつかしけに物々しけにてなへてかやうになともならしたまは
6 ぬ人からもやむことなきにいと物はかなきすまぬなりかしつほねなといひて
7 せはく程なきやり戸くちによりぬ給へるをかたはらいたくおほゆれと
8 さすかにあまりひけしてもあらていとよき程に物なとも聞ゆ見し
9 人よりも是は心にくきけそひてもあるかななとてかく出たちけん
10 さる物にて我もおいたらまし物をとおほす人しれぬすちはかけ

22ウ

1 ても見せたまはすはちすの花のさかりに御はかうせらる六条
2 院の御ためむらさきのうへなとみなおほしわけつゝ御経仏なとくやう
3 せさせ給ていかめしくたうとくなんありける五くわんの日なといみし
4 きみものなりければこなたかなた女房につきてまいりて物見る人おほ
5 かりけりいつかといふあさゝにはてゝみたうのかさりととりさけ御しつらひあらたむ
6 るに北のひさしもさうしとはなちたりしかはみないりたちてつくるふほと
7 西のわた殿にひめ宮おはしましけりものきゝこうして女房ものをのゝ
8 つほねにありつゝ御まへはいと人すくななる夕くれに大将殿なをしきかへて
9 けふまかつるそうの中にならずけふのたまふへき事あるによりつり殿のかた
10 におはしたるにみなまかてぬれは池のかたにすゝみ給て人すくななるに此わた
11 殿はかくいふさいしやうの君なとかりそめにきちやうなどはかりたてゝ打やす

23オ

1 むうへつほねにしたりこゝにやあらむ人のきぬの音すとおほしてめんたうのかた
2 のさうしのほそくあきたるよりやをら見給へはれいさやうの人のゐたるけはひ
3 にはにすはなくしくしつらひたれは中々きちやうとものたてちかへたるあはひより
4 見とをされてあらは也ひをものふたにきてわるとてさはくひとゝ
5 おとな三人はかりわらははといたりからきぬともかさみもきすみな打とけたれ
6 は御まへとは見たまはぬにしるきうす物の御そき給へる人のてにひをもち
7 なからかくあらそふをすこしゑみ給へる御かほいはんかたなくうつくしけ也いとあつさ
8 のたへかたき日なればこちたき御くしのくるしうおほさるゝにやあらんすこし
9 こなたになひかしてひかれたる程たとへむ物なしこゝらよき人を見あつむれ
10 とにるへくもあらさりけりとおほゆ御まへなる人はまことにつちなとのこゝちそするを
11 思しつめて見ればきなるすゝしのひとへうす色なるもきたる人の扇うち

23ウ

1 あつかひたるなとようぬあらむはやとふと見えてなかゝ物にあつかひにいとくる
2 しけ也たゝさなから見給へかしとてわらひたるまみあひきやうつきたりこゑ
3 きくにそこの心さしの人とはしりぬる心つよくわりててことにもたりかしらに
4 打をきむねにさしあてなとさまあしうする人もあるへしこと人はかみにつゝみて
5 御まへにもかくてまいらせたれといとうつくしき御てをさしやり給てのこはせ
6 給いなもたらししつくむつかしとのたまふ御こゑいとほのかにきくもかきりもなく
7 うれしまたいとちいさくおほしましゝ程に我も物の心もしらて見たてまつりし
8 ときめてたのちこの御さまやと見たてまつりしそのゝちたえて此御けはひをたに
9 きかさりつる物をいかなる神仏のかゝるおり見せ給つるならんれいのやすからす物おも
10 はせんするにやあらむとかつはしつ心なくてまもりたてたる程にこなたのたいの北

24才

1 おもてにすみけるけしう女房のこの御さうしはとみのことにてあけなからをりにける
 2 を思ひ出て人もこそ見つけてさばかりと思ければまどひいる此なをし
 3 すかたを見つくるにたれならんと思はきてをのかさま見えん事もしらすのこ
 4 よりたゞきにくれはふとたちざりて誰とも見えしきくしきやうなりと
 5 思ひてかくれたまひぬこのおもとはいみしきわさかなみきちやうをさへあらはに
 6 ひきなしてけるよ右のおほい殿の君たちならんうとき人はたこゝまでくへき
 7 にもあらず物のきこえあらはたれかさうしあけたりしとかならず出きなん
 8 ひとへもはかまもすゝしなめりと見えつる人の御すかたなれはえ人も聞つけ
 9 たまはぬならむかしと思こうしてをりかのひととはやうくひしりになりし心を
 10 一ふしたかへそめてさまく也物おもふ人ともなるかなそのかみ世をそむきなましかは

24ウ

1 いまはふかき山にすみはてゝかく心みたれましやはなとおほしつゝくるもやす
 2 からすなとて年ころ見たてまつらはやとおもへらむなかゝくるしうかひなかるへき
 3 わさにこそと思ふつとめておき給へる女宮の御かたちとおかしけなめるは是より
 4 かならずまさるへき事かはと見えなからさらにたまはすこそありけれあさましき
 5 まてあてにかほりえもいはさりし御さまかなかたへは思なしかおりからかとおほしていと
 6 あつしやはよりうすき御そたてまつれ女はれいならぬ物きたるこそ時々につけ
 7 ておかしけれとてあなたにまいりて大式にうす物のひとへの御そぬひてまいれと
 8 いへとのたまふ御まへなる人は此御かたちのいみしきさかりにおはしますをもてはやし
 9 きこえ給とおかしうおもへりれのねんすし給わか御かたにおはしましなとしてひる
 10 つかたわたり給へはのたまへる御そみきちやうに打かけたりなそこはたてまつらぬ
 11 人おほく見る時なんすきたる物きるははうそくにおほゆるたゞいまはあえ侍なんとて

25才

1 てつからきせたてまつり給御はかまも昨日のおなしくれなぬ御くしのおほさ
 2 すそなとはをとれたまはねとなをさまくなるにやにるへくもあらずひめて人々
 3 にわらせ給とりてたてまつりなとし給心のうちもおかし氣にかきて恋しき人
 4 見る人はなくやはありけるまして是はなくさめんににけなからぬおほん程そかしとおもへ
 5 と昨日かやうにてわれましりゐ心にまかせて見たてまつらましかはとおほゆるに心
 6 にもあらず打なけかれぬ一品の宮に御文たてまつり給やときこえ給へは内にありし時
 7 うへのさのたまひしかはきこえしかとひさしうさもあらずとのたまふたゞ人にらせ給
 8 にとりてかれよりもきこえさせたまはぬにこそは心うるなれいま大宮のおまへ
 9 にて恨きこえさせ給とけいせんととのたまふいかゝ恨きこえんうたてとのたまへはけす
 10 になりたりとておほしおとすなめりと見れはおとろかしきこえぬとこそはきこえめと
 11 のたまふその日はくらして又のあしたに大宮にまいり給れいの宮もおはしけりちやう

25ウ

1 しにふかくそめたるうす物のひとへをこまやかなるなをしにき給へるとこのましけ也
 2 女の御身なりのめてたかりしにもをとらすろくきよらにてなをありしよりはおも
 3 やせ給へるいと見るかひありおほえ給へりと見るにもまつ恋しきをいとあるましき事としつ
 4 むるそたゞなりしよりはくるしき氣をいとゝおほくもたせてまいり給へりける女房
 5 してあなたにまいらせ給てもわたらせたまひぬ大將殿もちかくまいりより給て
 6 御はかうのたうとく侍し事にしへの御ことすこしきこえつゝ残りたる氣み
 7 給つてに此里に物し給みこの雲のうへはなれて思くし給へるこそいとおしう見

8 給ふれひめ君の御かたより御せうそこも侍らぬをかくしなさまり給へるにおほし
 9 すてさせ給へるやうに思ひて心ゆかぬけしきのみ侍をかやうの物時々物せさせ
 10 たまはなんなにかしかおろしてもてまからむはた見るかひも侍らしかしのたまへは
 11 あやしくなとてかすてきこえたまはん内にてはちかかりしにつきて時々もきこえかよひ

26才

1 給めりしをところ／＼になり給しおりにとたえ給へるにこそあらめいまそゝのかしきこえん
 2 それよりもなとかはときこえ給かれよりはいかてかはもとよりかすまへたまはさらむをも
 3 かくしたしくてさふらふへきゆかりによせておほしめしかすまへさせたまはんをこそうれ
 4 しくは侍へけれましてさもきこえなれ給にけんをいますてさせたまはんはからき事に
 5 侍りとけいせさせ給をすきはみたるけしきあるかとおほしかけさりけりたち出て
 6 一夜の心さしの人にあはんありしわた殿もなくさめにみんかしとおほして御まへをあゆ
 7 みわたりて西さまにおもはするをみすのうちの人は心ことによろぬすけにいとさま
 8 よくかきりなきもてなしにてわた殿のかたは右のおほい殿の君たちなどといて物いふ
 9 けはひすれはつま戸のまへに給て大かたにはまいりなから此御かたのけさんに入事の侍
 10 れはいとおほえなくおきなひてにたるこゝち侍をいまよりはと思をこし侍てなん
 11 ありつかすとわかき人ともそ思ふらんかしとおひの君たちのかたを見やり給いまより

26ウ

1 ならはせ給こそけにわかならせ給ならめなとはかなき事をいふ人々のけはひ
 2 もあやしうみやひやかにおかしき御かたのありさまにそあるその事となけれ
 3 と世中の物語なとしつゝしめやかにれいよりはぬ給へりひめ宮はあなたにわたらせ
 4 給にけり大宮大將のそなたにまいりつるはととひ給御ともにまいりたる大納言の君こ
 5 さいしやうの君に物したまはんとにこそは侍つめれと聞ゆれはまめ人のさすかに
 6 人に心とゝめて物語するこそこゝちをくれたらむ人はくるしけれ心の程もみゆ
 7 らむかしこ宰相などとはいとうしろやすしとのたまひて御はらからなれと
 8 此君をはなをはつかしく人もようゐなくて見えさらんかしとおほいたり
 9 人よりは心よせ給てつほねなどに立より給へし物語こまやかにし給て
 10 夜ふけて出給おり／＼も侍とれいのめなれたるすちには侍らぬにや宮を

27才

1 こそなげなくおはしますと思ひて御いらへをたにきこえす侍めれかたしけ
 2 なき事といひてわらへは宮もわらはせ給ていと見くるしき御さまを思ふこそ
 3 はおかしけれいかてかゝる御くせやめたてまつらんはつかしや此人々もとのたまふいとあ
 4 やしき事をこそ聞侍しか此大將のなくなし給てし人は宮の御二条の北のかたの御
 5 おとうとなりけりことはなるへしひたちのさきのかみなにかしかめはをはともはゝ
 6 ともいひ侍なるはいかなるにかその女君に宮こそいとしのひておはしましけれ
 7 大將殿や聞つけ給たりけんにはかにむかへたまはんとてまもりめそへなどこと／＼
 8 しくし給ける程に宮もいとしのひておはしましなからえいらせたまはすあやし
 9 きさまに御馬なからたゝせ給つゝそかへらせ給ける女も宮を思きこえさせける
 10 にやにはかにきえうせにけるを身なけたるなめりとてこそめのとなとやうの

27ウ

1 人ともはかなきまとひ侍けれと聞ゆ宮もいとあさましとおほしてたれか
 2 さる事はいふとよいとおしく心うき事かなさはかりめつらかならむ事はをのつから
 3 きこえありぬへきを大將もさやうにはいはて世中のはかなくいみしき事
 4 かくうちの宮のそうのいのちみしかゝりける事をこそいみしうかなしと

5 思ひてのたまひしかとのたまふいさやけすはたしかならぬ事をいひ侍る
 6 物をと思侍れとかしこに侍けるしもわらはのたゝ此ころ宰相か里に出まうて
 7 きてたしかなるやうにこそいひ侍れかくあやしうてうせ給へる事人にきか
 8 せしおとろくしくをそきやうなりとていみしくかくしける事ともやさてくは
 9 しくはきかてたてまつらぬにやありけんと言ゆればさらにかゝる事又まねふなど
 10 いはせよかゝるすちに御身をもてそこなひ御身をもかく心つきなき物に

28才

1 おもはれぬへきなめりといみしうおほいたりそのゝちひめ宮の御かたより二の
 2 宮に御せうそこありけり御てなどのいみしうつくしけなるを見るにもいとうれ
 3 しくかくてこそとく見るへかりけれとおほすあまたおかしき衆ともおほく大宮も
 4 たてまつらせ給へり大將殿打まさくりておかしきともあつめてまいらせ給せり川の
 5 大將のとを君の女一の宮思かけたる秋の夕暮に思わひて出ていきたるかたおか
 6 しうかきたるをいとおもひよせらるしかはかりおほくなひく人のあらましかはと
 7 おもふ身そくちおしき

8 荻の葉に露ふきむすふ秋かせもゆふへそわきて

9 身にはしみけるとかきてもそへまほしくおほせとさやうなる露はかりの氣しき
 10 まてももりたらいとわつらはしけなる世なればはかなきこともえほのめかし

28ウ

1 いつましかくよろつになにやかやと物を思のはてはむかしの人物したまはましかは
 2 いかにもくほかさまに心わけましやときのみかとの御むすめを給ふともえたと
 3 まつらさらまし又さおもふ人とありときこしめしなからかゝる事もなからましをなを
 4 心うく我心みたり給けるはしめかなと思あまりては又宮のうへにとりかゝりて恋しう
 5 もつらくもわりなき事をこかましきさてくやしき是に思わひてさしつきには
 6 あさましくてうせにし人のいと心おさなくとゝこほるところなかりけるかるくしさは
 7 思なからさすかにいみしと物を思ひいりけん程わけしきれいならすと心のおにゝなけ
 8 きしつみてあたりけんありさまを聞給しも思ひ出られつゝをもちかなるかたなくて
 9 たゝ心やすくらうたきかたらひ人にてあらせむと思しにはいとらうたかりし人を
 10 思もていけは宮をも思ひきこえし女をもうしとおもはしたゝわかありさまのよつか

29才

1 ぬをこたりそとなかめいり給時々おほかり心のとかにさまよくおはする人たにかゝるすち
 2 には身もくるしき事をのつからましるを宮はましてなくさめかね給つゝかのかたみに
 3 あかぬかなしさをものたまひ出へき人さへなきをたいの御かたはかりこそはあはれなど
 4 のたまへとふかくも見なれたまはさりける打つけのむつひなれはいとふかくしもいかてかは
 5 あらむまたおほすまゝに恋しやいみしやなどのたまはんにはかたはらいたければかしこに
 6 ありし侍従をそれいのむかへさせ給けるみな人ともはいきちりてめのとゝ此人ふたり
 7 なんととりわきておほしたりしもわすれかたくて侍従はよそ人なれとなをかたらひて
 8 ありふるによつかぬ川の音もうれしき瀬もやあるやとたのみし程こそなくさめけれ心
 9 うくいみしく物おそろしくのみおほえて京になんあやしきところに此ころきてあたり
 10 けるたつね出給てかくてさふらへとたまへと御心はさる物にて人々のいはん事もさる

29ウ

1 すちのことましりぬるあたりは聞にくき事もあらむとおもへはうけひききこえすき
 2 さいの宮にまいらむとなんおもむけたれはいとよか也さて人しれすおほしつかはむと
 3 のたまはせけり心ほそくよるへなきもなくさむやとてしたるよりもとめてまいりぬき

4 たなけなくてよろしきけらうなりとゆるして人もそしらす大將殿もつねに
 5 まいり給を見るたひことに物のみあはれ也いとやむことなき物のひめ君のみまいり
 6 つとひたる宮と人もいふをやうくめとめて見れと見たてまつりし人ににたるは
 7 なかりけりと思ありく此春うせ給ぬる式部卿の宮の御むすめをまはの北の
 8 かたことにあひおもはてせうと右馬のかみにて人からもことなるへき心かけたるを
 9 いとおしうなども思立てさるへきさまになん契るときこしめすたよりありていと
 10 おしうち宮のいみじくかしつき給ける女君をいたつらなるやうにもてなさん事など

30才

1 のたまはせければいと心ほそくのみ思なけき給ありさまにてなつかしうかくたつね
 2 のたまはするをなと御せうとの侍従もいひて此ころむかへとらせ給てけりひ
 3 め宮御くにていとよなからぬ御程の人なれはやむ事なく心ことにてさふらひ給
 4 かきりあれば宮の君など打いひてもはかりひきかけ給ふそいとあはれなりける
 5 兵部卿の宮この君はかりや恋しき人に思よそへつへきさましたらむちみ
 6 こははらからそかしなとれいの御心は人を恋給につけても人ゆかしき御くせや
 7 まていつしかと御心かけ給てけり大將もとかしきまでもあるわさかなきのふ
 8 けふといふはかり春宮にやなどおほし我にもけしきはませ給きかしかくはか
 9 なき世のおとろへを見るには水のそこに身をしつめてももとかしからぬわさ
 10 にこそなと思つ人よりは心よせきこえ給へり此院におはしますをはうち

30ウ

1 よりもひろくおもしろくすみよき物にしてつねにしもさふらはぬひと
 2 ともみな打とけすみつはるくとおほかるたいともらうわた殿に
 3 みちたり右大將殿むかしの御氣はひにもをとらすへてかきりもなく
 4 いとなみつかうまつり給いかめかしうなりにたる御そうなれは中々にし
 5 へよりもいまめかしき事はまさりてさえなんありける此宮れいの御心
 6 ならは月ころの程にいかなるすき事ともをしてたまはましこよなく
 7 しつまり給て人めにはすこしおいなをり給かなと見ゆるを此ころそ又宮
 8 の君に本上あらはれてかつらひありき給けるすしくなりぬとて宮うち
 9 にまいらせ給なんとすれば秋のさかり紅葉のころを見さらんこそなとわかき
 10 人々はくちおしかりてみなまいりつとひたるころ也水になれ月をめて

31才

1 御あそひたえすつねよりもいまめかしければ此宮そかゝるすちはいとこよな
 2 くもてはやし給あさ夕めなれてもなをいまみむはつ花のさまし給へるを大將
 3 の君はいとさしもいりたちなとしたまはぬ程にてはつかしう心ゆるひなき物にみな思
 4 たりれいのふたところまいり給て御まへにおはする程にかの侍従は物よりのそき
 5 たてまつるにいつかたにもくよりてめてたき御すくせ見えたるさまにて世にそ
 6 おはせましかしあさましくはかなく心うかりける御心かなと人にはそのわたりのこと
 7 かけてしりかほにもいはぬ事なれは心一にあかすむねいたく思宮は内の御物語
 8 などこまやかにきこえさせ給へはいま一ところはたち給見つけられたてまつら
 9 ししはし御はてをもすくさす心あさしと心あさしと見えたとまつらしとおもへは
 10 かくれぬひんかしのわた殿もあきあひたる戸くちに人々あまたゐて物語など

31ウ

1 しのひやかにするところにおはしてなにかしをそ女房はむつましとおほすへきや
 2 女たにかく心やすくはよもあらしかしさすかにさるへからむ事ををしへぬへくも

3 ありやうく見しり給へるめはいとなんうれしきとのたまへはいといらへにくのみ思ふ
 4 中に弁のおもととてなれたるおとなそむつましく思聞ゆへきゆへなき人の
 5 はちきこえ侍らぬにや物はさこそは中々侍めれかならずそのゆへたつねて打
 6 とけ御らんせらるゝにしも侍らねとかはかりおもなくつくりそめてけるみにおはざらん
 7 もかたはらいたくてなんと聞ゆれははつへきゆへあらしと思さため給てけるこそくち
 8 おしけれなどのたまひつゝ見れはからきぬはめきすへしをしやり打とけて手ならひ
 9 しけるなるへしすゝりのふたにすへて心もとなき花のすゑくおりもてあそひけり
 10 と見ゆかたへはきちやうのあるにすへりかくれあるは打そむきをしあけたる戸のかたに

32才

1 まきはしつゝぬたるかしらつきともゝおかしと見たし給てすゝりひきよせて
 2 をみなへしみたるゝ野へにましるともつゆのあた名を
 3 我にかけめやこゝろやすくはおほさてとたゝこのさうしにうしろしたる
 4 人に見せ給へは打みしろきなともせすのとやかにいとく
 5 花といへは名こそあたなれをみなへしなへての露に
 6 みたれやはするとかきたる手たゝかたそはなれとよしつきて大かた
 7 めやすければたれならんと見給いままうのほりけるみちにふたけ
 8 られてとゝこほりぬたるなるへしと見ゆ弁のおもとはいとけさや
 9 かなるおきなことにくゝ侍りとて
 10 旅ねしてなをこゝろみよをみなへしさかりの色に

32ウ

1 うつりうつらすさてのちさためきこえさせむといへは
 2 宿かさは一夜はねなんおほかたの花にうつるふ
 3 こゝろなりともとあれはなにかはつかしめさせ給大かたの野辺の
 4 さかしらをこそきこえさせすれといふはかなき事をたゝすこしのたまふ
 5 も人はのこりきかまほしくのみ思きこえたり心なしみちあけ侍なん
 6 よわきてもかの御物はちのゆへかならずありぬへきおりにそあめるとて
 7 たち出給へはをしなへてかくのこりなからむとおもひやり給こそ心うけれと
 8 おもへる人もありひんかしかうらんにをしかりて夕かけになるまゝに花の
 9 ひもとく御まへの草むらを見わたし給物のみあはれなるに中についてはら
 10 わたしたゆるは秋の天といふ事をいとしのひやかにすんしつゝぬ給へりありつる

33才

1 きぬの音なひしるきけはひしても屋の御さうしよりとをりてあなたに出る
 2 なり宮のあゆみおはして是よりあなたにまいりつるはたそとひ給へはかの
 3 御かたの中將の君と聞ゆなりなをあやしのわさや誰にかとかりそめにも打おもふ
 4 人にやかてかくゆかしけなく聞ゆる名さしよといとおしく此宮にはみなめなれての
 5 みおほえたてまつるへかめるもくちおしおりたちてあなかなる御もてなしに
 6 女はさもこそまけたてまつらめわかさもくちおしう此御ゆかりにはねたく心
 7 うくのみあるかないかて此わたりにもめつらしからん人のれいの心いれてさはきたま
 8 はんをかたらひとりてわか思しやうにやすからすとたにもおもはせたてまつらん
 9 まことに心はせあらん人はわかかたにそよるへきやとされとかたい物かな人
 10 の心はとおもふにつけてたいの御かたのかの御ありさまをはふさはしからぬ物に

33ウ

1 おもひきこえていとひんなきむつひになりゆく大かたのおほえをくるし

2 とおもひなかなをさしはなちかたき物におほしりたるそありかたくあは
 3 れなりけるさやうなる心はせある人こゝらのうちにあらんやいりたちてふかく
 4 見ねはしらぬそかしねさめかちにつれゝなるをすこしはすぎもならはゝや
 5 などおもふにいまはなをつきなしいのにしのわたとのをありしにならひて
 6 わさとおはしたるもあやしめ宮よるはあなたにわたらせたまひければ
 7 人々月見るとてこのわたとのにうちとけて物かたりするほとなりけり
 8 さうのこといとなつかしうひきすさむつま音おかしう聞ゆ思ひかけ
 9 めによりおはしてなとかくねたましかほにかきならし給とのたまふに
 10 みなおとるかるへかめれとすこしあけたるすたれ打おろしなともせず

34才

1 おきあかりてにるへきこのかみや侍るへきといらふるこゑ中將の
 2 おもとゝかいひつるなりけりまるこそ御はゝかたのをちなれとはかなき事を
 3 のたまひてれいのあなたにおはしますへかめるにななにわさをかこの御
 4 里すみのほとにせさせ給なとあちきなくとひ給いつくにてもなに
 5 ことをかはたゝかやうにてこそはすくさせ給めれといふにおかしの御身の
 6 程やと思ふにすゝろなるなけきのうちわすれてしつるもあやしとおもひ
 7 よる人もこそとまきはしにさし出たるわこんをたゝさなからかきなら
 8 し給りちのしらへはあやしくおりにあふときくこゑなれは聞にくゝも
 9 あらねとひきはてたまはぬを中々なりと心いれたる人はきえかへり
 10 おもふわかゝ宮もと給ふへき人かはきさいはらと聞ゆはかりの

34ウ

1 へたてこそあれみかゝのおほしかしつきたるさまことゝならさり
 2 けるをなをこの御あたりはいとことなりけるこそあやしけれ
 3 あかしの浦はこゝろにくかりけるところかなとおもひつゝくる
 4 事ともにわかすくせはいとやむことなしかしましてならへてもたて
 5 まつらはとおもふそいとかたきや宮の君はこのにしのたいにそ
 6 御かたしたりけるわかき人々のけはひあまたして月めて
 7 あへりいてあはれこれも又おなし人そかしとおもひ出きこえて
 8 みこのむかしこゝろよせ給し物をといひなしてそなたへおはしぬ
 9 わらはのおかしきすかたにて二三人出てありきなどし
 10 けり見つけているさまともにかゝやかしこれそよのつねと

35才

1 おもふみなおもてのすみのまによりてうちこはつくり給へはす
 2 こしおとなひたる人いてきたり人しれぬ心よせなときこえ
 3 させ侍れは中々みな人きこえさせふるしつらん事をうめゝ
 4 しきさまにてまねふやうになり侍りまめやかになんことより
 5 ほかをもとめられ侍とのたまへは君にもいひつたへすさかしら
 6 たちていとおもほしかけさりし御ありさまにつけてもこ宮の
 7 おもひきこえさせ給ふへかりしことなと思給へられてなんかく
 8 のみおりゝきこえさせ給なる御しりうことをもよろこひき
 9 こえ給めるといふなみゝの人めきてこゝちななさまや物
 10 うけれともよりおほしすつましきすちよりもいまは

35ウ

1 ましてさるへきことに付けてもおもほしたつねなんうれしかる
 2 へきうとくしう人つてなどにてもてなさせたまはしえ
 3 こそとのたまひにけるにけにとおもひさはきてきみを
 4 ひきゆるかすへければまつもむかしのとのみなかめらるゝ
 5 にももとよりなどのたまふすちはまめやかにたのもしうこそ
 6 はと人つてともなくいひなし給へるこゑいとわかやかにあいきやう
 7 つきやさしきところそひたりたゝなへてのかゝるすみかの人と
 8 おもはゝいとおかしかるへきをたゝいまはいかてかはかりも人にこゑ
 9 きかすへき物そとならひ給けんとなまうしろめたしかたちも
 10 いとなまめかしからんかしと見まほしき氣はひのしたるをこの

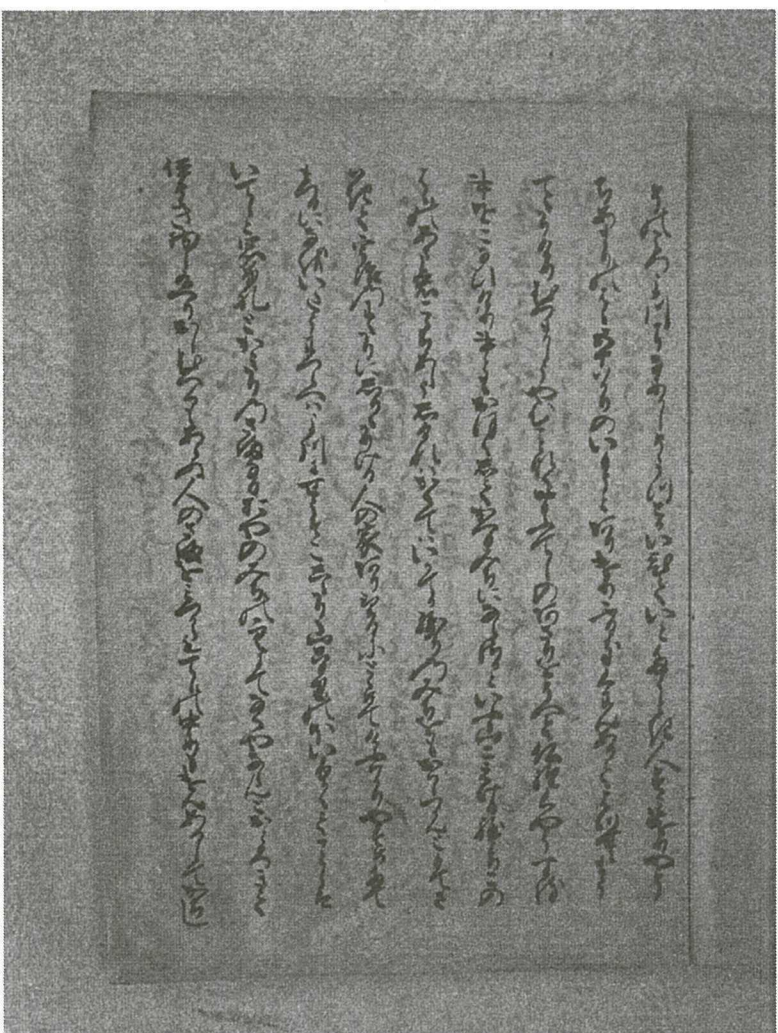
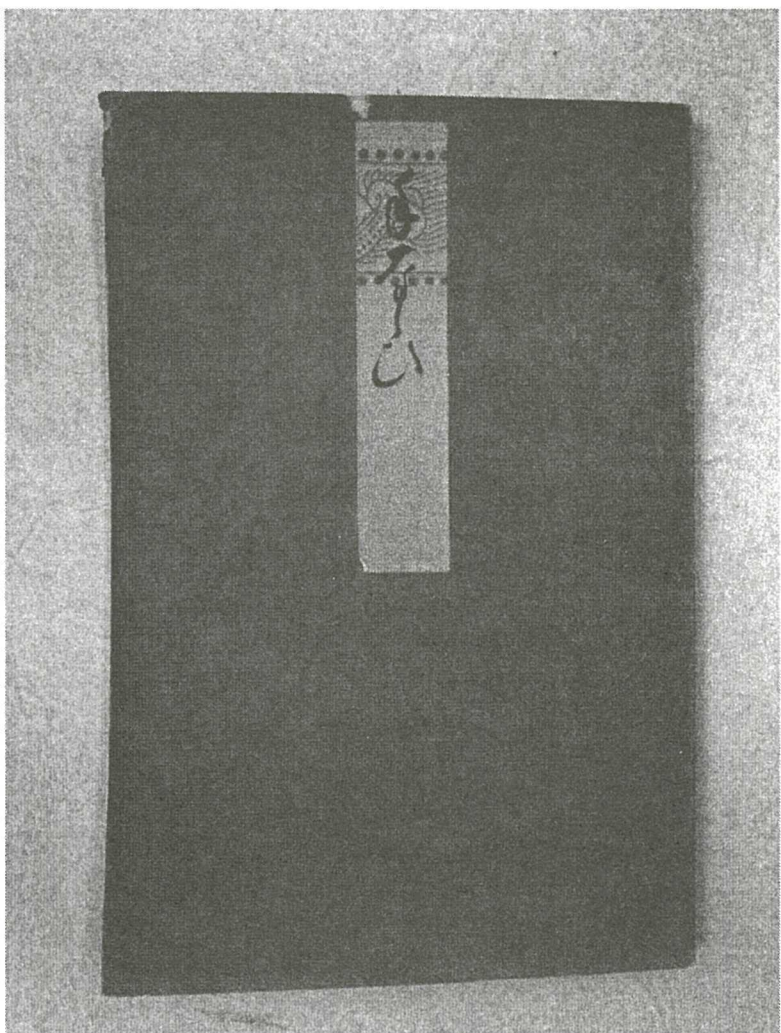
36才

1 人そ又れいのかの御心みたるへきつまなめるとおかしうもありかたの
 2 世やとおもひる給へりこれこそはかきりなき人のかしつきおほし
 3 たて給へるひめ君又かはかりそおほくはあるへきあやしかりける事
 4 はさるひしりの御あたりに山のふところよりいてきたる
 5 人々のかたほなるはなかりけるこそこのはかなしやかろく
 6 しやなとおもひなす人もかやうのうちみるけしきはいみしう
 7 こそおかしかりしかとなにことにつけてもたゝかのひとつ
 8 ゆかりをそおもひいて給けるあやしうつらかりける
 9 ちきりともをつくゝとおもひつゝけなかめたまうゆふくれ
 10 かけるふのものはかなけにとひちかふを

36ウ

1 ありと見て手にはとられず見れはまたゆく
 2 ゑもしらすきえしかけるふあるかなきかのと
 3 れいのひとりこちたまふとかや

手習



1才

1 そのころよ川になにかしうつとかいひていたうとき人すみけりやそ
 2 ちあまりのは、五十はかりのいもうとありけりふるきくわんありてはつせにまう
 3 てたりけりむつまじうやむことなくおもふてしのあきりをそへて仏経くやうする
 4 事をこなひけり事とおほくしてかへるみちにならさかといふ山こえける程よりこの
 5 は、のあま君こゝちあしうしければかくてはいかてか残りのみちをおはしつかんともてさ
 6 はきて宇治のわたりにしりたりける人の家ありけるにとゝめてけふばかりやすめたて
 7 まつるになをいたうわつらへはよ川にせうそこしたり山こもりのほいふかくてことしは
 8 いてしと思れとかきりのさまなるおやのみちの空にてなくやならんとおとろきて
 9 いそぎ物し給へりおしむへくもあらぬ人のさまをみつからもてしの中にもけんあるしてかちし

1ウ

1 さはくを家あるしきゝてみたけさうししけるをいたう老給へる人の
 2 をもくなやみ給ふはいかゝとうしろめたけに思ていひければさもいふへき
 3 ことゝいとおしう思ていとせはくむつかしうもあればやうゝゐてたてまつる
 4 になかゝみふたかりてれいすみ給ふかたはいむへかりければこすさく院
 5 の御りやうにて宇治の院といひしところ此わたりならんと思ひ出て院
 6 もり僧都しり給へりければ二三日やとらんといひにやり給へりければ
 7 はつせになんきのふみなまいりにけるとていとあやしき宿もりのおきなをよ
 8 ひてきてたりおはしまさははいたつらなる院のしんてんにこそ侍めれ物
 9 まうての人はつねにそやとり給といへはいとよかなりおほやけところなれと

2才

1 人もなく心やすきをとてみせにやり給此おきなれいもかくやとる人を見ならひ
 2 たりければおろそかなるしつらひなとてきたりまつそうつわたり給いといたく
 3 あれておそろしけなるところかなと見給て大とこたち経よめなどのたまふ此
 4 はつせにそひたりしあさりとおなしやうなる何事のあるにかつきゝしき程のけ
 5 らうほうしに火ともさせて人もよらぬうしろのかたにいきたりもりかと思ゆる
 6 木の下をうとましけのわたりやと見れたるにしろき物のひろこりたるそ
 7 見ゆるかれはなにそと立とまりて火をあかくなしてみれば物のゐたるすかた也
 8 きつねのへんくゑしたるかにくし見あらはさんとてひとりはいますこし
 9 あゆみよるいとひとりあなようなよからぬ物ならんといひてさやうの物しり

2ウ

1 そくへきいんをつくりつゝさすかになをまもるかしらのかみあらはふとりぬ
 2 へきこゝちするに此火ともしたる大とこはゝかりもなくあふなきさまにてちかく
 3 よりてそのさまをみればかみはなかくつやゝとしておほきなる木のねのいと
 4 あらゝしきによりゐていみしうなくめつらしき事にも侍かな僧都の御はうに
 5 御らんせさせたてまつらはやといへはけにあやしき事なりとてひとりはまうてゝ
 6 かゝる事なんと申すきつねの人にへんくゑするとはむかしよりきけとまた見ぬ物なり
 7 とてわさとおりておはすかのわたりたまはんとすることによりてけすともみなはかくしき
 8 はみつしところなどあるへかしき事ともをかゝるわたりにはいそく物なりければゐしつまりな
 と

9 したるにたゝ四五人してゝなる物を見るにかはる事もなしあやしうて時のうつるまて見ると
 て

3才

1 夜も明はてなん人かなにそと見あらはさんと心にさるへきしんこんをよみいんを
2 つくりてこゝろ見るにしろくや思ふらん是は人也さらにひさうのけしからぬ物にあらず
3 よりてとへなくなりたる人にはあらぬにこそあめれもししにたりける人をすてたり
4 けるかよみかへりたるかといふなにのさる人をか此院の内にすて侍らんとひまことに
5 人なりともきつねこたまやうの物のあさむきてとりもてきたるにこそ侍らめ

6 いとふひんにも侍けるかなけからひあるへきところこそ侍へめれといひてありつる
7 宿もりのをのこをよふ山ひこのこたるもいとおそろしあやしのさまにひたひをしあけて
8 出来たりこゝにはわかき女なとやすみ給かゝる事なんあるとて見すればきつねつかうまつる也
9 此木のもとになん時々あやしきわさんし侍をとゝしの秋もこゝに侍人の子のふたつはかりに

3ウ

1 侍しをとりてまうて来たりしかと見おとろかす侍きなとなたらかにいへはさてその
2 ちこはしにやしにしといへはいきて侍めりきつねはさこそ人ををひやかせと
3 ことにもあらぬやつといふさまいとなれたりかの夜ふかきまいり物のところを心を
4 よせたるなるへしそうつさらはさやうの物のしたるわさかなをよく見よとて此物
5 おちせぬほうしをよせたれば鬼か神かきつねかこたまかかはかりの天のしたのけんさのお
6 はしますにはえかくれたてまつらしなのり給へくゝと衣をとりてひけはかほをひきいれ
7 ていよくゝなくいてあなさかなのこたまのおにやまさにかくれなんやといひつゝかほをみん
8 とするにむかしありけん目はなまなかりけるめおにゝやあらんとむくつけきをたの
9 もしういかきさまを人に見せんと思てきぬをひきぬかせんとすれはうつふして

4オ

1 こゑたつはかりなくなにゝもまれあやしき事なへて世にあらしとて見てんと思ふに雨いたくふ
り
2 ぬへしかきのもとにこそいたさめといふそうつまことの人のかたち也そのいのちたえぬを見る
く
3 すてんこそいみしき事なれ池におよくいを山になく鹿をたに人にとらへられてしなん
4 とするを見てたすけさらんはいとかなしかるへし人のいのちひさしかるましき物なれと残りの
5 いのち一二日をおしますはあるへからす鬼にも神にもりやうせられ人にをくれ人にはかり
6 こたれても是よこさまのしにをすへき物にこそあめれ仏のかならずすくひ給ふへきき
7 は也なをこゝろみにしはしゆをのませなとしてたすけこゝろみんつゐにしなはいふかきり
8 にあらずとのたまひて此大とこしていたき入させ給ふをてしとまたいゝしきわさかないたう
9 わつらひ給人の御あたりによからぬ物を取りいれてけからひかならずいてきなんとすともかく
も

4ウ

1 あり又物のへんくゑにもあれめに見すゝいける人をかゝる雨に打うしなはせんはいみしき事
2 なれはなと心々にいふけすなとはいとさはかしく物をうたていひなす物なれは人さはかしから
ぬ
3 かくれのかたになんふせたりける御くるまよせており給程いたうくるしかり給とてのゝしる
4 すこしつまりて僧都ありつる人はいかゝなりぬるととひ給なよくゝとして物もいはすいきも
し
5 侍らすなにか物に氣とられにける人にこそといふをいもうとのあま君きゝ給て何事ぞと
6 とふしかゝの事をなん六十にあまるとしめつらかなる物を見給へつるとのたまう打きくまゝ
にをの
7 つからにて見し夢ありきいかやうなる人をまつそのさまみんとなきてのたまふたゝ此ひんかし

8 のやり戸になん侍るはや御らんせよといへはいそきゆきて見るに人もよりつかてそすて
9 をきたりけるいとわかうつくしけなる女のしろきあやのきぬ一かざねくれなぬのはかまそ

5才

1 きたりけるかはいみしくかうはしくてあてなるけはひにたりなしたゝわか恋かなしふむ
2 すめのかへりおはしたるなめりとてなくゝこたちをいたしていきいれさすいかなりつらむ
3 ともありさま見ぬはおそろしからていたき人ついでけるやうにもあらてさすかにめをほのか
4 に見あけたるに物のたまへやいかなる人かかくては物し給へるといへと物おほえぬさま也
5 ゆとりて手つかすくい入なとするにたゝよりはりにたえ入やうなりければ中々いみしき
6 わさかなとて此人なくなりぬへしかちし給へとけんさのあさりにいふされはこそあやしき
7 御物あつかひなりとはいへとかみなとの御ために経よみつゝいのるそうつもさしのそきていか
8 にそなにのしわざそとよくてうしてとへととのたまへといよはけにきえもていく
9 やうなれはいき侍らしすそなるけからひにこもりてわつらふへき事さすかに

5ウ

1 いとやむ事なき人にこそ侍めれしにはつともたゝにやはすてさせたまはん見くるしき
2 わさかなといひあへりあなかま人にきかすなわつらはしき事もそあるなとくちかため
3 つゝあま君はおやのわつらひ給よりも此人をいけはてゝ見まほしうおしみて打つけに
4 そひゐたりしらぬ人なれとみめのこよなうおかしければいたつらになさしと見るかきりあつ
5 かいさはきけりさすかとぎゝ目見あけなとしつゝ涙のつきせすなかるゝをあな心うやいみ
6 しくかなしとおもふ人のかはりに仏のみちひき給へると思きこゆるをかひなくなり
7 たまはゝ中々なる事をやおもはんさるへき契りにてこそかく見たてまつらめなをいさゝか
8 物のたまへといひつゝくれとからうしていき出たりともあやしきふようの人なり
9 人に見せてよる此川におとし入給てよといきのしたにいふまれゝ物のたまうを

6才

1 うれしと思ふにあないみしやいかなれはかくはのたまひそいかにしてさるところにはお
2 はしつるそとへと物もいはずなりぬ身にもしきすなとやあらんとて見れとこゝはと
3 見ゆるところなくうつくしければあさましくかなしくまことに人の心まとはさんとして出
4 来たるかりの物にやとうたかふ二日はかりこもりぬてふたりの人をいのりかちするこゑ
5 たえずあやしき事を思さばくそのわたりのけすなどのそうつにつかうまつりける
6 かくおはしますなりとてとふらひ出くるも物語などしていふをきけはこ八の宮の女御
7 右大將殿かよひ給しかことになやみ給事もなくてにはかにかくれ給へりてさはき侍る
8 その御さうさうのさうしともつかうまつり侍とて昨日はえまいり侍らさりしといふ
9 さやうの人のたましみを鬼のとりもて来たるにやと思ふにもかつ見るゝある物とも

6ウ

1 おほえすあやうくおそろしとおほす人々よへ見やられし火はしかことゝしきけし
2 きも見えさりしをといふことさらことそきていかめしうも侍らさりしといふけからひたる人
3 とて立なからをひかへしつ大將殿は宮の女御もち給へりしはうせ給て年ころになりぬる
4 物を誰をいふにかあらんひめ宮をきたてまつり給て世にこと心おはせしなといふあ
5 ま君よろしくなりたまひぬかたもあきぬれはかくうたであるところひさしうおはせんも
6 ひんなしとてかへる此人はなをいとよはけ也みちの程もいかゝ物したまはんと心くるしき事と
7 いひあへりくるま二して老人のり給へるにはつかうまつるあまふたりつきのには此人をふせ
8 てかたはらにいまひとりのりそひてみちすからゆきもやらすくるまどめてゆまいりなど
9 し給ひえさかもとにをのといふところにそすみ給けるそこにおはしつく程いととをくも

7才

1 中やとりをまうくへかりけるなといひて夜ふけておはしつきぬ僧都はおやをあ
2 つかひむすめのおま君は此しらぬ人をはくゝみてみないたきおろしつゝやすむ老
3 のやまひのいつともなきかくるしと思給へしとをみちのなこりこそしはしわつら
4 い給けれやうゝよろしうなり給にければ僧都はのほりたまひぬかゝる人なん
5 出来たるなとほうしのあまりにはよからぬ事なれば見さりし人にはまね

6 はすあま君もみなくちかためさせつゝもしたつねくる人やあるとおもふもしつ心
7 なしいかてさるゐ中人のすむあたりにかゝる人おちあふれけん物まうてなとし
8 たりける人のこゝちなとわつらひけんをまゝはゝなとやうの人のたばかりてをかせ
9 たるにやなと思よりける川になかしてよといひし一ことよりほかに物もさらに

7ウ

1 のたまはねはいとおほつかなく思ていつしか人にもなして見むと思ふにつくゝとして
2 おきあかる夜もなくいとあやしうのみ物し給へはつゐにいくましく人にやと思ながら打
3 すてんもいとおしういみし夢かたりもし出てはしめよりのらせしあさりにもしのひ
4 やかにけしやくことさせ給打はへてあつかふ程に四五月もすきぬいとわひしうかひ
5 なき事を思ひてそうつの御もとになをおり給へ此人たすけ給へさすかにけふ

6 まてもあるはしぬましかりける人をつきしみりやうしたる物のさらぬにこそあめれ
7 ある仏京に出たまはゝこそあらめこゝまてはあへなんといみしき事をかきつゝけ
8 てたてまつれ給へはいとあやしき事かなくまでもありける人のいのちをやかて
9 打すてゝましかはさるへき契りありてこそは我しも見つけゝめ心みにたすけはてん

8オ

1 かしそれにとゝまらすはこうつきにけりとおもはんおり給けりよろこひおかみて月こ
2 ろのありさまをかたるかくひさしうわつらふ人はむつかしき事をのつからあるへきをいさゝか
3 おとろへすいときよきにねちけたるところなくのみ物し給てかきりと見えながら
4 もかくていきたるわさなりなとおふなくゝなくゝのたまへは見つけしよりめつらかなる人の
みありさ

5 まかないてとてさしのそきて見給てけいときやうさくなりける人の御よそめいかなく
6 とくのむくひにこそかゝるかたちにもおい出給けいかなるたかひめにてそなはれ給けん
7 もしさにやときゝあはせらるゝ事もなしやととひ給さらに聞ゆる事なしなにかはつせの
8 くわんをんの給へる人なりとのたまへはなにかそれもえんにしたかひてこそみちひきたまはめ
9 たねなき事はいかてかなとのたまうかあやしかり給てすほうはしめたりおほやけのめしに

8ウ

1 たにしたかはすふかくこもりたる山を出給てすそろにかゝる人のためになん
2 をこなひさはき給と物のきこえあらんときゝにくかるへしとおほしてしともゝ
3 いひて人にきかせしとかくす僧都いてあなかま大とこたちわれむさんのほうし
4 にていむ事のなかにやふるかひはおほからめと女のくちにつけてまたそしりとゝめす
5 あやまつことなしむそちにあまりていまさらに人のもときおはんはさるへきにこそはあら
6 めとのたまへはよからぬ人の物をひんなくいひなし侍時には仏法のきすとなり侍事也
7 心よからす思ていふこのすほうの程にしるし見えすといみしき事ともをちかひ給て
8 夜一夜かちし給へる暁かたに人にかりうつしてなにやうの物かく人をまとはしたるそ
9 とありさまはかりいはせまほしうてゝしのあさりとろゝにかちし給月ころいさゝかも

9オ

1 あらはれさりつる物の氣てうせられてをのれはこゝまてまうてきてかくてうせられ
2 たてまつるへき身にもあらずむかしはをこなひせしほうしのいさゝかなる世にうらみを

3 とゝめてたゝよひありきし程によき女のあまたすみ給しところにすみつきてかたへはうら
 4 なひてしに此人は心と世を恨給てわれいかてしなるといふ事をよるひるのたまひしに
 5 たよりをえていとくらき夜ひとり物し給しをとりてし也されとくはんをんとさまかう
 6 さまにはくゝみ給ければ此そうつにまけたてまつりぬいまはまかりなるとのゝしるかく
 7 いふはなにそとへはつきたる人物はかなきけにやはかゝしうもいはすさうしみの
 8 こゝちはさはやかにいさゝか物おほえて見まはしたればひとりも見し人のかほはなく
 9 みな老ほうしゆかみおとろへたる物のおほかれはしらぬ国に來にけるこゝ地して
 10 いとかなしありしよの事思ひ出れとすみけんところ誰といひし人とたにたしかに

9ウ

1 はかゝしうもおほえすたゝ我はかきりと身をなけし人そかしいづくにきにたるにかと
 2 せめて思ひ出れはいといみしと物を思なきてみな人のねたりしにつま戸をはなちて
 3 出たりしに空はいとくらくてほしのひかりたに見えさりに風はけしう川なみも
 4 あしうきこえしをひとり物おそろしかりしかはきしかたゆくさきもおほえてすのこのはしに
 5 あしをさしおろしなからいくへきかたもまとはれてかへりいらんも中空にて心つよく
 6 此世にうせなんと思立しををこましうて人に見つけられんよりは鬼もなにも
 7 くいうしなへといひつゝつくゝとあたりしをいときよけなるおとこのよりきていさたまへ
 8 をのかもとへといひていたくこゝちのせしを宮ときこえし人のおはしし給ふとおほえ
 9 し程よりこゝちまとひにけるなめりしらぬところにすへをきて此おとこは
 10 きえうせぬと見しをつぬにかくほいのこととせずなりぬと思つゝいみしうなくと思し

10オ

1 程にそのゝちの事はたえていかにもくおほえす人のいふをきけはおほくの日ころもへに
 2 けりいかにうきさまをしらぬ人にあつかはれ見えつらんとはつかしうつぬにかくていきかへり
 3 ぬるかとおもふもくちおしければいみしうおほえて中々しつみ給へる日ころはうつしこゝるも

531691

4 なきさまにて物のいさゝかまいる事もありつるを露はかりのゆをたにまいらすいかなれ
 5 はかくたのもしけなくのみはおはするそ打はへぬるみなとし給へる事はさめ給てさはやか
 6 に見え給へはうれしう思聞ゆるをとなくゝたゆむおりなくそひめてあつかひきこえ給ふ
 7 ある人々もあたらしき御さまかたちを見れば心つくしてそおしみまもりける心にはなを
 8 いかてしなんとそ思わたり給へとさはかりにていきとまりたる人のいのちなれはいと
 9 しゆうねくてやうゝかしらもたけ給へは物まいりなとし給にそ中々おもやせもてゆく
 10 いつしかとうれしう思聞ゆるにあまになし給てよさてのみなんいくやうもあるへきと

10ウ

1 のたまへはいとおしけなる御さまをいかてかさはなしたてまつらんとてたゝいたゝき
 2 はかりをそき五かいばかりをうけさせたてまつる心もとなけれともよりおれゝゝ
 3 しき人の心にてえさかしくしめてものたまはす僧都はいまはかはかりにていたはり
 4 やめたてまつり給へといひをきてのほりたまひぬ夢のやうなる人を見たてま
 5 つるかなとあま君はよろこひてせめておこしすへつゝ御くしてつからけつり給ふ
 6 さばかりあさましうひきゆひて打やりつれといたうもみたれすきはてた
 7 れはつやゝしとけふら也一とせたらぬつくもかみおほかるところにてめもあやに
 8 いみしき天人のあまくたれるを見たらんやうにおもふもあやうきこゝちすれと
 9 などかいと心うくかはかりいみしく思聞ゆるも御心をへたてゝは見え給いつくに誰と
 10 きこえし人のさるところにはいかておはせしそとせめてとふをいとはつかしと

11オ

1 思てあやしかりし程にみなわすれたるにやあらんありけんさまなともさらに
 2 おほえ侍らすたゝほのかに思ひ出る事とはたゝいかて此世にあらしと思つゝ
 3 夕暮ことにはしちかくてななめし程にまへちかくおほきなる木のありししたより
 4 人の出てゐていくこゝちなんせしそれよりほかの事は我ながら誰ともえ思
 5 出られ侍らすといとらうたけにいひなして世中になをありけりといかて人
 6 にしられし聞つくる人もあらはいといみしうこそとてない給あまりとふをはく
 7 るしとおほしたれはえとはすかくやひめを見つたりけん竹とりのおきなよりもめつ
 8 らしきこゝちするにいかなる物のひまにきえうせんとすらむとしつ心なくそおほしける
 9 此あるしもあてなる人なりけりむすめのあま君はかんだちめの北のかたにてありけるかそ
 10 の人なくなり給て後むすめたゝひとりをいみしくかしつきてよき君たちをむこに

11ウ

1 して思あつかひけるをそのむすめの君のなくなりにはけは心うしいみしと思ひりて
 2 かたちをもかへかゝる山里にはすみはしめたる也夜とともに恋わたる人のかた見にも
 3 思よそへつへからん人をたに見いてしかなつれゝも心ほそきまゝに思なけきけるをかくおほ
 4 えぬ人のかたちけはひもまさりさまなるをえたれはうつゝの事とおほえすあやしきこゝち
 5 しなからうれしと思ひねひにたれといときよけによしありてありさまもあてはか也むかしの
 6 山里よりは水の音もなこやか也つくりさまゆへあるところの木立おもしろくせんさひもおかし
 7 ゆへをつくしたり秋になりゆけは空の気しきもあはれ也かと田のいねかるとてところにつけた
 8 物まねひしつゝわかき女ともはうたうたひけうしあへりひたひきならず音もおかしく見しあつ
 9 ちの事なとも思ひ出られてかの夕霧のみやすむところのおはせし山さよりはいますこし
 10 いりて山にかたかけたる家なれば松かけしけく風の音もいと心ほそきにつれゝにをこ

ま

12オ

1 なひをのみしつゝいつとなくしめやか也あま君そ月なとあかき夜はきんなどひき給
 2 少将のあま君なといふ人はひわなとしつゝあそふかゝるわさはし給ふやつれゝなるになとい
 3 ふ
 4 むかしもあやしかりける身にて心のとかにさやうの事すへき程もなかりしかはいさゝか
 5 おしきさまならずもおい出にけるかなとかくさたすきにける人の心をやかめるおりゝ
 6 につけてはおもひいつなをあさましく物はかなかりけると我なからくちおしければ手ならひに
 7 身をなけしなみたの川のはやきせをしからみかけて
 8 たれかとゝめし思のほかに心うければゆくすゑもうしろめたくうとましまて
 9 思やれる月のあかき夜なゝおい人ともはえんにうたよみにしへ思ひ出つゝ
 10 さまゝ物語なとするにいらうへきかたもなければつくゝとうちなかくて
 われかくてうき世の中にめくるともたれかはしらむ

12ウ

1 月のみやこにいまはかきりと思し程は恋しき人おほかりしかとみゝはさしも
 2 思ひ出られすたゝおやいかにまどひ給けんめののとよるつにいかて人なみゝに
 3 なさんと思ひられしをいかにあへなきこゝ地しけんいつこにあらんわれ世にある物とは
 4 いかてかしらむおなし心なる人もなかりしまゝによろつへたつる事なくかたらひ見
 5 なれたりし右近なともおりゝは思ひ出らるわかき人のかゝる山さどにいまはと
 6 おもひたへこもるはかたきわさなりければたゝいたく年へにけるあま七

7 八人そつねの人にてはありけるそれらかむすめむまこやうの物とも
 8 京に宮つかへするもことさまにてあるもときくそきかよひけるかやうの
 9 人につけて見しいきかよひをのつから世にありけりと誰もくきかれたて
 10 まつらん事いみしくはつかしかるへしいかなるさまにてさすらへけんなど思やり

13才

1 よつかすあやしかるへきをおもへはかゝる人々にかけても見えずたゝしう
 2 こもきとてあま君のわか人にしたりけるふたりをのみそ此御かたにいひわけ
 3 たりけるみめも心さまもむかし見しみやこ鳥ににたるはなし何事につけ
 4 ても世中にあらぬところは是にやあらんとそかつは思なされけるかくのみ
 5 人にしられしとのひ給へはまことにわつらはしかるへきゆへある人に物したまはらん
 6 とてくはしき事ある人々にもしらせすあま君のむかしのむこの君いまは中将に
 7 て物し給けるおとうとの禪師の君そうつ御もとに物し給けるか山こ
 8 もりしたるをとふらひにはらからのきんたちつねにのほりけりよ川にかよふみ
 9 ちのたよりによせて中将こゝにおはしたりさきうちをひてあてやかなるおとこ
 10 の入くるを見いたしてしのひやかにおはせし人の御さまけはひそさやかに思ひ

13ウ

1 出らるゝ是もいと心ほそきすまぬのつれくなれとすみつきたる人々は物き
 2 よけにおかしうしなしてかきほにうへたるなてしこもおもしろくをみなへしきち
 3 かうなどさきはしめたるに色々のかりきぬすかたのをのこともわかきあまたして
 4 君もおなしさうそくにてみなみおもてによひすへたれは打なかくてあたりとし
 5 二十七八の程にてねひとゝのひ心なからぬさまもてつけたりあま君さう
 6 しくちにきちやうたてゝたいめんし給まつ打なきて年ころのつもりにはすき
 7 にしかたいとゝ氣とをくのみなん侍を山里のひかりになをきこえさする事の打
 8 わすれすやみ侍らぬをかつはあやしく思給ふるとのたまへは心のうちあはれにすぎ
 9 にしかたの事とも思給へられぬおりなきをあなかちにすみはなれかほなる御あり
 10 さまにをこたりつゝなん山こもりもうらやましうつねに出たち侍をおなし

14才

1 はなとしたひまとはさるゝ人々にさまたけらるゝやうに侍てなんけふは
 2 みなはふきすてゝ物し給へるとのたまふ山こもりの御うらやみは中々いま
 3 やうたちたる御物まねひになんむかしをおほしわすれぬ御心はへも世に
 4 なひかせたまはさりけるとをろかならず思給へらるゝおりおほくなといふ人々に
 5 水はんなどやうの物くはせ君にもはすのみなどやうの物いたしたれはなれ
 6 にしあたりにてさやうの事もつゝみなきこゝ地して村雨のふり出るにとめられて
 7 物語しめやかにし給いふかひなくなりにし人よりも此君の御心はへなどのいと
 8 もふやうなりしおよその物に思なしたるなんいとかなしきなとわすれひを
 9 たにとゝめたまはすなりにけんと恋しのふ心なりければ玉さかにかく物し給へる
 10 につけてもめつらしくあはれにおほゆへかめるとはすかたりもし出つへし

14ウ

1 ひめ君は我は我と思ひ出るかたおほくてなかめいたし給へるさまいとうつくし
 2 しろきひとへのいとなさけなくあさやきたるにはかまもひわた色にならひたる
 3 にやひかりも見えずくるぎをきせたてまつりたれはかゝる事ともゝ見しには
 4 かはりてあやしうもあるかなと思つゝこはくしういらゝきたる物ともき給へる
 5 しもいとおかしきすかた也御まへなる人々こひめ君のおはしたるこゝちのみし給

6 に中将殿をさへ見たてまつればいとあはれにこそおなしくはむかしのさまにてお
 7 はしまさせはいとよき御あはひならんかしといひあへるをあないみしや世に
 8 ありていかにもく人に見えむこそそれにつけてそむかしの事思ひ出ら
 9 るへきさやうのすちは思たえすわすれなんとおもふあま君いり給へる
 10 まにまらうとあめの氣しきを見わつらひて少将といひし人のこゑを

15才

1 聞しりてよひよせ給へりむかし見し人々はみなこゝに物せらるらんやとお
 2 もひなからまかうまいりくる事もかたくなりたるを心あさきにや誰もく
 3 見なし給ふらんなどのたまふつかうまつりなれにし人にてあはれなりしむかし
 4 の事ともゝおもひ出たるついでにかのらうのつままいりつる程風のさはかし
 5 かりつるまぎれにすたれのひまよりなへてのさまにはあるまじかりつる人の
 6 打たれかみの見えつるは世をそむき給へるあたりに誰そとなん見おとろ
 7 かれたつとのたまふひめ君のたち出給へりつるうしろて見給へりけるなめりと
 8 思てましてこまかに見せたらは心とまり給なんかしむかし人はいとこよ
 9 なうをとり給へりしをたに名残までまたわすれかたくし給めるをと
 10 心一に思てすきにし御事をわすれかたくなくさめかね給めりし程に

15ウ

1 おほえぬ人をえたてまつりたまはて明暮のみ物に思きこえ給ふめるをと
 2 打とけ給へる御ありさまをいかて御らんしつらんといふかゝる事こそありけれと
 3 おかしくてなに人ならんけにいとおかしかりつとほのかなりつるを中々
 4 おもひいつこまかにとへとそのまゝにもいはすをのつからきこしめし
 5 いてんとのみいへは打つけにとひたつねんもさまあしきこゝ地して雨
 6 もやみぬ日も暮ぬへしといふにそゝのかされて出給まへちかきをみ
 7 なへしをおりてなににほふらんとくちすさひてひとりこちたてり
 8 人の物いひをさすかにおほしとゝむるこそなとこたいの人ともは物めてを
 9 しあへりいときよけにあらまほしくもねひまさり給にけるかなおなしくはむ
 10 かしのやうにても見たてまつらはやとてとう中納言の御あたりにはたえす

16才

1 かよひ給ふやうなれと心もとゝめたまはすおやの殿かちになん物し給ふといふ
 2 なれとあま君ものたまひて心うく物をのみおほしへたてたるなんいとつらき
 3 いまはなをきるへきなめりとおほしなしてはれくもてなし給へ此五とせ六
 4 とせ時のまもわすれす恋しくかなしと思つる人のうへもかく見たてまつりて後より
 5 はこよなく思わすれにて侍思きこえ給ふへき人々世におはすともいまは世に
 6 なき物にこそやうくおほしなりぬらめよろつの事さしあたりたるやうにはえしも
 7 あらぬわさになんといふにつけてもいとゝ涙くみてへたて聞ゆる心は侍らねとあや
 8 しくていきかへりける程によるつの事夢のやうにたとられてあらぬ世にむま
 9 れたらん人はかゝるこゝちやすらんとおほえ侍れはいまはしるへき人世にあらん
 10 とも思いてすひたみちにこそむつましく思きこゆれとのたまふさまに

16ウ

1 けになに心なくうつくし打系みてそまもりぬ給へる中将は山におはしつき
 2 てそうつもめつらしかりて世中の物語し給ふその夜はとまりてこゑたうとき
 3 人々に経なとよまさせて夜一夜あそひ給せんしの君こまかなる物語など
 4 するついでに小野に立よりて物あはれにもありしかな世をすてたれと

5 なをさはかりの心はせある人かたうこそなとあるついでに風の吹あけ
6 たりつるひまよりかみいとなくおかしける人こそ見えつれあらはなり
7 とや思つらんたちてあなたに入つるうしろてなへての人とは見えさりつ
8 さやうのところによき女はをきたるましき物にこそあめれ明暮みる物
9 はほうし也をのつからめなれておほゆらんふひんなる事そかしとのたまひせん
10 しの君此春はつせにまうて、あやしくて見いてたる人となん聞侍しとて

17才

1 見ぬ事なれはこまかにはいはずあはれなりける事かないかなる人にかあらん世中
2 をうしとてそざるところにはかくれぬけんかしむかし物語のこゝ地もするかなと
3 のたまう又の曰かへり給にもすきかたくなんとておはしたりさるへき心つかひしたりけれ
4 はむかし思ひ出たる御まかなひの少将のあまなども袖くちさまことなれともおか
5 しいとゝいやめにあま君は物し給物語のついでにしのひたるさまに物し給ふらん
6 は誰にかととひ給わつらはしけれとほのかにも見つけ給てけるをかくしかほな
7 らむもあやしとてわすれわひ侍ていとゝつみふかうのみおほえ侍つるなくさめにこの
8 月こる見給ふる人になんいかなるにかいと物おもひしけきさまにて世にありと人にしら
9 れん事をくるしけに物せらるればかゝる谷のそこにはたれかはたつねきこえむと
10 思つゝ侍をいかてかは聞あらはさせ給つらんといらう打つけこゝろありてまいり

17ウ

1 こんにたに山ふかきみちのかことはきこえつへしましておほしよそふらむ
2 かたにつけてはことにくへたて給ましき事にこそはいかなるすちに世を恨
3 給ふ人になくさめきこえはやなどゆかしけにのたまひ出給とてたゝうかみに
4 あたし野の風になひくをみなへしわれしめゆはん
5 みちとをくともとかきて少将のあましていれたりあま君も見給て此御返
6 かゝせ給へといと心にきけつき給へる人なれはうしろめたくもあらしとそゝのかせは
7 いとあやしき手はいかてかとしてさらに聞たまはねはしたなき事なりとてあま
8 きみきこえさせつるやうによつかす人ににぬ人にてなん
9 うつしうへておもひみたれぬをみなへしうき世をそむく
10 草のいほりにとありこたみはさもありぬへしと思ゆるしてかへりぬ文などやらんは

18才

1 さすかにうぬくしうほのかに見しさをわすれす物思ふらんすち何事としら
2 ねとあはれなれは八月十余日の程に小たかかりのついでにおはしたりれいのあま
3 よひ出て一め見しよりしつ心なくてなんとなたまへりいらへ給ふへくもあらねは
4 あま君まつちの山のとなん見給ふるといひいたし給たいめんし給へるにも心くる
5 しきさまにて物し給と聞侍し人の御うへなん残りゆかしく侍何事も心になはぬ
6 こゝちのみし侍れは山すみもし侍らまほしき心ありなからゆるい給ましき人々に
7 思さはりてなんすくし侍世にこゝ地よける人のうへはかくくしたる人の心からにや
8 ふさはしからすなん物おもひ給ふらん人に思ふ事をきこえはやなといと心とゝめたるさまに
9 かたらひ給こゝちよけならぬ御ねかひはきこえかはしたまはんにつきなからぬさまになん
10 見侍れとれいの人にてはあらしといとうたゝあるまで世をうらみ給ふめれば残りすくなき

18ウ

1 よはひの人たにいまはとそむき侍時はこめたるさかりにはつゝあにいかゝとなん見
2 給へ侍とおやかりていふいりてもなさけなしなをいさゝかにてもきこえ給へかゝる御
3 すまぬはすゝるなる事もあはれしこそよのつねの事なれなどこしらへても

4 いへと人に物聞ゆらんかたもしらす何事もいふかひなくのみこそいといつれなくて
5 ふし給へりまらうとはいづらあな心う秋を契れるはすかし給にこそありけれなと恨つ、
6 松むしのこゑをたつねて来つれともまたはきはらの

7 露にまとひぬあないとおし是をたになとせむれとさやうによついたらん事いひい
8 てんもいと心うく又いひそめてはかやうのおりくにせめられんもむつかしうおほゆれはい
9 らへをもしたまはねはあまりいふかひなく思あへりあま君はやうはいまめきたる人にそ
10 ありける名こりなるへし

19才

1 秋の野の露わけきたるかりころもむくらしけれ

2 宿にかこつなとなんわつらはしかりきこえ給ふめるといふをうちにもなをかく心より
3 ほか世にありとしられはしむるをいとくしとおほす心のうちをはすらておとこ
4 君をもあかす思ひ出つゝ恋わたる人々なればかくはかなきついでにも打かたらい
5 きこえたまはん心よりほかによにうしろめたくは見えたまはぬ物をよのつねなる
6 すちにはおほしかけすともなさけなからぬ程に御いらへはかりはきこえ給へかしなど
7 ひきうこかしつへくいふさすかにかゝるこたいの心ともにはありつかすいまめき
8 つゝこしおれうたこのましけにわかやくけしきともはいとうしろめたうおほゆ
9 かきりなく憂身なりけりと見はてゝしいのちさへあさましうなかくていかなる
10 さまにさすらふへきならんひたふるになき物と人に見聞すてられてもやみな

19ウ

1 はやと思ふし給へるに中将は大かた物おもしき事のあるにやいといたう打なけきつゝ
2 しのひやかにふえを吹ならして鹿のなくねになとひとりこつけはひまことに
3 こゝ地なくはあるましすきにしかたの思ひ出らるゝにも中々心つくしにいまはしめて
4 あはれとおほすへき人はたかたければ見えぬ山路にも思なすましうなんと
5 うらめしけにて出なんとするにあま君などあたを御らんしさとつるとてあさり
6 出給へりなにかをちなる里もこゝろみ侍れはなといひすさひていたうすき
7 かましからもさすかにひんないといほのかに見えしさまのめとまりしはかりつれく
8 なる心なくさめに思ひ出つるをあまりもてはなれおくふかなるけはひもところのさま
9 にはあはすさましとおもへはかへりなんとするを笛のねさへあかすいとゝおほえて
10 ふかき夜の月をあはれと見ぬ人や山のはちかき

20才

1 宿にとまらぬとなまかたはなる事をかくなんきこえ給ふといふに心ときめきて

2 山のはににるまで月をなかめ見むねやのいたまを
3 しるもありやとなといふに此おほあま君ふえのねをほのかに聞つけたりければ
4 さすかにめてゝ出来たりこゝかしこ打しはふきあさましきわなゝきこゑにて中々
5 むかしの事などもかけていはす誰とも思わかぬなるへしいてそのきんのことひき
6 給へよ笛は月にはいとおかしき物そかしいつらくそたちこととりてまいれといふ
7 それなめりとをしはかりにきけといかなるところにかゝる人いかてこもりぬたらむ
8 さためなき世そ是につけてあはれなるはんしきてうをいとおかしくふきていつら
9 さらはとのたまふむすめあま君是もよき程のすき物にてむかし聞侍しよりも
10 こよなうみゝからにやとていてや是はひかことになりて侍らんといひなからひく

20ウ

1 いまやうはおさくゝなへての人のいまはこのますなり行物なれば中々
2 めつらしくあはれに聞ゆ松風もいとよくもてはやす吹あはせたる笛のねに

3 月もかよひてすめるこゝちすれはいよくめてられてよひまとひもせずおき
 4 おたり女はむかしはあつま琴をこそはこともなくひき侍しかといまの世にはかはり
 5 にたるにやあらん此僧都の聞にくし念仏よりほかのあたにわさなせそとはした
 6 なめられしかはなにかはとてひき侍らぬ也さるはいとよくなることも侍りといひつゝけて
 7 いとひかまほしと思たれはいとしのひやかに打わらひていとあやしき事をもせいし
 8 きこえ給けるそうつかな極楽といふなるところにはほさつなどもみなかゝる事をして
 9 天人などもまひあそふこそたうとかなれをこなひまきれつみうへき事かはこよひ聞侍ら
 10 はやとすかせはいとよしと思ていて殿もりのくそあつまとりてといふにもしはふきはたえず

21才

1 人々は見くるしとおもへと僧都をさへうらめしけにうれへていひきかすれはいとおしくてまかせ

2 たりとりよせてたゝいまの笛のねをもたつねすたゝをのか心をやりてあつまのしらへを
 3 つまさはやかにしらふみなこと物はこゑをやめつるを是をのみめてたると思てたけふち
 4 ちりくたりたんななとかきかへしはやりかにひきたることはともわりなくふるめき
 5 たりいとおかしういまの世にきこえぬことはこそはひき給けれとほむれはみゝほのく
 6 しくかたはらなる人にとひ聞いていまやうのわかき人はかやうなる事をそゝこのま
 7 れさりけるこゝに月ころ物し給めるひめ君かたちいとけうらに物し給めれともはら
 8 かゝるあたわさなとしたまはすむもれてなん物し給めると我かしこに打あさわら
 9 ひてかたるをあま君などはかたはらいしたとおほす是にことみなさめてかへり給程も
 10 山おろし吹てきこえる笛のねいとおかしうきこえておきあかしたる

21ウ

1 つとめてよへはかたゝ心みたれ侍しかはいそぎまかて侍し
 2 わすられぬむかしのこともふえ竹のつらきふしにも
 3 ねそなけれけるなをすこしおほししるはかりをしへなさせ給へしのはれ
 4 ぬへくはすちゝしきまでもなにかはとあるをいとゝわひたるはなみた
 5 とゝめかたけなる氣しきにてかきたまう

6 笛の音にむかしのこともしのはれてかへりしほとも

7 袖そぬれにしあやしう物思しらぬにやとまで見侍ありさまはおひ人のとは
 8 すかたりにきこしめしけむかしとありめつらしからぬも見どころなきこゝち
 9 して打をかれけんかし萩の葉にをとらぬほとゝくにををつれわたるいと
 10 むつかしうもあるかな人の心はあなかなる物なりけりとみしりにしおりくもやうく

22才

1 思ひ出るまゝになをかゝるすちのこと人にも思はなすへきさまにとくなし
 2 給てよとて経ならひてよみ給こゝろの中にもねんし給へりかくよろつにつけて
 3 世中を思すつれはわかき人とおかしやかなる事もことになくむすほゝれたん
 4 ほんしやうなめりと思ふかたちの見るかひありうつくしきによるつのとかめゆる
 5 して明暮のみ物にしたりすこし打わらひ給おりはめつらしくめてたき物に
 6 おもへり九月になりて此あま君はつせにまうつ年ころいと心ほそき身に
 7 恋しき人のうへも思やまれさりしをかくあらぬ人とおほえたまはぬなくさめをえた
 8 れはくはんをんの御しるしうれしとてかへりまうしたちてまうて給なりけりいさ給へ人
 9 やはしらんとするおなしほとけなれとさやうのところにをこなひたるなんしるしありて
 10 よきためしおほかるといひてそゝのかしたつれとむかしはゝ君めのとなどのかやうに

22ウ

1 いひしらせつゝたひ／＼まうてさせしをかひなきにこそあはれいのちさへ心にな
 2 はすたくひなくいみしきめを見るはといと心うきうちにもしらぬ人にくしてさるみちの
 3 ありきをしたらんよと空おそろしくおほゆ心こはきさまにはいひもなきてこゝちのいと
 4 あしうのみ侍れはさやうならんみちの程にもいかゝなとつゝましようなんとのたまう物をちは
 5 さもし給ふへき人そかしとおもひてしゐてもいさなはず

6 はかなくて世にふる川のふちせにはたつねもゆかし

7 二もとの杉と手ならひにまじりたるをあま君見つけて二本は又もあひき

8 こえんと思給人あるへしとたはふれことをいひあてたるにむねつふれておも

9 てあかめ給へるもいとあいきやうつきうつくしけなり

10 ふる川の杉のもとたちしらねともすきにし人に

23才

1 よそへてそ見ることなる事なきいらへをくちとくいふしのひてといへはみな人
 2 したひつゝこゝには人すくなにておもはせんを心くるしかりて心はせある少将左
 3 衛門とてあるおとなしき人わらははかりそとゝめたりけるみな出たけるをなか
 4 め出てあさましき事を思なからもいまはいかゝはせんとたのもし人におもふ人
 5 ひとり物したまはぬは心ほそくもあるかなといとつれ／＼なるに中将の御文あり御らん
 6 せよといへと聞もいれたまはすいとゝ人も見えすつれ／＼ときしかたゆくさを
 7 思くむし給ふくるしきまでもなかめさせ給ふかな御暮うたせ給へといふいとあやしう
 8 こそはありしかはとのたまへとうたむとおほしたれはんとりにやりて我はと思て
 9 せんせさせたてまつりたるにいとこよなければ又てなをしてうつあまうへにと
 10 うかへらせたまはなん此御こ見せたてまつらんかの御こそいとつよかりしそうつ

23ウ

1 君はやうよりいみしうこのませ給てけしうはあらずとおほしたりしをいときせい
 2 大どこになりてさし出てこそうたさらめ御こにはまけしかしときこえ給しに
 3 つゐに僧都なん二まけ給しきせいか暮にはまさらせ給ふへきなめりあな
 4 いみしとけうすれはまたすぎたるあまひたいのみつかぬに物このみするにむつ
 5 かしき事もしそめてけるかなと思てこゝちあしとてふしたまひぬ時々はれ／＼しう
 6 もてなしておはしませあたは御身をいみしうしつみてもてなさせ給こそくちお
 7 しく玉にきすあらんこゝちすれといふ夕暮の風の音もあはれなるにおもひ
 8 いつる事おほくて

9 こゝろには秋のゆふへをわかねともなかむる袖に

10 露そみたるゝ月さし出ておかしき程にひる文ありつる中将おはしたりあな

24才

1 うたてこはなにそとおほえ給へはおくふかく入給をさもあまりにもおはします
 2 物かな御心さしの程もあはれまさるおりにこそ侍めれほのかにもきこえたま
 3 はん事もきかせ給ふへしみつかんことのやうにおほしめしたるこそなといふにいと
 4 はしたなくおほゆおはせぬよしをいへとひるのつかひのひとところなととひ聞
 5 たるなるへしいと事おほくうらみて御こ糸もきゝ侍らしたゝ氣ちかく
 6 てきこえむことをきゝにくしとおほしこととはれとよろつにいひわひて
 7 いと心うくところにつけてこそ物のあはれもまされあまりかゝるはなとあはめつゝ
 8 やまさとの秋の夜ふかきあはれをもものおもふ人は
 9 おもひこそしれをのつから御心もかよひぬへきをなとあれはあま君おはせ
 10 てまきはし聞ゆへき人も侍らすいとよつかぬやうならんとせむれは

24ウ

1 うき物とおもひもしらてすくす身を物おもふ人と
 2 人はしりけりわさといふともなきをきゝてつたへ聞ゆれはいとあはれと
 3 思てなをたゝいさゝか出給へときこえうこかせと此人々をわりなきまで
 4 うらみ給あやしきまでつれなくそ見えさせ給やとていりて見れはかり
 5 そめにもさしのそきたまはぬおい人の御かたにいり給にけりあさましう思
 6 てかくなんと聞ゆれはかゝるところになかめ給ふらん心のうちのあはれに大かた
 7 のありさまなともなさけなかるましき人のいとあまり思しらぬ人よりもけに
 8 もてなし給めるこそそれも物こりし給へるかなをいかなるさまに世を恨ていつ
 9 まておはすへき人そなどありさまとひていとゆかしけにのみおほひたれとこ
 10 まかなる事はいかてかいひきかせむたゝしりきこえ給ふへき人の年ころは
 11 うとゝしきやうにてすくし給しをはつせにまうてあひ給てたつねきこえ

25オ

1 給へるとそいふめ君はいとむつかしとのみきくおい人のあたりにうつふしゝていも
 2 ねられすよひまとひはえもいはすおとろゝしきいひきしつゝまへにも打すかひたる
 3 あまともふたりふしておとゝしといひきあはせたりいとおそろしうこよひ此人々にや
 4 くはれなんとおしからぬ身なれとれいの心よはさはひとつはしあやうかりてかへりき
 5 たりけん物のやうにわひしくおほゆこもきともにあておはしつれと色めきて此めつ
 6 らしきおとこのえんたちゐたるかたにかへりいにけりいまやくゝと待ゐたてまつ
 7 れといとはかなきたのもし人なりや中将いひわつらひてかへりにければいとな
 8 さけなくむもれてもおはしますなあたら御かたちをなとそしりてみな一ところに
 9 ねぬ夜中はかりにやなりぬらんとおもふ程にあま君しはふきおほゝれておきに
 10 たりほかけにかしらつきはいとしろきにくるき物をかつきて此君のふし給へるあや

25ウ

1 しかりていたちとかいふなる物かさるわさするひたいに手をあてゝあやし是誰そと
 2 しうねけなるこゑにて見をこせたるさらにたゝいまくひてんとするとそおほゆる鬼の
 3 とりもてきけん程は物のおほえさりければ中々心やすしいかさまにせんとおほゆる
 4 むつかしさにもいみじきさまにていきかへり人になりてまたありしにまさる色々のうき事
 5 を思みたれむつかしとおそろしと物をおもふよしなましかは是よりもおそろしけなる
 6 物の中にこそはあらましかと思やるむかしよりの事をまとりまれぬまゝにつねよりも
 7 思つゝくるに心うくおやときこえけん人の御かたちも見たてまつらすはるかなる
 8 あつまをかへるゝ年月をゆきて玉さかにたつねよりてうれしたのもしと思きこえし
 9 はらからの御あたりもおもはすにてたえすきさるかたに思さため給し人につけて
 10 やうゝ身のうさをもなくさめつへききはめにあさましうもてそこなひたる

26オ

1 身を思もてゆけは宮をすこしもあはれと思きこえけん心そいとけしからぬたゝ
 2 此人の御ゆかりにさすらへぬるそと嶋の色をためしに契り給しをなとておかしと
 3 思きこえけんこよなくあきにたるこゝちすはしめよりうすきなからものとやかに
 4 物し給し人は此おりかのおりなと思ひ出るそよなかりけるかくてこそありけれときゝ
 5 つけられたてまつらんはつかしさは人よりまさりぬへしさすかに此世にはありし御さまを
 6 よそなからたにいつかは見んすると打思なをわるの心やかたにおもはしなと心一を
 7 かへさまからうして鳥のなくを聞いていとうれしはゝの御こゑを聞たらんはまして
 8 いかならんと思あかしてゝ地もいとあし友にてわたるへき人もとみにこねはなをふし

9 給へるにいひきの人はいとくおきてかゆなとむつかしき事をもてはやして御まへに
10 とくきこしめせなとよりきていへとまかなひもいと心つきなくうたて見しらぬ心して

26ウ

1 なやましくなんとことならひ給をしめていふもいとこちなしけすくしきほうしはら
2 などあまたきて僧都けふおりさせ給ふへしなどにはかにはとふなれは一品の宮
3 の御物のけになやませ給けるを山のさすみすほうつかまつらせ給へとなを僧都まい
4 らせたまはてはしるしなして昨日二ところなんめし侍し右大臣殿の四位の少将よへ
5 夜ふけてなんのほりおはしましてきさいの宮の御文など侍ければおりさせ給なりなど花
6 やかにいひなすはつかしくともあひてあまになし給てよといはんさかしら人すくなくて
7 よきおりにこそとおもへはおきてこちのいとあしうのみ侍を僧都のおりさせ給へらんに
8 いむ事うけ侍らんとなん思侍をさやうにきこえ給へとかたらひ給へとほけくしう打うな
9 つくれいのかたにおはしてかみはあま君のみけつり給をこと人に手ふれさせんもうたて
10 おほゆるにてつからはたえせぬ事なればたすこしときくたしてかみなと見給てお

27オ

1 ところへにたりおやにいま一たひかうなからのさまを見えずなりなんこそ人やりならす
2 いとかなしけれいたうわつらひしけにやかみもすこしおちほそりたるこちすれと
3 なにはかりもおとろへすいとおほくて六しやくはかりなるすゑなとそいとうつくしかりける
4 すちなともいまこまかにうつくしけ也かれとてしもひとりこちぬ給へり暮かたに
5 そうつ物し給へりみなみおもてはらひしらひてまるなるかしらつきゆきちかひさはき
6 たるもれいにかはりていとおそろしきこ地すはの御かたにまいり給ていかにそ月
7 ころはなといふひんかしの御かたは物まうてし給にきとかこのおはせし人はなを物し
8 給ふやなとひ給しかこにとまりてなんこちあしとこそ物し給ていむ事うけた
9 てまつらんとたまへるとかたるたちてこなたにいましてこにやおはしますととき
10 ちやうのもとにつゐぬ給へはつましければぬさりよりていらへし給ふいかて見たてまつりそ
め

27ウ

1 てしもさるへきむかしの契りありけるにこそと思給へて御いのりなともねんころにつかう
2 まつりしをほうしはそのことなくて御文きこえうけたまはらんもひんなければ
3 しねんになんをろかなるやうになり侍ぬるいとあやしきさまに世をそむき給へる
4 人の御あたりにかくておはしますらんとたまふ世中に侍らしと思立侍し身の
5 いとあやしうていまて侍を心うしと思侍物からよろつに物せさせ給ける
6 御心はへをなんいふかひなきこちにもおもひ給へしらるゝをなを心よつかすのみつゐに
7 えとまるましく思給へらるゝをあまになさせ給てよ世中に侍るともれいの人
8 にてなからふへくも侍らぬ身になんときこえ給きたいとゆくさきとをけなる
9 御程にいかてかひたみちにしかはおほしたむかへりてつみある事也思立て心を
10 おこし給ほとはつよくおほせと年月ふれば女の御身といふ物いとたいくしき物になん

28オ

1 とのたまへはおさなく侍し程より物をのみおもふへきありさまにておやなどもあまに
2 なしてや見ましなとなん思のたまひしましてすこし物思しりて後はいの人さま
3 ならて後の世をたにとおもふ心ふかりしをなくなるへき程のやうくちかくなり侍にや
4 こちのいとよはくのみなり侍をなをいかてとて打なきつゝのたまふあやしうかゝる
5 かたちありさまをなとて身をいたはしく思はしめ給けん物の気もさこそいふなりし
6 かはと思あはするにさるやうこそあらめいまてもいきたるへき人かはあしき物の見

7 つけそめたるにいとおそろしくあやうき事なりとおほしてとまれかくまれおほし立
 8 てのたまうを三ほうのいとかしこくほめ給事也ほうしにてきこえかへすへき事に
 9 あらず御いむ事はいとやすくさつたてまつるへきをきうなる事にまかてたれば
 10 こよひかの宮にまいるへく侍りあすよりやみすほうはしまるへく侍らん七日はて、

28ウ

1 まかてんにつかまつらんとたまへはかのあま君おはしなはかならずいひさまたけてむといと
 2 くちおしくてみたりこゝ地のあしかりし程にしたるやうにていとくるしく侍れはをもくならは
 いむ

3 事かひなくや侍らんなをけふはうれしきおりとこそ思侍れとていみしくなき給へはひしり心
 にと

4 いとおしく思て夜やふけ侍ぬらん山よりおり侍事むかしはことゝもおほえたまはさりしを年の
 5 おふるまゝにはたへかたく侍ければ打やすみて内にはまいらんと思侍をしかおほしいそく事
 6 なればけふつかうまつりてんとたまうにいとうれしくなりぬはさみとりてくしのはこのふた
 さし

7 出たれはいつら大とこたちこゝにとよふはしめ見つけたてまつりし兩人なからともにあり
 8 ければよひいれて御くしおろしたてまつれといふけにいみしかりし人の御ありさまなれば
 9 うつし人にては世におはせんもうたてこそあらめと此あさりもことはりにおもふにきちやうの
 かた

10 ひらのほころひより御くしをかきいたし給へるいとあたらしくおかしけなるになんしはしはさ
 みを

29オ

1 もちやすらひけるかゝる程少将のあまはせうとのあさりの来たるにあひてしもにゐたりさゑ
 2 もんはこのわたくしのしりたる人にあへしらふとてかゝるところにつけてはみなとりく心に
 よせの

3 人々めつらしくて出来たるにはかなき事しける見いれなとしける程こもきひとりして
 4 かゝる事など少将のあまにつけたりければまとひきてみるにわか御うへのきぬけさなどをこ
 とさら

5 はかりとてきせたてまつりておやの御かたおかみたてまつり給へといふにいつかたともしらぬ
 程なん

6 えしのひあへたまはてなき給にけるあなあさましやなどかくあふなきわさはせさせ給うへかへ
 7 りおはしてはいかなる事をのたまはせんといへはかはかりしそめつるをいひみたるも物しと思
 て僧

8 都いさめ給へはよりもえさまたけするてん三かいちうなといふにもたちはてゝし物をとと思
 9 出るもさすかなりけり御くしもそきわつらひてのとやかにあま君たちしてなをさせ給へと
 10 いふひたいは僧都そそき給かゝる御かたちやつし給てくお給ふなゝとたうとき事とも

29ウ

1 とききかせ給とみにさすへくもあらずみないひしらせ給へる事をうれしくもし
 2 つるかなと是のみそいける仏はしるしありておほえ給けるみな人々いてしつ
 3 まりぬよるの風の音にこの人々は心ほそき御すまおもしはしの事そいまいと
 4 めてたくなり給なんとたのみきこえつる御身をかくしなさせ給て残りおほかる
 5 御世のすゑをいかにせさせたまはんとするそ老おとろへたる人たにいまはかきり
 6 と思はてられていとかなしきわさに侍といひしらすれとなをたゝいまは心やすく
 7 うれし世にふへき物とは思かけすなりぬるこそはいとめてたき事なれとむねのあき

8 たるこゝ地そし給けるつとめてはさすがに人のゆるさぬ事なれはかはりたらんさま
9 見えむもいとつかしくかみのすそのにはかにおほとれたるやうにしとけなくさへそかれ
10 たるをむつかしき事ともいはてつくろはん人もかなと何事につけてもつゝましくてくらう

30才

1 しなしておはす思ふ事を人にいひつゝけんことの葉はもとよりたにはかくしからぬ身を
2 まいてなつかしくことはるへき人さへなければたゝすゝりにむかひて思あまるおりに
3 手ならひをのみたけき事とはかきつけ給

4 なき物に身をも人をもおもひつゝすてゝし世をそ

5 さらにすてつるいまはかくてかきりつるそかしとわきてもなをみつからいとあはれと見給

6 かきりそとおもひなりにし世の中をかへすゝも

7 そむきぬる哉おなしすちの事をとかくかきすさひぬ給へるに中将の

8 御文あり物さはかしくあきれたるこゝちしあへる程にてかゝる事なといひて

9 けりいとあへなしと思てかゝる心のふかくありける人なりければはかなきいらへをも

10 しそめしと思はなるゝなりけりさてもあへなきわさかないとおかしく見えしかみの

30ウ

1 程をたしかに見せよと一夜もかたらひしかはさるへからんおりにかいひし物をと
2 いとくちおしくて立かへり

3 岸とをくこきはなるらんあま舟にのりをくれしと

4 いそかるゝ哉れいならすとりて見給物のあはれなるおりにいまはと思ふもあ

5 はれなる物からいかゝおほさるらんとはかなき物のほしに

6 こゝろこそうき世のきしをはなるれとゆくゑもしらぬ

7 あまのうき木をとれいの手ならひにし給へるをつゝみてたてまつるかきうつ

8 してたにこそとのたまへと中々かきそこなひ侍なんとてやりつめつらしきにも

9 いふかたなくかなしくなんおほえける物まうての人かへり給て思さはき給事かきりなし

10 かゝる身にてはすゝめきこえむこそいと思なし侍れと残りおほかる御身をいかて

31才

1 へたまはんとすらんをのれは世に侍らん事けふあすともしりかたきにいかてう

2 しろやすく見をきたてまつらんとよろつに思給へてこそ仏にもいのりきこえ

3 つれとふしまろひつゝいといみしけに思給へるにまことのおやのやかてからもなき物と

4 思まとひ給けん程をしはかるそまついとかなしかりけるれいのいらへもせてそむき

5 ぬ給へるさまいとわかきうつくしけなれはいと物はかなくそおはしける御心なれとなく御

そ

6 の事なといそき給にひ色に手なれにしことなれはこうちきけさなとしたりある

7 人々もかゝる色をぬひきせたてまつるにつけてもいとおほえすうれしき山里のひかり

8 に明暮見たてまつりつる物をくちおしきわさかなとあたらしかりつゝそうつを

9 恨そしりけり一品の宮御なやみけにかのてしのいひしもしるくいちしるき事とも

10 ありてをこたらせ給にければいよくいとうとき物にいひのゝしるなこりも

31ウ

1 おそろしとてみすほうのへさせ給へはとみにもえかへりいらてさふらひ給に雨など

2 ふりてしめやかなる夜めしてよぬにさふらはせ給日ころいたくさふらひこうしたる

3 人はみなやすみなとして御まへに人すくなにてちかくおきたる人すくなきおりに

4 おなしみちやうにおはしましてむかしよりのませ給中にも此たひなんいよく後の

5 世もかくこそいとたのもしき事まさりぬるなどのたまはす世中にひさしく侍ましき

6 さまに仏などもをしへ給へる事とも侍るうちにことしらいねんすくしかたきやうに
 7 なん侍ければ仏をまきれなくねんしつとめ侍らんとてふかくこもり侍をかゝるおほせ
 8 事にてまかり出侍にしなとけいし給御物の気のしうねき事をさまゝゝになのるか
 9 おそろしき事などのたまうついでにいとあやしき希有の事をなん見給へし
 10 此三月にとし老て侍るはゝのくはんありてはつせにまうてゝ侍しかへさの

32才

1 中やとりに宇治の院といひ侍ところにまかりやとりしをかくのこと人すまで年へぬる
 2 おほきなるところよからぬ物かならずかよひすみてをもきひやうさのためあしき事
 3 ともやと思給へしもしるくとかの見たたりし事ともをかたりきこえ給けにいとめ
 4 つらかなる事かなとてちかくさふらふ人々みなね入たるをおそろしくおほされておと
 5 ろかさせ給大将のかたらひ給さいしやうの君しも此事を聞けりおとろかさせ給人々は
 6 なにともきかす僧都をちさせ給へる御氣しきを心もなき事けいしてけりと思てくはしく
 7 もその程の事はいひさしつその女人此たひまかり出侍つるたよりに小野に侍つるあま
 8 ともあひとひ侍らんとてまかりよりたりしになくゝ出家の心さしふかきよしねんころに
 9 かたらひ侍しかはかしらおろし侍にきなにかしかいもうとこゑもんのかみのめに侍しあまなん
 10 うせにし女此かはりと思よるこひ侍てすいふんにいたはりかしつき侍けるをかくなり

32ウ

1 たれば恨侍也けにそかたちはいとうるはしくけふらにてをこなひやつれんもいとおしけに
 2 なん侍しなに人にか侍けん物よくいふそうつにてかたりつゝけ申給へはいかてさるところに
 3 よき人をしもとりもていきけんざりともいまはしらねらんなど此宰相の君そいふ
 4 しらすさもやかたらひ給ふらんまことにやむ事なき人ならはなにかかくれも侍らしをやあ中
 5 人のむすめもさるさましたるこそは侍らめりうの中より仏むまれたまはすはこそたゝ人
 6 にてはいとつみかるきさまの人になん侍けるなときこえ給そのころかのわたりに
 7 きえうせにけん人をおほしいつ此おまへなる人もあま君のつたへにあやしくて
 8 うせたる人とはきゝをきたれば誰にやあらんとは思けれとさためなき事也僧都も
 9 かゝる人世にある物ともしられしとよくもあらぬかたきたちたる人もあるやうにおもむ
 10 けてかくししのひ侍をことのさまのあやしければけいし侍なりとなまかくすけしき

33才

1 なれば人にもかたらず宮それにもこそあれ大将にきかせはやと此人にそのたまはす
 2 れといつかたにもかくすへき事をさためてさならんともしらすなからはつかしけなる人に打
 3 出のたまはせんもつゝましくおほしてやみにけりひめ君をこたりはてさせ給て僧都も
 4 のほりぬかしこにより給へれはいみしくうらみて中々かゝる御ありさまにてつみもえぬへき
 5 事をのたまひもあはせずなりにける事をなんいとあやしきなどのたまへとかひもなし
 6 いまはたゝ御をこなひをし給へ老たるわかきさためなき世也はかなき物におほしとり
 7 たるもことほりなるも御身をやとのたまうにもいとつかしくなんおほえける御ほうふくあ
 8 たらしくし給へとてあやうす物のきぬなといふ物たてまつりをき給なにかしか侍らん
 9 かきりはつかうまつりなんなにかおほしわつらふへきつねの世においでせけんの糸いくわ
 10 にねかひまつはるゝかきりなんところせくすてかたく我も人もおほすへかめる事なめり

33ウ

1 かゝるはやしの中にをこなひつとめたまはん身は何事かはうらめしくもはつかしくもおほ
 2 すへきこのあらんいのちは葉のうすきかことしといひしらせて松門に曉いたりて月
 3 徘徊すとほうしなれはいとよしゝしくはつかしけなるさまにてのたまう事ともを思ふ
 4 やうにもいひきかせ給かなと聞めたりけふはひねもすに吹風の音もいと心ほそきに

5 おはしたる人もあはれ山ふしはかゝる日にそねはなかるかしといふを聞て我もいま
6 は山ふしそかしことはりにとまらぬ涙なりけりと思つゝはしのかたに立出てみれば
7 はるかなる軒はよりかりきぬすかた色々に立まじりて見ゆ山へのほる人なりとて
8 もこなたのみちにはかよふ人もいと玉さか也くろたにとかいふかたよりありくほうし
9 の跡のみまれくはみゆるをれいのすかた見つけたるはあいなくめつらしきに恨わひし
10 中将なりけりかひなき事もいはんとて物したりけるを紅葉のいとおもしろくほか

34才

1 のくれなぬにそめましたる色々なれは入くるよりそ物あはれなりけるこゝ
2 にいとこゝちよけなる人を見つけたらあやしくそおほゆへきなと思ていとま
3 ありてつれくゝなるこゝ地し侍に紅葉もいかにと思給てなんなを立かへり旅ね
4 もしつへき木のもとにこそとて見いたし給へりあま君れいの涙もろにて
5 こからしのふきにし山のふもとにはたちかへるへき
6 かけたにそなきとのたまへは
7 まつ人もあらしとおもふ山さとのこすゑを見つゝ

8 なをそすきうきいふかひなき人の御事をなをつきせすのたまひてさまかはり給へ
9 らむさまをいさゝか見せよと少将のあまにのたまうそれをたに契りしるし
10 にせよとせめ給へは入て見るにことさら人にも見せまほしきさましてそおはする

34ウ

1 うすきにひ色のおやなかにはくはんさうなとすみたる色をきていとさゝやかに
2 やうたいおかしくいまめきたるかたちにかみはいつへの扇をひろけたるやうにこち
3 たきすゑつき也こまかにうつくしきおもやうのけさうをいみしくしたらんやうに
4 あかくにほひたりをこなひなとをし給ふもなをはちらひてすゝはちかききやうに
5 打かけて経に心を入れてよみ給へるさまゑにもかゝまほしうちみることに涙のとめかたき
6 こゝちするをまいて心かけたまはんおとこはいかに見たてまつりたまはんと思ひてさるへき
7 おりにやありけんさうしのかけかねのもとにあきたるあなをしへてまきるへきき
8 ちやうなどをしやりたりいとかくはおもはずこそありしかいみしく思ふさまなりける人
9 をと我したらんあやまちのやうにおしくやくしかなしければつゝみもあへす物くる
10 はしきまてけはひもきこえぬへければのきぬかはかりのさましたる人をうしなひて

35才

1 たつねぬ人ありけんや又その人かの人のむすめなんゆくすゑもしらすかくれにたる
2 もしは物えんして世をそむきにけるなとをのつからくれなかるへきをなとあやしく
3 返々おもふあまなりともかゝるさましたらん人はうたてもおほえしなど中々見ところまさりて
4 心くるしかるへきをしのひたるさまになをかたらひとりてんとおもへはまめやかにかたらふよ
の

5 つねのさまにはおほしはゝかる事もありけんをかゝるさまになり給わたるなん心やすくき
6 こえつへく侍さやうにをしへきこえ給へきしかたのわすれかたくてかやうにまいりくるに
7 又いまひとつ心さしをそへてこそなどのたまふいとゆくすゑ心ほそくうしろめたき
8 ありさまに侍めるにまめやかなるさまにおほしわすれすとはせたまはんいとうれしくこそ
9 思給へをかめ侍らさらん後なんあはれに思給へらるへきとてなき給に此あま君もはな
10 れぬ人なるへし誰ならむと心えかたしゆくすゑの御うしろみはいのちもしりかたつたの

35ウ

1 もしけなき身なれとさきこえそめ侍れはさらにかはり侍らしたつねきこえ給ふへき
2 人はまことに物したまはぬかさやうのことのおほつかなきになんはゝかるへき事には侍らねと

3 なをへたてあるこゝ地し侍へきとのたまへは人にしらるへきさまにて世にへたまはゝさ
4 もやたつね出る人も侍らんいまはかゝるかたに思きりつるありさまになん心のおもむけも
5 さのみ見え侍をなとかたらひ給こなたにもせうそし給へり

6 おほかたの世をそむきける君なれといとふによせて

7 身こそつられねんころにふかくきこえ給事などいひつたふはらからとおほし
8 なせはかなき世の物語などもきこえてなくさめんなといひつゝ心ふかからん御
9 物語など聞わくへくもあらぬこそくちおしけれといらへて此いとふにつけるいらへは
10 したまはす思よらすあさましき事もありし身なれはいとうとましすへて朽木など

36才

1 のやうにて人に見すてられてやみなんともてなし給さるは月ころたゆみなく
2 むすほゝれ物をのみおほしたりしも此ほいのことし給ての後よりはすこしはれゝ
3 しくなりてあま君とはかなくなたはふれもしかはし暮うちなどしてそ明し暮しをこ
4 なひもいとよくしてほけ経はさうなりこと法文などいとおほくよみ給雪ふかくふりつみ
5 人めたえたるころそけに思やるかたなかりける年もかへりぬ春のしるしも見えすこほり
6 わたれる水の音せぬさへ心ほそくて君にそまとふとのたまひし人は心うしとおもひはて
7 にたれはなをそのおりなどのことはわすれす

8 かきくらす野山の雪をなかもめてもふりにしことそ

9 けふもかなしきなとれいのなくさめの手ならひををこなひのひまにはし給我世

10 になくて年へたゝりぬるを思ひ出る人もあらんかしなと思ひ出る時もおほかりわか

36ウ

1 菜ををろかなるこにいれて人のもて来たりけるをあま君見て

2 山さとの雪まのわかなつみはやしなをおひさきの

3 たのまるゝ哉とてこなたにたてまつれ給へりければ

4 雪ふかき野辺のわかなもいまよりは君かためにそ

5 年もつむへきとあるをさそおほすらんとあはれなるにもみるかひあるへき御さまとおもは

6 ましかはとまめやかに打ない給ねやのつまちかきこうはいの色も香もかはらぬをはるや

7 むかしのとこと花よりも是に心よせのあるはあかさりにほひのしみにけるにやこやに

8 あかたてまつらせ給けらうのあまのすこしわかきかあるめし出て花をおらすればかこと

9 かましくちるにほひくれは

10 袖ふれし人こそ見えね花の香のそれかとにほふ

37才

1 春の明ほのおほあま君のまこのきのかみなりけるか此ころのほりてきたり三十はかり

2 にてかたちきよけにほりかなるさましたり何事かこそをとゝしなととふにほけゝし

3 きさまなれはこなたにきていとこよなくこそひかみ給にけれあはれにも侍かな残り

4 なき御さまを見たてまつる事かたくとをき程に年月をすくし侍るよおやたち物し

5 たまはて後は一ところをこそ御かはりに思きこえ侍れひたちの北のかたは音つれきこえ

6 給ふやといふはいもうとなるへし年月にそへてはつれゝにあはれなる事のみまさりてなん

7 ひたちはひさしく音つれきこえたまはさめりえ待つ給ましきさまになん見え給ふと

8 のたまうにわかおやのなとあいなくみゝとまれるに又いふやうかまかりのほりて日ころになり

9 侍ぬるをおほやけ事のいとしけくむつかしくのみ侍にかゝつらひてなん昨日もさふらはんと

10 思給へしを右大將殿の内におはせし御もとにつかうまつりてこ八の宮のすみ給しところにおは

して

37ウ

1 日くらし給しこ宮の御むすめにかよひ給しをまつ一ところはとせうせ給にきその
 2 御おとうと又しのひてすへたてまつり給へりけるをこそ春又うせ給にければその御はての
 3 わさせさせたまはん事かの寺のりしになんざるへき事のたまはせてなにかしもかの女のさう
 4 そくくたりてうし侍へきをさせ給てんやをらすへき物はいそきさせ侍なんと
 5 いふを聞にいかてかあはれならさらん人やあやしとみんとつゝましうておくにむかひてお給へ
 り

6 あま君かのひしりのみこの御むすめはふたりと聞しを兵部卿宮の北のかたはいつれそとの
 7 たまへは此大將殿の御後のをはとりはらなるへしことくしくもてなしたまはさりけるを
 8 いみしくかなしひ給也はしめのはたいみしかりきほとくすけもし給つへかりきかなと
 9 かたるかのわたりのしたしき人なりけりと見るにもさすかおそろしあやしくやうの物と
 10 かしこにてしもうせ給ける事も昨日もふひんに侍しかな川ちかきところにて水をのそき

38才

1 給ていみしくなき給きうへにのほり給てはしらにかきつけ給し

2 見し人はかけもとまらぬ水のうへにおちそふなみた

3 いとゝせきあへすとなん侍しことにあらはしてのたまう事はすくなけれどたゝ氣しきには
 4 いとあはれなる御さまになん見え給し女はいみしくめてたてまつりぬへくなんわかく侍し
 5 時よりいうにおはしますと見たてまつりしみにしかは世中の一のところもなにしも思侍らす
 6 たゝ此殿をたのみきこえたてへてんすくし侍ぬるとかたるにことにふかき心もなけなる
 7 かやうの人たに御ありさまは見しりにけりとおもふあま君ひかる君ときこえけんこゐんの
 8 御ありさまにはならひたまはしとおほゆるをたゝいまの世には此御そうそめてられ給なる
 9 右のおほひ殿としはのへ給へはそれはかたちもいとうるはしうけらうにすうとくにてきは
 10 ことなるさまそし給へる兵部卿宮そいといみしくおはするや女にてなれつかうまつらはやと

38ウ

1 なんおほえ侍なとをしへたらんやうにいひつゝあはれにもおかしくもきくに身のうへも
 2 此世の事とおほえすとゝこほる事なくかたりをきて出ぬわすれたまはぬにこそいとあ
 3 はれとおもふにもいとゝは君の御心のうちをしはからるれと中々いふかひなきさまを見え
 4 きこえたてまつらんはなをつゝましくそありけるかの人のいひつけし事ともをそめい
 5 そくを見るにつけてもいひ出られすたちぬひなとするを是御らんし入よ物をいと
 6 うつくしくひねらせ給へはとてこうちきのひとへたてまつるをうたておほゆればこゝち
 7 あしとて手もふれすふし給へりあま君いそく事を打すてゝいかゝおほざるゝなど思みたれ
 8 給ふくれなめに桜のをり物のうちきかさねて御まへにはかゝるをこそたてまつらすへけれ
 9 あさましきすみそめなりやといふ人あり

あまころもかはれる身にやありし世のかたみに袖を

39才

1 かけてしのはんとかきていとおなしくなくもなりなん後に物のかくれなき世なりければ
 2 聞あはせなとしてうとましまてかくしけるなとやおもはんなどさまく思つゝすきにしかた
 の
 3 事はたえてわすれ侍にしをかやうなる事をおほしいそくにつけてこそほのかにあはれなれ
 4 とおほとかにのたまふさりともおほし出る事はおほからんをつきせすへたて給こそ心うけれ
 5 みにはかゝるよのつねの色あひなとひさしくわすれにければなをくしく侍につけてもむかし
 の

6 人あらましかはなと思ひ出侍るしかあつかひきこえ給けん人世におはすらんやかてなくなして
 7 見侍したになをいつこにあらんそことにたつねきかまほしくおほえ侍をゆくゑしらて思

8 きこえ給人々侍らんかしとのたまへは見し程まではひとり物し給き此月ころうせ
9 やし給ふらむとて涙のおつるをまきはして中々思ひ出るにつけてうたて侍れはこそ
10 えきこえ出ねへたては何事にか残し侍らんとことすくなにのたまひなしつ大將は此はての

39ウ

1 わさなとせさせ給てはかなくともやみぬるかなとあはれにおほすかのひたちのこともは
2 かうふりしたりしかはくら人になしわか御つかさのそうになしなといたはり給けりわらは
3 なるか中にきよけなるをはかくつかひならさんとそおほしたりける雨なとふりて
4 しめやかなる日にて御物語なときこえ給つてにあやしき山里に年ころまかりか
5 よひ見給へしを人のそしり侍しもさるへきにこそはあらめ誰も心のよるかたの事は
6 さなんあると思給へなしつゝなを時々見給へしをとこのさかにや心うく思給へなりにし後は
7 みちもはるけきこゝちし侍てひさしく物し侍らぬをさいつころ物のたよりに
8 まかりてはかなき世のありさまともかさねて思ひ給へしにこそことさら道心をおこす
9 へくつくりをきたりけるひしりのすみかとなんおほえ侍しとけいし給にかの事お
10 ほし出ていとくおしければそこにおそろしき物やすむらんいかやうにてかかの人

40オ

1 なくなりにしとはせ給をなをつらきをおほしよるかたと思ひてさも侍らんさやうの
2 人はなれたるところはよからぬ物なんかならずすみつき侍をうせ侍にしさまも
3 なんいとあやしく侍とてくはしくはきこえたまはすなをかくしのふるすちをきゝあらはし
4 けりと思たまはんかいとおしくおほされ宮の物をのみおほしてそのころはやまひになり
5 給しをおほしあはするにもさすかに心くるしくてかたゝにうち入にくき人のうへとおほし
6 とゝめつこ宰相にしのひて大將かの人の事をいとあはれと思てのたまひしにいとおしう
7 て打出へかりしかとそれにもあらさらむ物ゆへとつゝましくてなん君そことく聞あはせける
8 かたはならん事はとりかくしてさる事なんありけりと大かたの物語のついでにそうつのいひ
9 し事かたれとのたまはす御まへたにつゝませたまはん事をましてこと人はいかてかときこえ
10 さすれとさまゝなる事にこそ又まろはいとおしきことそあるやとのたまはするも心えて

40ウ

1 おかしと見たてまつる立よりて物かたりなどし給つてにいひ出たりめつらかあやしといかて
2 かおとろかれたまはさらん宮のとはせ給しもかゝる事をほのおほしよりてなりけりなとか
3 のたませはつかしきとつられれと我も又はしめよりありしさまの事きこえそめさりしかは
4 きゝて後もなををこかましきこゝ地して人にすへてもらさぬを中々ほかには聞ゆる
5 こともあらんかしうつゝの人々の中にしのふる事たにかくれある世中かはなと思入て此人
6 にもさなんありしなとあかしたまはん事はなをくちをもきこゝちしてなをあやしと思し
7 人のことにてもありける人のありさまかなさてその人はなをあらんやとのたまへはかつ僧都
8 の山より出し日なんあまになしつるいみしうわつらひし程にもみな人おしみてせさせさりし
9 をさうしみのほいふかきよしをいひてなりぬるとこそ侍なりしかといふところもかはらす
10 そのころのありさまと思あはするにたかうふしなればまことにそれとたつね出たらん

41オ

1 いとあさましきこゝ地もすへきかないかてかたしかにきくへきおりたちて
2 たつねありかんもかたくなしなとや人いひなさん又かの宮も聞つけ給へらんには
3 かならずおほし出て思いにけんみちもさまたけたまひてんかしさてさなのたまひそ
4 なときこえをき給ければや我にはさる事なん聞しとさるめつらしき事をきこしめし
5 なからのたまはせぬにやありけん宮もかゝつらひ給にてはいみしうあはれと思
6 なからもさらにやかてうせにし物と思なしてをやみなんうつし人になりてすゑ

7 の世には黄なるいつみのほとりはかりををのつかからかたひよるかせのまきれもあり
 8 なん我物にとり返し見んの心は又つかはしなと思ひたれてなをのたまはすやあらん
 9 とおほゆれと御氣しきのゆかしければ大宮にさるへきついてつくりいたしてそ
 10 けいし給あさましうてうしなひ侍りぬと思給へし人世におちあふれて

41ウ

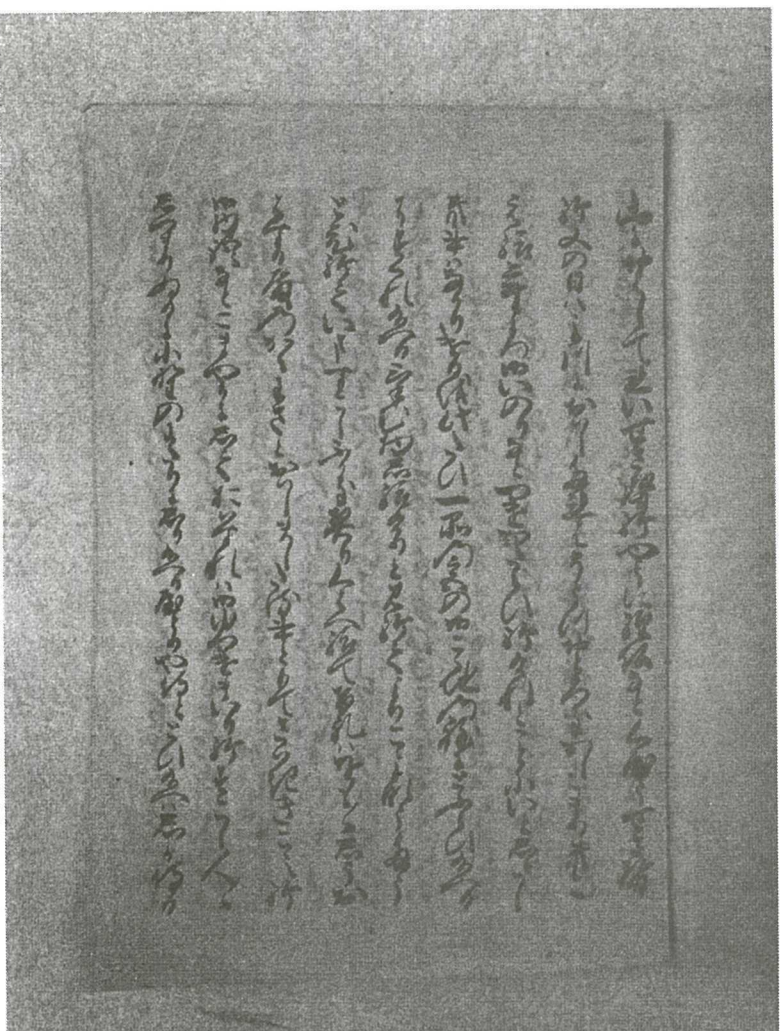
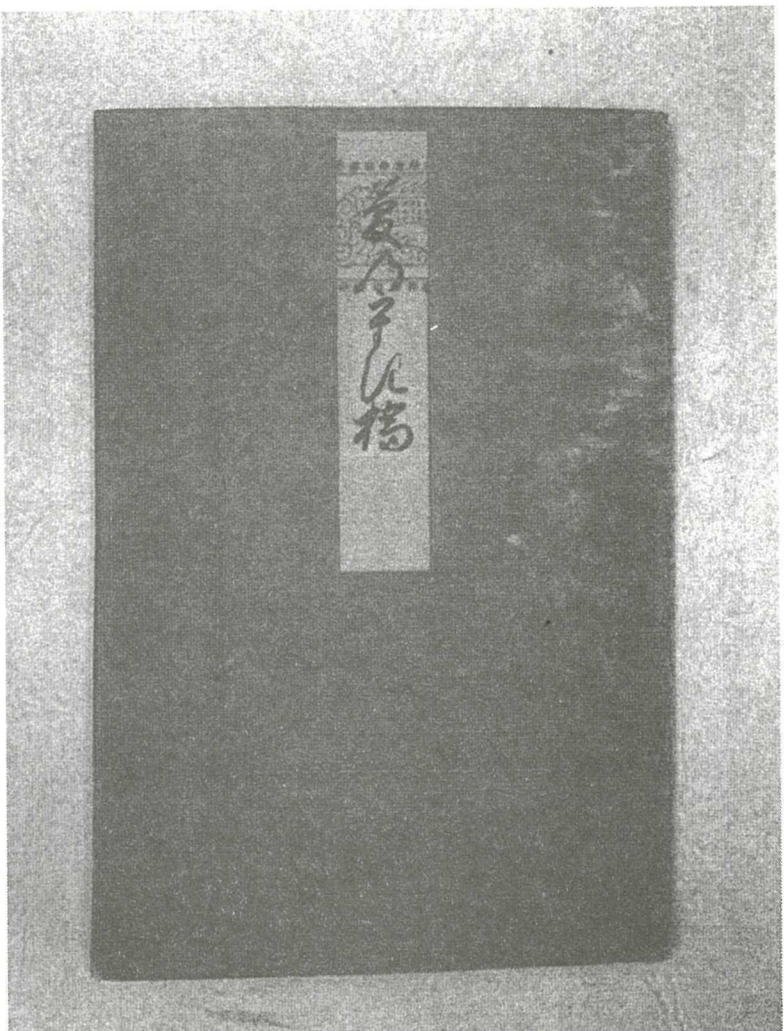
1 あるやうに人のまねひ侍しかないかてかさる事はあらんと思給へれと心とおとろ
 2 おとろしうもてはなるゝ事は侍らすやと思わたり侍人のありさまに侍れは人の
 3 かたり侍しやうにてはさるやうもや侍らんとわつらはしく思給へらるゝとています
 4 こしきこえ出給宮の御事をいとはつかしけにさすかに恨たるにはいひなしたま
 5 はてかの事又さなんと聞つけ給へらはかたくなにすぎくしくもおほされぬへしさらに
 6 さてありけりともしらすかほにてすくし侍なんとけいし給へは僧都のかたりしにいと
 7 物おそろしかりし夜のことにてみゝもとゝめさりし事にこそ宮はいかて聞たまはんき
 8 こえむかたなかりける御心の程かなときけはまして聞つけたまはんこそいとくるし
 9 かるへけれかゝるすちにつけていとかるく憂物にのみ世にしられたまひぬそれは心
 10 うくなんとなたまはすいとをもき御心なればかならずしも打とけ世語にても人の

42オ

1 しのひてけいしけん事をもらさしたまはしなとおほすすむらん山里はいつこにか
 2 あらんいかにしてさまあしからすたつねよらんそうつにあひてこそはたしかなるあり
 3 さまも聞あはせなとしてともかくもとふへかめれなとたゝ此ことをおきふしおほす
 4 月ことの八日はかならずたうときわさをさせ給へはやくし仏に心をよせたてまつるにもて
 5 なし給へるたよりにちうたうに時々まいり給けりそれよりやかてよ川におはせんとおほしてか
 の

6 せうとのわらはなるぬておはすその人々にはとみにしらせしありさまにそしたかはんとお
 7 ほせと打見ん夢のこゝちにもあはれをもくはへむとにやありけんさすかにその人とは見つけ
 8 なからあやしきさまにかたちことなる人のなかにてうき事を聞つけたらんこそいみしかる
 9 へけれとよろつにみちなからおほしみたれけるにや

夢浮橋



1才

1 山におはしてれいせさせ給やうに経仏などくやうせさせ
 2 給又の日はよ川におはしたれはそうつおとろきかしこまりきこ
 3 え給年ころ御いのりなとつけかたらひ給けれとことにいとしたし
 4 き事はなかりけるを此たひ一品の宮の御こゝ地の程にとふらひ給へる
 5 にすくれ給へるけむ物し給けりと見給てよりこよなうたう
 6 とひ給ていますこしふかき契りくはへ給てければをもくしうお
 7 はする殿のかくわざとおはしましたる事とめてさききこえ給
 8 御物語なとこまやかにしておはすれは御ゆつけまいり給すこし人々
 9 しつまりぬるに小野のわたりにしり給へるやとりや侍ととひ給へはしか侍り

1ウ

1 いとことやうなるところなにかしかはゝなるくちあまの侍を京に
 2 はかしくしからぬすみかも侍らぬうちもかくてこもり侍あひたは夜
 3 なか暁にもあひとふらはんと思給へをきて侍など申給そのわたりには
 4 たゝちかきころをひまで人おほうすみ侍けるをいまはいとかすかに
 5 こそなりゆくめれなとのたまひていますこしちかうぬよりてしのひ
 6 やかにいとうきたるこゝちもし侍るまたたつねきこえんにつけてはいかな
 7 りけることにかと心えすおほされぬへきにかたゝはゝかられ侍れとかの山
 8 里にしるへき人のかくろへて侍やうに聞侍しをたしかにてこそはいかなる
 9 さまにてなとももらしきこえめなと思給ふる程に御てしになりていむ
 10 事なとさつけ給てけりと聞侍れはまことかまた年もわかくおや

2才

1 などもありし人なればこゝにうしなひたるやうにかことかゝる人
 2 なん侍をなどのたまふそうつされはよたゝ人と見えさりし人の
 3 そかしかくまでのたまふはかるくしくはおほされさりける人にこそあ
 4 めれと思ふにほうしといひなから心もなくたちまちにかたちをやつして
 5 ける事とむねつふれていらへきこえんやう思まはさるたしかに
 6 聞給へるにこそあめれかはかり心え給てうかゝひたつねたまはむに
 7 かくれあるへき事にもあらす中々あらかひかくさんにあいなるへしなど
 8 とばかり思えていかなる事にか侍けん此月ころうちゝにあやしと思ふ給ふる
 9 人の御事にやとてかしこに侍あまとものはつせにくわん侍てまふてゝか
 10 へりけるみちに宇治の院といふところにとゝまりて侍けるにはゝのあまの

2ウ

1 らうけにはかにおこりていたくなんわつらふとつけに人のまうてきたり
 2 しかはまかりむかひたりしにまつあやしき事なんとさゝめきておやのしに
 3 かへるをはさしをきてもであつかひなきてなん侍し此人もなくなり給へる
 4 さまなからさすかにいきはかよひておはしければむかし物語にたま殿をきたり
 5 けん人のたとひを思ひ出てさやうなる事にやとめつらしかり侍ててしはらの中にけん
 6 ある物ともをよひよせつゝかはりゝにちかせさせなどなし侍けるなにかしはおしむ
 7 へきよはひならねとはゝの旅の空にてやまひをもきたすけてねんふつをも
 8 心みたれすせさせむと仏をねんしたてまつり思ふ給へし程にその人のありさま
 9 くはしくも見給へすなん侍しことの心をしはかり思ふ給ふるにてんくこたま
 10 などやうの物のあさむき出たてまつりたりけるにやとなんうけたまはり

3才

- 1 したすけて京にゐてたてまつりて後も三月はかりはなき人にてなん物
- 2 し給けるなにかしかあまになりて侍なんひとりもちて侍し女こをうしなひて
- 3 後月日はおほくへたて侍しかとかなしひたえすなき思給へ侍に
- 4 おなし年の程と見ゆる人のかくかたちいとうるはしくきよなるを見出
- 5 たてまつりてくはんをんの給へるとよろこひ思ひて此人いたつらになしたて
- 6 まつらしとまといひられてなくくいみしき事ともを申されしかは後になん
- 7 かのさかもとにみつからおり侍てこしむなとつかうまつり侍しにやうくいき出て人
- 8 となり給へりけれとなをこのらうしたりける物の身にはなれぬこちなんする
- 9 此あしき物のさまたけをのかれて後の世をおもはんとかなしけにのたまふ事
- 10 どもの侍しかはほうしにてはすゝめも申つへき事にこそはとてまことにすけ

3ウ

- 1 せしめたてまつりてしに侍さらにしろしめすへき事とはいかてか空にさとり侍らん
- 2 めつらしきことのさまにもあるを世かたりにもし侍りぬへかりしかときこえありて
- 3 わつらはしかるへきことにもこそと此老人とものとかく申て此月ころ音なくて
- 4 侍つるになんと申給へはさてこそあれとほの聞てかくまでもとひ出給へる事
- 5 なれとむけになき人と思たえにし人をさはまことにあるにこそいとおほす程
- 6 夢のこちしてあさましければつゝみもあへす涙くまれ給ぬるをそうつのはつ
- 7 かしけなるにかくまで見ゆへき事はと思かへしてつれなくもてなし給へとかくおほし
- 8 ける事を此世にはなき人とおなしやうになしたる事とあやまちしたるこ地して
- 9 つみふかけれはあしき物にらうせられ給けんもさるへきさきの世の契りなり
- 10 おもふにたかき家のこにこそ物し給けめいかなるあやまちにてかくまではふれ給

4才

- 1 けんにかととひ申給へはなまわかむとをりなといふへきすちにやありけんこに
- 2 も侍らす物はかなくて見つけそめては侍しかと又いとかくまでおちあふるへき
- 3 とは思給へさりしをめつらかに跡もなくきえうせにしかは身をなけたるにやなと
- 4 さまゝにうたかひおほくてたしかなる事はえ聞侍らさりつるになんつみかるめて
- 5 物すなれはいとよしと心やすくな身つからは思給へなりぬるをはなる人なん
- 6 いみしく恋かなしふなるをかくなん聞出たるとつけしらせまほしく侍れと年
- 7 ころかくさせ給けるほいたかふやうに物さはかしくや侍らんおやこの中の思たえす
- 8 かなしみにたへてとふらひ物しなとし侍なんかしなどのたまひてさていとひんなき
- 9 しるへとはおほすともかのさかもとにおり給へかはかり聞てなのに思すくすへくは思
- 10 侍らさりし人なるを夢のやうなる事ともいまたにかたりあはせんとなん思ひ

4ウ

- 1 給ふるとのたまふけしきいとあはれと思給へれはかたちをかへ世をそむきにきと
- 2 おほえたれとかみひけをそりたるほうしたにあやしき心はうせぬもあなりまして
- 3 女の身はいかゝあらんいとおしうつみえぬへきわさにもあるへきかなとあちきなく
- 4 心みたれぬまかりおかむことけふあすはかり侍月たちての程に御せうそこを申
- 5 させ侍らんと申給いと心もとなけれとなをく打つけにいられむもさまあしければ
- 6 さらはとてかへり給かのせうとのわらは御ともにおはしたりけりことはらから
- 7 ともよりはかたちもきよけなるをよひ出給て是なんその人のゆかりなるを是を
- 8 かつく物せん御文一くたり給へその人とはなくてたゝ聞ゆる人なんあるとはかりの心を
- 9 しらせ給へとのたまへはなにかし此しるへにてかならずつみえ侍なんことのありさまは

10 くはしくとり申ついまは御みつかから立よらせてあるへからん事は物せさせたまはんに
5才

1 なにのとかゝ侍らんと申給へは打わらひてつみえぬへきしるへと思なし給ふらん
 2 こそはつかしけれこゝにはそくのかたちにていまゝてすすなんいとあやしき
 3 いはけなかりしより思ふ心さしふかく侍を三条の宮の心ほそけにてたのもし
 4 けなき身一をよすかにおほしたるかさりかたきほたしにおほえ侍てかゝ
 5 つらひ侍つる程にをのつからくらぬなといふこともたかくなり身のをきても心に
 6 かなひかたくなとして思なからすき侍るには又えさらぬことも数のみそひ
 7 つゝはすぐせとおほやけわたくしにのかれかたき事につけてこそさも侍らめ
 8 さらては仏のせいし給ふかたのことをわつかにも聞をはんいかてあやまたし
 9 とつゝしみてをとり侍らぬ物をましていとはかなきことにつけてしもをも
 10 きつみうへき事はなとてか思給へんさらにあるましき事に侍りうたかひ

5ウ

1 おほすましたゝいとおかしきおやの思などを聞あきらめ侍らんはかりなん
 2 うれしう心やすかるへきなどむかしよりふかかりしかたの心をかたり給ふそ
 3 うつもけにとうなづきていとゝたうとき事なときこえ給程に日も
 4 くれぬれは中やとりもいとよかりぬへけれとうはの空にて物したらん
 5 こそなをひんなかるへけれと思わつらひてかへり給に此せうとのわらは
 6 をそうつめとめてほめ給是につけてまつほのめかし給へときこえ
 7 給へは文かきてとらせ給時々は山におはしてあそひ給へよとすゝろなる
 8 やうにおほすましきゆへもありけりと打かたらひ給このこは心もえねと
 9 文とりておほんともにつさかもとになれば御せんの人々すこしたち
 10 あかれてしのひやかにをとのたまふ小野にはいとふかくしけりたるあを葉

6才

1 の山にむかひてまきるゝ事なくやり水のほたるはかりをむかし
 2 おほゆるなくさめにてなかめぬ給へるにれいのはるかに見やらるゝ谷
 3 の軒端よりさき心にをいていとおほうともしたる火のゝとかなら
 4 ぬひかりを見るとてあま君たちもはしに出ゐたりたかおはするにか
 5 あらん御せんなどいとおほくこそ見ゆれひるあなたにひきほしたて
 6 まつれたりつる返ことに大將殿おはしましておほんあるしのことにはかに
 7 するをいとよきおりなとこそありつれ大將殿とは此女二の宮の御おとこ
 8 にやおはしつらんなといふもいと此世とをくぬ中ひにたるやまことにさや
 9 あらむ時々かゝる山路わけおはせしときいとしるかりしうしんのこゑ
 10 も打つけにましりて聞ゆ月日のすきゆくまゝにむかしのこののかく思

6ウ

1 わすれぬもいまはなにゝすへき事そと心うければあみた仏に思まき
 2 らはしていとゝ物もいはてゐたりよ川にかよふ人のみなん此わたりには
 3 ちかきたよりなりけるかの殿は此こをやかてやらむとおほしけれと人め
 4 おほくてひんなければ殿にかへり給て又の日ことさらにそいたしたて給
 5 むつましくおほす人のことゝしからぬ二三人をくりにてむかしもつねにつかはし
 6 しすいしんそへ給へり人きかぬまによひよせ給てあこかうせにしいもうとの
 7 かほはおほゆやいまは世になき人と思はてにしをいとたしかにこそ物し給
 8 なれうとき人にはきかせしと思ふをいきてたつねよはゝにいまたしきに

9 いふな中々おとろきさはかん程にしましき人もしりなんそのおやのみ
10 思のいとおしさにこそかくもたつめれとまたきにいとくちかため給ふを

7才

1 おさなきこゝ地にもはらからはおほかれと此君のかたちをにる物なしと思
2 しみたりしにうせ給にけりと聞いていとかなしと思わたるにのたまへは
3 うれしきにも涙のおつるをはつかしと思ひてをゝとあらゝかにきこえぬたり
4 かしこにはまたつとめて僧都の御もとよりよへ大將殿の御つかひにてこ
5 きみやまうて給へりしことの心うけたまはりしにあちきなくかへりておく
6 し侍てなとひめ君にきこえ給へみつからきこえさすへき事もおほかれと
7 けふあすすくしてさふらふへしとかき給へり是は何事そとあま君
8 おとろきてこなたへもてわたりて見せたてまつり給へはおもて打あかめて
9 物のきこえあるにやとくるしう物かくししけるとうらみられんをおもひ
10 つゝくるにいらへむかたなくてぬ給へるになをのたまはせよ心うくおほし

7ウ

1 へたつる事といみしく恨てことの心をしらねはあはゝしきまで思ひたる
2 程に山よりそうつの御せうそこにてまいりたる人なんあるといひいれたり
3 あやしけれと是こそはさはたしかなる御せうそこならめとてこなにとい
4 はせたれはいときよけにしなやかなるわらはのえならすさうそきたるそ
5 あゆみきたるわらうたさし出たれはすたれのもとにいついぬてかやう
6 にてはさふらふましくこそはそうつはのたまひしかといへはあま君そいらへ
7 などし給文とりいれて見れは入道のひめ君の御かたに山よりとて名かき
8 給へりあらしなとあらかふへきやうもなしといはしたなくおほえていよくひ
9 きいられて人にかほも見あはせずつねにほこりかならず物し給人
10 からなれといとうたて心うしなといひてそうつの御文見れはけさこゝに

8才

1 大しやう殿の物し給て御ありさまたつねとひ給ふにはしめよりありし
2 やうくはしくきこえはへりぬ御こゝろさしふかかりける御中をそむき
3 給てあやしき山かつの中にすけし給へることかへりてはほとけの
4 せめそふへきことなるをなんうけたまはりおとろき侍るいかゝはせん
5 もとの御ちきりあやまちたまはてあいしふのつみはるかしきこ
6 え給て一日のすけのくとはかりなき物なれはなをたのませ
7 給へとなんことゝにはみつからさふらひて申侍らむかつゝこのこきみ
8 きこえたまひてんとかいたりまかふへくもあらずかきあきらめ
9 たまへれとこと人は心もえすこの君はたれにかおはすらむなをいと
10 こゝろうしといまさへかくあなかちにへたてさせ給ふとせめられて

8ウ

1 すこしとさまにむきて見給へはこのこはいまはと世を思なりし
2 夕くれにもいと恋しとおもひし人なりおなしとて見しほとは
3 いとさかなくあやにくにおこりてにくかりしかとはゝのいとかなく
4 して宇治にもときゝぬておはせしかはすこしおよすけしまゝに
5 かたみにおもへりしわらはこゝろをおもひ出るにもゆめのやうなり
6 まつはゝのありさまいととはまほしくこと人々のうへはをのつからやうくど
7 きけとおやのおはすらむやうはほのかにもえきかすかと申々これを

8 見るにいとかなしくてほろ／＼となかれぬいとおかしけにてすこし打
9 おほえ給へるこゝ地もすれはおほんはらからにこそおはすめれきこえ
10 まほしくおほすこともあらんうちにいれたてまつらんといふをなにかいまは

9オ

1 世にある物とおもはさらんにあやしきさまにおもかはりしてふとみ
2 えんもはつかしとおもへとはかりためらひてけにへたてありとお
3 ほしなすらむかくるしさに物もいはれてなんあさましかりけんありさまは
4 めつらかなる事と見給てけんをうつし心もうせたましぬなといふらん物も
5 あらぬさまになりけるにやあらむいかにも／＼すきにしかたのことをわすれ
6 なからさらにえ思ひ出ぬにきのかみとかありし人の世の物語すめりしなかに
7 なん見しあたりの事にやほのかに思ひ出らるゝ事あるこゝちせしそのゝち
8 とさまかうさま思つゝくれはさらにはか／＼しくおほえぬるにたゝひとり物
9 し給し人いかてとをろかならず思ためりしをまたや世におはすらんと
10 それはかりなん心にはなれすかなしきおり／＼に侍にけふ見れば此わらはの

9ウ

1 かほはちいさくて見しこゝちするにもいとしのひかたけれといまさらにかゝる
2 人にもありとはしられてやみなんと思侍るかの人もし世に物したまはゝそれ
3 ひとりになんたいめんせまほしく思侍る此そうつのたまへる人などには
4 さらにしられたてまつらしとこそ思侍つれかまへてひか事なりけりと
5 きこえなしてもてかくし給へとのたまへはいとかたひことかな僧都の御心は
6 ひしりといふ中にもあまりくまなく物し給へはまさにのこいてはきこえ給
7 てんや後にかくれあらしなめにかろ／＼しき御程にもおはしまさずさはきて
8 世にしらす心つよくおはしますことそみなひあはせてもやのきはもき
9 ちやうたてゝいれたり此こもさはききつれとおさなければふといひよらん
10 もつゝましけれと又はつる御文いかてたてまつらん僧都のおほんしるへは

10オ

1 たしかなるをかくおほつかなく侍こそとふしめていへはそゝやあなうつくし
2 なといひて御らんすへき人はこゝに物せさせ給めりけそうの人なんいかなる
3 事にかと心えかたく侍をなをのたまはせよおさなき御程なれとかゝる御しるへに
4 たのみきこえ給やうもあらむなといへとおほしへたてゝおほ／＼しくもてな
5 させ給にはなに事をか聞ゆへき事も侍らんうとくおほしなりにければ聞ゆ
6 へき事も侍らすたゝ此御文を入つてならたてまつれとて侍つるいかて
7 たてまつらんといへはいとことほり也なをいとかくうたてなおはせそさすかにむくつ
8 けき御心にこそときこえうこかしてきちやうのもとにをしよせたてまつり
9 たればあれにもあらてぬ給へるけはひとこと人にはぬこゝちすれはそこもとに
10 よりてたてまつりつ御返とく給てまいりなとかくうと／＼しきを心うしと思ひて

10ウ

1 いそくあま君御文ひきときて見せたてまつるありしなからの御手にてかみ
2 のかなとれいのよつかぬまてしみたるほのかに見てれいの物めてのさしすき
3 人いとありかたかくおかしと思ふへしさらにきこえんかたなくさま／＼につみ
4 をもき御心をはそうつに思ゆるしきこえていまはいかてあさましかりし
5 よの夢かたりをたにといそかるゝ心の我なからもとかしきになんまして人
6 めはいかにとかきもやりたまはす

7 のりのしとたつぬるみちをしるへにておもはぬ山に

8 ふみまよふ哉此人は身やわすれ給ぬらんこゝにはゆくゑなき御かたみに
9 見る物にてなんなとこまやか也かくつふくゝとかき給へるさまのまきは
10 さんかたなきにさりとてその人にもあらぬさまを思のほかに見つけれ

11才

1 きこえたらむ程のはしたなきなとなを思みたれていとはれくしからぬ
2 心はいひやるへきかたもなしさすかに打なきてひれふし給へれはいとよつか
3 ぬ御ありさまかなと見わつらひぬいかゝきこえんたとせめられてこゝ地の
4 かきみたるやうにし侍程ためらひていまきこえんむかしの事思ひ出れと
5 さらにおほゆる事なくあやしういかなりける夢にかとのみ心もえすなん
6 すこししつまりてや此御文なども見しらるゝ事もあらんけふはなをもてま
7 いらたまひねところたかへにもあらんにいとかたはらいたかるへしとてひろ
8 けなからあま君にさしやり給へれは見るしき御ことかなあまりけしからぬは
9 見たてまつる人もつみさりとこゝろなかるへしなといひさはくもうたてきゝ
10 にくゝおほゆれはかほもひきいれてふし給へりあるしそ此君に物語すこし

11ウ

1 きこえて物の氣にやおはすらんれいのさまに見え給ふおりなく
2 なやみわたり給て御かたちもことになり給へるをたつねきこえ
3 給人あらはいとわつらはしかるへき事と見たてまつりなけき侍しも
4 しるくかくいとあはれに心くるしき御事ともの侍けるをいまんいと
5 かたしけなくおもひ侍る日ころも打はへなやませ給めるをいとゝ
6 かゝる事ともにおほしみたるゝにやつねよりも物おほえさせた
7 まはぬさまにてなんと聞ゆところにつけておかしきあるしなと
8 したれとおさなき御こゝちはそこはかとなくあはてたるこゝちして
9 わさとたてまつれさせ給へるしにに事をかはきこえさせん

12才

1 とすらむたゝ一ことをのたまはせよかしなといへはけになといひ
2 てかくなとうつしかたれとも物ものたまはねはかひなくて
3 かくおほつかなき御ありさまをきこえさせ給ふへきなめり
4 雲のはるかにへたゝらぬほとにも侍めるを山風ふくとも
5 みもかならずたちよらせ給なんかしといへはすゝろにゐ
6 くらさむもあやしかるへければかへりなんとす人しれすゆか
7 しき御ありさまをもえみすなりぬるをおほつかなくくち
8 おしくてこゝろゆかすなからまいりぬいつしかとまちおはす
9 るにかくたとくしくてかへりきたれはすさましく

12ウ

1 中々なりとおほすことさまくゝにて人のかくしすへたる
2 にやあらむとわか御こゝろのおもひよらぬくまなく
3 おとしをきたまへりしならひにとそ本に侍る